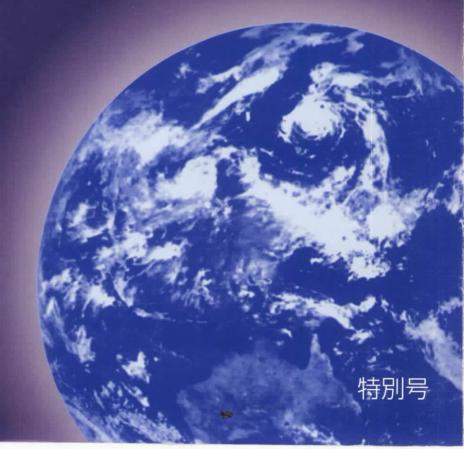
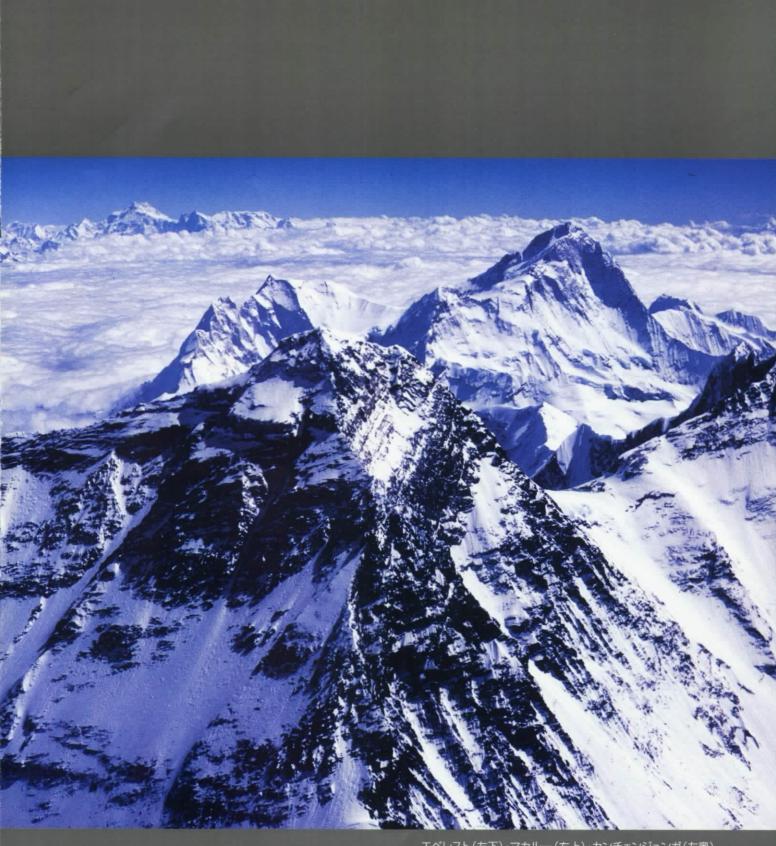
21世紀 フォーラム





エベレスト(左下)・マカルー(右上)・カンチェンジュンガ(左奥) 空撮/山田圭一

時の堆積層の中から見えてくるもの

向 坊 隆 (財) 政策科学研究所理事長

この政策科学研究所が22年前から発刊してきた『21世紀フォーラム』が実に72号目を発行するまでになり、特別号を出すという。研究所自体の発展とともに継続発刊できるのは、ひとえに学界・経済界等関係者のみなさんの力強い長い間のご支援ご指導によるものであり、感謝に堪えない。

そこで、私も書棚の中に並べてあった第1号からのものをなつかしく手に取ってみると、実によいことが書いてあるのに気がついた。

ページを繰りながら20年という時の流れの中で見てみると、もう一つ意味合いが加わってくるのもおもしろい。書かれた時の「現在」が既に歴史となっているからである。また、現在でもそのまま役に立ちそうな論文もあるが、ということは逆に言うと、世の中は進んでいるように見えて、実は基本的なことではあまり変わっていないということかもしれない。人間は、いつの時代も理想に向かって努力しているという感を強くする。

ところで、年をとるとあまり長い論文や文章は、根気がいるので読むのに苦労するが、この雑誌の巻頭に載っているコラムは、だいたい1頁程度で、各界の名士や専門家によって要領よく誠に役に立つこと参考になることが書かれているので、私は毎号楽しみに読んでいる。

このコラムだけで既に300編ぐらいになっている。そこで今回それを整理して発行しようという企画があるというので、すぐに賛成した。本当は全部載せたいところだが、今回はその中で100編ぐらいに絞り、できるだけ普遍的で今でも読んで大いに参考になるというものを中心にまとめてもらった。かといって、ここに載っていないものが、内容的に差があるなどということでは決してないことをお断りしておきたい。いずれも立派な論文や随筆であり、お載せできなかったものがあるのは、誠に残念でならないし、申し訳ないと思っている。

最後に、この雑誌のさらなる継続とともに、21世紀にも大いに社会に貢献する(財)政策科学研究所にするために、今後とも学界、経済界・産業界その他多くの関係者の皆さんに一層のご支援とご指導を頂くことをお願い申し上げる。

1 発刊にあたって

向坊 降

●巻頭エッセイ●

4 私のシンクタンク40年史から 岸田純之助

6 日本語を世界へ

高原須美子

8 21 世紀、人類の知恵が問われる 荒木 浩

コオピニオン●

10 二十世紀と二十一世紀 東畑精一

11 西欧と非西欧 武者小路公秀

伏見康治 12 科学と科学者

13 原子力発電所の事故について 茅 誠司

14 日本的技術の推進

稲葉秀三

15世間は広大であること

村上兵衛

16 気になること

ロベール・J・バロン

17 イスラエルは今……

木元教子

18日・西独の労働意識

滝田 実

19 アムールランドを見直せ

川喜田二郎

20 日本語に誇りを持て

林 雄二郎

21 21 世紀を考える三つの観点 永井道雄

22 ホテル家族

五代利矢子

23 技術と人間とのかかわり

村田 浩

24 社会資本の充実を

竹内 宏

25 北原秀雄君の思い出

大来佐武郎

26 情報化と地方化

金森久雄

27 江戸時代と二十一世紀

中村隆英

28 情報化時代への一つの期待 向坊 隆

29 定年の心境

高原須美子

30 日本は国際化できるか

松原秀一

31 情報化社会の落とし穴

32「見ること」に飽く時代の不幸

平山宏之 小浜政子

33 援助の意味

34 21世紀に日本の福祉はどう変わるか 坂東眞理子

島野卓爾

35 転換期に立つ医学医療 36 社会システムの転換期

岡本道雄 加藤富子

37 核軍縮と日本の役割

今井隆吉

大澤弘之

38 21 世紀へ向かっての「拡散」

39 [風(ふう) | の復活

阿部 統

40 脳の未利用チャンネルによる新しい文明 中村政雄

41 大地を母とする考え

小林道憲

42 MOT(マネシメント・オブ・テウノロシー)**教育のすすめ** 坂倉省吾

43 失われつつある文化財

山田圭一

44 信頼度と信用度

関根泰次

46 高齢社会はチャ・チャ・チャ

樋口恵子

47 細部をみつめる

中村桂子

48 宗教と技術大国

薬師寺泰蔵

49「企業の社会貢献」考

若原泰之

50「価値」観の衝突

末次克彦

52 グランド・ゼコールとフランスの良心

柏倉康夫

53 江戸時代に学ぶべきもの

近藤耕三

54 対馬の交隣外交に思う

永野芳宣

55 2005年、ウェルカム・トゥ・ジャパン 安部浩平 56 ビッグバンを成功に導くために

末松謙一

57 つき合い好きが未来を開く 樋口廣太郎

58 観劇の日に思う

多田公熙

59 悪循環から良循環へ

深海博明 中川順

60 人間の時代

嘉治元郎

61 "新経済" 論議をめぐって

62 人的資源は経済活力の源泉 関本忠弘

64 新国立劇場の幕開けをつとめて

木田 宏

65 東北が世界に誇る世界遺産 明間輝行

66 21 世紀への経営原理

福原義春

67 NGOと地域アイデンティティ 68 これからの経営者教育

入江 昭 宮内義彦

69 日本は法治国家なのか

松田昌士

70 "受験地獄"が消えても"地獄"? 山岸駿介

71 持続可能なエネルギー社会へ向けて

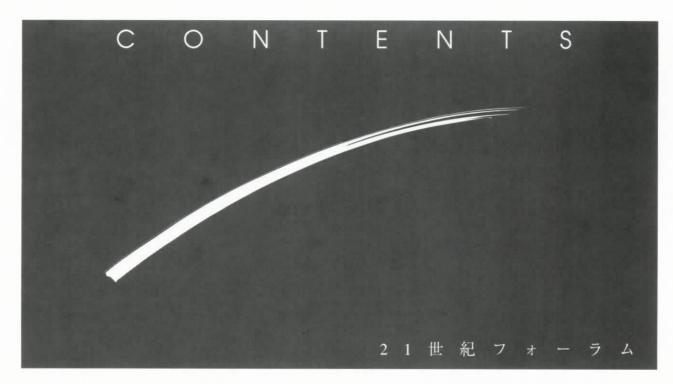
宮崎 勇

72 日本が変わる日

椎名武雄

73 科学技術民族大移動時代の到来

北沢宏一



74	日本人の顔	森 英恵
75	景気対策あれこれ考	千速 晃
76	環境問題に思うこと	豊田章一郎
77	新しい開拓時代を迎えて	泉 誠二
78	地球温暖化問題解決に向けて	渡辺 滉
79	マロニエの頃	庄山悦彦
80	新しい環日本海交流をめざして	山田圭藏
81	「容器包装リサイクル法」に思う	高橋達直

82	親業の記	茅	誠	司
83	秋のひびき	服部	克	久
84	四十年越しの宿題	金森	久	雄
85	弱者の場所	坪内] =	キ子
86	筑波の水車	山坳	祥	<u> </u>
87	立春のワイン	中村	†	貢
88	酒!酒!酒!	橋口	1	收
89	食べ物の恨みは	石井	·好	子

川喜田二郎

林 雄二郎

小林陽太郎

90 斥候の科学

92 乱読と積ん読と

91 翻訳雑感

93	ゴルバチョフの禁酒令	吉川 光
94	ふるさとの変貌	三枝佐枝子
95	山岳航空写真の世界	山田圭一
96	有澤先生の思い出	川上幸一
97	茅先生のお人柄	伏見康治
98	松本重治先生の遺されたもの	加藤幹雄
99	在りし良き米国	嘉治元郎
100	世紀末の死	小池寿子
101	女人禁制の話	宮田 登
102	ダーティーだって自然	森 毅
103	ハゲワシとエスキモー	飯田 隆
104	新語に見る世相	山谷えり子
105	気さくな大物―大来さんを偲ぶ	松山幸雄
106	星から生まれた私達と地球	串田嘉男
107	もう一度、カンボジアへ	木元教子
108	戦後の教育改革前夜	永井道雄
109	ノーベル賞の魅力	横山裕道
110	山が泣いている	神崎宣武
111	物語としての人生	中野京子
112	晚夏	諸橋晋六

岸田純之助

●(財)日本総合研究所名誉会長

防予算特別教書に於いてであった。 それを実現するためにランド・コーポレ 就任したケネディが、米国の軍事政策を されたのは、三月二十八日に出された国 国防次官補に招聘した。内容が明らかに ーションからチャールズ・J・ヒッチを 観点から軍事計画の合理化に乗り出し、 マラであった。かれは「費用対効果」の 長官に任命した、ロバート・S・マクナ 全面的に見直すことを念頭に置いて国防 えてくれたのは、一九六一年米大統領に 私にシンクタンクの魅力と重要性を教

う従来のやり方を廃止し、そのかわりに、 防政策ないし戦略プログラムを組むとい 国防予算に予め枠をはめてその中で国

私のシンクタンク四十年史から

かりの解説を書いたことを懐かしく想い

■草創期のシンクタンクで

和彦、唐津一、黒川紀章ら。 画に誘われ、多少躊躇しながら参加した。 クタンクへの関心が拡がる。 仲間は林雄二郎、牧野昇、松下寛、渥美 のことである。「未来部会」を作るとの計 社団法人「科学技術と経済の会」、六六年 私の関係した最初のシンクタンクは、 一方、日本でも六○年代に入り、シン

で、後で考えると、シンクタンクでの活 インターディシプリナリーな研究集団

> がアメリカに行って「テクノロジー・ア と。私は科学技術庁計画局でのこの研究 セスメント」と言う言葉を持ち帰ったこ おけるテクノロジー・アセスメント」調 の仲間入りをし、一九七一年暮れに約二 週間、同局の依頼で団長として「米国に

号に載せた。弟が当時通産省工業技術院 の技術調査課長をしており、そこでこの 関誌『engineers』六七年八月 と思われる部分を全訳して日科技連の機 めた「技術予測の展望」の中で最も重要 ヒ・ヤンツ(当時OECD顧問)がまと はないが、六六年OECDでエーリッ 「科学技術と経済の会」と直接の関係

ランド・コーポレーションに移り、十二 果比」という篩を掛けることによって、 方々からでてくる国防計画に、「費用対効 年の研究で開発した成果であった。 チが、エール大学などで教授を務めた後、 「システムズ・アナリシス」、つまりヒッ ある。その際に採られた具体的な手法が 無駄を排除するという方針をとったので 私のここでの収穫はいろいろある。一

意思決定」と改題)に、四百字七十枚ば 版された、チャールズ・J・ヒッチ著 だ。日本経営出版会から一九六六年に出 年出されるマクナマラ国防長官の「ステ 『マクナマラの理論』(後に「戦略計画と ートメント(国防報告)」をこつこつ読ん これに感銘を受けた私は、その後、毎

> 研の設立に参加、黒川は社会工研を設立、 加し、或いは自分で作る人も出た。例え のグループから新設のシンクタンクに参 動の練習をさせて貰ったことになる。こ 林はやや遅れて未来工研に参加した。 ば、松下は野村総研所属、牧野は三菱総

究発表を行った。 事務局になったこと。日本で開いたロー 際シンポジウム(七二年)では、私も研 マクラブ・シンポジウム (七一年)、同国 作った「ローマ・クラブ」の日本委員会 つは、ここがオーレリオ・ペッチェイが

調查団(団長・小林宏治日本電気社長) いま一つは、ここで組織した産業予測

> 資料を管理していたので、借り出して急 学技術と経済の会」が取得し全訳を刊行 いで翻訳したのだった。後に版権を「科

いて、そこを根城に設立準備を急ぐこと ルの屋上(仮設バラック)を提供して頂 い」との返事で大喜び。虎ノ門の角のビ 社長、経済同友会代表幹事)に会いなさ 蛇に怖じず」と言ったところか。だが、 頭取をしていた岩佐凱実氏に会った。「盲 島恵一教授に誘われて、二人で富士銀行 設立にも少し首を突っ込んだ。東大・大 「話をして置くから、木川田一隆君(東電 その頃から、実は、政策科学研究所の

及念ながら、私自身は、一九六七年一残念ながら、私自身は、一九六七年一時、朝日新聞での専門記者制度創設に伴月、朝日新聞での専門記者制度創設に伴月、朝日新聞での専門記者制度創設に伴月、朝日新聞での有温になり、翌年十月論説で気を売る」というエッセイが、私の残で気を売る」というエッセイが、私の残したただ一つの作品になった。

これでシンクタンクとの縁も切れるのかこれでシンクタンクとの縁も切れるのかに就任することになった。一九七八年刊行の「日本の課題」総合報告(岸田年刊行の「日本の課題」総合報告(岸田本のシンクタンクの殆ど全部に参加た日本のシンクタンクの殆ど全部に参加た日本のシンクタンクとの縁も切れるのかと思っていたら、一九七四年発足の総合と思っていたら、一九七四年発足の総合と思っていたら、一九七四年発足の総合と思っていた。

前回やや不満だった日本の安全保障政策について、今度は私が研究主査となり、策について、今度は私が研究主査となり、

集代表はこの時も私。

出した直後の八八年から、政策科研常務不思議な巡り合わせで、上記報告書を

書かせて頂くのだと思う。

書かせて頂くのだと思う。

書かせて頂くのだと思う。

書かせて頂くのだと思う。

■吹き始めた新たな風

とができる。 とができる。 とができる。

① まず、情報化社会の急速な進行での入手も暫く前に比べると遙かに容易にの入手も暫く前に比べると遙かに容易にの入手も暫く前に比べると遙かに容易にあっている。世界的な規模で詳しい情報が直ぐに手に入る。

この豊富な情報の洪水をうまく整理する職業が成り立たないはずがない。インターネットの世界的な普及は、シンクタのではないか。

問題を取り上げ解決する担い手も政府だいGO、あるいは、NPOの存在感が増大している点にも注目したい。それは情大している点にも注目したい。それは情大している点にも注目したい。それは情大している点にも注目したい。それは情

③ 人材流動化、終身雇用の変化、な拡がりも目につく。ベンチャー企業がな拡がりも目につく。ベンチャー企業が日本でも次第に市民権を得つつある。こ日本でも次第に市民権を得つつある。これまで固定的な社会だったから、仮に頭れまで固定的な社会だったから、仮に頭れまで固定が提言をしてもそれが取り上げられる機会も少なかった。その状況が急速に変わりつつある。

感であってはなるまい。も言うべき状況が発展している現状に鈍こうした、「市民社会の新しい次元」と

実に留意したい。
まに留意したい。
まに留意したい。

(5)

大きな政府の非経済性が明白にな

思いたい。
思いたい。
これも今後間違いなく変化するはずだと
これも今後間違いなく変化するはずだと
これも今後間違いなく変化するはずだと

⑥ いま、「ボーダレス世界」あるいは⑥ いま、「ボーダレス世界」を表現していい状況「フュージョン世界」と表現していい状況「フュージョン世界」と表現していい状況的で容易になった。国際的な経済活動でめて容易になった。国際的な経済活動でも各国の相互浸透、いわば世界経済の一も各国の相互浸透、いわば世界経済の一も各国の相互浸透、いわば世界経済の一番を表現している。

では、既存の枠の中だけで考えているまり、既存の枠の中だけで考えていた状況が、大きく変わりつつあると言うた状況が、大きく変わりつつあると、いう論文を『フォーリン・アフェアーズ』(九六年七一八月号)で興味深く読んだことも想い出す。頭脳集団の活動に期待すとも想い出す。頭脳集団の活動に期待すると、でき舞台の条件が更に整いつつあると、私は考えたい。

⑦ その昔、旧制高校でドイツ語を教ので、その昔、旧制高校でドイツ語を教がって、最初に印象深く覚えた言葉がわって、最初に印象に向かうか」「重要性な言葉である。「これから何が流行するか」「人々の関心は何処に向かうか」「重要性「人々の関心は何処に向かうか」「重要性の関心は何か」を、旺盛な好奇心で、を増すのは何か」を、旺盛な好奇心で、

だ」と思っているからである。
私がシンクタンクはそれを追っかける職業

高原須美子

●セントラル野球連盟会長

■驚くべきエストニアの日本語熱

つ○○年という節目の年は、早々から、外国人との交流に追われることになら、

いてくれたのは、私が駐フィンランド兼いてくれたのは、私が駐フィンランド兼をの席で、彼女は、「ほんとにほんとにこ会の席で、彼女は、「ほんとにほんとにこ会の席で、彼女は、「ほんとにほんとにニースさんの留学延長が決まった。彼女は、下年春から一年間の予定で、学習院女子作年春から一年間の予定で、学習院女子作年春から一年間の予定で、学習院女子にいたいです」と訴え、その切実ない。

で、何とかしてほしいと訴えられた。 で、何とかしてほしいと訴えられた。 遠い北の国の日本語熱に心を打たれ、
市ヨタ自動車や三菱商事にお願いし、私
トヨタ自動車や三菱商事にお願いし、私
トヨタ自動車や三菱商事にお願いし、私
も一口のって、計二百万円を集め、ヨーロッパでもっとも伝統ある大学として知
られるタルトゥ大学に日本語講座を寄付られるタルトゥ大学に日本語講座を寄付られるタルトゥ大学に日本語講座を寄付られるタルトゥ大学に日本語講座を寄付られるタルトゥ大学に日本語講座を寄付られるタルトゥ大学に日本語講座を寄付られるタルトゥ大学に開きかけて大学を初のレッスンは、「はじめまして。○○で初のレッスンは、「はじめまして。○○で初のレッスンは、「はじめまして。○○である。よろしく」という会話であり、学長、学部長も別席している光景は、感激的でって挨拶を交している光景は、感激的でって挨拶を交している光景は、感激的であった。

留学延長も実現した。 おうと、ヘリリースの留学にこぎつけ、 折角の日本語熱をいっそう高めてもら

■日本語普及への切なる思い

年初からのもうひとつの交流は、米国年初からのもうひとつの交流は、米国の訪問の打合せである。日本学講座が成功をおさめている実状を是非見に来てほしいとのことで、四月の訪問をめざして、ファックスのやりとりをしている。

で、何とかしてほしいと訴えられた。 の講座にスミコ・タカハラと冠をつけて角学んだ努力が水の泡になってしまうの 座の創設に生かすことになり、彼女がそ業すると、国立大学には講座がなく、折 さった。コール学長の発案で、日本学講前に受講していた。ところが、高校を卒 昭夫さんも真先に一万ドルを寄付して下 とはたちも、朝早く、通常の授業の おが高原事務所も含めて十二社から十二人や日本人がボランティアで日本語を教 わが高原事務所も含めて十二社から十二人

くれた。講座はスタートから八年経ち、

発展して全米で知られることになった。スペルマン女子大学は、全米に二つある黒人女子大学のひとつである。黒人男子大学は故キング牧師の母校であるモアハウス大学一校であり、両大学はキャンハウス大学一校であり、両大学はキャンハウス大学一校前後あるとのことであり、全米に百校前後あるとのことであり、中で大学は大学の中で、スペルマンの日本学講座は注目され、美しがられている。

私は、日本人が英語の力をつけて、世界に飛躍するのももちろん大切だと思ったちにつけてもらうのも同じぐらい必要たちにつけてもらうのも同じぐらい必要だと思い努力してきた。その目に見えるだと思い努力してきた。 せいる。 一方で、日本語の力をつけて、世私は、日本人が英語の力をつけて、世

日本語の普及の必要性の思いをいっそう強いものにしたのが、フィンランドでの体験である。大使として三年半滞在しの体験である。大使として三年半滞在している間に、フィンランドという国の重なと国家としての一体感をみせつけられ、みと国家としての一体感をみせつけられ、させられた。日本は第二次大戦で敗けたさせられた。日本は第二次大戦で敗けたさせられた。日本は第二次大戦で敗けたさせられた。日本語の普及の必要性の思いをいっそう強いものようになってきたのではなかろう空気のようになってきたのではなかろうである。

日本語を世界へ

二万円であり、やりくりの苦労話には目を受けているが、生活費に回せるのは月を受けているが、生活費に回せるのは月を受けているが、生活費に回せるのは月を受けているが、生活費に回せるのは月を受けているが、生活費に エストニアを訪

延長への援助を申し合わせた。 での出席者は、満場一致で、彼女の留学での出席者は、満場一致で、彼女の留学頭がじんとしてきた。貧乏生活でも日本頭がじんとしてきた。貧乏生活でも日本の出席者は、一次のは、

とした歴史がある。

高校には日本語講座があり、エストニアニア人の日本語熱である。首都タリンの大使として赴任し知ったのは、エスト

頼で日本企業に寄付をお願いしたところ、博士との出会いから誕生した。彼女の依

来たる二十一世紀には、日本は、もっと、国家の存在を確立し、内外に向かって明らかにすべきであり、国民も、国の存在を心に刻みつけ、常に念頭におくことを心掛けねばならない。そして、このとを心掛けねばならない。そして、このとを心掛けねばならない。そして、このとを心掛けねばならない。そして、このとの理解が前提であり、日本語の方法であり、

フィンランドの教訓

そうした代償を払いつつも、国家の存立を守り、ソ連邦にも加盟せず、中立を立を守り、ソ連邦にも加盟せず、中立を保って、民主主義と資本主義市場経済を保って、民主主義と資本主義市場経済を与えられた日本とは大違いである。もしフィンランドの存在がなかったら、東西冷戦構造の境界はもっと西に移り、世界歴史も変わっていたにちがいなり、世界歴史も変わってのは、当時のリーい。国の存立を守ったのは、当時のリー

らず、国の存在感は大きい。
てれだけに国の存亡を常に意識せねばなどれたけに国の存亡を常に意識せねばないと呑みにされかねない小国である。

近年でもこれは変らない。日本とほぼの時期にバブル経済がはじけ、その上、同時期にバブル経済がはじけ、その上、一九九一年から三年間マイナス成長た。一九九一年から三年間マイナス成長に苦しんだが、九四年からは三~五%のに苦しんだが、九四年から三年間マイナス成長に苦しんだが、九四年から三年間マイナス成長に苦しんだが、明白に違いを示している。人の答えが、明白に違いを示している。人の答えが、明白に違いを示している。人の答えが、明白に違いを示している。したと答えられた。この危機脱出の背景したと答えられた。この危機脱出の背景したと答えられた。この危機脱出の背景したと答えられた。この危機脱出の背景にも、日本にはない国の意識が大きくそびえている。

バブル崩壊と同時に発生した金融不良 情権に対し、政府は、時を逃さず、GD P比一○%にものぼる公的資金を導入し、 経済は再建された。不良債権発生時の新 経済は再建された。不良債権発生時の新 配下に入ることを恐れたため、「迅速・的 配下に入ることを恐れたため、「迅速・的 配下に入ることを恐れたため、「迅速・的 である。

ではないかとの内外の懸念に対し、政府ループ化は国の存在をあいまいにするの盟し、さらに通貨統合にも参加した。グ盟し、さらに通貨統合にも参加した。グリーがある。

のだとして、国の独自性を主張している。のアイデンティティが必要となり強まる首脳は、地域統合が進めば進むほど、国

■曖昧な日本人の国家意識

これらの動きの中に暮らして、私は日本人の国家意識の薄さに気付き、恐れを感じた。バブル崩壊、金融不良債権の発生の際に、日本の政府、経済界が国の存立に思いを馳せたろうか。答えはノーである。日本という国が支配されるかもしれないという心配は、だれの頭にも浮かれないという心配は、だれの頭にも浮かばなかったにちがいない。

地雷の全面禁止協定にも、フィンラン地雷の全面禁止協定にも、フィンラントは調印せず、オブザーバーの立場をといたすう地雷にはもちろん反対であるが、を奪う地雷にはもちろん反対であるが、をすったのである。国境に敷設しており、「全面」禁止には同意できなかったのである。国境に敷設した地雷なかったのである。国境に敷設した地雷をかったのであるとの考えであり、ここにれるべきであるとの考えであり、ここにれるべきであるとの考えである。日本のように、何の哲学も主張もなく、世界のように、何の哲学も主張もなく、世界のように、何の哲学も主張もなく、世界のように、何の哲学も主張もなく、世界のように、何の哲学も主張もなく、世界のように、何の哲学も主張もなく、世界のように、何の哲学も主張もなく、世界のように、何の哲学も主張もなく、世界のように、対している。

国 は、否応なしに、国の存在を意識しなけ

国としての存在は、軍事や経済の力に はならない。個性を共通の基盤として、
ばならない。個性を共通の基盤として、
ばならない。
個性を共通の基盤として、
ばならない。
個性を共通の基盤として、
が市も国民も、危機に対応し、
グローバル化の中での交渉に向かってこそ、
国をしての存在は、
ならない。
の本盤として、
ならない。
の本盤として、
ならない。
の本盤として、
ならない。
の本盤として、
はならない。
の本といるにもがいない。

同時に、世界で、あるいはグローバル の規模で、日本を理解してもらう必要が ある。それには、日本の個性を世界に向 ある。それには、日本の個性を世界に向 がまな増やすことであろう。

は多く、競争はきびしいという。黒人文 ら交換留学生が送られているが、希望者 スペルマン女子大学へは、津田塾大学か 本人にあまり知られていない黒人大学で 語に取り組む人が多い。遠い北の国エス 本への関心を示し、理解するために日本 本語普及の旅には終わりはない。 の国を尊重しあうことになろう。 のあたりから相互理解が進めば、 大学留学が最適との理由からであり、そ 学、黒人霊歌の研究にはスペルマン女子 の日本学への関心も驚きである。一方で、 トニアの日本語熱はその証拠であり、日 世界には、私が思っていた以上に、 お互い 私の日 Н

ではなかろうか。 国境、ボーダーはない。 ではなかろうか。 国境、ボーダーはない ではなかろうか。 国境、ボーダレスとは、国 くなることはない。

荒木 浩

●東京電力(株)取締役会長

■戦争と大変化の時代―二十世紀

れまで経験をしたことのなかった便利さ 変わりようだったのではなかろうか。そ まったようにも見える。それほど大きな まな動きは、人間そのものすら変えてし が全く変わってしまったのもこの世紀だ 革命と近代科学技術によって人間の生活 九世紀までに起こり、進展してきた産業 世紀だったと気づく。世界を二分しての り返ると、この世紀はまず戦争と変化の った。極端に言うと、二十世紀のさまざ 世界大戦を二度も経験した。一方で、十 二十一世紀を目前にして、今世紀を振

> 界大恐慌を筆頭に何回かの大きな混乱を 経て、市場経済の行き過ぎや誤りを学ん だ。資本主義社会でも、一九二九年の世

■動きが加速した第二次大戦後

豊かさの極みとも言えるほどの豊かさを 二十世紀は、特に、動きを加速させた。 幾つかの地域、国で高い経済成長があっ 技術革新、エネルギーの流体革命、通信 た。人類は、地球の過半の地域で多くの の高度化という情報革命などによって、 人たちが飢えを経験しながらも、一方で、 九四五年の第二次世界大戦終戦後、

> と質の限界に近づきつつあるように感ず 計約四十億トンの穀物や肉などの食料と る。六十億人の人類は、現在、毎年、総 更に消費量の増加が続いている。人類は、 題が見えてくるように感ずる。 るのではなかろうかと思う。このように できないまでに活動を広げてしまってい 地球の恵みの自然循環では、とても対応 ガスなどのエネルギーを消費しており、 約九十億トン(石油換算)の石油、石炭、 一十世紀を振り返ると、二十一世紀の課

■知の不遜につなげてはいけない 最近の科学的知見

ところで、目を全く違うところに向け

と豊かさを我々は手にした。しかし、そ 富の差とあらゆる面での格差拡大をもも れは同時に、経験したことのなかった貧

年間で歴史の舞台から姿を消すこととな のだったが、抑圧から逃れようとする と独裁者による陰湿な社会を作っていた 生したソビエト連邦は、実は、一党独裁 あたかも、一つの社会的実験だったよう の長い時間という高いコストを払って、 った。粛清された多くの人命と七十年間 人々のエネルギーによって、およそ七十 化があった。共産主義の理想を掲げて誕 一つの体制があっけなく消えた。思えば、 二十世紀、政治経済の体制でも、大変

経験した。

らゆる面で右肩上がりの成長曲線の上に 加速された状況の中にいるが、昨今、ど 未踏・未経験の状況に遭遇しているよう めているように感ずる。人類は、どうも きた影が大きくなり、我々を取り囲み始 た今、豊かさと大きな変化がもたらして 乗って進んできたのだが、世紀末になっ かっているように感ずる。二十世紀、あ うもこれまでとは全く違った状況にぶつ 二十一世紀を前に、今、我々は、その

の恵みの源である地球の環境と資源の量 球が誕生して以来初めて、人類は、全て 乱暴に言えば、今、四十六億年前に地

一十一世紀、人類の知恵が問われる ない世界が見えて来た。 これまで未知であって、見ることのでき 紀も終わり近くなったここ数年の間に、 て見よう。宇宙と生命の世界だ。二十世

思議をこの目で見ることができるように つながる、魅せられるばかりの宇宙の不 が視覚の世界に入ってきた。天地創造に の肉眼で、見えるようになってきた。こ 建設された「すばる」天文台からの観察 千二百メートルのマウナケア山の頂上に たハッブル宇宙望遠鏡やハワイ島標高四 SAが上空六百キロメートルに打ち上げ れまで、理論的推理でしかなかった世界 によって、素晴らしい宇宙や天体が私達 宇宙についていえば、アメリカのNA

トレースや。脳。をはじめとして人体の て尽きない興味を感ずる。 ずつ解明されてきた。驚きと興奮、そし 世界での淘汰や変身の結果や経緯が少し 誕生してこのかたの、生命の軌跡や微小 不思議が少しずつ分かってきた。人類が 基本機能の解明が進んだ。遺伝や生命の 一方の極端、極小の世界でも、DNA

う地球の深奥に迫る研究も進んできてい ス論を超え、プレート移動の原動力がマ だまだのようだが、プレートテクトニク ントル柱(プルーム)にあるようだとい 宇宙や遺伝子レベルの研究に比べるとま 我々の住むこの地球自体についても、

花の蕾が一夜にして開花したように感ず り立ちが視覚に捉えられ、次第に解明さ 力に少し報いてくれたのに違いないと思 て、このような成果は、"天"が人間の努 などというのは、きっと不遜なのであっ 生んでいるように見える。ただ、「解明」 る。蓄積されてきた長い間の観察や研究 れていく状況を見ていると、あたかも、 が何かの引き金で、突然、大きな成果を こうした宇宙、そして極小の世界の成

成果を知るにつけても、得られた知見が このことは、人間の営みも含めてあらゆ が蓄積され、そのエネルギーのマグマが 展は、長い間に、さまざまなエネルギー しいと思う。このように大きな変化や進 然に対する畏れと謙虚さにつながってほ うして起こるのだとつくづく思う。 る物事について言えるようだ。進歩ある 噴出するようにして、花開くのだと思う。 人間の知の不遜につながらず、宇宙や自 いは退歩、大きな変動と言うものは、こ こうした自然科学における最近の研究

■知恵が問われている

その一方で、均質化が進む故に、地域、 くなり、均質化の傾向が強まる。しかし、 中のいわゆるグローバリゼーションもま ますスピードを増し、地球はますます狭 徴するものとなろう。時代の動きはます きは、二十一世紀初頭の時代的特徴を象 だまだ進展するであろう。この二つの動 IT革命が進み、一方で、既に現在進行 二十一世紀、よく言われるところだが、 国家などの存在の意義が強く問わ

> う。宗教についても同じ事が言えそうで は、むしろ摩擦が大きくなることもあろ の主張が強くなることになる。局地的に れることになる。地域、民族、国家など

のだと思う。 い新しい価値観や哲学が求められている いなく言えることは、新世紀にふさわし 二十一世紀を翌年にして思うに、間違

人類の知恵が問われている。

一十世紀と二十一世紀

東畑精

東京大学名誉教授・(財) 政策科学研究所理事長

ない。すでに「世紀末」論もあらわれて そのためであろうか、近頃は先を考えて、 られると、そういう気分になるのも無理は 十一世紀は日本の世紀だなどと吹きまく んとなく気ぜわしい感がしないでもない。 一十一世紀論がなかなか盛んである。一 二十世紀も残り二十数年になった。な

にはこんな一面がひそんでいる。 日もまた今日の如し」と言うのは楽しい う。雨の降る寒い日に「明日もまた今日 れると思うだけでも悪い気はしないである ことであるかもしれない。二十一世紀論 の日の陽光を浴びて居眠りしながら「明 の如し」と言ったら艶消しであるが、秋 バラ色の将来を描いて、自分だけでなし とかもしれない。太平の偸安を娯んでい 間が、この風潮にのるのも無理のないこ 人から見ても余り悪い気がしない。 二十 に公々然と、それに溺れていくのは、 て余り苦にすることもないものにとっては 世紀には現代人の願望の多くが実現さ 気がせわしくて夢みることの好きな人

なかなかの長期なのである ら短期であるが、 もあるのである。これは世紀単位に見た まだまだ残りが二十数年、 しかし一寸待ったである。二十世紀は しかし見方を変えると ほぼ四半世紀

> 考えたくはない。 である。こう思うと余りに先ざきのことを 女房は気がぬけたようなばあさんになるの 思うわたしが、その頃には孫を持つじいさ を生むであろう。今年漸く父となったと たしが今年に子供を生み、立派に育てる なのである。個人的に見てもそうだ。わ るし、また過去を顧みると、まさに左様 んとなるのである。今は瑞々しいわたしの 二十年の間には大変なことがなされう 今世紀末にはその子供が自分の子供

変えて繰り返しうることなのである。 残っている二十世紀の間に――もしもそ 五年間のことがらなのである。いずれにし 月を要したのみである。その日本がまさに 起こして太平洋戦争に突入し、日本を 数年の間のことである。満州事変を引き あれだけ掻き廻して歴史に一大変動を引 ナチスがドイツの政権を握って全世界を な歳月といわねばならぬ。夢おろそかにし んなことが起こりうるならば――再び形を ても以上に述べたような大事実は、まだ (From ashes to riches) のは、矢張り十 たびは潰滅させるのには十五カ年間の歳 灰の中から恢復して富裕の国になった き起こして自滅していったのは、興亡十 個人でなくて世間を見よう。早い話が 二十年は全くのところ怖ろしいよう

てはならない。 をしたがるものだ。わざわざいやな日の来 これを無理にも忘れて、晴天の日の予想 だれも先に述べた雨天の予想をいやがり、 るのを予想しないのが普通だ。 さて、二十一世紀のビジョンはどうな 将来の予測は概してバラ色予測である。

を馳せることは滑稽という外はない 経過しないで一足飛びの前途にまで思い を立派に育てることである。その段階を この子供を生むこと、ないしはこの子供 も何もないのである。幼稚園に子供が行 考えないで孫の時代のことを気にかけて なるであろう。まだ生まれぬ子供のことを 後の楽しみでない限り、無意味なものと 視して一足飛びに二十一世紀に駆け込ん えであろう。大切なことは何はともあれ、 て充分に育たないなら、それは無駄な者 大学のことを考えても、その子供が弱く し太平を楽しんでいる暇に、この幼児の きだした頃に、教育ママが相当な生活を も意味がない。子供を生まなかったら孫 で、甘ったるい世界を描いて悦に入って のだ。残りの二十数年の途中の時間を無 いても、それは小説でない限り、また食

ものが少なくないのではなかろうか。苦労 ような甘ったるい無意味さに満ちている 現在の二十一世紀論にはここに述べた

は楽天性(敢て楽観性と言わず)の男と 性のひととか心配性の女とかは、とても か、お人好しの女に多いと言いたい。 二十一世紀論はできまい、これをやるの

とがらを打ちたてていこうではないか。 と長もちするような日本の一つ一つのこ 終りそうな気がしてならない。もっともっ の日の予想でなくて、雨天の日のそれに けに少しばかり酔ったある政治家に、 する。甘ったるい話ではないのである。小 教育政策、 たしはかつて二十一世紀は日本の世紀と 説を書くのとは異なっているのである。わ 面している問題を解決しなければ、二十 明日もまた今日の如し」というのが晴天 青年意識、今の経済運営、今の財政政策、 んなことでは日本は残る二十世紀末まで ハーマン・カーンに教わって、その言葉だ もち」ますかと言ったことがある。今の 世紀へ入場しえないのである。またこ 世紀は極楽となったり地獄となったり 解決の仕方のいかんによっては、二十 どうしても現代の、この二十世紀に直 等々を考えていくと、どうも

世紀の経過いかんで二十一世紀が定まる ざるをえないのである。再び言う、二十 結局、二十一世紀論は二十世紀論なら

西欧と非西欧

う一つの重要な関心は、 題を考える主要な視点は経済問題でし 重要になっていますが、これまで南北問 問題を置きかえて考える傾向が出てきて うだけでなく、 第三世界では、南北問題を考えるに当た アのみならず西欧に近いはずのラテンア ポジウムを開催しましたが、これはアジ 的文化に基づく知的創造性」というシン 化風土に根ざした近代化の道を見いだす た。しかし、日本と第三世界にとっても 西欧」という問題です。いま南北問題が いるといえます。 って、経済的先進国と経済的後進国とい メリカの人々に大変な関心をよびました。 大学では京都とメキシコシティで、「内発 えるとき「政治文化」という問題を提起 ことです。昨年から今年にかけて、国連 したいと考えます。とくに「西欧」と「非 二十一世紀における日本の生き方を考 西欧化の影響を受けつつ、固有の文 「西欧」と「非西欧 近代化の過程 ٤

でそれは「成長の限界」や外部経済の不史的必然であったともいえますが、一方今日、西欧化は工業化にとって一つの歴いてのある種の見直しが進行しています。いてのある種の見直しが進行しています。

みられます。
かいます。科学技術の発展時期に到達しています。科学技術の発展と工業化を支えた西欧のプロメティズと工業化を支えた西欧のプロメティズと工業化を支えた西欧のプロメティズと工業のでは、一つの反省の効果に象徴されるような、一つの反省の

他面、ナショナリズムという西欧の思想が非西欧世界の民族的個性認識を生んだという意味で、「西欧」の論理自体が、「非西欧」を胚胎してきたともいえます。また「西欧」の普遍化に対する一つの反作用として、個別化を強調する動きが「非西欧」の有力な土壌になっていることも事実です。いずれにせよ、「非西欧」は西欧的な思考の影響を強く受けつつも、独自の文化風土に根ざした個別化の色彩を強め、その価値意識なり論理は今後さまざまな形をとって国際社会での色彩を強め、その価値意識なり論理は今後さまざまな形をとって国際社会での地面を増してくるものと思われます。

ト)とのぶつかり合いが激しくなること。ト)とのぶつかり合いが激しくなること。こつに、第三世界の中での「西のグローバリズムへの模索が始まっていること。こつに、第三世界の中での「西欧化」(エリート)と「民族派」(エリート)とのぶつかり合いが激しくなること。

武者小路公秀

学院大学教授国連大学プログラム担当副学長/現フェリス女

をして三つに、現在、「非西欧」の先進 大二十一世紀の初めまでに、アジア、ラ 大二十一世紀の初めまでに、アジア、ラ 大つかの「非西欧」先進工業国が登場す は日本だけという状況が、おそら はつかの「非西欧」先進工業国が登場す

考えたとき、「非西欧」の先進工業国と二十一世紀の国際社会における日本を

しての過去の経験を生かして、「西欧」と「非西欧」の対話の場の設定者として、日本はプラス価値の国際的役割を果たす可能性はきわめて高いといわねばなりません。政治文化としての「西欧」と「非西欧」という問題が、とりわけ今後の日本にとって重要である理由もそこにあります。

科学と科学者

文の数も指数関数的上昇を続け、二十世 った。また別の言い方では、科学研究論 者の総数よりも多いといわれるようにな 数は、かつて生存していたすべての科学 親父の偉さを再認識したというような話 は、親父が研究所の科学者だと聞いて、 待遇が変わった由である。また鉄腕アト 学者と名乗っただけで、軍用機乗務員の のである。スプートニク打ち上げ直後に 学者の社会的地位はすこぶる高くなった 世俗的にも大歓迎されることとなり、科 特に科学が「役に立つ」ことが知られて、 ず即ち善であるかのように思われていた。 のであったにもかかわらず、科学は、科 もので、善とは異なる価値を追求するも 科学研究を志望する学生の数は急増し、 ムでお茶の水博士の存在を知った小学生 アメリカに行った友人の話によると、 術ということばがはやり出すと、科学は する話が組織的に進行しはじめ、科学技 科学研究の成果を意識的に利用しようと 学的研究に従事することは、とりも直さ 一十世紀のある時点に存在する科学者の もある。こうして科学が尊重され出すと、 った。科学研究はもちろん真理を目指す 今世紀の前半までは、科学は寵児であ

伏見康治

日本学術会議会長(当:

の宗教になぞらえられる一 当分の間は少なくも、涸渇する気配はな なければならないだろう。科学はかつて 者の生産制限をしなければならなくなっ という人口抑制法を採ったように、科学 川三百年の鎖国時代の日本人が、間引き づいたように、あるいは遥かに前に、徳 化を与えないはずがない。ちょうどロー いけれども、しかし科学者の数は制限し 深遠であって、科学研究の対象は、ここ ているのではあるまいか。自然の神秘は マ・クラブの分析が行なわれる前後に、 を越えるだろうともいわれた。 人類は突然、地球が有限であることに気 こういう事態の推移が科学の性格に変 科学者は僧

> 違いない。 市民はその負担に耐えられなくなったにがあるが、寺と僧侶の数が増え過ぎれば、があるが、寺と僧侶の数が増え過ぎれば、

しかし実をいうと、私は科学者の数にはこだわらない。科学者の質を高めることが大切だといいたいのだ。質が高けれとが大切だといいたいのだ。質が高ければ結局は科学は大いに「役に立ち」、従ば結局は科学は大いに「役に立ち」、従にこうなるのだ。

はないか。。

紀の終りにはその紙の目方は地球の目方

事故について 原子力発電所の

茅誠司

東京大学名誉教授・日本学士院会員

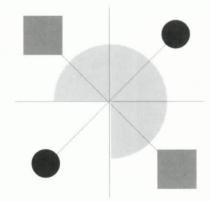
スリーマイル・アイランド、本年の敦 質発電所の事故について、七月十七日N HKからの放送があり、又引続いて放射 性廃棄物の件に就いて来週放送するとの 中です。この放送は南極の日本基地のテ レビ向放送や、石油掘削の名放送をされ た勝間アナウンサーでしたが、私は心か らその苦心した放送内容に感心いたしま した。このような放送を通じて原子力の ことが正しく国民大衆に理解されること が問題解決の第一歩だと思います。 その中心的な提案はこうでした。原子

推論の様です。従ってこの様な単なる思 推論の様です。従ってこの様な単なる思 が込みでなく、システム全体の状態をもっとはっきりと確認できる制度に改める 今一つ私の不断の願いは、ピコキュー りーなどという放射能を神経衰弱的に恐 れることのない様に中学、高校等の理科 れることのない様に中学、高校等の理科

来たが、その思い込んでいる点が間違っ

る。この故障がどこにもないという点をないことが確認された上で運転されてい器の集合であり、その全体に何の故障も力発電所は通称千五百万位の多数の機

「思い込んでいる」という状態で行われて



No.10 1981.9

日本的技術の推進

二十一世紀に向かって、われわれ日本人が世界を考えながら、これからどのように自らの道を歩んでいかねばならないか。この問題を考えるとき、私が自分のか。この問題を考えるとき、私が自分のは、多少場ちがいと思われる節があるかは、多少場ちがいと思われる節があるかは、多少場ちがいと思われる節があるかもしれないが、「日本の技術をこれからどう発展させていくか」が一番大きな鍵だということだ。

簡単にその根拠を申し上げてみたい。 高単にその根拠を申し上げてみたい。 ここ数年私は「日本はこれからは第三の 道を歩んでいかねばならない」というこ とを強調している。このことは過去にお いて第一の道、第二の道があったことを いて第一の道、第二の道があったことを いて第一の道、第二の道があったこと。

第一の道とは何か。これは終戦直後の第一の道とは何か。これは終戦直後の 昭和二十年代に日本が進んできた道だ。 昭和二十年代に日本が進んできた道だ。 日本では、わが人口は七千二百万、昭和 一年頃の一三%アップ、しかも一人当り の国民生活はその頃の五五%にすぎなかった。食糧難とインフレに喘ぎ、多くの人は住む家もなく、失業者は街にあふれていた。こういう状況にたいし、「数年後でいた。こういう状況にたいし、「数年後の第一の道とは何か。これは終戦直後の

である。
である。
である。
をしてこの目標は実現したのであった。そしてこの目標は実現したのを、これがわれわれの目標をくしていくか。これがわれわれの目標をくしていくか。これがわれわれの目標を入していくか。これがわれわれの目標を入していくか。これがわれわれの目標は実施がある。

本の高度成長時代がこれに当る。 本の高度成長時代がこれに当る。 本の高度成長時代がこれに当る。

実質七○%ぐらいのところにまで立ち直ま質七○%ぐらいのところにまで立ち直れ四十年代の半ばには、ヨーロッパとほぎなかった私たち日本人の国民生活は昭ざなかった私たち日本人の国民生活は昭って、昭和二十二年には「アメリカの二って、昭和二十二年には「アメリカの二さなかった私たち日本人の国民生活は昭和四十年代の半ばには、ヨーロッパとは、

稲葉委

(財) 産業研究所理事長

たのである。

らど。
さて私が、わが日本は第三の道、第三をて私が、わが日本は第三のような理由からに検討し実行していかねばならないとの経済戦略を、それこそこれからは本格の経済戦略を、それこそこれからは本格の経済戦略を、

①昭和三十年代になって日本は、多元的 意思決定の社会に入っている。 つまり 従来的な経済第一主義ではもはややっていけないときにきている。 いうなれば社会、環境・福祉、国際関係などをば社会、環境・福祉、国際関係などを あ元的に考慮しながら自らの道を進ん でいかねばならないようになってきている。経済も高度成長から低成長に移っている。

②石油やエネルギー問題の深刻さはたとえば最近の基礎的素材産業に見られるように、日本はこれらの産業を縮小せように、日本は覚悟して受けていかねばならな日本は覚悟して受けていかねばならない。またこれからはもっと積極的に海外に向かって経済協力していかねばな

③日本の高度成長期には多くの先進国が日本に技術を供してくれた。また私たちはそれらの技術を消化し、活用する素質と才能をもっていた。それが日本を今日のように大きく発展させたのだ。しかし、日本に技術を提供することをとはご承知のとおりであろう。従ってさきの日本のあり方を考えると、基礎的技術、応用技術その双方の面で日本自らがもっと立派な付加価値の高い、公害効果の低い、技術と産業をどうしても育成していかねばならないようにてりつつある。それが私のいう第三の道である。

最近の日本の動きは、もしも本当に政府と学界と企業とがこの点に目覚めれできることを立証している。すでにいろび、日本はこれをものにしていくことのば、日本はこれをものにしていくことのは、日本はこれをものにしていくことの

(一九九六没

世間は広大であること

難に遭遇した三十四年間を扱ってみた。 パリ講和条約に出席のため、西園寺公望 で、同じ現代史でも、日本がいちばん困 Trial 1919―52)』というのがその表題 ンフランシスコ条約の締結に至るまで、 全権が東京駅頭を出発する光景から、 を英文で出版する仕事に没頭している。 『日本、その試練のとき(The years of 戦後、日本で書かれた日本現代通史 この一年ちかく、私は、日本の現代史

うのが、私の出版の動機でもあった。ま 西欧の読者たちに知って貰おう 練の時代を、まず英文の読める、とくに 代になると、出来がおちるようである。 治までは素晴しい作品もあるが、右の時 でいるアメリカの学者たちのものでも、 史の研究では(海外では)もっとも進ん 日本だけが悪かった、と信じ込まされて らない。うっかり読んでいると、なにか みても、日本と世界との関係がよくわか は、そう言っては悪いが、いくら読んで しまうところがある。 さいきん、 日本歴 そんな欠乏感もあって、あの日本の試 明

> 影も形も見えないのである。 ういうことは、日本人の書いた歴史には の独裁によって、これは否決された。こ 主張したのは「人種差別の撤廃」であっ とき、日本がもっとも大切なこととして 挙げれば、たとえば国際連盟が成立する で勝ったにも拘わらず、ウイルソン議長 た。そして委員会においては、十二対五

ときが来るであろう」と予言した。 日本の主張に耳を傾けなければならない た、パリの別の新聞は「やがて世界は、 去られたこと」を、正しく批判した。ま しい日本の人種差別撤廃案の主張が葬り 盟の規約に堂々と盛られ、誰の眼にも正 合なアメリカのモンロー主義が、国際連 はすこぶる批判的で、「誰が見ても不都 そのとき、パリの新聞は、連盟規約に

えば、 は、よく知られている。日本の通史は、 てパリに赴いた若き近衛文麿だったこと に指摘していたのが、オブザーバーとし べられているのは何故だろうか? そし ン大統領の。理想主義。が、ながながと述 く扱われていないのに反して、ウイルソ て、ウイルソンの矛盾を、もっとも適確 H 本の通史には、このようなことが全 このような近衛の視点(さらに言 近衛の論文を激賞した孫文の視

(財) 日本文化研究所専務理事/現評論家

点、 き加えておかないのだろうか? すなわちアジアの視点)を、 少し書

ギリスの友人たちにずいぶんお世話にな はアメリカ、カナダ、オーストラリア、イ 出版というような荒仕事なので、翻訳に このような本を一年間で、執筆、翻訳、 ま、やっと翻訳の仕上げの段階に入った。 は現代のことを書きはじめたのだが、い ける、ソ連の条約侵犯はいうまでもない)。 国境を越えて進出した。第二次大戦にお ルコとの戦争で、宣戦布告に先立って、 摘しておく必要があろう。(ロシアは、 を同じようにだまし討ちしたことを、 争、米西戦争において、アメリカが相手 きだが、その場合には、同時に、米墨戦 ちになったことは、ハッキリしておくべ もちろんその攻撃が、結果的にだまし討 ろの)についても、同じことが言える。 まあ、そんなこともアタマにあって、私 真珠湾の。だまし討ち。(米人いうとこ

そんなある日、 つい先日のことだが、 ずから原文を執筆することにした。 たらないところから、僭越ではあるが、 た、見渡したところ、適当な学者が見当

み

日本の通史に欠けているひとつの例を

広大である」と、私はつくづくと悟った の表れでもあったのだろう。西鶴の言葉 知った。と同時に、それは彼の反米感情 わらないのだ、ということを私は改めて の人たちは、そんな細かいことにはこだ が国際間の常識であり、それに触れると あるが 個人の喧嘩でも、まず口でやりあい、先 私も笑い出し、なるほどアメリカ人は、 どとことわって殴る男が、いますかねえ」。 き、これからおまえを殴ってやるぞ、 手は、ニヤリとして言った。「喧嘩すると ら、戦史の先例などについて語ると、相 になった。私が、この。だまし討ちょ ブラジルの著名な新聞の編集長が訪ねて ではないが、「まことに世間というものは アンフェアに見られ勝ちだが、ラテン系 アメリカ法が優先しているために、それ に手を出したほうが分がわるいところが ことである。 きた。仕事のことになり「真珠湾」の話 一そして、世界ではアングロ**=**

-15

気になること

えたと思っている。 との話し合いは、まだいい方で、双方に 英語を母国語とする人と、そうでない人 でさえも、ある英語の単語で、日本のあ 西洋の経験に基づいている。最良の辞書 英語(フランス語、ドイツ語等も) 定の状況・経験をふまえて、生れている。 ようとしているかである。主語はある一 ない。問題は、それによって何を伝達し は日本なまりで。しかしそれは問題では ななまりの英語が話されている。日本で English for years!")。世界中でいろいろ てこる。"Americans have spoken ディー」の中で、イギリスの教授がいっ いるのではない。(映画「マイ・フェアレ まう危険性がある。発音の違いをいって 合うことに、時折、 世界語、あるいは共通語と仮定して話し いのではないかとも、言い難い。英語を 外国語でよりは英語での方が誤解が少な 容易なことではない。あまり馴染のない ネスに関して、英語で説明することは、 し相手を理解しようと、あるいは、し合 英語は外国語である人々が、英語で会話 る事柄を充分に伝達しうるとは思えない。 日本のこと、例えば日本の経済・ビジ 問題をこじらせてし は

ビジネス英語を例にとってみる。

ロベール・J・バロン

上智大学比較文化学科教授/現上智大学名誉教授

ろが日本では、この両者の間には、「壁」が ジネスという全く別個の実体があり、そ 思い浮かべることは、ガバーメントとビ business relationsという表現がでてく けでなく、往々にして、中味は、 enterprise (企業)、decision making management (マネージメント)、 ける基準 (THE standard) である。とこ 実体である。このような見方が欧米にお れも、壁、をはさんで両側に離れた二つの る。欧米人がこの英語を耳にして、まず 英語で説明するさいに、 ある。日本の特殊な政財界の結びつきを イデオロギーで味付けされているもので る。これらは、表面上の意味を伝えるだ (意思決定) といった言葉がよく使われ government-明確な

ものが、一方がアダム・スミスに基づい 欠如といえる。同じ意味だと思っていた 平行線のように、コミュニケーションの つの異なった波長のように、あるいは、 率先して興したものであるとか、 頭脳の産物であるが、日本では、 異にしつつ、産業は、 れた亜流 (deviation) とみなされるが この日本の見方は、西洋の基準からはず の関係を説明されても、戸惑うのである。 ない。この前提が分っていないと、両者 は、コミュニケーションの断絶でなく、二 ねても、問題の解決にはならない。これ あるとか、天下りがあるとか、説明を重 であるともいえる。物事の判断の基準を しかし、これも、もう一つの正統な基準 西洋では、 派閥が 政府が 民間の

最近、,Learn from Japan(日本に学いたものであるかも知れない。

最近、、Learn from Japan (日本に学ほう)。という声が、よく聞かれる。ただの流行語に終ってほしくないが、自分のの流行語に終ってほしくないが、自分の正統性に固執し、他を亜流とみなしていたのでは、他から学べるものではない。自たのでは、他から学べるものではない。自方の進んでいる川が本流であって、他は支流だ、支流だと思っていたものが、もう一つの本流であることもある。そして、ボートがのみこまれる危険性もある。ボートがのみこまれる危険性もある。よびの日本と欧米間との摩擦が、表面上は経済面だけに見えても、それはもっと深い所で起っているという危惧があると深い所で起っているという危惧があると深い所で起っているという危惧があると深い所で起っているという危惧がある

るのである。

だけに、日欧の接点にある私は、気にな

りその動きをとめた。 旗は、砂の曠野から吹く風に立ち向かい 面返還した。 ダビデの星のイスラエル国 占拠し続けたシナイ半島をエジプトに全 ながら女兵士の溢れる涙の中、地上に降 四月二十五日、イスラエルは十五年間

ためであった。 に入った。目的は今のイスラエルを見る こともあるが、ドキュメント番組を作る 返還の一カ月ほど前、私はイスラエル

評価されていない。 外国へ行くビザを発給した。日本は、 くものであったとは言え、日本では全く ことながらその行為が人道主義にもとづ 人功労者の一人とされていたが、当然の イスラエルで、杉原氏は建国における外 もいる。番組はその確認の旅でもあった。 ル建国を果し、現在要人となっている人 人は約四千九百人。その中にはイスラエ あった頃のことだ。命を救われたユダヤ ダヤ人を迫害しているドイツと枢軸国で ーランド系ユダヤ人に、日本を通過して った杉原氏が、外務省の訓令に背いてポ のぼる。当時リトアニアの日本領事であ 話は、第二次世界大戦勃発の時にさか

ナイ半島返還反対の大集会があるとい ヤ教)の祈りの場所である。ここで、シ モン時代の聖なる所であり、その後のへ 広場にいた。かつてのユダヤ王国、ソロ 日、私はエルサレム旧市内の"嘆きの壁"の さて、シナイ半島返還前の三月十六 デ神殿の西側の壁で、ユダヤ人(ユダ

> う。ものものしい警戒の中、ダマスカス どから、この旧市内の、嘆きの壁、を目 門、ヘロデ門、黄金の門、シオンの門な 口の約○・七%である。 でに二万人が集まった。イスラエル全人 指し人々は黙々と集まってくる。兵士が カードをかかげた若者の群れ。夕暮れま いる。幼な子を連れた母親がいる。プラ

項である。"壁"の広場の壇上で、祈り トが平和条約を結び返還を約した決定事 年、キャンプデービッドでベギンとサダ のあとラビは叫んだ。 なぜ彼らは返還反対なのか。一九七九

された土地とされている。エジプトの奴 り選民であるとの啓示を受けた。二千年 れて脱出し、あのシナイ山でエホバによ 隷であったユダヤ人が、モーゼに率いら イスラエルのものなのだ」 の昔から、シナイはユダヤ人、すなわち 「旧約聖書に、シナイはユダヤ人に約束

ら。の執念を私は見た。 書時代から綿々と続く"イスラエルの子 そこに近代国家のメンツよりも、旧約聖 近代国家としてのイスラエル、しかし

の拡張によりアラブ化していた。その後、 散)の旅に出たユダヤ人は、十九世紀の とを目的とする。これが建国することで シオニズムの台頭でパレスチナに帰るこ イスラエル)を追われ、ディアスポーラ (離 二世紀、ローマによってパレスチナ(現 方、パレスチナは七世紀にイスラム シナイ返還反対につながるのだ。

木元教子 | 放送キャスター/現評論家・ジャーナリスト

が起こった。 やアラブの地にアラブ民主主義独立運動 となったが、十九世紀、このパレスチナ り、キリスト教徒、ユダヤ教徒との共存 十六世紀からオスマントルコの支配とな セルジュクトルコ、十字軍の征服を受け、

と大きく発展していく。 持ち、のちのちパレスチナ解放の戦いへ ダヤ人によるイスラエル建国はなされた。 指すアラブ民族主義者達はこれに反感を 必然的に、パレスチナのアラブ国家を目 一九四八年、シオニズムに支えられユ

区)が、居住区をわけて住んでいる。 リスト教徒(ギリシャ正教とアルメニア ラム教区)、ユダヤ人(ユダヤ教区)、キ ユダヤ側にわかれ行き来は出来なかった が全市を占領、現在は、アラブ人(イス が、一九六七年の六日戦争でイスラエル しかし、ベギンのこの様な状況をふま 建国当時、聖地エルサレムはアラブ側、

るガザ地帯でのアラブ人=イスラム教徒 えてのパレスチナ自治政策(東エルサレ ドーム前でも銃撃があり、一般市民を含 やり方に抗議するため一週間もストライ すべて、イスラエルのパレスチナ自治の が行なわれ、エルサレム旧市内の商店は め、私の滞在中も、西岸地区では銃撃戦 ルの傀儡へと強引にすげかえたりしたた による自治)も、地区の首脳をイスラエ ム、ヨルダン川西岸、地中海に面してい ついにイスラム教区(アラブ)の黄金の キに入り、新市内にも爆弾がしかけられ、

> 受けたりした。 む死傷者が出た。私も街中で、兵隊に所 持品検査をされたり、ボディチェックを

ルは、シナイ後の今、レバノン、シリア 動きを見せている。これに対しイスラエ うとし、「パレスチナ建国」へと熱っぽい ップされていた。PLOのアラファトは たベギンの顔が、いつまでもクローズア 選挙による採決。結果は五十八対五十八 た。いきなり、ベギン不信任案が出され、 揺れに揺れる国会の様子を生中継してい 還問題、パレスチナ自治などの問題で大 (ゴラン高地) で示威的な襲撃を試みて 今、エジプトをアラブ陣営に引き入れよ (定員百二十)。 苦悩の中で激しく居直っ 三月二十三日、テレビはシナイ半島返

り込んでの、パレスチナの真の自治を求 内に住み続けるアラブ人の心を大きくと める声は消えない。 ナイは返還された。しかしイスラエル国 "嘆きの壁"のユダヤ人の涙の中でシ

地雷が敷設されている。 くるが、死海をはさむヨルダン国境には 続けていた。電波は国境を越えて入って に入る)は、パレスチナ解放のための戦 放送(テルアビブのテレビ受像機に簡単 いを称え、イスラエルのやり方を攻撃し 私がイスラエルを去る日も、ヨルダン

かしくない」のかもしれない。 「これからの中東では、何が起こってもお まさにアラファトの言うように、

日・西独の労働意識

検討をしてみたいと考えていた。 とってきた経験から、俗に"先進国病"とってきた経験から、俗に"先進国病"とがれている国々が、労働運動のあり方に深いかかりはしないか、一度、先進国病と労働組合の関連について突っ込んだ病と労働組合の関連について突っ込んだった。

の問題に取り組んでみた。

私が昭和二十三年にゼンセン同盟の会 長に就任するとき、ある財界の大物が、 「きみ、こんにちのイギリスをダメにした のは労働組合だよ、そんな仕事に熱中す るのはよしたまえ」といわれたことがあ り、「いや、それならば、国をダメにした い労働運動に一生を賭けよう」と、会社 での昇進の道を絶ち、政界にも出ず、こ での昇進の道を絶ち、政界にも出ず、こ の道を進んできただけに、その後のイギ リカの現状を見るにつけ、やはり、先進 リカの現状を見るにつけ、やけ、先進 と考えてのことであった。

ツが急速に状況が悪くなったのか、それ日本と西ドイツを比較し、なぜ、西ドイ日本と西ドイツを比較し、なぜ、西ドイ

には労働問題に原因がありはしないのか、その観点から、両国を調査比較し、「先その観点から、両国を調査比較し、「先をしぼって、日・西独併せて約四千人ををしぼって、日・西独併せて約四千人ををしぼって、日・西独併せて約四千人をもと、歴史や文化、価値観の異なる国を比較する場合、それが良いとか悪いとかは単純に結論づけることはできない。が、実際に意識調査を行なって比較い。が、実際に意識調査を行なって比較してみると、予想以上に大きな相違点があることが明らかになった。

若干の例示をすると、
日本と西ドイツの労働者は、勤勉で仕日本と西ドイツの労働者は、勤勉で仕ま熱心であることは同じであるが、「誰のに大きな差があった。いま勤めている会社を愛する姿勢には変わりはないのであるが、

「会社が利益を上げることは、あなたの利「会社が利益を上げることは、正反対であった、西ドイツでは、「利益にならない」と答えた者が七八・九%で、正反対であっ答えた者が七八・九%で、正反対であった。

て解析すると、西ドイツでは労働者と使この答えは、その他の調査項目を含め

─ をテーマに、─ をテーマに、○ を行なった。○ にお四千人を○ にお四千人を○ においとか悪○ ことはできな○ ことはできな○ ことはできな○ ことはできな

のなかにあって、「あなたの生活を守って、一般があることが浮きぼりになった。観があることが浮きぼりになった。

くれるのは?」の問いに、

日本は「労・使」と答えた者が六二%で、西ドイツは「労働組合」と答えた者で、西ドイツは「労働組合」と答えた者が、に分かれる。ここにも、企業の一体か、に分かれる。ここにも、企業の一体が、に分かれる。ここにも、企業の一体が、に分かれる。ことは、会社は信用できない。と見るか、それとも、労働組合は頼りにならぬ。と見るか、議論の余地はある。

滝田 実 |⁸⁷

名誉会長・アジア社会問題研究所顧問アジア社会問題研究所理事長/現ゼンセン同盟

技術革新や生産性向上についても、日技術革新や生産性向上についても、日本と西ドイツでは、賛否が正反対であっ的でも、下部の職場では反対なのである。

はじめている。

が日本にも先進国病が起こる徴候は見ええて失業の不安が強い。そして、遠からえて失業の不安が強い。そして、遠から

の早さに驚いているくらいである。かからの間合せがあったのには、あまりが、各方面からの関心は大きく、アメリが、各方面からの関心は大きく、アメリ

アムールランドを見直せ

が氾濫している。 久しぶりで日本研究に立ち戻った。と な。まずは永年の空白を埋めるため、むる。まずは永年の空白を埋めるため、むる。まずは永年の空白を埋めるため、むる。まずは永年の空白を埋めるため、かいっても、民族地理学が面白いので、テいっても、民族地理学が面白いので、テいっても、民族地理学が面白いので、テいっては、

その結果、日本文化の形成に寄与した外からの影響は、中世以前では次の三方外からの影響は、中世以前では次の三方向が主だと判断した。一アムールランドのら主に樺太・北海道経由。二西から南海回り西日本へ。三朝鮮半島経由、中国文明の影響。ここにアムールランドと国文明の影響。ここにアムールランドと国文明の影響。ここにアムールランドと国文明の影響。ここにアムール流域を主まれアジアのことで、アムール流域を主まれアジアのことで、アムール流域を主まれアジアのことで、アムール流域を主まれている。

> エボ旧石器時代以来、日本人の基盤は まず旧石器時代以来、日本人の基盤は アムールランドからなのだ。アムールラ ンドは西紀前三千年紀末には新石器文化 を、二千年紀中期・末期には青銅器や鉄 を、二千年紀中期・末期には青銅器や鉄 た。日本列島では亀ヶ岡式文化に窺う けた。日本列島では亀ヶ岡式文化に窺う けた。日本列島では亀ヶ岡式文化に窺う に入ると、粛慎・扶余・靺鞨・挹樓・渤 に入ると、粛慎・扶余・靺鞨・挹樓・渤 に入ると、南位、扶余・ に従って、中国人が違う名をあてたにす ぎない。

ている。 ではいずれも、水田稲作や華北的な 地路での民と異なり、森林地帯を中心 を有が、漁撈・採集・畑作(時に焼 は、彼らに狩猟漁撈民的な機 に存猟・漁撈・採集・畑作(時に焼 は、彼らに狩猟漁撈民的な機 は、彼らに狩猟漁撈民的な機 は、彼らに狩猟漁撈民的な機 に住むというイメージに反し、しばしば に住むというイメージに反し、しばしば に住むというイメージに反し、しばしば に住むというイメージに反し、しばしば な系にその伝統があったのだろう。高句 水系にその水軍に悩まされたが、高句麗自

川喜田二郎

| 筑波大学教授/現川喜田研究所理事長

た刀伊の賊もアムールランドからである。 た刀伊の賊もアムールランドからである。 そこから興った渤海国と日本とが使節を交換した回数は、遺唐使の倍以上、渤を交換した回数は、遺唐使の倍以上、渤を交換した回数は、遺唐使の倍以上、渤のて金が興り、蒙古や中国を圧する。最後には清朝三百年を築き二十世紀に至る。日本はその女真族のリードする中国と闘ったのであり、満州国では女真族の皇帝を推し立てたのだ。

要みを託して蝦夷征伐をくりかえしたの 野し、ことによるとアムールランドか のものが幾つかある由。白村江での打撃 のものが幾つかある由。白村江での打撃 に鑑み騎馬軍団を建て直そうとした大和 に鑑み騎馬軍団を建て直そうとした大和 に鑑み騎馬軍団を建て直そうとした大和 にが、ことによるとアムールランドの ら北海道経由で蝦夷地に入った中型馬に

身がアムールランド伝統の南下したチャ

事件のおかげかもしれない。 して武士階級が興ったのは、この文化的だったろう。日本ではまともな騎馬戦そだろう。それ以前の西南日本では小型馬

下ムールランド的な魂は、前九年後三年の役の阿部・清原一族、そして藤原秀年の役の阿部・清原一族、そして藤原秀年の役の阿部・清原一族、そして藤原秀年の役の阿部・清原一族、そして藤原秀年の役の阿部・清原一族、そして藤原秀年の役の阿部・清原一族、そして藤原秀年の役の阿部・清原一族、そして藤原秀年の役の阿部・清原一族、そして藤原秀年の役の阿部・清原一族、一般の一般では、前九年後三では、一般の一般では、前九年後三の一般によっ。

なお、縄文期には蝦夷と同類だった山なお、縄文期には蝦夷と同類だった山 の性を備えていたようだ。その故に隼人 と共に国 様や蝦夷は近衛軍団に傭われ た。そのスポーツ性を発揮した最大の名 する。そのスポーツ性を発揮した最大の名

日本語に誇りを持て

何れにしても数千万の単位だった―しか う。アラビア語が今度国連の公用語とな 仏でも、英・西でも何でもいいわけだが、 となることが大きな理由だそうな。英・ ビア語をしゃべる人は世界中で六千万人 ったそうだが、教授の言によると、アラ ういう運動をしようとしないからだとい ンプレックスにとらわれて、はなからそ 木教授によると、それは日本人が自らコ だろうかという疑問が残る。ところが鈴 が、そんなうまい話を誰がきいてくれる という国の方針にも副うことになる。だ 席する人も一挙に幅がひろがる。国際化 それこそワッとふえる。普通の会議に出 でいいことになり、そうなれば適格者は もし日本語が公用語となったら、日・英 とにかくこれは日本人にはハンデである。 用語を二つマスターしていることが条件 ないとかねてから言われているが、それ ある。それには立派な理由がある。 をすべしというのが年来の主張だそうで 日本語を国連の公用語にするための運動 木孝夫教授からのうけうりだが、教授は あるいは八千万だったかも知れないが これは慶應大学言語文化研究所の鈴 国連の分担金の割には出向職員が少 国連の職員となるには少なくとも公 日本

成功した。日本語は一億二千万人もがし成功した。日本語は一億二千万人もがしゃべっている。十分に公用語とする資格がある。ところが肝心の日本人が、そんなことはとんでもないと思い込んでしまっているのだから話にならない。この日本人の考えをなおすことが必要だと教授本人の考えをなおすことが必要だと教授は力説する。

セミナーをバンコクで開いたのですが、 ったところ、直ちに反撃された。「そうい 人なんてそうはいないでしょうよ」と言 らね、これを両方とも自由にあやつれる でしょうか」「そりゃ先生、無理でしょ 日本との間の文化交流が主題なんです いと思いませんか。いいですか、タイと 始一貫英語一辺倒でした。これはおかし 政府がタイ・日間の文化交流についての の先生が言っていた。「この間、日本の 国のチュラロンコン大学の有名な知日派 スを持っていることは事実である。この 語というものに対して妙なコンプレック もかくとして、たしかに日本人が、日本 日本語を公用語にすることの是非はと 日本語もタイ語もむずかしいですか 何故タイ語と日本語とでやらないの 他の国は関係ないんですよ。それな 飛行機の中で偶然隣りあわせたタイ 終

林雄二郎

理事/現(財)日本財団顧問(財)未来工学研究所副理事長・(財)トヨタ財団専務

と思うんです」。と思うんです」。

に反省させられたのだが、そういえば、前に反省させられたのだが、そういえば、前にもこんなことがあった。それは前述のにもこんなことがあった。それは前述の助成のあり方について雑談を交わしてい助成のあり方について雑談を交わしてい助成の対象を毎年公募しているのだが、申成の対象を毎年公募しているのだが、申成の対象を毎年公募しているのだが、申格は問いません。但し申請書は日本語で格は問いません。但し申請書は日本語で格は問いません。但し申請書は日本語でも構わないのである。「どうも日本語でも構わないのである。「どうも日本語でも構わないのである。「どうも日本語で

間違いなく日本人に違いない 申請書を書くことを条件にしているんじ 前と思わない人がいるとすれば、 当り前のことなのであろう。 それを当り ヨタ財団が日本の財団である限りそれは かった。鈴木教授の言われるように、ト ろにもアメリカやヨーロッパをはじめいろ の弁。なるほど、そういえば、私のとこ す。日本の財団なんですから日本語で申 ないんですけどね」と言ったら、「何をお ぶかしそうにされた外国人は一人もいな 言うのだが、今までそのことについてい 件を説明し、日本語で申請して下さいと に訪ねてこられるが、その時に申請の条 いろの国からいろいろの方が助成の打診 請させるのは当然です」と、これは教授 っしゃるんですか、それは当然のことで や、本当に国際化とは言えないかも知れ

21世紀を考える三つの観点

題国際委員会のメンバーの一人として、 界』(日本訳、NHK出版会)の作成に と決定するに先立って、この問題をめぐ 心の中で整理しつつある。 なりに、二十一世紀についての考え方を いわば自分自身の仕事を通して、私は私 あたったユネスコのコミュニケーション問 る基礎的報告書『多くの声、一つの世 九八三年を世界コミュニケーション年 国連大学の学長特別顧問として、また

が必要だと考えている。 三つの角度の関連を検討しつづけること いまのところ、三つの角度と、さらに

るとする人々は少なくない。第一次産業 する第三次産業革命が、今日進行してい とであるが、科学技術革新がもたらして 第一次と第二次の革命を象徴するもので リスの鉄道とアメリカの自動車の発展は、 産・大量消費の時代をもたらした。イギ の大きな変革があり、 革命期には蒸気機関を利用する工業生産 る。十八世紀末の第一次産業革命、また いる今日の産業革命を重視することであ 一十世紀初頭の第二次産業革命に匹敵 第一は、多くの人々が指摘しているこ 電気、石油、 ガスを利用する大量生 第二次産業革命

今日は核エネルギーの開発が進行して

号、一九八三年四月 換する産業文明と二十一世紀への展望 思われる。(これについて最近興味深く のではなく、科学技術革命を媒介とする にもめざましい変化があり、それは科学 読んだものとしては、村上泰亮教授 が到来するとする見方が、妥当であると や生物工学的方法を活用した産業社会 新しい産業社会、言葉をかえると情報化 ものもあるが、むしろ産業社会が終わる つぎの段階に情報社会の到来を予想する 結果、脱工業化社会あるいは産業社会の 技術革命の名に価するものである。その いる。他方、生物工学、電子工学の分野 『エコノミスト』創刊六十周年記念

しいと思われる。 えで、重要な視点であるとする主張は正 基本的な変化が、二十一世紀を見通すう るが、科学技術革新をテコとする産業の の推移に即して検討をつづける必要があ 上述した見方については、今後、事態

問題があると考えている。 ほど検討が進行していない点に、大きな ステムの展開があるかについて、 ただ、その際、今後どのような社会シ

る。第一次産業革命をへて工業化を推進 時代を見通す社会システムの変化であ 私が指摘したいのは、第二に、つぎの

主主義が登場した。第三次産業革命の進 主義の実現があり、第二次産業革命以降 したイギリスには、政治的、経済的自由 が解体する傾向がみられる。 方には自己中心主義の方向をさして社会 性」(Other-Directedness)があり、 リースマンがかつて指摘した「外面志向 いがみられるが、そこには一方で、 の地域にみられる以上に鋭い個人化の勢 アメリカの大衆民主主義には、世界の他 しい社会を構想することができるのか。 の変化があるのか。また、どのような新 行と併行して、どのような社会システム の歴史をになったアメリカでは、大衆民

をもつアメリカ型の大衆民主主義も、 要する問題点であると思われる。 ルではあるが、統合と自由の二つの原則 統合に対する地方性など、異なったレベ れない。国際性と主権国家、また国家的 日のシステムを示唆しているとは考えら 義も、孤独な個人に分解される強い傾向 ざすであろう。ソ連型の官僚的な社会主 個性、自由、地方性を保障する方向をめ 合性、連帯性をもつとともに、他方では をめぐる関係の変化こそが、今後注意を 新しいシステムは、一方で計画性、 統 明

を必要とする点で、今後、歴史は、第一 第三に、人間存在についての深い省察

国連大学特別顧問・朝日新聞客員論説委員

次、

第二次の産業革命当時にあった比較

十九世紀以降人々にひろく支持されてき という相反する二面を示している点で、 明らかに、人間の「可能性」と「限界 ることが予想される。 的単純な進歩の意識とは異なる展開をみ た楽観主義は、かげをひそめている。 科学技術革新についても、今日すでに

唆する一つの例証にすぎない。 そして社会との基本的な関係の変化を示 が問われているのは、科学技術と人間 とする数世紀にわたって維持された常識 最も進歩した科学技術の成果を活用する その結果、主権国家の存続のためには、 核物理学の進歩が核兵器を生みだし、

他

D

展を考えるうえで、見のがしえない重要 在を問うていることも、 会をふくめた現代の文明における魂の実 教会の衰退の検討をへたのち、ヨーロッ な活動である。 パの社会主義社会だけではなく、自由社 ローマ法王庁が、過去数世紀にわたる 歴史の今後の発

じであると考えている。 ずかずつではあっても確実に明らかにし まえて、私は二十一世紀への展望を、 てゆくための努力をつづけることがだい 少なくとも、上述した三つの観点をふ

(二〇〇〇没)

ホテル家族

保険の外務員やセールスマン(今はセールス・ウーマンの方が多いかもしれない)の話によると、最近は、昼間、家庭い)の話によると、最の主婦をつかまえるこ訪問しても、家庭の主婦をつかまえることはできない。そのためには勤め先か、PTA集会の後、カルチャーセンターのロビー、または地域のスポーツセンターまで行かなければ、と言う。

主掃のうち二人こ一人よ動っている世来るというケースが多くなった。なども、夜七時過ぎか、土曜日の午後になども、夜七時過ぎか、土曜日の午後に

主婦のうち二人に一人は働いている世主婦のうち二人に一人は働いている世たないという指摘もある。仕事を持ってたないという指摘もある。仕事を持っていない主婦も、地域内でのPTA、ボランティア、消費者運動、或いは自分なりの勉強やスポーツで外出がちだから、昼間の家庭は、全員出ているか、お年寄り間の家庭は、全員出ているか、お年寄り間の家庭は、全員出ているか、お年寄りしている。このところ、お年寄り相手のものが急増している。

うイメージは、その実態に於いて急速にり頑なに持っていた従来の「家庭」といこれまで、私達が漠然と、しかもかな

変りつつある。

家族ばかりでなく、それを容れる器である住いもそうで、日本人の一戸建てにある住いもそうで、日本人の一戸建てにある住いもそうで、日本人の一戸建てによって、人々は狭いマンション住いを余儀なくされている。東京の或る区では、なんと共同住宅に住む世帯が七割近くを占めるとか、したがって住民対策も、これまでのように、一戸建てを主体としていたのでは対応がずれてしまう、と区でがないから」という笑えぬ冗談もある。かないから」という笑えぬ冗談もある。ト比木客与天り分析(主命保険と)

小此木啓吾氏の分析 (生命保険文化小此木啓吾氏の分析 (生命保険文化・センター、家庭問題追跡レポート)では、父親不在型の核家族発生により、母子関係はより緊密、濃厚なものになり、父親不在型、及び母子家庭的な家族の状況だ不在型、及び母子家庭的な家族の状況だ不在型、及び母子家庭的な家族の状況だったのが、ここにきて、父親不在から母親不在という新しい傾向を帯び、「ホテル家族」へと移行しつつあるという。

中一方、高度通信情報網の発達で、中 一方、高度通信情報網の発達で、中 テルにより近い雰囲気である。 テルにより近い雰囲気である。

一方、高度通信情報網の発達で、中央と地域、家庭を直結する情報のハイウ いにして、ホームバンキング、ホームショッピングができ、子どもたちもパソコョッピングができ、子どもたちもパソコョッピングができ、子どもたちもパソコョッピングができ、子どもたちもパソコールの前に陣取って、マイペースで勉強するということも珍しくなくなるだろうから、これらによって教育形態なども随分様変りするはずである。

は、「家庭」や「家族」について論じらこのような急速な状況の変化のわりに

お稽古事、部活動と、スケジュールはび母親も、そして子どもまでも、塾通いや辛うじて夜だけ集まって来る。父親も、

ールに追われるように慌ただしく過ごし、

五代利矢子

平倫家

仕事、母は子育てと家事、という役割分 仕事、母は子育てと家事、という役割分 也論の域を出ていないし、しつけにして も、経済の歯車は大量生産、大量消費、 或いは内需喚起に躍起となりながら、子 ざもたちには「ものを大事に」「もったい ない」と建前だけをうたうように教えて、 ない」と建前だけをうかある。

現在、「家庭」はどう変りつつあるの現在、「家庭」はどう変りつつあるの現在、「家庭」はどう変りつつあるの現在、「家庭」はどう変りのつあるの現在、「家庭」はどう変りのつあるの現在、「家庭」はどう変りつつあるの

技術と人間とのかかわり

因ともなりかねない。 地展は人類社会の内部摩擦を惹起する要進展は人類社会の内部摩擦を惹起する要進展は人類社会の内部摩擦を惹起する要進展は人類社会の内部摩擦を惹起する要進展は人類社会の内部摩擦を惹起する要進展は人類社会の内部摩擦を惹起する要進展は人類社会の内部摩擦を惹起する要

二十一世紀フォーラムは、社会の各方面の方々が集まり、現代さらに将来の問面の方々が集まり、現代さらに将来の問題についてテーマを選び、相互の知識を変換し、併せてブレーン・ストーミングを進める場であろう。各部会で行われるディスカッションは、各人が日常の活動ディスカッションは、各人が日常の活動で接触する機会の少ない人達との間で、異質の意見交換をするところに大きな意義があるように思われる。それは異質の金属を組合せ電解液を加えることによって、電流が生ずるようなものであろう。こうして発生する起電力は、会員の活動になんらかの新しい刺戟を与えるに違助になんらかの新しい刺戟を与えるに違かない。その刺戟はまだどういう形でかない。その刺戟はまだどういう形でかいない。その刺戟はまだどういう形でかいない。その刺戟はまだどういう形でかれている。

る。 身に新たな視点を与えるきっかけともな 達されるだけでなく、 個々人の集合体が創り出すものである。 る。そしてその政治も社会も、 識ではなくて、政治であり社会の力であ つながる。いずれの道に進むかは科学知 同時に人間を破滅させる兵器の開発にも ギー源として使いこなす人間の知恵は、 消えていくことになる。正しいものとは 第に正しい姿が現れ、正しくないものは そのような入り乱れた議論の中から、次 る。それによって新しい正確な知識が伝 野の方々が特定専門家の話を聴き討論す すべてに関連する。多くの異なる専門分 マにフォーラムを進めてきた。エネルギ これまで主としてエネルギー問題をテー 人間を疎外するものであってはなるまい。 ー問題は資源、技術、経済そして社会の 例えば原子力において、有用なエネル 二十一世紀フォーラム茅誠司部会は、 とくに原子力については政治が加わ 感情論さえ否応なしに入ってくる。 話をした専門家自 結局は

23

題に心を奪われて私達自身の内的問題を分に安定化していないけれども、外的問外部的な社会摩擦、国際摩擦はなお十

にあるだけでは、万一の過ちを防ぐ絶対ある。コントロール・メカニズムが外部

ていくだろう。

村田浩

| 会議副会長 | 日本原子力研究所顧問/現 (社) 日本原子力産業

内蔵させることであろう。 方を誤らぬコントロール・メカニズムを である。肝腎なことは、 とは多くの科学技術について言えること にしなければならない。しかし両刃の剣 有益なものであろうし、 つある。その発展は人類の将来にとって と相俟って、着々新しい分野を開拓しつ 学は、マイクロエレクトロニクスの発達 きたが、遺伝子工学を中心とする生命科 造よりもなお不明な点が多いと言われて の微妙なメカニズムについては、宇宙構 子工学の発展が教えてくれた。人体内部 見過すわけにいかぬことを、最近の遺伝 ここで大切なのは「内蔵」することで 両刃の剣の使い また有益なもの

その上昇を抑える方向に自動的に働くそ の力とはなりえない。「負の温度係数」と 意義もそこにあると言えるだろう の教育であり、二十一世紀フォーラムの ろ人間とのかかわりで正ともなり邪とも が必要である。科学技術は、つまるとこ 経済、文化など各方面からの健全な刺戟 を俟つわけにはいくまい。政治、 世界で、こうしたメカニズムを創り出し かどうか。ともあれ発展する科学技術の してこのような抑制力が内蔵されている である。私達の細胞や遺伝子の中に、果 のものに固有の、つまり内蔵する抑制力 いうのがある。温度が急激に上昇すると、 なりうる。人と人との接触が広い意味で て行くとすれば、科学技術者の仕事だけ

社会資本の充実を

困っている。
日本にはモノとカネがあり余っており、
を来ならば私たちはもっとゆとりある豊かな生活ができるにもかかわらず、この
が成長させるメカニズムが成立しなくて

日本は世界の工業国の中では最も貯蓄率が高い国であり、毎年八十兆円も貯蓄毎年できた生産物の中で、八十兆円に相毎年できた生産物の中で、八十兆円に相多いる。これをモノの面から見ると、されている。

五兆円使い切れないで残っているわけだ。五兆円使われている。差引すると、約十備投資に五十兆円使われ、住宅投資に十にれらの貯蓄は、まず、工場などの設

資が盛り上がるわけではない。 場の建設が促進されたりして、民間の投 施設ができたからといって、ハイテク工 財政はみごとに破綻し、これ以上、そう 地方の生活環境はすばらしくよくなった 率がきわめて低い公民館や美術館などが この余ったものを、政府や地方公共団体 なくなってしまった。また、そういった いった施設の充実を拡大することができ わけである。ところが、その結果、 た。豊かなゆとりある生活環境もできた。 つくられた。小学校も実にきれいになっ 美しい舗装道路ができ上がり、また利用 はほとんど自動車が通らないところにも ネを集めて買い上げ、その結果、 が膨大な建設国債や地方債を発行してカ 地方で

外諸国の対日批判は拡大する一方であ出し、その結果、貿易摩擦は激化し、海日本はモノとカネがあり余っているが、日本はモノとカネがあり余っているが、

竹内宏

現竹內経済工房主宰日本長期信用銀行常務取締役調査部長/

準が得られるはずである。 入されれば、私たちはもっと高い生活水る。もしこれらの余ったものが国内に投

らに首都圏や阪神圏への経済の過密集中 広がり、地方の経済成長にも役立ち、さ 積はぐんと拡大するだろうし、また、ハ イテク工場の立地可能地域は日本全体に 投資をすることはなかなか困難である。 費がかかったりする。実際にそのような 運動が起きたり、また、膨大な土地買収 網、新幹線網等の拡大といった大型の社 せるために最も必要な空港、 全体の生活環境を改善し、経済を成長さ 価はすでに著しく高い。長期的に見て国 首都圏や阪神圏からの通勤可能地域の面 会資本投資に対して、時には激しい反対 もし、そうした交通網が充実されれば、 しかし、現在では、それが難しい。地 高速道路

外でビル建設や宅地造成投資を行ってい 状態も解決されるはずである このような社会資本の充実を中心とし るのは実に残念なことである。いまこそ、 るための投資が起こらずに、企業は、 だ。もしこのような投資が実現されるな 責任はいうまでもなく政治にあると言え て、うまく内需が拡大するような新しい もかかわらず、都市改造や住宅を充実す 市の住宅事情は、きわめて貧困であるに はずである。考えてみれば、日本の大都 らば、国内需要が盛り上がり、その結果 うという国民的な熱情が欠けているよう メカニズムをつくるべきであって、 輸出が減り、対外経済摩擦も解決される しかし、そのような投資を達成させよ

北原秀雄君の思い出

部に入り、中寮で暮らしたが、 部で活躍していたと記憶する。私は弓道 校では兄の八木忠雄氏とともに陸上運動 が、彼は五年修了で文科に進み、高等学 年修了で、第一高等学校の理科に進んだ りはっきりした記憶がない。私は中学四 背が高く、日本人離れした体格で、スポ 共に大正三年生まれの虎年で、彼は中学 部の部屋は北寮にあった。 いたのか、中学時代の同君については余 ーツにも長じていた。交友範囲が違って 時代には八木姓であった。当時としては 日比谷高校)時代のクラスメートである。 北原秀雄君は、私の東京府立一中 陸上運動 現

大学は私が東京大学工学部電気工学大学は私が東京大学工学部電気工学である。とになる。というフランスに派遣されることになる。省からフランスに派遣されることになる。省からフランスに派遣されることになる。省からフランスに派遣されることになる。省からフランスに派遣されることになる。とで和田博雄氏が経済安定本部長官ととで和田博雄氏が経済安定本部長官ととで和田博雄氏が経済安定本部長官ととで和田博雄氏が経済安定本部長官ととで和田博雄氏が経済安定本部長官ととで和田博雄氏が経済安定本部長官ととで和田博雄氏が経済安定本部長官となった。

間フランスにいたようである。かけなかったが、彼は終戦後しばらくの外務省調査局に在任中、北原君の姿を見

私は経済安定本部から経済企画庁の作成等を担当し、エコノミストとしての作成等を担当し、エコノミストとしての外交官としての道を歩んだ。私は経済の外交官としての道を歩んだ。私は経済の外交官としての道を歩んだ。私は経済の外交官としての道を歩んだ。私は経済安定本部から経済の分野にまで広がり、時折り外交官としての北原君に会うり、時折り外交官としての北原君に会うり、時折り外交官としての北原君に会うに、本は経済安定本部から経済企画庁の

だ一つ重要な違いがある、それは日本を 掲載され、先進国首脳会議開催の構想を 談を行っている。その内容はレストン記 著名なジャーナリストであるジェーム を世界に発表したものとされている。そ 持ったジスカール・デスタン仏大統領が 者により、ニューヨーク・タイムズ紙に ズ・レストン記者をエリゼ宮に招き、対 なのかと質問したところ、 議でやれるはずなのに、なぜ新たに必要 の記事の中に、レストン記者が、この種 レストン記者との対談を通じてこの構想 ル・デスタン仏大統領(当時)が米国の の首脳会議はNATO、その他主要な会 彼がフランス大使の頃に、 大統領は、た ジスカー

大来佐武郎

内外政策研究会会長・国際大学学長

たのを思い出す。 がある。当時、パリで食事を共にしなががある。当時、パリで食事を共にしなががある。当時、パリで食事を共にしなが

北原君はフランスでも、その大柄な体格と板についた仏語で多数の友人を作っ格と板についた仏語で多数の友人を作っ代表として、各国の間でその調整に大い代表として、各国の間でその調整に大いに活躍し、日本外交官の名声を高めたとに活躍し、日本外交官の名声を高めたといいる。考えてみれば、彼は最も外交官らしい外交官であった。

ある。 私は当初参加の予定であったが、
ある。 私は当初参加の予定であったが、
の工友好協会の招待で、日本から小坂善太
の工友好協会の招待で、日本から小坂善太
の工人が、
の工人が
の工が
の工が

のである。

に意外であった。

惜しい人物を失ったも

(一九九三没)

を楽しんだようである。と楽しんだようである。との際、家内は北原夫妻らとの旅行た。その際、家内は北原夫妻らとの旅行と、その際、家内は北原夫妻らとの旅行と、その際、家内は北原夫妻には、おりている。

25

安を見かけていたので、今回の計報は誠姿を見かけていたので、今回の計報は誠まを見かけていたので、その際に北原君にもメンバーとして参加してもらい、時にもメンバーとして参加してもらい、時にもメンバーとして参加してもらい、時にもメンバーとして参加してもらい、時にもメンバーとして参加してもらい、時にもメンバーとして参加してもらい、時にもメンバーとして参加してもらい、時にもメンバーとして参加してもらい、時にもメンバーとして参加してもらい、時にもメンバーとして参加してもらい、時にもメンバーとして参加してもらい、時にもメンバーとして参加してものである。ごく最近まで元気な変を見かけていたので、今回の計報は誠姿を見かけていたので、今回の計報は誠までは、

情報化と地方化

十年ほど前に、神奈川県の長洲知事が上年ほど前に、神奈川県の長洲知事がるというのである。私もこれは正しいするというのである。私もこれは正しいするというのである。私もこれは正しいするというのである。私もこれは正しいするというのである。私もこれは正しいを中心とした重厚長大型から、エレクトを中心とした重厚長大型から、エレクトを中心とした重厚長大型から、エレクトを中心とした重厚長大型から、エレクトを中心とした重要はない。遠いところで海地帯に作る必要はない。遠いところでを空気や水がきれいで地価が安ければそこで生産した方がいい。飛行場や高速道路ができ、また通信手段が発展すれば、路ができ、また通信手段が発展すれば、路ができ、また通信手段が発展すれば、路ができ、また通信手段が発展すれば、路ができ、また通信手段が発展すれば、路ができ、また通信手段が発展すれば、路ができ、また通信手段が発展すれば、地方の経済的地位は高まるに違いない。

昭和五十年代の前半は私の見方のとおりになった。熊本、鹿児島、山形、千歳りになった。熊本、鹿児島、山形、千歳りになった。熊本、鹿児島、山形、千歳が急成長した。空港がなくても松本や白河など高速道路の便が良いところは、同瀬など高速道路の便が良いところは、同瀬など高速道路の便が良いところは、同瀬など高速道路のでか良いところは、同河など高速道路のでが良いところは、同河など高速道路のでが良いところは、同河など高速道路のであった。しかし、五十年国平均の二倍であった。しかし、五十年から五十五年になると首都圏の人口増加から五十五年になると首都圏の人口増加から五十五年になると首都圏の人口増加から五十五年になると首都圏の人口増加から五十五年になると首都圏の人口増加から五十五年になると首都圏の人口増加から五十五年になると首都圏の人口増加

をなっていた。 方の時代の予言が当たったと思って得意 方の地位は相対的に高くなった。私は地 特に東京都では人口が純減となった。地

五年から六十年になるとこの傾向が再逆五年から六十年になるとこの傾向が再逆五年から六十年になるとこの傾向が再逆五年から六十年になるとこの傾向が再逆転し、首都圏の人口が加った県ですと言ってで唯ひとつ人口が減っては講演会を開いてで唯ひとつ人口が減っては講演会を開いてしたるないのも無理はない。 統計を調が上がらないのも無理はない。 統計を調が上がらないのも無理はない。 統計を調が上がらないのも無理はない。 統計を調が上がらないのも無理はない。 主催者の意気もお客さんが集まらない。 主催者の意気が上がらないのも無理はない。 統計を調が上がらないのも無理はない。 対いたびないた。

26

沈下の一因だ。
なぜ一時は実現しそうにみえた地方の地盤公共投資が減ってきたことが地方の地盤公共投資が減ってきたことが地方の地盤公共投資が減ってきたことが地方の地盤公共投資が減ってきたことが地方の地盤の

の発信地である首都圏に経済活動が集中近年情報化が急速に進んだために、情報下の理由だという説も多い。すなわち、下の理由だという説も多い。すなわち、

金森久雄

現(社)日本経済研究センター顧問(社)日本経済研究センター理事長/

を始めた。郵政省の調査によると、情報発信量の八七%は東京だ。これが経済活発信量の八七%は東京だ。これが経済活発信量の八七%は東京だ。これが経済活動の都市集中をもたらしたというのだが、助の都市集中をもたらしたというのだが、地は東京でも、通信手段の発展により地地は東京でも、通信手段の発展により地地は東京でも、通信手段の発展により地地は東京でも、通信手段の発展により地地は東京なったが、通信手段の発展により地をなった。情報化は経済活動の地方分散をなった。情報化は経済活動の地方分散をなった。情報化は経済活動の地方分散をなった。情報化は経済活動の地方分散をなった。情報化は経済活動の地方分散をなった。情報化は経済活動の地方分散をなった。

ードであり、通信技術の進歩によって発とのふれ合いによって発生する。報はハとはササケでありソフトであり、人と人とはナサケでありソフトであり、人と人とのふれ合いによって発生する。情報

とが顔を合わせることによっておきるの 情報を求めて人は東京に集中するのだろ 赤提灯で話をしないと情がうつらないな 事室から電話をかけたのでは相手にされ 平松知事にこのことを話したら、「そのと らないような説であるが、先日大分県の が蝟集するという本能が変わらない限り、 も人間がやることである。赤提灯に人間 あ」と同感した。結局は情報化といって の人に話したら、「そうだ。われわれでも です」と言われた。この話をまた県の下 情を陳べなくてはダメです。情は人と人 ない。わざわざ東京まで出かけていって おりです。自治省への陳情といっても知 れないというのである。解ったような解 展する。ハードの進歩だけでは情報は流

江戸時代と二十一世紀

二百四十年あまりも泰平がつづいた徳 二百四十年の平和を楽しみ、このまますでに四十年の平和を楽しみ、このままで二十一世紀を迎えるとすれば、徳川時 代以来の記録的な長期の平和を経験する ことになる。いや、ぜひそうしなくてはならないのだが、いまはその問題に深入 りするつもりはない。そうなったときの 対会や文化がどうなるのかを考えてみたいのである。江戸時代と二十一世紀はど こが似ていて、どこが違うのだろうか。 江戸時代には、気候不順のための飢饉

江戸時代には、気候不順のための飢饉 江戸時代には、気候不順のための飢饉 はなく、都市はもちろん農村でも、く らしの余裕ができあがっていった。宮本 らしの余裕ができあがっていった。宮本 常一氏が愛読された日向佐土原の山伏、 野田泉光院の紀行「日本九峰修行日記」 には、修行の旅をする山伏たちを迎えて には、修行の旅をする山伏たちを迎えて には、修行の旅をする山伏たちを迎えて には、修行の旅をする山伏たちを迎えて と芸術が、隆盛をきわめていた。赤穂浪 と芸術が、隆盛をきわめていた。赤穂浪 と芸術が、隆盛をきわめていた。赤穂浪 と芸術が、隆盛をきわめていた。赤穂浪 と芸術が、隆盛をきわめていた。赤穂浪 と芸術が、隆盛をきわめていた。赤穂浪

いものが生まれるとすれば、それは元禄即のような生活の余裕であろう。私をふくめて、戦後をあわただしく生きてきたとができなかった。子供のピアノや水泳のお稽古まで、人に負けないように、あのお稽古まで、人に負けないように、あれよくば国際コンクールに出られるようにと、親がはっぱをかける。しかし、これは遊びなのだと思う。くらしのうえで、がゆとりなのだと思う。くらしのうえで、がゆとりなのだと思う。くらしのうえで、がゆとりなのだと思う。くらしろうであるとしたら、どんなにすばらしいだろう、と考えるときがある。

江戸時代の人たちは学歴社会や国際コンクールを知らなかったから、ゆとりととかに俳諧を楽しみ、三味線をひいて楽しむゆとりが、市井の人たちのなかにあった。のごろの大学で、正規の部活動を嫌このごろの大学で、正規の部活動を嫌い、同好会を組織して遊んでいる学生たが増えている。試合に勝ったり、ヒマちが増えている。試合に勝ったり、ヒマちが増えている。試合に勝ったり、ヒマちが増えている。試合に勝ったり、ビマーで初登頂しないでもいい、思うように遊ぼうとする姿勢が二十一世紀につながってゆくのはいいことだと思う。

27

は避けられない。 とともに、伝統ができ、型にはまるの なとともに、伝統ができ、型にはまるの

もし二十一世紀において、安定した社会が実現するならば、いまからでは予想会が実現するならば、いまからでは予想にない。けれども、そのようなルールがまっい。けれども、そのようなルールがまったくないとすれば、また、もののケジメがつかなくてもちろん困る。約束事や慣がつかなくてもちろん困る。約束事や慣がつかなくてもちろん困る。約束事や慣がでかなくてもちろん困る。約束事や慣がでかなくてもある人困る。

いっそう進むことによってであろう。鎖その可能性があるとすれば、国際化が

一十一世紀に、いまの私たちが持たな

担、冠婚葬祭、生活様式などにいたるた

たし、家族関係、共同体内部の役割分

もっとも、江戸時代は階級社会であっ

中村隆英

教授 お茶の水女子大学教授/現東洋英和女学院大学

国の時代とはちがって、海外との交流がいっそう活発化するなかで、日本だけのしきたりや慣習の拘束力は弱まっていく なで流のバランスによって、あまり面倒な交流のバランスによって、あまり面倒な交流のバランスによって、あまり面倒なで、あれることを期待する。

「近ごろの若い者は」、と私も思うとき「近ごろの若い者は」、と私も思うとき、江戸時代の制限された文化よりも、とき、江戸時代の制限された文化よりも、とき、江戸時代の制限された文化よりも、とき、江戸時代の制限された文化よりも、とき、江戸時代の制限された文化よりも、とき、江戸時代の制限された文化よりも、

情報化時代への一つの期待

報が蓄積しているから新しい情報はテレ リストに話したところ、おそらくその通 りだろうと言う。そして、その理由とし かったか、大切なものを見逃さなかった まなかったことにより、非常な不便はな かということである。半年間ほとんど読 特に新聞は前よりも丁寧に読んでみた。 喜んで本や雑誌を再び読むようになり とも眼鏡なしでよく見えるようになった。 ビなどで充分なのだろうと解説してくれ ていること、 か、考えてみると何もないようである。 雑誌は今の私にとって必要なものかどう 正月に右眼の手術を受けたところ、両眼 まなくなってしまった。昨年暮れに左眼、 ないと見えなくなったので、ほとんど読 年余りは新聞も大見出し以外は拡大鏡が て彼は、一つはラジオやテレビが普及し このことをある親しい著名なジャーナ しばらくして気づいたことは、 三年位前から白内障にかかり、ここ半 もう一つは、 私に多量の情 新聞や

聞無用論を述べる気はない。しかしながたろうし、いろいろな意味で、新聞が社だろうし、いろいろな意味で、新聞が社だろうし、いろいろすまな役割はよく分か会に果たしている重要な役割はよく分か

それは結構である。 記事を無理に増しているのではないかと ら、久し振りにお目にかかって、よく見 ないし、言論の自由は大切なことだから、 時々見かけるが、今、それに加わる気は か。記事の内容についての批判や論争は うだという発想は馬鹿げているのだろう ろうか。厚くすれば新聞少年にかわいそ が読まれるのかといった調査はあるのだ いが、平均して記事全体の何パーセント くて困るのは少数の読者だけかもしれな 疑われるようなところがある。 しれないが、逆に広告の量に見合うだけ とらないと経済的に成り立たないのかも どすぎるのではないか。広告をたくさん 前から不満であったが、最近はそれがひ もあって、記事全体が多すぎることには みると、さまざまなことに気がつく。 える嬉しさもあって、丁寧に眼を通して 第一に広告が約半分も占めているため 新聞が厚

私の述べたいのは、情報社会になったことが、そのまま情報量の増える社会になることに納得がいかないし、情報量のながる恐れがあり、他方ではさまざまなながる恐れがあり、他方ではさまざまなながる恐れがあり、他方ではさまなまない。

向坊 隆

(情報科学の進歩が、ある程度は情報量で、同時に情報を整理し、それが社会にて、同時に情報を整理し、それが社会にて、同時に情報を整理し、それが社会にてがいるのである。)

力や費用を省くために必要である。今の に評価の過程を入れることが、無駄な努 すことが大切で、情報システムのどこか 報の内容を評価して有益な情報を選び出 個人では負担しきれなくなりつつある。 そのサービスの費用は次第に高くなり、 くなっている。情報科学の発展のおかげ 複雑膨大なシステムを利用せざるを得な 早く知ることは年々難しくなっており、 で便利なシステムが発展しつつあるが、 めに、それらの中から真に役立つ情報を の情報量の増加があまりに急速であるた ることは極めて大切である。しかし、そ させる上で、世界的に新しい情報に接す 情報が最も大量に生産されている分野の している。 用する大きなシステムを扱う活動に関与 世界的ネットワークを整備し、これを利 このような分野では、これからは、情 つである。しかも、 私は化学の学問的ないし技術的情報の 化学は、 学問分野の中でも、 学問・技術を発展

所理事長 原子力委員会委員長代理/現(財)政策科学研究

ところ、この評価は人間がやらねばならない。例えば、評価システムの整った学会でた方法がそれであるが、この時も学会でた方法がそれであるが、この時も学会ではが行われる段階は人によって行われ、

情報が新聞などのように広い社会全般から得られる場合には、評価はさらに難から得られる場合には、評価はさらに難なまでには、いろいろな段階での評価が加えられているには違いないが、それには先に述べた情報の混乱や量の増加一方の傾向に対しての配慮はあまりなされていなさそうである。まして、テレビや雑誌などにより情報の与えられ方が多様化しており、さらに、その傾向が進みつつしており、さらに、その傾向が進みつつもるとき、マスメディアのあり方が、今あるとき、マスメディアのあり方が、今あるとき、マスメディアのあり方が、今あるとき、マスメディアのあり方が、今あるとき、マスメディアのあり方が、今あるとき、マスメディアのあり方が、

おそらく将来は電話、テレビ、ファックスなどの全体の組合わせとして理想的クスなどの全体の組合わせとして理想的は、せめて現在の情報システムの改善がは、せめて現在の情報システムの改善がか。

定年の心境

ある大手の電機メーカーでは、定年を ある大手の電機メーカーでは、定年後教育を実 施している。そのひとつのコースとして、 妻も招いて、夫婦揃って、定年後につい て考え検討する一日がある。その日には、 日二十四時間の時間だけが印 最初に、一日二十四時間の時間だけが印 最初に、一日二十四時間の時間だけが印 最初に、一日二十四時間の時間だけが印 最初に、つ日二十四時間の時間だけが印 して、定 を の日課を時間割として書きこめとい うわけである。

その会社の定年後教育担当者から聞い その会社の定年後教育担当者から聞い た話では、妻の方は、その紙が渡されると、ためらいなく、朝起きてから夜寝ると、ためらいなく、朝起きてから夜寝ると、ためらいなく、朝起きてから夜寝ると、ためらいなく、朝起きてから夜寝ると、ためらいなく、朝起きてから夜寝ると、ためらいなく、朝起きてから夜寝ると、ためらいなく、朝起きてから夜寝ると、ためらいなく、朝起きてからでいう。ところが、夫の方はそうはいかは、東では、東の方は、その会社の定年後教育担当者から聞い その会社の定年後教育担当者から聞い その会社の定年後教育担当者から聞い その会社の定年後教育担当者から聞い という。

の軽蔑を後悔し、自分自身に憐れみを向のである。ところが、最近、仕事人間へのである。ところが、最近、仕事人間へときる術を見出せないあわれな男性ども生きる術を見出せないあわれな男性ども

らず、とまどってしまうのであろう。

けるはめにおちいった。
この春、私は、十五年間寝たきりだった実の母を亡くした。自宅でみていた時には、その介護に追われ、身体的に疲れには、その介護に追われ、身体的に疲れには、その介護に追われ、身体的に疲れには、その無理がたたったのか、あるかった。その無理がたたったのか、あるいは逆に、重い負担から解放されてほっとしたのか、すっかり体調が崩れてしまった。講演に行っても、一時間どころか十分も立っておれず、椅子を用意してもらう始末であった。

切った。毎日が日曜日となった。 がに病院のお世話になり、医師から厳 がはお断りして、できるだけ仕事と縁を のはお断りして、できるだけ仕事と縁を のはお断りして、できるだけ仕事と縁を のはお断りして、できるだけ仕事と縁を

そうなってみて、時間割が起床時間と 食事時間と就寝時間しか埋まらない仕事 人間の情況が、身にしみてよく理解でき た。まさに、仕事人間の定年時の心境で ある。掃除、洗濯を済ますと、あとは好 ある。掃除、洗濯を済ますと、あとは好 ある。掃除、洗濯を済ますと、あとは好 ある。掃除、洗濯を済ますと、あとは好 ある。掃除、洗濯を済ますと、あとは好

高原須美子

| 評論家/現セントラル野球連盟会長

ろうと、人に向かっては言い続けて来た。 輪いずれも、四十歳を過ぎたら取りかか されて時間的余裕はあったはずなのに、 老後資金を用意することである。三つの もう一つの後輪は、経済的な備えであり、 精神的な備えとしての生きがいであり、 ある三輪車の前輪は、身体的な備えであ ても安全である。三つの輪を用意してお ぶことがあるが、三輪車は、 意しようというわけである。

二輪車は転 えている。老後のために、三つの輪を用 実して生きるために、「三輪車論」を唱 を優先し、仕事人間になっていたのだ。 経済的負担に追われたこともあって仕事 しまい、テレビを何とよく見たことか! 私は、かねがね、人生八十年時代を充 母を入院させたあとは、介護から解放 健康管理である。後輪のひとつは、 安心して老後が過ごせる。基本で 幼児が乗っ

> 湯を生きがいの対象に決め、 遅ればせながら、老後の生きがいの準備 然自失であった。これではいけないと、 怠っており、 ものにも挑戦し、夢はふくらむ一方であ の道具も自分で焼いてみようかと、 も取りかかろうと張切っている。 講演を聞き、ぼつぼつお手前のけいこに 築済みであり、舞台はできている。茶の が老後を送るつもりの長野県飯田市に移 遺してくれた。京都にあった茶室は、私 業績のあった人であり、茶室と茶道具を に取り組み始めた。義父は、茶人として ところが、みずからは、精神的備えを 仕事から解き放たれると茫 本を読み、 茶の湯

人生八十年時代には、仕事から解放されて時間割がすらすら埋まらないようでれて時間割がすらすら埋まらないようで

日本は国際化できるか

程である。 葉がはやっていると言うのも月並すぎる 最近では国際化とか国際交流という言

り言葉があり、 までできたが、どれも開化丼のように何 がはやって、文化鍋や文化住宅、文化村 か安手のさびしい語感を残すものとなっ 一世紀前にも文明とか開化とか、はや 昭和の初めには「文化

気に付き合う覚悟があるだろうか えても、下手な英語を使わず日本語で平 と同じほど、自分達の周りに外国人が増 かに多いかに驚かされる毎日だが、 いる。日常使うもののなかで輸入品がい に依存しなければ生きていけなくなって 小麦はもとより大豆、蕎麦まで世界各国 世の中で、また我々も石油からパルプ は日本の一挙手一投足が世界に波及する 幸いである。鎖国時代の昔と違い、今で まそうという「敬遠」の表れでなければ の場所に限り、自分達は関係しないで済 との接触はできるだけ一部の人々や特定 国際」も掛け声のみで、実際は国外

過ぎず、現状は二万人で、国費留学生は 扱いしているフランスの標準に達するに という計画も、実はこれで日本が斜陽国 日本に来る留学生を一〇万人にしよう

> ある。 喜んで一○万人も来てくれるかどうか心 そのうち二割に過ぎない。優秀な学生が け入れてきたのは、主に私立大学なので もとない。しかも留学生を大学学部に受

れないという例も聞いている。 日本語ができることで就職のとき歓迎さ たない。しかもこういう貴重な人達が し全学生数に対しての割合は一%にも満 MBAを取ったフランス人もいる。しか 人もいれば、慶應ビジネス・スクールで やインドから来て文学部を卒業している 法学士号を取得した人もいる。イギリス 韓国、東南アジアからの留学生であるが らの留学生の国籍を見ると半数が台湾 生であり、残りが大学院生である。これ の留学生がいるが、その約半数は学部学 人もいるし、コンゴや象牙海岸から来て ブルガリアから来て社会学博士をとった 現在、慶應義塾大学には四百人以上

ように見え、実は「鎖国」の体制なので ることではない。このやり方は国際化の 際会館」などに外国人を集めて別扱いす はない。「国際部」「国際センター」「国 と考えて付き合うことで、外人が日本語 でできる程度の会話を英語ですることで 国際化とは外国人も日本人と同じ仲間

るように思えてならない。 ある。日本にはいまだに出島の思想があ

国際化は、意識して本性を制御しなけれ 言える。これも一種の棲み分けであり、 求めない欧米人の集団もある。租界やリ みながら日本語も覚えず日本人と交際も 固まるのは、日本人に限らず、日本に住 取るべき政策ではあるまい。外地に出た ば、できない。 動物の本性に備わっている反応であろう。 セ・フランセなどの学校も一種の租界と 出島であり、アメリカン・スクール、リ トル・トウキョウ、チャイナ・タウンも 人間が独特の世界を作って自分達のみで であるとは断定できないが、今の日本で 島方式は鎖国の知恵であって「悪

取られるうちは、国際化は掛け声に終わ 女教育も日本化を目指すのが当然と受け 日本の学校でいじめが見られ、 帰国子

松原秀

慶應義塾大学教授/現慶應義塾大学名誉教授

ろう。男は男らしく、女は女らしく、日 ものを産まない。 き型を前提とした教育に繋がり、 駄目である。こういう役割期待はあるべ 本人は日本人らしくと言っているうちは

が造られていく。 いくことのうちに二十一世紀の日本文化 いまだ知られない新しい文化を創造して たって、異質のものを進んで認めあい 人間の多様性と多種の可能性を信頼し、 他人は自分とは当然違うという前提に

無事なのが国際化であろう。 化に自信が持てないなら、しないほうが 心を持っていなければならない。日本文 伝統に対しても同じく好奇心を持ち、 なければならぬが、 には、他国の文化に対する好奇心も強く その文化が植民地文化にならないため 同時に自国の文化、 関

情報化社会の落とし穴

オートマチック車の暴走、自動炊飯器の動作不良など、日常生活に関連する話の動作不良など、日常生活に関連する話の動作不良など、日常生活に関連する話題が新聞紙面を賑わし、また生産現場に起えない雑音、すなわちノイズの影響に見えない雑音、すなわちノイズの影響に見えない雑音、すなわちノイズの影響と考えられる。われわれが使用する機器と考えられる。われわれが使用する機器と考えられる。われわれが使用する機器と考えられる。高集積、大容量、小方向をとっている。高集積、大容量、小方向をとっている。高集積、大容量、小方向をとっている。高集積、大容量、小方向をとっている。高集積、大容量、小方向をとっている。高集積、大容量、小方向をとっている。

ノイズは雷、磁気嵐、地磁気の変動など、自然現象および環境からくるもののほか、隣接する機器の動作に伴って発生ほか、隣接する機器の動作に伴って発生する。最近では後者のものが多い。狭いスペースに多数の機器、システムを設置スペースに多数の機器、システムを設置するほど、ノイズの総量が多く、機器相互内に干渉が生ずる。なかには溶接ロボットのように、溶接の火花によって、それ自体が誤動作を起こす例も見られる。このようにノイズの量の増加とノイズ源の多様化が指摘される。

間を通して機器に入り、動作に悪影響をノイズは信号線、電源ラインおよび空

いる。規制値の強化と対象の拡大が求め

原因の判明しているノイズに対しては

セイフの設計が望まれている。 対応しているのが現状である。フェイル 今のところ、人間の経験の蓄積によって 発生した場合、安全サイドに動作するも よる事故が増加し、必ずしも対策が十分 をとれば、導入の数に比例して誤動作に まに残されるものも多い。ロボットに例 ることもできず、原因の究明されないま 回限りの誤動作のように、これを再現す をたてることは困難ではない。しかし一 誤動作に対しては、原因を究明し、対策 破壊、機能の停止もあり、人身事故につ うに一時的のものも多いが、素子の劣化、 及ぼす。誤動作、情報の変形、 のは五〇%にすぎないと報告されている。 ではあるとは言いがたい。また誤動作が ながる例もある。 繰り返し起こるような 誤差のよ

のも多く、規制の対象は一部に限られている。しかしコントロール不可能のもにノイズ発生の規制とノイズにどれだけてノイズ発生の規制とノイズにどれだけてノイズ発生の規制の限界値が決められれば被害も少なくなる。国際的、国内的にノイズ発生の規制の限界値が決められている。しかしコントロール不可能のも多く、規制の対象は一部に限られている。しかしコントロール不可能のも多く、規制の対象は一部に限られている。しかしコントロール不可能のも多く、規制の対象は一部に限られている。したが、対象は一部に限られている。したが、対象は一部に限られている。と同様に対象は一部に限られている。

平山宏之

| 術大学名誉教授| 東京都立科学技術大学教授/現東京都立科学技

出しない機器は同時に外部のノイズに対 望ましい方向であり拡大が望まれている。 新しい傾向と言えよう。 を示唆する専門会社が生まれつつある。 どの程度のノイズに対して十分機能する 試験して、ノイズの規制値にパスするか、 のみでなくソフトも重要となる。機器を ている。ノイズ対策については、 が十分でなく、研究テーマとして残され しても強くなる。このための対策につい 定量化の方向にある。ノイズを外部に放 程度耐性があるかも問題となる。次第に 自主規制がスタートしているものもある。 られているものもある。このような点か かを判定し、十分でない場合には、 て、ノウハウが蓄積しているが、 情報機器のように、その重要性から 方、外部からのノイズに対し、どの 体系化 ハード 改善

対策が存在する。どの程度ノイズ対策を施すべきかはコストにひびいてくる。コストの増加と誤動作による損失とのバランスの問題となる。また誤動作を起こしてからの対策でなく、設計段階で、ノイズによる誤動作を考慮した設計が望まれ

これから迎えようとする情報化社会では、製造ラインの情報化、すなわち製造は、製造ラインの情報化、すなわち製造は、製造ラインの情報化、すなわち製造は、製造ラインの情報の反転がシステム全体のスピットの情報の反転がシステム全体のスピットの情報の反転がシステム全体のスピットの情報の反転がシステム全体のスピットの情報の反転がシステム全体のスピットの情報の反転がシステム全体のスピットの情報の反転がシステム全体のスピットの情報の反転があり、強化が望まれている。

見ることに飽く時代の不幸

大和と河内を分ける二上山の麓にある古い。

先日、NHKの「国宝への旅」で、歌大日、NHKの「国宝への旅」で、歌井を訪れるというかたちで紹介されていた。当麻寺、中将姫伝説というと誰しも岡野氏の師、折口信夫の『死者の誰しも岡野氏の師、折口信夫の『死者の非しも聞野れずが、曼荼羅は秘蔵品で、歌九日、NHKの「国宝への旅」で、歌先日、NHKの「国宝への旅」で、歌

た。しばらくして、ちていく。それはり出される曼荼羅を追っていく。それはり出される曼荼羅を追っていく。それはり出される曼荼羅を追っていく。それはなて、カメラは奥よりうやうやしく取

内であった。

岡野氏は歴史的背景やら何やらをくど

果たしてあるであろうか。

人の姿に重なったのであった。 微かなものを聞き取ろうとしているよう微かなものを聞き取ろうとしているよう端座した姿がまた、曼荼羅から何かしら端をした姿がまた。

「見る」姿勢の違いで、そこでふと思い出したのが、ドイツの幻想画家グリューネヴァルトの代表作「イーゼンハイムトネヴァルトの代表作「イーゼンハイム祭壇画」にまつわる話である。十六世紀祭項に描かれた、ドイツ宗教画の傑作であるこの祭壇画は、中央の「磔刑図」が

上のキリストとそれを囲むマリアや弟子痙攣し、ねじれ、腐敗しつつある十字架な暗緑色。その中に青白く浮かび上がる、す景や人物を重苦しく包む緞帳のよう

小浜政子

究所主席研究員(財)政策科学研究所研究員/現(財)政策科学研究所研究員/現(財)政策科学研究所研究員/現(財)政策科学研

たち。屍体の冷たさが伝わってくるようたち。屍体の冷たさが伝わってくるようのようであるが、この血の通った幻想はのようであるう、見る者の心を強くとらえる。であろう、見る者の心を強くとらえる。であろう、見る者の心を強くとらえる。であろう、見る者の心を強くとらえる。であろう、見る者の心を強くとらえる。しむ人々の施療に従事していた修道会のしむ人々の施療に従事していた修道会のために、病気の治癒という特別の目的でために、病気の治癒という特別の目的でために、病気の治癒という特別の目的では、ないに、病気の治癒という。

> 聞く思いがした。 いら開く音とともに、患者たちの熱狂をがら開く音とともに、患者たちの熱狂を がら開く音とともに、患者たちの熱狂を

今日では、交通や情報の発達により、かりとあらゆる名画、名宝に接することが可能である。しかし、私たちは「見る」が可能である。しかし、私たちは「見る」が可能である。しかし、私たちは「見る」ががなものだろうか。

援助の意味

りだす。しかし、この一体感が先行した 界最大の援助国になりつつある。この機 性を持っている。 ともやはりきわめて困難である」。この 的に見ればたしかにアジア諸国に近い。 会に、援助の意味を少し考えてみたい。 まや年間一兆円を上回る規模に達し、 K・ボールディングの言葉は、文化交流 合、それを取り消すことはきわめて困難 とると、かえって誤解や反発を招くこと などと考えたり、慎重さを欠いた行動を 解を招くことがありうる。わが国は地理 ると、贈与にもかかわらず、受け手の誤 や援助に関する警告とも受けとれる重要 であり、与え手が自分の誤りを認めるこ になる。「贈り物がひとたびなされた場 ころがそこからただちに「アジアは一つ」 また、文化面でも多くを負っている。と 贈与は、与え手にとっての一体感を創 日本のODA(政府開発援助)は、 慎重さを欠いた行動が先行したりす 世 V

義名分の意識を持ちやすく、そのため援たのために自らを犠牲にしたいという大とに留意しよう。というのは、与え手はし、贈与が上下関係のもとで行われるこし、贈与が上下関係のもとで行われることに留意しよう。というのは、つまり交にのために自らを犠牲にしたいというがある。

体は尊いものである。

与から何らかの効果を期待しているとい 発や不満があるが、そうであれば援助を 投資や商品のオーバープレゼンスを生み が国とアジア諸国との経済力格差が直接 のいう「犠牲の落とし穴」にひっかかっ おいて、もしつぎのような論理が働いて 与でもなく、交換に終わることになる。 段化するのであれば、それは犠牲でも贈 のであって、贈与をこの論理のように手 に何らの反対給付もないからこそ犠牲な う意味で大きな誤りである。犠牲はまさ か、という論理である。この論理は、贈 通じてその一部が緩和されるのではない だしており、その結果わが国に対する反 たというべきであろう。その論理とは、わ いるとしたら、それこそボールディング しかしわが国のアジア諸国への援助に

島野卓爾

学習院大学教授/現国際大学学長

る。贈与のこうした性格こそ、贈与が持る。贈与のこうした性格こそ、贈与が持つ統合化機能である。これは一種の逆説のように見えるが、実は当然のことである。というのは、交換は契約によって成る。というのは、交換は契約によって成る。というのは、交換は契約によって成立する部分だけであって、それ以外には及する部分だけであって、それ以外には及する部分だけであって、それ以外には及する部分だけであって、それ以外には及する部分だけであって、それ以外には及する部分だけであって、それ以外には及する部分だけであって、それ以外には及する部分だけであって、それ以外には及する部分だけであって、それ以外には及びない。それに対し、贈与は相手にない。本のを一方的な移転で満たして、対象をは、対象を表した。

雑な動きをするから、男女の愛情と同列の国家を構成する社会集団がはるかに複国際的な結びつきや関係は、それぞれ

感を持ちうるのである。

感を持ちうるのである。

感を持ちうるのである。

感を持ちうるのである。

感を持ちうるのである。

感を持ちうるのである。

ここで大切なことは、贈与によってそうした一体感を持ちうるかどうかは、受うした一体感を持ちうるかどうかは、受け手が贈与を選択的に受けとるのではなく、贈与を選択的に受けとるかどうかにく、贈与を選択的に受けとるかどうかにく、贈与を選択的に受けとるかどうかにく、贈与を選択的に受けとるのではなけ手が選があるのは、受け手が選択し受しの気運があるのは、受け手が選択し受け手にとって役立つものであるべきだ、という援助の本質に立ち帰れということであろう。

に論ずることは無理かもしれない。しか

どう変わるか一十一世紀に日本の福祉は

未来というのは、どんなにコンピューターを使おうと不確定である。企業家やターを使おうと不確定である。企業家やりますれない予測の一つは二十一世紀が高齢社会になることである。二十一世紀の高齢者は既に生まれている。現在四十歳前後の戦後ベビーブームに生まれた人々が七十歳以上となる二〇二〇年には、全人口の四人に一人が六十五歳以上の高齢者になる。

福祉とは高齢者や障害のある人を援助すること、と狭く定義すると二十一世紀すること、と狭く定義すると二十一世紀の日本の福祉は、財政的にも人材的にの日本の福祉は、財政的にも人材的にるのは誤りであり、福祉とは、自立が困るのは誤りであり、福祉とは、自立が困な人に援助を与えることと再定義すれば状況は変わってくる。

自立が困難な人を少なくする、自立で自立が困難な人を少なくするというのきる期間をできるだけ長くするというのが、これからの社会全体の目標である。が、これからの社会全体の目標である。とを妨げる条件をなくさなければならない。私は特に次の三つを強調したい。

者を閉め出さないことである。 六十歳定年がようやく主流となった 六十歳定年がようやく主流となった 人によって差のあることに驚くだろう。 年齢による深みを加えながら、心が柔 軟で男性としても人間としても魅力に溢 れている人もいれば、もえがらのように くたびれてしまっている人もいる。 物定年を設けなければ新陳代謝がはか 的な定年を設けなければ新陳代謝がはか れないという日本的組織の事情はよくわ かるが、せめて新規採用募集に年齢制限 を課さないとか、給料や役職はカットし でも雇用は確保するようにすべきではな かろうか。

第二は、高齢者自身が福祉の担い手と

はという身内にサービスを期待してきた ならない。従来は男性は妻、女性は嫁やならない。従来は男性は妻、女性は嫁やならない。従来は男性は妻、女性は嫁やならない。従来は男性は妻、女性は嫁やならない。従来は男性は妻、女性は嫁やならない。従来は男性は妻、女性は嫁やならない。従来は男性は妻、女性は嫁やならない。従来は男性は妻、女性は嫁やならない。従来は男性は妻、女性は嫁やならない。従来は男性は妻、女性は嫁やならない。従来は男性は妻、女性は嫁やという身内にサービスを期待してきた。

坂東眞理子

内閣総理大臣官房参事官/現総理府管理室室長

おくなるといわれる。

表理としがらみにまとわりつかれ高齢者の世話をするのではなく、愛と感謝と必要である。とりわけ在宅介護の充実に必要である。とりわけ在宅介護の充実に必要である。とりわけ在宅介護の充実に心要である。とりわけ在宅介護の充実に応じて、七十歳代の九五%、八十歳代の八割を占める余力のある高齢者が、力尽きた高齢者を世話する、力が衰えた同士きた高齢者を世話する、力が衰えた同士きた高齢者を世話する、力が衰えた同士きた高齢者を世話する、力が衰えた同士きた高齢者を世話する。

う年だからいまさら勉強しても無駄だ」う年だからいまさら勉強しても無理をさとか「私は老い先短いのだから無理をさせないで」といいながら、二十年、三十年生きてしまう人がいる。もっと人生の重要な時間を大事に生き、また力のある重要な時間を大事に生き、また力のある意欲をもたなければならないのではなからうか。

高齢社会では、個人が長い人生を生きるだけに、その生き方によって差が大きくなる。

福祉という言葉はより広義には、一人一人の幸福を増進させるという意味がある。 真に高齢者の福祉をはかるならば、高齢者がエイジレス――年齢を意識しない生活をできるようにしていくこと、エイジフリーの社会をつくることが一番重要である。高齢者に年齢を意識させない社会にしたいものである。

年時代の年齢観にとらわれている。「も

高齢者自身も含めて、私達は人生五十

転換期に立つ医学医療

ていることは一般に認められている。のみでなく影の部分のあることは常識とのみでなく影の部分のあることは常識とげられてから、科学技術文明も明るい面げられてから、科学技術文明も明をいる。

でしている。ところに、 学医療も、近代の科学技術の発展ととも に大きく科学技術に偏在するものとなっ に大きく科学技術に偏在するものとなっ に大きく科学技術に偏在するものとなっ に大きく科学技術に偏在するものとなっ に大きく科学技術の最先端を駆使し とともに常に科学技術の最先端を駆使し て、先端医学、高度医療を誇って今日に で、先端医学、高度医療を誇って今日に で、今日ほど社会全般の中で医学 と裏腹に、今日ほど社会全般の中で医学 に、今日ほど社会全般の中で医学 と変が大きく問題視されている時代はな い。すなわち、いわゆる「医の倫理」や い。すなわち、いわゆる「医の倫理」や い。すなわち、いわゆる「医の倫理」や い。すなわち、いわゆる「医の倫理」や に子治療をめぐって、医学医療はこのま まの方向で進んでいってよいのかという まの方向で進んでいってよいのかという

学医療」であった。
世、桜花爛漫の京都で三万人を上回る参問、桜花爛漫の京都で三万人を上回る参問、桜花爛漫の京都で三万人を上回る参問、桜花爛漫の京都で三万人を上回る参

べきであるというのか。標語の副題としそれでは医学医療は何の方向に転換す

また、この全体への目配りとして、

矢

て掲げられた「創造と調和と信頼」は、 その方向を示したものとされている。す なわち現代の科学技術に問題があるから といっても、現在、人類の知識の源泉と してこれに代わるものはない。知の源泉 として、今後も科学の道を推進しなけれ ばならない。それには創造性が必要とさ れることはいうまでもない。この際、必 要とされるのは、その知を技術として人 である。この英知として、調和と信頼を掲げ たのである。調和として、考えられるの は次の論点である。

まず問題は近代科学技術の機械主義と要素還元主義である。そこには人間の生命といったものへの畏敬と、人間を全体として考える態度が欠如している。臓体として考える態度が欠如している。臓体として考える態度が欠如している。臓体として考える態度が欠如している。臓体として考える態度が欠如している。臓体として考える態度が欠如している。臓体として考える態度が欠如している。して変義された医師は、人間の自然良能一自ら治る力一を助ける人であった。それが車などと同じように修繕することとれが車などと同じように修繕することとなり部品を取り換えるのである。また、遺伝子の組換えではその基本的な人間設計にまで手を伸ばしてよいのであろうか。

岡本道雄

国際高等研究所所長/京都大学名誉教授

株と同時に、第三世界の国々では十五億 術と同時に、第三世界の国々では十五億 人の人間が医療の医にもふれずに死ぬ事 実がある。全体への目配りは環境の問題 でもある。また、科学の価値はそのもの の尊さよりもそれが技術として人間の欲 望に応える程度に応じて評価される傾向 望に応える程度に応じて評価される傾向 にあるが、医学医療ではその容易な技術 への移行が倫理問題をおこしている事実 は注目せねばならない。

本来医療は科学と文化から成るといわれる。いうまでもなく科学は人類普遍のれる。いうまでもなく科学は人類普遍のものであるが、文化には民族の固有性がある。そこで、「日本の医学医療」といったものがあってよいのではないか。日ったものがあってよいのではないか。日かの近代化は西欧化であったし、西欧化本の近代化は西欧化であったし、西欧化本の近代化は西欧化であったし、西欧化本の近代化は西欧化であったし、西欧化本の近代化は西欧化であったし、西欧化市は谷野にも容易に一辺倒の西欧学医療を我が国に移入受容すと中国の医学医療を我が国に移入受容すと中国の医学医療を我が国に移入受容すと中国の医学医療を我が国に移入受容すと中国の医学医療を我が国に移入受容すという。

るときは、私達の先人は極めて慎重であったといわれている。西洋には早くも定では現在なお大きい論議の対象となってでは現在なお大きい論議の対象となっているのには積極的な意味があるのではないか。ここでは、人間と自然に関する東いか。ここでは、人間と自然に関するをした。

このような論点を十分考えることによって、私どもは社会から信頼をうる医学って、私どもは社会から信頼をうる医学って、私どもは社会から信頼をうる医学って、私どもは社会から信頼をうる医学医療を確立できるのではないか。脳死と医療を確立できるのではないか。脳死とに対する信頼の低さがあるといわれることを考えると、医学医療はひたすら高度とを考えると、医学医療はひたすら高度とを考えると、医学医療はひたすら高度とを考えるはならぬのではないか。転換を考えねばならぬのではないか。転換かで考えねばならぬのではないか。 意味のものであった。

社会システムの転換即

内外から公然と浴びせられるようになっ 革能力が乏しく外圧に頼る日本」等々、 流で政治三流」「日本異質論」「自己変 ところ「経済大国で生活小国」「経済 本の政治・行政に対する厳しい批判が 日米構造協議などを契機として、この

は、この「経済」に乖離する「政治」「行 のように解釈するのが妥当だと思う。 政」の体質の古さの原因については、 社会の実態について観察を続けてきた私 ところで、地方自治を専門とし、 次

以来続いてきた水田稲作を基調とする伝 もっとも現在は、まだ都市型社会が完成 まったことを明確に認識する必要がある する都市型社会へと急激に変革させてし いの間に、 統的な農村型社会からわずか三十年ぐら が国の目ざましい高度経済成長が、有史 した段階にいたったとはいえない。 まず、最初に我々は、戦後における我 日本を世界でも最先端に位置

都市化の過程は、三段階に区分するこ

年の国勢調査によると、農林水産業(第 大幅な産業構造の変化である。昭和六十 次産業)の就労者と、都市型業種とい 第一段階は、「工業化」の進展に伴う

> の比率は一対九となっている。就業構造 のである では、すでに成熟した完全都市型社会な われる第二次産業、第三次産業就労者と

化時代、余暇時代等)が示している。 中流階級時代、価値多様化時代、国際 現象が顕著となってきた昭和四十年ごろ の特色を表現する多くの言葉(情報化社 から次々と出てきた、新しい社会や時代 広く各方面に浸透し、社会一般の都市化 の変化の様相は、高度経済成長の影響が に伴う社会状況の「都市化」である。そ 都市化の第二段階は、産業構造の変化 高齢化社会、高学歴社会、一億総

社会であったことを知りうるのである。 構造の変化(工業化)がもたらしたもの 従前の伝統的農村型社会が、現在の都市 である。これらの言葉によって、我々は 多角的に捉えたものであり、すべて産業 社会状況の特徴を各方面から多面的 型社会とはまさに対極に位置する異質な ところで、現在は都市化の第三段階、 これらの言葉は、すべて都市型社会の

ムである)に、変革すべき段階なのであ ステム」(その基本理念は「民主化」で た現在の完全都市型社会に適合する、 同体単位の社会システム)を、ヒト、 にとっては小宇宙となる閉鎖性の強い共 活の単位である村落共同体が、その住民 するものに再構築すべき段階なのである。 あり、民主主義を前提とする社会システ 人を単位とする開放的な「市民社会型シ した「ムラ型社会システム」(生産と生 伝統的な農村型社会を基盤として派生 カネの移動性が国際的にまで拡大し

農村型社会の閉鎖的な集団主義からなか ため、人々の意識や生活態度が、伝統的 があまりにも速かったことにある。その 問題は、日本の高度経済成長のテンポ

新しく出現した都市型社会の状況に適合

政治、行政などの機能やあり方)を、

社会システム(家族、地域社会、

つまり最終段階に位置している。すなわ

松阪大学教授

個 モ とともに、我々が新しい社会システムを 会システムが未完成という混乱期である 新しい都市型社会を前提とする市民型社 きた社会基盤が崩壊しつつある一方で、 する政治・行政システム)のミスマッチ する社会システム(特に公共問題を処理 なか脱却することができず、社会状況の で起こり、 「都市化」と「ムラ型」要素が強く残存 市民社会型派)のせめぎ合いが各方面 現在は、伝統的社会システムを支えて

1991.5 No.42

(一九九七没

ほど必要な時はないと私は考えている。 各方面における活発な論議の展開が、今

つくる役割を担っている創造期でもある。

伝統派(ムラ型派)と改革派

混乱現象を招いている。

核軍縮と日本の役割

ある出版社から、軍縮と軍備管理のこある出版社から、軍縮と軍備管理のこれからについて本を出さないかとのお薦ならば、書いている時点からそれが店頭ならば、書いている時点からそれが店頭ならば、書いている時点から、「何がわからないか」を論じているだけでさまになるが、月刊誌では既にその時間のギャッるが、月刊誌では既にその時間のギャッるが、月刊誌では既にその時間のギャッるが、月刊誌では既にその時間のギャッとないか」を論と取っているかもしれない。

マル連邦の崩壊に伴う核兵器の行方、イソ連邦の間で従来の米ソ核軍縮交渉を引き継ぐのかどうか、ロシアは軍事力の把握継ぐのかどうか、ロシアは軍事力の把握という点でかつてのソ連のような超大国として交渉にのぞむのかなどわからないとして交渉にのぞむのかなどわからないとして交渉にのぞむのかなどわからないとして交渉にのぞむのかなどわからないとして交渉にのぞむのかなどのかなどのの表が表が、核弾頭廃棄とその検証な核兵器の現状、核弾頭廃棄とその検証なな兵器の現状、核弾頭廃棄とその検証ない。 でについての具体的な情報が、アメリカのチャネルを通して徐々に明らかにされている。

通しに関する原稿を書いている最中に八った。私自身去年の夏に核軍備管理の見べ、あとで鼎の軽重を問われる羽目になべ、あとで鼎の軽重を問われる羽目になけ、あとで鼎の軽重を問われる羽目にない。私自身去年の最上に から湾岸戦争にかけかつて湾岸危機から湾岸戦争にかけ

月十九日のクーデターが起こり、大変に困惑した経験がある。あの時点で、ソ連困惑した経験がある。あの時点で、ソ連が保守派支配に戻るのか、大陸間弾道ミサイ立場はどうなるのか、大陸間弾道ミサイ立場はどうなるのか、大陸間弾道ミサイが保守派支配するのかわからなかった。

が消滅するとは想像もできなかった。二万七千発の核の支配がどうなるかは今の万七千発の核の支配が残る。「統一戦略軍」が今後の独立国家共同体(CIS)に対が今後の独立国家共同体(CIS)に対がっていない。とにかく核兵器廃棄に国際援助をというだけで、これでは核の対立の時代の終りという以外、誰にも何も言えないことになる。

それでは、「何もわかりません」で、今や世界の大国に名をつらねる日本が国際や世界の大国に名をつらねる日本が国際になられるかというと、そうはいかない。国連で安全保障理事会の常任理事国になれるのは大分先だろうが、この二年間安れるのは大分先だろうが、この二年間安れるのは大分野への進出が著しいG7サミットの有力な一員でもある。そうでなくともソ連援助の支出、中東安定への支出ともソ連援助の支出、中東安定への支出ともソ連援助の支出、中東安定への支出

今井隆吉

授·世界平和研究所理事·首席研究員(財)世界平和研究所首席研究員/現杏林大学教

に日本が主要な役を演じると世界中が期待している。政界浄化等お家の事情だけた明け暮れしているわけにはいかない。東西の核対立という戦後五十年を動かしてきた軸が崩れようとしている今、政策のきた軸が崩れようとしている今、政策のである。

核兵器と東西対立という軸が解消しつあるとしたら、誰かがその後始末に当たらねばならない。核兵器そのもの、核兵器能力が第三世界に拡散しないように、例えばソ連の核解体にソ連自身の核に、例えばソ連の核解体にソ連自身の核の大変を表している。

グローバルな環境保護についての南北の技術格差の拡大につながる。同じことはだろう。先端兵器技術の拡散防止が南北だろう。先端兵器技術の拡散防止が南北が高北の対立が改めて表面化する

利害対立にも見られる。 そのような全ての基盤となる核軍縮の そのような全ての基盤となる核軍縮の 大のような全ての基盤となる核軍縮の に任せておいてよいとは思えない。これ に任せておいてよいとは思えない。これ に任せておいてよいとは思えない。これ に任せておいてよいとは思えない。 には大変な費用がかかるし、失業を始 るには大変な費用がかかるし、失業を始 るには大変な費用がかかるし、 り、それだけに抵抗も大きいだろう。

二十一世紀へ向かっての「拡散

の形成等と言われ、種々の拡散が提案さ 頃は、一極集中排除、多極分散型国土 外への移転決定、新たな首都建設まで公 東京への集中排除は、政府関係機関の区 に論議されるにいたっている。 地方の時代と言われ出して久しい。近 少しずつ実施され出している。特に

諸機能の分散した姿こそ望ましい。 速くしつつある。二十一世紀の日本は、 ユニケーションの機能をより近く、より ス等の通信手段の高速、多様化は、コミ 大である。加えて電話、放送、ファック 国土は狭い、人口は稠密である。 新幹線網、高速道路網等の展開も 航空

が、先端研究開発の推進に乗り出してい 成を行い、昨今では、ほとんど全ての県 れぞれの特色を持った研究開発地区の形 北海道、兵庫、千葉等々の道府県が、そ づきつつある。その後は、神奈川、大阪 究開発地区が企画され、着々と概成に近 もよく知られる研究開発地区となった。 都外に集中移転し、施設の更新、環境の 十数年前、京阪奈丘陵に第二の集積研 三十数年前、国立研究機関・大学を 筑波研究学園都市として、世界的に 機能の集積を狙った企画は

> 入れている。 営を手掛け、科学技術の普及啓発に力を 自治体が、科学館、博物館等の建設、運 また一方、つくば万博の頃から、地方

らない時代が到来したということであろ を基盤とするものにしていかなければな 性化の方策の上で、高い文化、 地場産業振興といったこれまでの地方活 景は、工場誘致、学校設立、観光誘客、 このような自治体の積極的な活動の背 高い知識

が資金を分担してきた科学技術振興を、 めたということである。 地方自治体もみずから、積極的に行い始 これらを見ると、従来、主として政府

けを行った。 のとし、これをますます発展させること 立つとともに、次世代の科学技術人材の 振興活動は、多極分散型の国土形成に役 世紀に向けてとるべき科学技術の総合的 は、今後の重要な施策であるとの位置づ 育成の面でも大きな役割を果たし得るも のような地域における積極的な科学技術 方策」を取りまとめたが、その中で、こ 本年一月、科学技術会議は、「二十一

院等が、地域の科学技術振興に一段と力 これを受けて、科学技術庁、 工業技術

| 科学技術会議議員/現宇宙開発事業団顧問

捐金により六月設立)を活動させること の寄与を進めつつある。 まとめ(六月)、地域の科学技術振興へ 域技術政策の新展開」と題する報告書を としている。また、工業技術院は、「地 庫、岐阜、富山、神奈川の各県よりの出 「全日本地域研究交流協会」(福岡、兵 め、支援を行っていくため、 科学技術庁は、地方自治体との連繋を強 を入れるべく施策の展開を図りつつある。 財団法人

ソフト面の強化策などが進められつつあ 連繋が必要であり、このための方策やら 相互利用、相互啓発の面から、全国的な 小規模な科学館等の活動についても、

が極めて顕著であることが、世論調査、 ところで、最近、若者の科学技術離れ

認識したい

とは、非常に大きな意義があろう。 うな機会を大きくすることに、地域の先 等)が大事である。身近な所で、このよ 躍する形しか二十一世紀の日本の健全な がますます高まり、それが充足され、 端研究開発、普及啓発活動が寄与するこ 年期へかけての刺激(夢、理想、 われるところであるが、幼少期から青少 者の優遇を始めとして、種々の措置が言 分野に誘引することには、研究者、 て由々しきことである。若者を科学技術 姿はないと考えるものにとっては、極め ている。研究者を含め科学技術者の需要 大学理工系への進学状況等から指摘され 活

紀に向かっての拡散は、意味ある歩程と 科学技術振興にとって、この二十

風(ふう)」の復活

壁の崩壊に直面し、テレビの画面に釘付 徴のように思え、印象的だった。 をかけているベルギーのブリュッセルにあ 見えた。ECの成立にひときわ強い期待 各国とも年明けに予定される市場統合へ 率のもと、デモやストが頻発する中で る一年毎の表情の変化に接して、その度 時期に訪欧する機会を得たので、垣間見 けになって以来、毎年短時日ながら同じ 旅行していて、ミュンヘンでベルリンの が目立った。三年前、たまたまドイツを 無人の館と化していたのがその苦悩の象 ベストを使っているのが判明したとかで、 の生みの苦しみに、もだえているように に考えさせられたり、興奮したりしてい る壮大なEC本部の建物が、 て実感させられるからだ。今年は高失業 国際環境の動きの速さを、あらため 年ぶりで訪れたヨーロッパは不景気 素材にアス

欧から流入してくる同胞たちのために、 いいら流入してくる同胞たちのために、 といいら流入ると逆にヨーロッパの市民 も、地方に入ると逆にヨーロッパの市民 を要因のように思えるのは、さすがである。 である。 でがである。 でがである。 でがである。 に西ドイツの自治体は、東ドイツや東 といいのである。

> 動に税金を割くのは、団が赤字だからで だろうと心配したら、「われわれがその活 いる。 と木組みの家並みの補修を続け、ドイツ の比率をはるかに超える流入者をこなす することを義務づけられたという。東ド らだ」と胸を張られた。 はない。われわれがそれを必要とするか 口七万余りの都市でその維持費用は大変 都市には国際的にも有名な交響楽団があ 止による生活の不便を忍んでいる。この 負担に耐えながら、旧市街に残る赤屋根 イツとの国境に近かったこの都市は、そ 人口千人につき九人の居住の場所を提供 一とも言われる美しい町の格調を保って 日本にも来演したことがあるが、人 もちろん市民は、車の乗り入れ禁

へッセン州の大学都市マーブルク市でも、町並み保存運動が起こり、計一億マルクの予算をかけて、わざわざ生活に不便なまちを造っている。このような理念で市民自治のまちづくりを行っている都市は、ドイツばかりではない。ベルギーの古都ブルージュは、かつて詩人が「風の古都ブルージュは、かつて詩人が「風の古都ブルージュは、かつて詩人が「風の古都ブルージュは、かつて詩人が「風の古都ブルージュは、かつて詩人が「風の古都ブルージュは、かつて詩人が「風の古都ブルージュは、かつと記している。

ッパ経済学部というユニークな学部があバンベルク市の古い大学には、ヨーロ

阿部統

麗澤大学教授・東京工業大学名誉教授

は、そこの経営学教授エンゲルハルトはは、最近まで市議会でも副議長をつとめられたとかで、まちづくりにおける文化(Kultur)の役割の重要性について、しきりに強調した。が、話しているで、しきりに強調した。が、話しているで、しきりに強調した。が、話しているに「文化」という概念以上に幅ひろい意に「文化」という概念以上に幅ひろい意に「文化」という概念以上に幅ひろい意に「文化」という概念以上に幅ひろい意に「文化」という概念以上に幅ひろい意に「文化」という概念以上に幅ひろい意に「文化」という概念以上に幅ひろい意に「文化」という概念以上に幅ひろい意が、着してまた。

そう言えば、日本語には、風格、風合、風土、風景など、きわめて味わいの合、風土、風景など、きわめて味わいの合、風土、風景など、きわめて味わいの音、風土、風景など、きわめて味わいの度語のニュアンスは、なかなか外国語には写しにくいと考えていたが、クルトゥールという単語にその語感を添えて理解すると、博士の話はすこぶる含蓄に富むものであった。味はあっても風景の乏しい開食物や、景色があっても風景の乏しい開発のあり方がはびこる現在、われわれもそのあり方がはびこる現在、われわれも、風」の見直しや復活にもっと意を用いるべきではないかと、反省させられた。

とにあると言うのである。

39

利用チャンネルによる

問題になることはなかった。
やの環境問題は、われわれが豊かな生
かの環境問題は、われわれが豊かな生

暖化である。 暖化である。 での問題は解決がつく見通しが得られた この問題は解決がつく見通しが得られた

昨年六月の国連環境開発会議は、地昨年六月の国連環境開発会議は、地球温暖化防止条約を成立させることで各球温暖化防止条約を成立させることで各成が、その実効は疑問である。温暖化をだが、その実効は疑問である。温暖化をがあるからだ。わが国についていえば、火があるからだ。わが国についていえば、火があるからだ。わが国についていえば、火があるからだ。わが国についていえば、火があるからだ。わが国についていえば、火があるからだ。わが国についているは、地で行の二酸化炭素は減らせない。

火力発電は電力の約六割を生産してい火力発電は電力の約六割を生産している。自動車は日本最大の産業だ。全廃すれば失業者は街にあふれ、大不況になる。

んどん悪くなれば環境対策上はいいのだ先進国の人口が半減するか、景気がど

ろうが、認められるわけがない。不況といわれた平成四年度でも、前年度よりエバブル景気の頃より多かったのである。バブル景気の頃より多かったのである。温暖化を防止できるほどエネルギー消費を減らしたら、耐え難い不景気が来るだろう。

洋服や下着はみんなかなりの数を持っている。一年間買わずに我慢することはている。一年間買わずに我慢することはている。一年間買わずに我慢することはできそうだ。みんながそれを実行したら、今済品店もデパートもメーカーも倒産だろう。ほかの産業でも同じことがいえる。省エネとかリサイクルとか盛んに言われるが、本気でみんなが実行したら、今の社会は維持できなくなる。

だからといって、今の大量生産、大量 消費の二十世紀型技術文明を放置して 消費の二十世紀型技術文明を放置して おいてよいわけはない。東京や大阪周辺 だけでなく、地方の主要都市でも、ゴミ を焼いても灰の捨て場がなくなりつつあ る。物が豊かにならなければ生活がよく ならないというこれまでの考え方、アメ リカ式のライフスタイルを考え直すべき 時期にきている。このまま二十一世紀に 突入したら地球はパンクする。

仮に先進国が足踏みをしてみても、途

中村政雄

読売新聞論説委員/現電力中央研究所研究顧問

足りないし、環境にも限度がある。追求していると、いくら資源があっても質的な豊かさを地球上の人間がみんなで質的な豊かさを追ってくるからである。物上国があとを追ってくるからである。物

が可能かもしれない。

企業は売り上げがゼロ成長でも一応利企業は売り上げがゼロ成長でなくてもなんとかなる、失業者も出さなくてすむという工夫をしていかなければならない。二十一世紀が到来するまでに、困難ではあっても、二十世紀型技術文明に決別し、新しい文明社会を創り出す必要に迫られている。

い人間の活動は無限にある。 教育、 芸大量の資源消費や環境の悪化を伴わな

術、音楽、宗教、基礎科学研究、

競技、社会的交流などがそうだ。

生かし、独創的商品を作ろう。とかし、独創的商品を作ろう。とかし、独創的商品を作ろう。

持っていた。 おいの人が考えつかないすぐれた商品ほかの人が考えつかないすぐれた商品

大地を母とする考え

明が生い立ってきた原初には、大地を母 の恵みを生み出してくれる泉であった。 捕って生きてきたころから、 生み出す源泉と観念された。人間が山野 立った当初から、大地はあらゆるものを 信仰があったようである。人間が大地に とし、それを一個の女神として崇拝する れが万物を生み養う偉大な母と観念され 大地は無限の産出力であり、 の女性像によって象徴されたのである。 と大地の産出力が結合され、大地が多産 たのも不思議ではない。母性の出産能力 無尽蔵な生命体であった。とすれば、こ 命とその豊穣の源泉であり、それ自身が に野獣や木の実を求め、川や海に魚介を かつて、どの文明においても、その文 古代ギリシアでも、大地は女神ガイア 大地は諸々 あらゆる生

一生を終えて大地にかえる。大地は、あらゆる生命がそこへとかえり死していくらゆる生命がそこへとかえり死していく療でもあった。かくて、あらゆる生命の源泉と考えられた大地は、また、あらゆる生命がそこへとかえっていく死の場所とも考えられた。人間も動物も植物も、とも考えられた。人間も動物も植物も、た地から生まれ大地にかえっていく。そのため、古の人々は、生きとし生けるものが帰って休らう死の国が地底にあると想像し、そこに母なる大地の神が住んでいると考えた。

古代ギリシアの豊穣女神デメテルが、古代ギリシアの豊穣女神デメテルが、水を探すという話や、そのペルセポネが、水を探すという神話は、無尽蔵な産出力をになるという神話は、無尽蔵な産出力をになるという神話は、無尽蔵な産出力をおみ込んでしまう力をも持っているという神話は、無尽蔵な産出力をおみ込んでしまう力をも持っているという神話は、無尽蔵な産業徴しているのであろう。

として崇拝され、

万物の生成の原理カオ

しかし、命あるものが大地から生まれ大地にかえるという生から死への方向は、大地にかえるという生から死への方向は、死から生、つまり大地にかえったものが死人も発展していく。冬が来て大地のも想へも発展していった草も、春になれば芽をとに萎えていった草も、春になれば芽をとに萎えていった草も、春になれば芽を吹き花をつける。大地は、生きものが死めら生まれ

葉を落とし、穀物も収穫され、野山の獣

だが、冬になれば草花は枯れ、木々は

や鳥たちもねぐらに籠り、虫たちは短い

穀物の豊穣を約束する女神であった。メテルは大地の生産力の守護神であり、メテルは大地の生産力の守護神であり、テルは大地の生産力の守護神であり、テルは大地の生産力の守護神であり、アカルの生まれた最初の神とみられ、万物スから生まれた最初の神とみられ、万物スから生まれた最初の神とみられ、万物

小林道憲

福井大学教授

母胎であった。大地は死と再生、破壊と母胎であった。大地は死と再生、破壊と自造を繰り返し、永遠の生命を維持する偉大な原動力と考えられていたのである。古代ギリシアのエレウシスの祭儀は、古代ギリシアのエレウシスの祭儀は、大な原動力とを記念するものであった。小戻したことを記念するものであった。小戻したことを記念するものであった。小房したことを記念するものであった。小房の死と再生が、ペルセポネの冥界への物の死と再生が、ペルセポネの冥界への物の死と再生が、ペルセポネの冥界への物の死と再生が、ペルセポネの冥界への物の死と再生が、ペルセポネの冥界への物の死と再生が、ペルセポネの冥界への

大地から生まれ出たものは大地にかえり、これを繰り返す。大地のもとでは、り、これを繰り返す。大地のもとでは、った。大地の生命力は大地から出て、すった。大地の生きものを通って大地にかえり、べての生きものを通って大地にかえり、これが永遠に繰り返される。この生命のこれが永遠に繰り返される。この生命のこれが永遠に繰り返される。この生命のであった。大地女神の神話が語る生成・豊存・死・再生の物語は、生命そのものの種・死・再生の物語は、生命そのものの種、死・再生の物語は、生命そのものの意を表現している。

ところが現代では、人間だけがこの生

命の循環からはみ出し、人間によって生命の循環からはみ出し、人間によって生命の円環が断ち切られている。 大地は、 人間の傲慢な欲望によって収奪され、野 息場所が奪われ、森林は伐採されて獣や 息場所が奪われ、森林は伐採されて獣や 息場所が奪われ、森林は伐採されて獣や 地、植物、動物、人間の生命の絆は希薄 で、生命の連鎖が分断されている。人間 で、生命の連鎖が分断されている。人間 の欲望の手があらゆるところに及んで、 かつてあった再生と循環の体系が破壊されてしまったのである。そのため、さま なってもったのである。そのため、さま なってもったのである。そのため、さま なってもったのである。そのため、さま れてしまったのである。そのため、さま れてしまったの敬慕の念は、希薄になってし まった。

大地を収奪して、あらゆる物質を大量とない。

残ることはないであろう」と。 人間が母を殺す罪を犯すなら、以後生きトインビーも言う。「母なる大地の子

MOT (マネジメント・オブ・テクノロジー)

教育のすすめ

まず企業レベルでは、伝統的なR&D を体に対してもつ技術の重要性が増大 とが、企業や経済の発展の鍵を握るよう になっている。こういう問題を取り扱う になっている。こういう問題を取り扱う になっている。こういう問題を取り扱う

との政策調整などが求められ、従来よりとの政策調整などが求められ、従来よりとの政策と連動しとどまらず、国全体の経済政策と連動しとどまらず、国全体の経済政策と連動しとどまらず、国全体の経済政策と連動しとの連携や調整の必要性が問題となってとの連携や調整の必要性が問題となって、各国では、国際化時代にあって、各国との政策調整などが求められ、従来よりとの政策調整などが求められ、従来よりとの政策調整などが求められ、従来よりとの政策調整などが求められ、従来より

が必要となっている

術政策との関連を考慮した総合的な運営域・産業・政府との調和や貢献、科学技

企業の枠を越え、国内国外は問わず、地際的展開が不可欠となっている。また、営、さらに外部組織との戦略的提携や国営、さらに外部組織との戦略的提携や国助について、経営戦略と連動した方向づ

ている。

きわめて重要な課題になっている。
を気に我が国の場合、国際経済の中でとくに我が国の場合、国際経済の中でとくに我が国の対果的、効率的な推進は、
ない、R&Dの効果的、効率的な推進は、
ない、のが、対域が国の場合、国際経済の中でとくに我が国の場合、国際経済の中でとくに我が国の場合、国際経済の中でとくに我が国の場合、国際経済の中でとくに我が国の場合、国際経済の中でとくに我が国の場合、国際経済の中でとくに我が国の場合、国際経済の中でといる。

以上を調査・研究・教育のテーマとしてみると、以下の通りである。①企業レベルのミクロ・レベルでのR&Dマネジメント。②生産、販売、財務、人事等すべての企業戦略の一環としてのテクノロジー・マネジメント。③企業と国(地方政府も含む)とに関連するパブリック・ ポリシーの一環としてのテクノロジー・ポリシー。④テクノ・グローバリズムという言葉で表される企業の世界的視野でのR&D活動の展開と各国のテクノロジー・ポリシーとの調和。

誌の発行、年次大会やシンポジウムの開れの発行、年次大会やシンポジウムの開発が政策等の各分野での分科会活動、学会の政策価、人材育成、国際協力、科学技の政策の各分野での分科会活動、学会にない。現在、個人会員五百五十名、法とは、人材育成、国際協力、科学技術政策等の各分野での分科会活動、学会として、このような問題に関する学会として、このような問題に関する学会として、このような問題に関する学会として、このような問題に関する学会として、このような問題に関する学会として、

状である。

関係があるといわれている。

現在、こういう問題について、企業や官庁で非常に多くの人が取り組みつつあるが、そのための人材育成は、日常の業るが、そのための人材育成は、日常の業のに全面的に依存しており、一部、民間で全面的に依存しており、一部、民間ではる短期セミナーなどで細々とした教育が行われているに過ぎない。

象にしていたのに対し、近年、

R&D活

ロジェクトの効率的な運営をもっぱら対

マネジメントが、R&D部門や個々のプ

米国の場合、MOT(マネジメント・オブ・テクノロジー) 育成という形で、オブ・テクノロジー) 育成という形で、この分野の研究や教育が各大学でビジネス・スクールを中心に、大学の総合的機ス・スクールを中心に、大学の総合的機ス・アドミニストレーション) ブームがス・アドミニストレーション) ブームがス・アドミニストレーション) ブームがな・アドミニストレーション) ブームがな・アドミニストレーション) ブームがなる様々な問題に対応する能力を身につぐる様々な問題に対応する能力を身につぐる様々な問題に対応する能力を身についる。

製造業の復活も、MOTの活動と密接な最近の乗用車工業をはじめとする米国の

協会副会長·早稲田大学理工総研教授

(株)パスコ専務取締役/現(財)海外技術者研修

OTの大学院設立がぜひ必要である。 報交流センター』の三つの機能をもつM ター』およびこの分野で国際的な組織 場合との比較検討も行い、我が国として な能力を付加する教育を行う『教育セン 実務体験をもつ人を官民より集め、 拠点としての『研究センター』、相当の のテクノロジー・マネジメントやポリシ 例研究やデータ収集を積み重ね、欧米の は、我が国にも、R&Dに関し各種の事 上がどうしても必要である。そのために 世界の経済発展にも貢献していくために 今後、技術で我が国経済を支え、同時に 人材・情報をつなぐノードとしての 分な成果を得るためのR&Dの生産性向 は、限られたR&Dの資金・人材で、充 でR&D予算を増やせる状況にはなく、 クに減少に転じ、政府も税収の落ち込み ていた産業界の研究費が九一年度をピー 体のR&D投資の八○%以上を支出し の学問的体系を作り上げる調査・研究 バブル崩壊を背景に、今まで我が国

失われつつある文化財

山田圭一

筑波大学教授/現筑波大学名誉教授

第二次大戦後間もなく、米軍用のエクタクロームの横流しを使いはじめた頃か好に達している。しかしその中には僅かにマゼンタ(赤)一色しか残っていないにマゼンタ(赤)一色しか残っていないたを棄せざるを得なくなったものもずいぶんたくさんある。

この問題への対策の一つは、若干色彩を名な作家の代表的な写真が、全く使いものにならない程ひどく退色してしまっものにならない程ひどく退色してしまっまのような事情は、プロのカメラマンこのような事情は、プロのカメラマン

この問題への対策の一つは、若干色彩 この問題への対策の一つは、若干色彩 百年プリントにしておくとか、一般のカラーフィルムと現像の方式が違っている フームのような外型のカラーフィルムを 中 つんのような外型のカラーフィルムを 中 うことである。そして、もう一つは印 使うことである。そして、もう一つは印 付っことである。そして、もう一つは印 付っことである。そして、もう一つは印 付っことである。そして、もう一つは印 付っことがある。そして、もう一つは印 でおいたお蔭で、八冊ほどの写真集をのておいたお蔭で、八冊ほどの写真集をのておいたお蔭で、八冊ほどの写真集をのておいたお蔭で、八冊ほどの写真集をのておいたお蔭で、八冊ほどの写真集をのておいたお蔭で、八冊ほどの写真集をのておいたお蔭で、八冊ほどの写真集をのておいたお蔭で、八冊ほどの写真集をのておいたができた。

い水性の色素を使ったフエルトペンなどするということをほとんど考慮していなまた、墨やインクに比べて、永く記録

の筆記用具が氾濫している。それらの新の筆記用具が氾濫している。それらの新がよるかに頼りになる筈で、私の山岳航空写真のプリントがトリノの国立山岳博物館(イタリー)に永年保存してもらえることになった折に永年保存してもらえることになった折にも、プリントの裏に鉛筆でサインしてにも、プリントの裏に鉛筆でサインしておくように求められた。

また、新しい技術を代表するエレクトロニクスの世界でも、カセットテープや中ニクスの世界でも、カセットテープや様実に保証できるのはたかだか十年か二録方式をとって大量に蓄積されつづけているコンピュータの磁気テープなどについるコンピュータの磁気テープなどについるコンピュータの磁気テープなどについるコンピュータの磁気テープなどについるコンピューザーが圧倒的に多いのが現けである。

な文献を収蔵している各地の図書館は、 な文献を収蔵しているれるわけではない。 ひいても安心していられるわけではない。 とりわけ、戦後の混乱期に使われていたセンカ紙や亜硫酸パルプ紙などに印刷された書籍は、既に手にとることができなれた書籍は、既に手にとることができなれた書籍は、既に手にとることができなれた書籍は、既に手にとることができない。

は一層深刻である。
ている新聞や雑誌などの場合には、事態かも、書籍以上に質の良くない紙を使ったの問題に頭を悩ましつづけている。し

もちろんこのようなメディアの保存のための対策も、いろいろと試みられているが、オートクレープ(高温高圧装置)の中で酸性紙を中和するなどという方法では、手間とコストがかかりすぎてとても膨大な量の書籍を処理するわけにゆきそうにない。

そして、皮肉なことにカラーフィルムの普及によって、忘れ去られてしまった仕方によってはかなり長い寿命を保つことができて、百年も前に撮影された乾板とができて、百年も前に撮影された乾板とができば明な画像を残しつづけている。どって、コストさえかまわなければ、マイクロフィルムやマイクロフィッシュなどイクロフィルムやマイクロフィッシュなどイクロフィルムやマイクロフィッシュなど

るようになると思われるが、これにしてロニクスなどに頼る方法などが注目されいずれにしても、近い将来光エレクト

どこのスポンサーも未来に向けての明る 研究プロジェクトを考えたりしてきたが にとっての最後のライフワークになって は、三十年間撮りつづけてきた貴重なフ るほどのひどさである。幸い私の手許に 聖像の目鼻だちさえわからなくなってい 急激に進んでいて、既に一部の地域では 最近大気汚染や酸性雨などによる破損が キリスト教文化の精髄ともいうべきゴシ 史の激動の中を生き残ってきた、西欧的 保存するという仕事である。千年近い歴 ったため、とうとう匙を投げてしまった。 いテーマにしか関心を示してはくれなか イルムがたくさん残っているので、それ ックの大聖堂という文化遺産についても、 らを本にしておくことが、筑波時代の私 は、中世ヨーロッパの大聖堂の記録を そして、現在個人的に取り組んでいる 数年来この問題について、

信頼度と信用度

関根泰次

東京理科大学教授・東京大学名誉教授

御苦心があった。 場合や、六十ヘルツ地域から五十ヘルツ が、ここに至るまでには多くの先人達の われている。将来この技術をもっと有効 送る場合などにこの直流送電の技術が使 地域に、あるいはその逆の方向に電気を あって、北海道と本州の間に電力を流す の二つの交流周波数を使っていることも いる日本では、五十ヘルツ、六十ヘルツ になる場合がある。四つの島から成って 地中ケーブルで電気を送らなければなら が、電気を送る距離が数百キロメートル 多くも交流で、この交流技術が現在の電 れる電気である。発電機でおこす電気も は六十ヘルツの周波数をもつ交流とよば 常使っている電気は、五十ヘルツあるい に活用するための研究も進められている ない時などは、交流より直流の方が有利 あるいは千キロメートル以上になったり、 気文明を支えているといってよいと思う 交流であるし、家庭や工場で使う電気の よばれる技術がある。 の重要な技術のひとつとして直流送電と 筆者の専門とする電力システムの分野 現在われわれが日

技術的には当初、現在広く使われてい

金半導体がなくて、水銀整流器 (今では 全くこの地球から姿を消してしまった) 全くこの地球から姿を消してしまった) に特有の現象のためよく事故をおこし、 に特有の現象のためよく事故をおこし、 に特有の現象のためよく事故をおこし、 でのため直流送電の信頼度がどうしても 低くなるという欠点があった。時間がた つにつれてこの欠点も改善されたが、交 つにつれてこの欠点も改善されたが、交 流にくらべて直流は事故が多いものとい う認識が定着する一方、直流送電技術を 推進する立場の人からは、まずその利点 だけが強調されたこともあって、一部に は直流送電技術そのものに対する不信と もいえる気分が広まった事があった。そ もいえる気分が広まった事があった。そ

声がいまだに耳朶に残っている。でなく信用度だよ」といわれた大先輩の

この言葉を思い出すにつけても最近考 えさせられるのは原子力と超電導である。 えさせられるのは原子力と超電導である。 原子力は日本の将来を思う時、どうして 原子力は日本の解決策と筆者は考えてい 決し得る唯一の解決策と筆者は考えてい るが、一方では、日本のみならず世界的 に原子力に対する社会の反発が極めて強 いことも事実である。

そんな中でいつも感心させられるのは

原子力しかないと考えたこと。この考え 時、一番懸念したのはエネルギー問題で、 知人に聞いたことがある。彼がいうには という事態の中でまさに「電力は原子力 ヨーロッパの統合、東ヨーロッパの復興 だけでなく、近隣諸国にも輸出している。 の七十パーセント以上もまかなっている にEdFを支持している背景には、 主義的性格のつよいフランス人が全面的 イーブすぎるかもしれないが、あの個人 た。この言葉を文字通りうけとるのはナ 実績で社会からの大きな尊敬を得ていた ンス電力公社(EdF)が、それまでの にも増して、原子力開発にあたったフラ にするものがあった事などあるが、それ 自治体に原子力発電所の受け入れを容易 済的に苦境にあったフランス全土の地方 が当時のフランス国民に支持されたこと、 エネルギーの独立なしに国家の独立はな 「ドゴールがアルジェリア独立を承認した 不思議に思って、その理由をフランスの 困難はあるにしても何故フランスだけが、 国内でも勿論原子力開発にはそれなりの なり」「電力は国家なり」というエネルギ フランスである。自国の電気エネルギー ことが大きな力となった」との事であっ このように独り断トツの状態にあるのか これを達成するための諸施策が、当時経 を超えた力をもちつつある。 フランス エネルギーの独立を達せられるのは

という認識があることも事実であろう。り「EdFのすることなら間違いない」

うことである。それらの人は、 発にあたり、 た人は何をしているのであろうか。 らの本を書いた人や講演会で話をしてい 専門家が各地で講演会を開いた。今それ がうず高く積まれ、にわか(?)超電導 店頭には何種類にも及ぶ超電導関係の本 導支援国会議員団体ができたり、 兆円ともいわれた市場の大きさに、超電 むずする位である。将来十兆円とも二十 る。一九八六年の高温超電導発見の頃 の超電導技術に対する社会の見方であ の世界から足を洗って別の方面で活躍し る人々は、 いなくいえることは、今超電導技術の開 ても)思い返しても背中のどこかがむず 本だけでなく世界的な現象であったとし ひるがえって考えさせられるのは最近 国をあげてのフィーバーぶりは そのような人々ではないとい 真剣にその将来を憂えてい とうにこ 本屋の 間違 ① 日

その本質的なむつかしさは一向に変わったが、高温超電導が発見された後でも、ったが、高温超電導が発見された後でも、のたが、高温超電導が発見された後でも、との技術を電力システムに活用する研究にたずさわる機会があって、この技術

でも、 ていない。にもかかわらず世の中の流れ なっているような気がしてならない ぎぶりが却って世の中の人の、この技術 超電導技術の真の実態からはずれた)騒 たという点でそれなりに貢献はしたもの まく環境をみていると、一時のフィーバ と思う。 はかかることを覚悟しなければならない それには十年はおろか、二十年、三十年 する二十一世紀の技術と考えているが、 時のブームが全く冷えきってしまった今 う間に突っ走ってしまった。筆者は、一 というのは恐しいもので、そんな考えは に対する信用を失わせる原因のひとつに の、あの度を過ぎた(といって悪ければ ーは超電導技術に人々の関心をむけさせ 全く見向きもされず、あれよあれよとい 超電導技術は真剣な研究開発に値 現在の超電導の研究開発をとり

本当に理解できるのはひとにぎりの専門本当に理解できるのはひとにぎりの専門本当に理解できるのはひとにぎりの専門にたずさわる人が社会からどのような信にたずさわる人が社会からどのような信にたずさわる人が社会からどのような信用を得ているかにかかわっている。技術の信頼性を高めることが重要であることを痛信用を高めることが重要であることを痛信用を高めることが重要であることを痛信用を高めることが重要であることを痛

ている。

高齢社会はチャ・チャ・チャ

しまっている。 しまっていた。 しまっていた。 しまっていた。 しまっていた。 しまっていた。 しまっていた。 しまっていた。 しまっていた。 しまっていた。 しまったり といるのと、 国がつぶ に関して不安と強迫観念にとりつかれて しまっている。 しまっている。 しまっていた。 しまっせいた。 しまっていた。 しまったいた。 しまったいた。 しまったいた。 しまったいた。 しまったいた。 しないた。 しないな。 しないな。 しないなな。 しないなな。

高齢社会こそ、人々が望み、そのため高齢社会こそ、人々が望み、そのために努力し、努力が報われた結果の所産でに努力し、努力が報われた結果の所産である。高齢社会を疎ましく思ったりしたら、短い一生に大勢の子を持ち、そのうち、短い一生に大勢の子を持ち、そのうち確実に何人かを幼いうちに失った昔の母親に申しわけない。今も昔も、出産まで大きな腹をかかえて過ごす期間も出産の苦しみも、基本的に変わっていないのだ。産みの苦しみを経て生まれた生命のだ。産みの苦しみを経て生まれた生命のだ。産みの苦しみを経て生まれた生命のだ。産みの苦しみを経て生まれた生命のだ。産みの苦しみを経て生まれた生命の方ち、一九二〇(大正九)年生まれは、中間に百人中十五人が亡くなった。最近はそれが〇・四人、喜ばしい世界最低をマークしている。これが良い社会でなくて何だろう。

なる貧困と戦争という壁を克復し、平和今申し述べたとおり、多産多死の原因と星が輝く五つ星社会である。第一の星は、とがっていた、五つの壁が崩れ、美しいさがっていた、五つの壁が崩れ、美しい

と豊かさを示す星である。それをミクロな個人の立場に移してみると、人生五十年という平均寿命の壁が崩れ、人生八十年、九十年と、ほとんど崩れ、人生八十年、九十年と、ほとんどが天寿を全うできる社会である。それは、旧来の常識的な生き方に加え、さらに自分の個性を生かし、社会に参加できる機会が増えたということだ。それぞきる機会が増えたということだ。それぞきる機会が増えたということだ。それぞきる機会が増えたということだ。

三つ目の星は、障害者と健常者の壁が
になっていりが不自由になろうと、最後まで社
なあずづくり家づくりは、近年ようやく
れる街づくり家づくりは、近年ようやく
記識が深まってきた。
心身の不自由を
「不運な一部の人の問題」としてきた認
識と比べると、まことにおとなの良識と
相像力のある社会である。

四つ目は男女平等という名の双子星合う。おたがいに年を重ねれば、性差を土台にした「男は仕事、女は家庭」などという分業では人生の帳尻が合わなくなという分業では人生の帳尻が合わなくなという分業では人生の帳尻が合わなくなるのは明らかだ。伝統的な男女観は「人生五十年」を標準にして生まれた意識だったことに気がつく。

樋口恵子

評論

だから――。
たから――。
ないないとっても支え切れないのもども老いていく高齢社会は、家族だけとの連帯としてまたたいている。親子ととの連帯としてまたたいている。親子との連帯としてまたがいる。
までは介護の人々と老いを支え合う、他者

少し調子が良すぎるかな、と思いつつ、少し調子が良すぎるかな、と思いつつ、私はよく講演や原稿にこの「五つ星社会」を使ってきた。不安や強迫観念ばかりでを使ってきた。不安や強迫観念ばかりでは頭も心も凍りついてしまって、よいアイディアは生まれないものだから。ことし九月、カイロで開かれた国際人ことし九月、カイロで開かれた国際人ことし九月、カイロで開かれた国際人ことですの動旨の文章を発見したからとピッタリの趣旨の文章を発見したからとピッタリの趣旨の文章を発見したからとピッタリの趣旨の文章を発見したからとピッタリの趣旨の文章を発見したから、それは、高齢化はもはや先進国だけでなく、世界の人口のすう勢だと告げてでなく、世界の人口のすう勢だと告げてでなく、世界の人口のすう勢だと告げてでなく、世界の人口のすう勢だと告げて

うしろ向きにとらえるのでなく、世界に化」(change)することだ。その変化を人口の高齢化は、世界が新しく「変

ー、である。

五つ目の星は、血縁の壁を超えて、ひ

して行こう――。 とって一つの機会(chance)としてとら

だろう。というわけで、おまけをつけれ ば、高齢社会はチャ・チャ・チャのチャ チャーミング (charming) になっていく どに、その社会も、そこを生きる人々も わしい文化創造にかかわれるなんて、め な時代に生まれ合わせ、高齢社会にふさ ってきた。難問は山積しているが、こん ある。口ずさんでいたら何だか楽しくな ら、「高齢社会はチャ・チャ・チャ」で よく言えば、最初の三文字が<cha>だか の三Cと言ってよいかもしれない。調子 語は、みんなCで始まるから、 ともいうべき営みではないか。三つの単 とって、チャレンジに値する人間の証明 ったにない機会である。目標に近づくほ ることは、まさに人類にとって、 なんと、五つ星の高齢社会を打ちたて

細部をみつめる

先日、ある自治体の環境問題担当の職先日、ある自治体の環境問題担当の職力にない方のでは、文化ホールや女性会館を建てるといは、文化ホールや女性会館を建てるといは、文化ホールや女性会館を建てるといは、文化ホールや女性会館を建てるといけ、文化ホールや女性会館を建てるといいてということになり、何か魅力的な案境」ということになり、何か魅力的な案がよい知恵はないだろうか、というのでかよい知恵はないだろうか、というのでかよい知恵はないだろうか、というのでかよい知恵はないだろうか、というのでかよい知恵はないだろうか、というので

とういうわけか、政治の七の字も知らない私のような者の所へ、しばしばこのない私のような者の所へ、しばしばこのような相談がもちかけられます。話を伺いつていると、最近「生命誌研究館」という新しいものをつくったようだ。何かノウを持っているらしい、ということのようなのです。しかし、これが思惑違い。あまり役に立たないことが多く申しい。あまり役に立たないことが多く申しい。あまり役に立たないことが多く申しい。あまり役に立たない。

訪ねてくる方は、たいてい立派な企画書をお持ちになります。それは、職員のなかで議論をした結果をまとめたもののなかで議論をした結果をまとめたものの取りまとめた場合もありますが、書いて取りまとめた場合もありますが、書いていることは同じです。

まずなぜこのような施策を必要とする

必要なのかが分からなければ考えようが

す。「二十一世紀に向けてやるべきこと」 るのかが見えてきません。 うまくいっていて、どこに一番問題があ その県や市にはどんな生活があり、何が がつかないようなものばかり。 いったい 告書も、自治体の名前を取り換えても気 文であることは確かです。でも、どの報 というテーマで書いたときの優等生の作 科学館のようなものが必要だという話で あるのが、普及・啓発のための博物館や 環境をと、今度はあらゆる問題が並べて ます。そのなかで、わが自治体も文化を、 メディアという言葉が、必ず使われてい くに最近は、情報については、マルチ・ 齢化・成熟化・女性の社会進出……と あります。最後に必ずと言ってよいほど かという背景です。情報化・国際化・高

せん。何かお手伝いするとしても、何がせん。何かお手伝いするとしても、何がはなっていることは何なのですか。いや、そんなことではなく、あなたが今、いや、そんなことではなく、あなたが今、いや、そんなことは何なのですか。ふ痒く思っていることは何なのですか。ふ痒く思っていることは何なのですか。ふ痒く思っていることは何なのです。。すみましぎなことに、ほとんどの方がこのはそしぎなことに、ほとんどの方がこのはそれ。何かお手伝いするとしても、何がせん。何かお手伝いするとしても、何が

中村桂子

現JT生命誌研究館副館長・大阪大学連携大学院教授生命誌研究館副館長・早稲田大学教授/

とてもはっきりしていらした方は、珍しくとてもはっきりしていらして、問題は何とてもはっきりしていらして、問題は何とが返ってきました。そうなれば、事はえが返ってきました。そうなれば、事はけです。ゴミを中心にしてすべてを整明快です。ゴミを中心にしてすべてを整けているという深刻な悩みは、ゴミをどけているという深刻な悩みは、ゴミをどけているという深刻な悩みは、ずとくという程度の対処で解決するはずのないという程度の対処で解決するは、珍しくところで、今回いらした方は、珍しく

い捨て生活を見直そうではないかというゴミの捨て方をどうするか、そもそも使ければなりません。そこで、各家庭でのまず、ゴミを減らすところから始めな

という問題が浮かびあがります。イフ・スタイル、コミュニティのあり方方向へ話を進めれば、生活者の意識、ラ

これだけ、資源・エネルギー・環境が問題になっているのに、さまざまな製品問題になっているのに、さまざまな製品問題になっているのはおかしいという疑問は、今っているのはおかしいという疑問は、今

では見えないのです。 がは見えないのです。 がは見えないのです。 がは見えないのです。 がは見えないのです。 がは見えないのです。 がは見えないのです。

提案です。
世から、神は細部に宿り給う。と言われています。問題が地球規模になってきれています。問題が地球規模になってきれています。問題が地球規模になってきれています。問題が地球規模になってきれています。

宗教と技術大国

ある。また、宗教と技術も深い関係ががある。また、宗教と技術も深い関係がある。

産業技術国家の歴史は、ハプスブルグ産業技術国家の歴史は、ハプスブルグの分家であり、かつ大帝国でもあったカトリック大国スペインの無敵艦隊を破カトリック大国スペインの無敵艦隊を破かたプロテスタント小国イギリスがまずで出すところから始まる。安い鉄の製機び出すところから始まる。安い鉄の製造を始めたイギリスは、それを艦隊の大砲に使った。すなわち、スペイン艦隊の向に使った。すなわち、スペイン艦隊の向に使った。すなわち、スペイン艦隊の向兵戦を近代的な砲艦で破ったの

ロテスタント教徒ユグノーが教えた。た宗教戦争で国を追われたフランスのプ激に台頭してくる。その技術は、これま激に台頭してくる。その技術は、これま

つぎにイギリスに対抗して出てきたの は、これまたスペインから宗教的に独立 は、これまたスペインから宗教的に独立 したプロテスタント国オランダだ。オラ ンダは、資源の豊富なプロテスタント国 スウェーデンに直接投資し、イギリスよ り安い鉄をつくり始める。名車ボルボや サーブはもとより戦闘機までつくる人口 八百万人たらずの工業国スウェーデンの ハ百万人たらずの工業国スウェーデンの

ーランド連合王国に痛めつけられていたカトリック大国であるリトアニア・ポ

て来たからだ。

造技術のルーツはここにある。

造技術のルーツはここにある。

のような、正式クワから対し、モスクワの近くに「ドイッから技いをつくり、武器用の鉄の生産を始める。モスクワから南八十キロぐらいにめる。モスクワから南八十キロぐらいにある。モスクワから南八十キロぐらいにある。

アメリカも当然宗教戦争で強くなったと戦うなかで次第に国を強くして行った。と戦うなかで次第に国を強くして行った。と戦うなかで次第に国を強くして行った。と戦うなかで次第に国を強くして行った。と戦方なかで次第に国を強くしていたカトリック大国フランスが教えしていたカトリック大国フランスが教えしていたカトリック大国フランスが教えらから、現在のアメリカのハード技術はるから、現在のアメリカのハード技術はるから、現在のアメリカのハード技術はる。

しかし、十九世紀の後半になると新しいタイプの宗教戦争が始まった。 それは社会主義対自由主義の宗教戦争だ。社会主義と自由主義の対立はドイツで社会主義と自由主義の宗教戦争だ。 は十九世紀の半ばから、ドイツがイギリは十九世紀の半ばから、ドイツがイギリは十九世紀の半ばから、ドイツがイギリな力の産業革命に成功し、急速に台頭し

薬師寺泰蔵

理事慶應義塾大学教授/現慶應義塾大学教授・常任

下イツは基本的にはプロテスタント国家である。ただし、南部はカトリック教徒が多い。マルクスはユダヤ人だが、洗礼はプロテスタントで受けている。ただし、生まれたのはローマがつくったドイン最古の町トリアである。この町は、全少最古の町トリックの風貌をいまでも留め体的にカトリックの風貌をいまでも留めており、マルクスもこの文化のなかで育まれた。だから、マルクスは、カトリック的な文化に染まったプロテスタント国

ルクスは、社会崩壊の元凶を産業革命を 育った巨人は、社会に対して正反対の考 育った巨人は、社会に対して正反対の考 を業革命はドイツを強くする秘訣だと信 産業革命はドイツを強くする秘訣だと信 産業なの結果生じるドイツ社会の崩壊を くい止めるために企業の社会的責任、つ くい止めるために企業の社会的責任、つ

力奪取を唱えた。動かす資本家だとみなし、彼らからの権

発想の点から言えば、勤勉、自由競争 を信じたビスマルクの考え方はプロテス タント的であり、ドイツ的ユートピア社 タント的であり、ドイツ的ユートピア社 タント的である。そのマルクスの考 え方がロシア革命を動かしたのは皮肉と 言えば皮肉である。しかし、その後のソ 言えば皮肉である。しかし、その後のソ 達共産党のノーメンクラツーラの権力主 様を見ると、あながちこれがカトリック

こう見ると、ロシア革命から冷戦終了までの八十年間は、まさに現代の宗教戦事をは関係なく、日本は近代化を宗教戦争とは関係なく、日本は近代化を宗教戦争とは関係なく、日本は近代化を宗教戦争とは関係なく、日本は近代化を

かしくない

「企業の社会貢献」考 豊かな市民社会を願って―

年になるが、当クラブではその間シンポ を展開してきた。 ジウムの開催をはじめ、さまざまな活動 ント)クラブの会長を引き継いではや二 豊田経団連会長から1%(ワンパーセ

れる資本体である」という経営論の定義 業とは、価値の増殖を目的として運用さ シンポジウムでは、学生の頃に学んだ「企 るようにしてきた。たとえば、第一回の の社会貢献の必要性を訴えるにあたって 捉えようとする性分が強いためか、企業 る」と説いたりもした。 会的価値の増殖を目的とする資本体であ を引用して、現代における企業とは 私はどちらかと言うと物事を論理的に 原理原則を考えて理に叶った話をす

れぬ気持ちから足を一歩踏み出すところ 震災のボランティアのように止むに止ま 性や理論を云々する前に、阪神・淡路大 ではないのも事実である。つまり、必要 ナといった世界では、必ずしも理屈だけ ところが、フィランソロピーとかメセ

体やボランティアの方とも接したりする 私自身も1%クラブの会長に就いてか 多くの方々のご意見を伺い、市民団

> 中で、おぼろ気ながらもこれが社会貢献 認識している次第である。 献活動が今日求められているかを改めて かと理解し、そしていかに企業の社会貢

とを身にしみて感じたものである。 ことを横並びという考え方でやるのはあ ただいた契約は長くは続かないというこ の営業に携わったが、義理で加入してい あるのだと思う。私も若い頃に生命保険 企業が自発的に取り組むところに意味が に無理強いするつもりはない。こうした まり感心できないし、あくまでも個々の だからと言って、私は社会貢献を企業

世の注目を集めてきている。 果たすものとして認知され、その支援が される。特にボランティア活動は、先の れるように、社会にとって重要な役割を 震災におけるボランティアの活躍に見ら 業員のボランティア活動への支援に大別 に行う自主プログラム、寄付、そして従 企業の社会貢献活動と一口で言って その中味は、それぞれの企業が独自

ひとりの従業員が、できることから無理 するようなことは避けたい。むしろ一人 金を投じたか、その多寡だけで企業を評 したがって、社会貢献にどれだけの資

ンティア活動を行おうという機運を盛り 上げていくことを大切にしたいと思って をせずに一歩一歩、しかも継続してボラ

を頂戴したことがある。 なさっているのか」という厳しいご質問 は実際にボランティア活動をどのように ある方から「企業の役員クラスの方々

のを覚えている。 任務にさらなる意欲と決意が湧いてきた と同時に、私は、1%クラブ会長という なければならないと教えられたのである。 う係わっていくかということも充分考え 金をどこでどのように活かし、社会とど は単にお金を出すだけではなく、そのお 本質を突くこのご指摘に、私は、企業

ざまな社会的ニーズが存在し、そのため 翻って考えるに、この世の中にはさま

若原泰之

代表取締役会長経団連1%クラブ会長・朝日生命保険相互会社

にたくさんの市民団体やボランティアの

その社会的ニーズを把握することから始 これらのNPOやNGOの活動の実情と 人たちが現に活動している。私たちは、 める必要があるのではなかろうか。

りのために「NPO情報センター」(仮 ナーシップとその情報ネットワークづく のNPO法案が真剣に議論されようとし 機として、市民団体が法人格を取得しや における多数のボランティアの活躍を契 称)の設立が計画されている。 NPOと企業そして行政とのよきパート ている。また新しい市民社会をめざして、 すくするなど、その活動を支援するため 折しも国会では、阪神・淡路大震災時

今後とも広く呼びかけて行きたい。 力ある市民社会となることを願って、 くの企業や個人がその利益と汗と時間の %を社会のために役立てるよう、 来たるべき二十一世紀が真に豊かで活

「価値」観の衝突

末次克彦

現アジア・太平洋エネルギーフォーラム代表幹事ハーバード大学ケネディスクールフェロー/

米国東部の新緑が濃さを増すと恒例の、米国東部の新緑が濃さを増すと恒例のいーバード大学の卒業式(六月六日)がやって来る。大学、大学院合わせて約六やって来る。大学、大学院合わせて約六やって来る。大学、大学院合わせて約六には一葉での一点にはがいるが、今年はルーンシュタイン学長とノーベル医学賞受ががラールド・バルマス(国立医学研究が長)がダブル出演した。ルーデンシュタイン学長とノーベル医学賞受がいを強化するため社会をあげて科学技権いを強化するため社会をあげて科学技権が発体制の再編成が必要だと、説いるが、大学教育の新たな関係を論じ、バルマス氏はガンやアルツハイマー症候群とのス氏はガンやアルツハイマー症候群とのス氏はガンやアルツハイマー症候群とのス氏はガンやアルツハイマー症候群とのス氏はガンやアルツハイマー症候群とのないで強化するため社会をあげて科学技権が発体制の再編成が必要だと、説いるないでは、

ていこうというところに、米国型の価値再認識し、個人の能力を最高度に集約し活用や人類の闘病といった社会的目標をコンピュータ・インターネットの真のコンピュータ

観が象徴されている。

北半球が緑に包まれ始めた五月、東京とワシントンでそれぞれ「アジアの将来」「論理を超えて―太平洋に貿易と投資の自由を具現しよう」と題する重要会議が開かれた。隠れた共通テーマは、トインビー流に言えば東と西の「価値観の衝突」であった。

をゲストスピーカーに呼んだ。その数日いての論議」を設け、マハティール首相いての論議」を設け、マハティール首相につせッションの一つに「アジア的価値につせッションの一つに「アジア的価値につけるが、ま要によりである。

米国流の価値観とマレーシア流の価値て『アジア的価値』に触れている。二回「アジアの価値』に触れている。前、東京で日本経済新聞社が主催した第

米国流の価値観とマレーシア流の価値観の対立を考えてみると、人権や民主主観の対立を考えてみると、人権や民主主義の解釈が異なるだけでなく、その定義で相手に譲ると、自分の立場が侵されるという脅威感が根底に横たわっている。とくに政治、外交次元での価値観論争はその色彩を強める。

マハティール首相はみずから「私は一マハティールは日経セミナーでは、とくにアティールは日経セミナーでは、とくにアディールは日経セミナーでは、とくにアジアの価値観を定義づけしてはいないが、シ言われている。 しかしアジアはない、と言われている。 しかしアジアはない、と言われている。 しかしアジアはよくやっていると思う。 わたしの国、マハティール首相はみずから「私は一マハティール首相はみずから「私は一マハティール首相はみずから「私は一

肉はダメだが、 の人々が共存し、民族も宗教も違う社会 ルになるはずだ」と言い切っている。 性は価値があるものだ。世界のいいモデ を押しつけないからだ。このような寛容 でいるのが現実だ。それは一つの価値観 中国系はブタが好き、インド系は牛 同じ食卓について楽しん

をだれかが独占するということはあり得 だとすれば、アジアにはアジアの価値が は勤勉、 価値あるものとみなしている。 アジアで 自己信頼、自己実現、人生の成功などを は言論の自由、個人の自由、公開論争、 比較しているが、それによると、米国で る。「ある人がアジアと米国の価値観を 戦している。 同氏は次のように言ってい 米国の価値観を対比し、価値観論争に挑 もあって、真正面からアジアの価値観と をめぐる論争」と明確になっていたせい での演説では、表題が「アジアの価値観 西は他の価値観と文化を尊敬してもらい あり、米国には米国の価値がある。知恵 が価値あるものと見なされている。そう その同じマハティール氏がワシントン 相互尊敬こそが世界の基礎なのだ。 他人を尊敬、正直、自己規律

ていると、同じように価値観の多様性を こうしたマハティール流の論議を聞い 「大国の責任は文明、 文化の多

起することにある」とするチェコ大統領、 極性を理解し、人類文明の共通起源を想 影を落とし始めているのである。 九五年十二月号「アジア的価値の神話を ら外交政策をつくるならば、対立はいつ 観の差を恒久的なものと見なし、 が書いているように、「現時点での価値 ている。河東哲夫氏(ボストン総領事) バツラフ・ハベルのハーバードでの講演 超えて」)という不安感が国際関係論に までたってもなくならない」(『中央公論 及は今や国際外交の知的な要因ともなっ す。文化、価値観の多様性についての言 フォーラム』五十四号で紹介)を思い出 (九五年卒業式記念講演、『二十一世紀

している点であろう。 批判するところに存在意義を見出そうと 価値観の押しつけと映り、これを指摘、 唯一の超大国のリーダーシップの発揮が ている一つの点は、米国という冷戦後の 確かにマハティール、ハベルに共通し

値観をより信じるのか」を問うような心 ど近隣諸国の知識人は、米中どっちの価 ジアの経済成長の持続性について東アジ シアの戦略国際問題研究所が共催し、ア ンプールで日本国際問題研究所とマレー には危険性が伴う。去る三月、クアラル たが、そこでも中国の参加者が アの学会、研究所の専門家会合が開かれ 価値観の違いを表に出すことは政治的 「日本な

> 論争は一つ間違うと、近隣関係をも揺る 理になっている様子がうかがえた。価値 ることをその会議は示唆していた。 越える対話、 がす要素を秘めており、 大人の関係作りが大切であ 逆にそれを乗り

には危険な要素をはらんでいる。 る」のが現実であり、価値論争は政治的 数の民主主義観を認めにくい事情があ 民主主義のため、という大義があり、 世界的関与を意義づけているのは世界の とはありうる。一方、米国にも冷戦後の という認識を米国以外の政治家が持つこ 国流の民主主義、人権論を受け入れる (コーネル大学教授) が言うように「米 東南アジア政治の研究家、 米国にヘゲモニーを与えることにな 自らの政治的基盤をあやうくする、 白石隆氏 複

そこか

者の質問に答えている。 はしなければならない。対立はあるけれ 課の散策のおり、このことを考えると言 ルブレイス・ハーバード大名誉教授も日 Society")を出して健在ぶりを見せたガ 会とはなにか」を問う新著("The Good 必要だ。最近、随筆風に改めて『良い社 治の課題なのである。相互理解、協力の を持たなければならないこともまた、政 ためには価値観に関する基本的な認識が この現代のジレンマを乗り越える知恵 「確かに東と西は違う。だが、 致命的な問題ではないと思う」と筆

フランスの良心グランド・ゼコールと

破り、やがてこの制度はナポレオンに引 を守る」という意気込みでプロシャ軍を 劣っていたフランス軍は、「革命の精神 ロシャやオーストリアはフランスを包囲 政や君主制が倒れるのを恐れた隣国のプ 端を発する。フランス革命の影響で、王 制度は、遠く十八世紀のフランス革命に き継がれて行く。それから数えれば実に めに、革命政府は国民皆兵の制度を取り 入れたのだった。軍備や武器技術の点で した。そうした外国軍から革命を守るた いう方針を発表した。いまこれをめぐっ し、軍隊をすべて職業軍人で維持すると て議論が行われている。フランスの徴兵 一百年ぶりの大改革である。 今年の五月末、フランスのシラク大統 今後六年のうちに徴兵制を廃止

注目すべきなのは、社会党や共産党など左翼政党が徴兵制廃止に反対していることである。「徴兵制の廃止は、フランス革命以来の平等の精神に反する」というのが言い分で、王政を倒して成立したうのが言い分で、王政を倒して成立したしたない。

フランスの人とつきあって感じるのは、

エリートほど強く持っている。
ないが持っている公への奉仕の感覚である。フランス人は皮肉屋(シニック)を以って良しとするところがあるから、表切って良しとするところがあるから、表はらが持っている公への奉仕の感覚であ

共への義務感を持ちあわせているように 出会った若者や卒業生たちは例外なく公 設され、二百年の伝統を持つが、そこで ド・ゼコールはフランス革命の直後に創 けが進学をゆるされる。 著名なグラン しい選抜試験を通ったごく少数の学生だ ル」があり、バカロレアのあとさらに厳 と同じように大学の大衆化がはじまって 験する学生の数が急増しつつあり、日本 である。そしてここ数年バカロレアを受 則としてどの大学へも進学できる仕組み がある。この試験で合格点をとれば、原 別建ての組織として「グランド・ゼコー いる。そうしたなかにあって、大学とは 「バカロレア・大学入学資格試験」制度 への関門に、国家が一律に試験を行う したことがある。フランスでの高等教育 「グランド・ゼコール」のいくつかを取材 フランスの高等教育機関として名高い

ノブレス・オブリージュ (貴族の義務)

柏倉康夫一

沙夫 一京都大学教授

られている。という言葉があるが、現在の社会にあっという言葉があるが、現在の社会に過やを表験を社会に還元する義務があると信じ経験を社会に還元する義務があると信じ

著名なグランド・ゼコールの一つ「エコール・ノルマル・シュペリュール」は、一九九五年に創立二百年を迎え、それを使会にヨーロッパ各地から著名な人びとを集めてシンポジュウムを催した。「ヨーロッパの高等教育の役割」と題したこの集まりで、ジュネーヴ大学のジャン・スタロバンスキー教授は、エコール・ノルマルの創設に大きな影響をあたえたコンドルセの言葉を引用しつつ、こう述べた。「コンドルセは、教育はすべての人に等「コンドルセは、教育はすべての人に等しくあたえられるべきだが、だからといしくあたえられるべきだが、だからといしくあたえられるべきだが、だからといって一部の者にしか分からない高度な教

育があるなら、それを不平等になるといって一部の者にあたえるのを拒んではなって一部の者にあたえるのを拒んではなた大革命の時代にあってこれは勇気あるだ大革命の時代にあってこれは勇気ある発言でした。コンドルセは知的水準の差と認めつつ、そうしたエリートを通して、を認めつつ、そうしたエリートを通して、を認めつつ、そうしたエリートを通して、を認めつつ、そうしたエリートを通して、を認めている。

高い専門知識と人格の調和こそがエリートの理想とされてきた。フランスでは今日なお多くの人たちが、社会におけるケリート教育の重要性を疑っていない。しかしそうした信頼がいつまで続くかは、しかしそうした信頼がいつまで続くかは、せらが現代の「ノブレス・オブリージュ」をどこまで自覚し、それに応えるかにかかっている。

――歴史はくりかえすか――江戸時代に学ぶべきもの

最近、江戸時代の話を耳にすることがとちらかはよくわからない。

私が江戸時代に関心を持つようになったのは、その時代が人類社会にとって唯たのは、その時代が人類社会にとって唯いう事実を知ってからである。電力会社というエネルギー産業に身を置くゆえに、日本のエネルギー産業に身を置くゆえに、日本のかという課題から離れられないでゆくのかという課題から離れられないで今日まで来たわけであるから、リサイクク日まで来たわけであるから、リサイクル社会が過去に実現していた、しかもそれが欧米ではなくて、我が日本の祖先がま行していたとなると聞き捨てにはできない話である。

村本のでは、
中速何冊か書物を取り寄せてみると、
なるほど徹底したリサイクルが行われており、
なるほど徹底したリサイクルが行われて
なるほど

テムをあっさり放棄し、工業化路線――に見える省エネルギー・リサイクルシスに見える省エネルギー・リサイクルシスところが、我々の祖先は、この理想的

姿である。 姿である。 変である。 変である。 変である。 変である。 変である。

ったのであろうか。社会システムを放棄したのはなぜであろうか。どうして維持することを考えなか我々の先祖が三百年来の省エネルギー

上智大学の渡部昇一教授は、明治維 上智大学の渡部昇一教授は、明治維新についてダーウィンの進化論を引き、み分けの時代」から弱肉強食の「進化論み分けの時代」への戻りと説明されている。この時代」への戻りと説明されている。この時代」への戻りと説明されている。この時代」への戻りと説明されている。この時代」への戻りと説明されている。この方在せず、省エネルギーやリサイクしか存在せず、省エネルギーやリサイクしか存在せず、省エネルギーやリサイクルといった問題は全く意識されなかったとしても無理からぬことであろう。

その当時の事情は、このように理解しるの当時の事情は、このように理解しずるとして、現在の我々の疑問は、我が可能を問わず、リサイクル社会を実現する方は多いが、リサイクル社会を実現するための条件を分析し、提示する声はきるための条件を分析し、提示する声はきるための条件を分析し、提示する声はきるための条件を分析し、提示する声はき

近藤耕三

代表取締役会長四国電力 (株)代表取締役社長/現四国電力 (株)

江戸時代の日本社会は、リサイクル以外にも数々の特徴を持った社会であったいサイクルが実現し、育ってゆくのに必明サイクルが実現し、育ってゆくのに必要かつ十分な条件が隠されているに違いない。その隠されている条件を探してみない。その隠されている条件を探してみない。その隠されている条件を探してみない。その隠されている条件を探してみ

戸時代は進化論の働かない「棲み分け」戸時代は進化論の働かない「棲み分けを成立させの時代である。この棲み分けを成立させた要因は、幕府の権威による藩制度の完成維持、藩同士の争いの禁止、そして鎖成維持、藩同士の争いの禁止、そして鎖と考えられる。これらが何と言っても江と考えられる。これらが何と言っても江と考えられる。

成立の条件仮説として「このように、個人の身分にまで介入する徹底した管理に人の身分にまで介入する徹底した管理によって、『競争原理が働かない社会であったから手間暇かかるリサイクルシステったから手間暇かかるリサイクルシステったから手間暇かかるリサイクルシステムが存在し得た』のであって、規制を緩和し、自由競争が可能になれば、たちまむ消滅する」というのはどうだろう。もら清滅する」というのはどうだろう。もら消滅する」というのはどうだろう。もう言いできるわけもなしで、リサイクル鎖国ができるわけもなしで、リサイクル鎖国ができるわけもなしで、リサイクル針会への回帰は夢に終わると考えるべきであろう。

とができるのであろうか……。 とができるのであろうか……。 とができるのであろうか……。

そこで、隠されているリサイクル社会

対馬の交隣外交に思う

前から一度は行ってみようと考えていた対馬行きが、この夏初めて実現した。た対馬行きが、この夏初めて実現した。そのきっかけは全く偶然で、昨年青森の三内丸山古墳見学の折、ついでに訪れた以前城跡で地元の方から「この辺りに対場が城跡で地元の屋敷が在った」という説明を受けたことに始まる。なぜだろうという経問はあったが、そのままちょうど一年経問はあったが、そのままちょうと考えている対馬行きが、

数カ月前、江戸初期に活躍した朝鮮通信使の通訳官雨森芳州の伝記を読んだ信使の通訳官雨森芳州の伝記を読んだ時、その中に「国書改竄事件を起こした寒老柳川調興は、津軽に流罪」という記家老柳川調興は、津軽に流罪」という記家老柳川調興は、津軽に流罪」という記家を柳川調興は、清教の国中国・朝鮮といいた。これは、儒教の国中国・朝鮮といいた。これは、儒教の国中国・朝鮮といいた。これは、儒教の国中国・朝鮮といいた。これは、儒教の国中国・朝鮮といいた。これは、儒教の国中国・朝鮮といた。これで、武正、江戸初期に活躍した朝鮮通を発見した。

交」の舞台であり、この地域を治めてき前まで、我が国唯一の公式「朝鮮交隣外それは、この小さな島がほんの二百年程それは、この小さな島がほんの二百年程ところが、私の興味は、むしろそのミところが、私の興味は、むしろそのミ

た藩主宗氏が国全体の重みを踏まえてそれである。実は上述の国書改竄事件が発点である。実は上述の国書改竄事件が発点である。実は上述の国書改竄事件が発覚した寛永十年(一六三三)頃の内外情覚した寛永十年(一六三三)頃の内外情であった。三代将軍家光の時代である。それった。三代将軍家光の時代である。それった。三代将軍家光の時代である。それの変な頭に置き考えてみると、当時の為政を念頭に置き考えてみると、当時の為政を念頭に置き考えてみる価値があると思ったのである。

ここで取り上げたい重要なことは、先

んで、いかにお互いにそれぞれの

地域

永野芳宣

(財) 政策科学研究所所長

綿密に打ち合わせをし円滑にそれを実行 易については、長崎・薩摩の諸大名等と 程の対馬藩の例に見るような幕府と大名 策』を練り、その戦術戦略の基に両者が 府)と地域の為政者(各藩大名)とが、 度の世の中」という今までの固定観念と ランダ・沖縄・中国・東南アジアとの貿 りをさせるとともに、幕府の奉行を「巡 諸国の日本に対する「植民地支配」を極 という点である。同じ時期、幕府は西欧 すなわち中央と地方との連携と役割分担 日本列島全体の安定安全ということを睨 てみると、そこには当時の中央政府(幕 判断に囚われず、これらの事実を睥睨し している。要するに「江戸時代は封建制 検使」として全国を廻らせた。また、オ を置き、密出入国防止と海上防衛の見張 するため、全国数百カ所に「遠見番所 タンの取締りとポルトガルの反撃を防止 端に警戒し、島原の乱以降とくにキリシ 国策に関する政策判断」の綿密な『秘

> 割分担をして来たかが見えて来るのであ 割分担をして来たかが見えて来るのであ 同士」あるいは「国と地域」が真剣に役

54

とでよいのだろうかと、対馬から福岡ま 身の回りのことすなわちグループや地域 かべた次第である。 配っていた為政者達の姿を何度も思い浮 機の中で、江戸時代に国境の辺地に居な 入って来るだけに、お互い自分の属する 考え、かつ情報が個々人にボーダレスに ギーによる体制間の対立が無くなったと 重要だと感じている。だが逆にイデオロ がら、常に国と地域との役割分担に気を でわずか二十五分間という小型ジェット なように思われる。果たしてそういうこ の関連や連携については鈍感になりがち のことは気になるが、国全体列島全体と の国際貢献など地球大での課題は極めて いる。もちろん環境問題をはじめ、 を尊重する民主主義の世の中を謳歌して 現在の我が国は、個人の人格と主体性 日本

|○○五年、ウェルカム

国際博覧会。 私たちの世代には「万」と言った方が馴染み深いが、この地博」と言った方が馴染み深いが、この地博」と言った方が馴染み深いが、この地域では愛知県瀬戸市を会場候補地とする。

これまで国際博覧会=万博は後世に様々な遺産を残してきた。一八五一年ロンドン・ハイドパークにおいて世界で初ンドン・ハイドパークにおいて世界で初めての万博が開催され、その華やかな歴めての万博が開催され、その華やかな歴史が幕を開けた。時のビクトリア女王の中である」と高らかに謳いあげ、万博は後世にである」と高らかに謳いあげ、万博の持である」と高らかに謳いあげ、万博の持である」と高らかに謳いあげ、万博は後世に

高く評価されている。 育てられたと言っても過言ではない。多 すの日本人は一九七〇年、アジアで初め て開かれた大阪・日本万博を思い出すこ とと思う。世界が集ったあの日の記憶は 私たち日本人の心に今でも強く焼きつい れたち日本人の心に今でも強く焼きつい ないるが、その規模、内容において史上 最も成功した万博の一つとして世界から 最も成功した万博の一つとして世界から

の最中にある。この結果は今年六月にも う栄誉を勝ち取るべく猛烈な誘致運動を 地とするカナダ、クイーンズランド州ゴ 日本、アルバータ州カルガリー市を候補 るが、愛知県瀬戸市を会場候補地とする る投票により決定されることになってい BIE(博覧会国際事務局)の総会に が名乗りを挙げており、熾烈な誘致合戦 けを飾る最初の国際博覧会の開催につい 繰り広げている ーストラリアが、それぞれ二十一世紀最 おいて、加盟四十七カ国の政府代表によ ては、現在開催権の獲得に向けて三カ国 さて、二〇〇五年、二十一世紀の幕開 の国際博覧会の記念すべき開催国とい ルドコースト市周辺を候補地とするオ

発達に伴い、高度な工業化を進め人類史今世紀の世界は、科学技術の飛躍的な

いる。

リの街づくりは万博開催とともに進めら

レ、あるいはプチ・パレなど、現在のパ八回、名高いエッフェル塔、グラン・パ

開催されている。特に花の都パリでは、

一八五五年を皮切りに一九三七年まで計

ーロッパ各国を中心に競うように万博は

ロンドン万博の成功により、その後ヨ

リスによって生まれ、フランスによってれてきたことから、いわば万博は、イギ

安部浩平

役会長 (社) 中部経済連合会会長・中部電力 (株) 取締

国際博覧会を二十世紀という発展の歴史 上に残る経済・社会の偉大な発展を遂げ てきた。これら発達の歴史に世界最大規 できた。これら発達の歴史に世界最大規 のような発展の歴史は、一方においては 地球環境問題、人口・食糧問題、エネ ルギー問題、都市問題などといったこれ からの人類が立ち向かっていかなければ ならない諸課題の存在を浮き上がらせて といったこれ からの人類が立ち向かっていかなければ ならない諸理の言葉に置い、この記念すべき

BIE総会での開催決定が大きな夢の

を駆け抜けた世界各国の人々とともに、を駆け抜けた世界各国の人々とともに、に向けてチャレンジする新しい博覧会とに向けてチャレンジする新しい博覧会として位置づけ、人類社会の将来を見据えるための新しい出発点としたいと思って

55

で世界各国の人々を迎えたいと念願してくの人々とともに一丸となって邁進してくの人々とともに一丸となって邁進してくの人々とともに一丸となって邁進しては、日本の愛知県瀬田・一大の人々とともに一丸となって邁進して

ビッグバンを成功に導くために

金融資本市場の空洞化懸念、不良債金融資本市場の空洞化懸念、不良債権処理に伴う体力低下とその結果としての格付け低下、金融技術力の遅れ等に象の格付け低下、金融技術力の低下等の事態が長期化すれば、焦眉の急務である経態が長期化すれば、焦眉の急務である経態が長期化すれば、焦眉の急務である経態が長期化すれば、焦眉の急務である経動が長期化すれば、焦眉の急務である経動である市場によりなる。

退し、利子補給、保証に徹すべきで、 政策金融以外の財投機関についてもその 性の高い場合に限定すべきである。また、 の場合も費用と便益を比較考量し、 着した現在、政策金融は直接融資から撤 化は望むべくもない。資金余剰構造が定 る。この改革なかりせば金融市場の活性 理を歪めたり、資本市場の発達を阻害す というのは肥大化した公的金融が市場原 るなどの弊害をもたらしてきたからであ の両輪の関係にある公的金融の改革をビ 分野を補完する役割を担い民間金融と車 ある。その課題の第一は、 くにはいくつかの課題を解決する必要が ッグバンと平仄を合わせ行うことである。 しかしながら、ビッグバンを成功に導 「市場の失敗

> した上で、資金調達方法も債券発行に改 した上で、資金調達方法も債券発行に改 めるべきである。また、郵貯・簡保の分 割民営化を行い、併せて民間金融機関と の競争条件の権衡を図る必要があること は言うまでもない。

用者の利便性の高い、厚みのある市場 ダードとの整合性確保、 制緩和、会計制度のグローバル・スタン 保険・投資信託等の金融商品販売の規 別子会社の相互参入範囲規制の撤廃 備を急がねばなるまい。具体的には業態 という国際金融センターとしての条件整 れ、金融機関の業務の自由度が高く、利 化が却って加速しかねないからである。 が安いうえ、選択肢が広く利便性の高い 化等が実現していなければ、 拡大するため、その時点で有価証券取引 かかる観点から、「効率性・透明性に優 海外市場に金融取引がシフトし金融空洞 為銀主義や指定証券会社制度の廃止に である。というのは、九八年四月以降 わせる形で改革のスピードを上げること より企業の対外取引の自由度が飛躍的に 第二の課題は、改正外為法の施行に合 証券売買手数料の完全自由 金融機関の創 取引コスト

末松謙一

さくら銀行取締役会長/現さくら銀行常任顧問

考える。

考える。

考える。

考える。

考える。

のは、金融インフラのハード、ソフト面の
といいるだけに、実施可能なものから
といいるだけに、実施可能なものから
を備等が喫緊の課題である。わが国の金
を開いる。
といいるが国の金

56

第三の課題は、「シティの復権は果たしたが、有力マーチャントバンクはいずれも姿を消した」英国のビッグバンの軟れも姿を消した」英国のビッグバンの軟度債権問題の重石から早期に脱却し、環度債権問題の重石から早期に脱却し、環度債権問題の重石から早期に脱却し、環度機能で、横並び戦略からフルラインの業務まで、横並び戦略からフルラインの業務まで、横並び戦略からフルラインの業務まで、横並び戦略からフルラインの業務まで、横並び戦略からフルラインの業務まで、横並び戦略がとによがり、競争激化が予想される中では早晩、その戦略の化が予想される中では早晩、その戦略の化が予想される中では早晩、その戦略の化が予想される中では早晩、その戦略の体が予想される中では早晩、その戦略の様な本的見直しを迫られることは間違いあ

等の経営革新を行うことが急がれる。 ョナル人材の育成、採用とその能力の最 果的であり、これを通じてプロフェッシ 要である。それには持株会社の活用が効 向するにせよ、「卓抜した得意分野、 退が軽微であり、フルライン業務展開す るまい。伝統的銀行業務の衰退が激しい 与体系の確立、多様なカルチャーの醸 大限の発揮を可能とする雇用、人事、 イッドな組織、社風を形成することも重 ためには、イノベーション・オリエンテ れた外国の一流プレーヤーと伍していく の構築等」は邦銀共通の課題である。 れたリスク管理力、強いコスト競争力等 戦略」をとる米銀、伝統的銀行業務の衰 化し、資源を集中投入する「フォーカス ため、自らの強みが発揮できる業務に特 る欧州大手銀行のいずれの戦略形態を志 また、金融技術力、商品開発力等に優

意・工夫を引き出すルール型行政への転

つき合い好きが未来を開く

傾向は、決してこれからの二十一世紀の 日本にプラスになるとは思えない。 述べたがる人が多いようだが、そうした 最近日本には、何かというと悲観論を

は大変良くなっているのではないかと私 むしろ以前に比べれば、日本という国

年々ますます減ってきているということ 東京や大阪の空はスモッグで大変だった は事実だと思う。 うになったし、また産業廃棄物にしても、 が、今は本当に素晴らしい空が見えるよ たとえば、今から二十五年ぐらい前の

ってきた。 になったし、 JRの主な駅は本当に見違えるほど綺麗 JRも民営化して十年が経過したが、 地下道も楽しい散歩道にな

差は歴然としている。 懐具合も何十年か前と比較すれば、その れたし、訪れる観光客のマナーも、また また、道路や観光地のホテルも整備さ

ている。あの頃は、大人でも夜になると 大戦直後の混乱時に比べれば格段に減っ 反対するつもりはないが、犯罪にしても、 れは国際化の影響だという意見に対して な知能犯などが増えて困る。さらに、そ 確かに、最近は種々の凶悪犯罪や新た

> った。 怖くて大通りを歩けないほど治安が悪か

と考えるべきだと思う。 知らず知らずに良くなってきているから たというだけではなく、日本人の品行が これは、治安維持の機能が充実してき

どんどん良くなってきているといえるし、 うということについては、私は信じて疑 今後もますます良い国になっていくだろ わないのである。 このように、日本はいろいろな意味で

ということが、私ども「日本人の生き甲 私はこれから二十一世紀に向けて推奨し 斐である」と考えるべきだということを、 ていきたいと思っている。 ドを、みんなの力でもっと良くしていく またさらに、「日本」という国のブラン

る必要があると思う。それには、人との もっと外国人に理解してもらう努力をす てくるということである。 つき合いがこれからますます重要になっ そのためには、日本人が日本の良さを

まりつき合いが本当に下手であると私は それにしても、日本人は「社交」、つ

力が劣っているからということではない しかし、それは決して外国人よりも能

樋口廣太郎

名誉会長 アサヒビール(株)会長/現アサヒビール(株)

だろうかと思う。ただ、社交のノウハウ に付けさえすれば、多分世界中で日本人 ウハウであって、「社交のノウハウ」を身 と思う。劣っているのは、つき合いのノ ということも事実である。 は、そう簡単に身に付くものではない、 ぐらい好かれる人種はいないのではない

> と私は考えている。やはりそこにおいて のための「教育」の二字にかかっている

は、多くの若い従業員を抱えている我々

こととして、要は子供の頃からの場慣れ それは、もちろん語学の問題は当然の ている。 ている。 企業の役割が大きいのではないかと思っ ではないだろうかと、最近しきりに考え ていくための手だては、この辺にあるの 今後、世界の中で日本人が明るく生き

1997.6 No.61

観劇の日に思う 守ること、改めること

演が神社境内で催された。 七月下旬、中村勘九郎親子による奉納公 遺産に登録されたことを記念して、この 九九六年十二月、厳島神社が世界

天の中を出掛けていった。 演も危ぶまれたが、ままよと覚悟して量 いる時で、当日も夕刻から雨の予報で上 生憎、台風九号が山陰地方に留まって

さに神の社に大きく包まれたような設営 社の赤い回廊と緑深い弥山の山裾で、ま の街の灯りがちらついている。右手は神 塗りの鳥居、さらにその彼方には本土側 ち寄せる。簡素な舞台正面の奥側に張ら 設けられ、満潮時にはその下に海水が打 より長い花道の左横先は海で、有名な朱 く向こうに五重塔がそびえ、左手の普通 れた仕切幕越しに神社の屋根が覗き、遠 客席も舞台も、境内の野外波打ち際に

ずる虹……」との句があると紹介される の公演の始まりを神が嘉みされるようで、 の外側にも淡い虹が二重に浮かび、今宵 ないような美しい虹が出現し、さらにそ 正面上の薄墨色の空高く近来見たことも 日が暮れるには少し間のある頃、 「連獅子」の唄の中に「雨後に映

> 期せずして観客一同感嘆の声を上げた。 く浜風、山裾を抜けるゴーという松籟が は、暮れなずむ夕宵に響き、龍を呼び虎 と、その奇しき符号と美しい神秘さに、 ようで、次の舞台を待ち遠しく誘ってい マイクに増幅され、神々の祝福の息吹の を招き相戦う様を彷彿させ、時折そよ吹 子による笛と太鼓の見事な序破急の調べ 能 「龍虎」をモチーフに、藤舎名生親

ていく。 様を踊る勘太郎の若々しい優しさ、柔ら かく弾むような力強さが、人々を魅了し 名手の笛に合わせて狸々が酒に酔い遊ぶ エットとなり、舞台のみ明るく浮き出て、 る頃には、五重塔も宵闇の空に黒いシル 続く中村勘太郎の素踊り「乱」の始ま

子の愛情の真髄を見せられ、囃子方の音 難に耐えて勇躍帰る子を迎える喜び、親 千尋の谷に我が子を落す父親の苦衷、苦 る力強い白毛・赤毛の親子獅子の踊り、 赤い鳥居のみが浮かび、そこで演じられ 輝く舞台、ライトアップされた五重塔と りて、どこまでも奥深い漆黒の中に、 子」の頃になると、夜の帳はすっかり降 最後の勘九郎・七之助親子の 連獅 光

思いとなった。 酔の心境から現実の世界へ引き戻される オンの輝きが増加するにつれ、 に帰途についたが、車が市内に近づきネ 唯唯幽玄優美な世界に没入させられた。 「良かったね」と称賛する人々の声を後

また、耳を覆いたくなるような誘拐殺人 られている時、その前進は今一歩であり、 ある。片や今、改革と創造が唱えられ、 として守り継ぐべきことも多々ある筈で というだけでなく、我々には伝来の美風 のではないだろうか。そして単に一芸能 継がれてきた我が国、民情の昇華したも ワールドワイドを基準に規制緩和が求め

多田公熙

中国電力(株)取締役会長

色に松籟も加わって、時を忘れ所を忘れ、 次第に陶

事件や経済界の不祥事件などが連日のよ 確かに今見てきたものは、脈々と受け

> 伝来の美徳として守り継ぎ育てるものと、 曇天のようで心晴れぬ重い気がする。 わたり不透明で模糊とした様は、 うに報道され、政治も経済も社会全般に 勇を鼓して改めるべきこととを忘れては かなければならないものである。そして 勿論この暗雲は、自分達の手で払い除 今日

力強く進むことこそ自立者の途であろう 判断のもと、古きを尋ね新しきを求め、 般について冷静な自己探求と沈着な状勢 今肝要なことは、教育も含め諸制度全 なるまい。

堪能できた幸せを感謝した次第である。 始めた。公演の時間中、雨も降らず芸を ガラスを見れば、水滴がポツポツと付き あれこれ思い悩みながら車のフロント

悪循環から良循環

前向きの省エネルギーの一事例

東京で忙しく追われる生活を、自分なり には大いに頑張って送っている。 いつも八月になるのを心待ちにして、

的蓄積のための生活を送ることにして、 海抜千三百メートルの地点)の文字通り 的にもこれ迄の蓄積を使い果たして、す 続けざるをえなくなり、学問的にも身体 めたので、すでに四分の一世紀になる。 機の発生直前の一九七三年の八月から始 何とか実行してきている。第一次石油危 の小屋に閉じ籠もって、悠々自適の原始 を離れ、八ケ岳(長野県富士見町広原 う脅威を如実に感じるようになったから っかり擦り切れてボロボロになってしま さと夏に特に弱く、日々追われる生活を こうした生活を始めた契機は、元々暑 しかし毎年必ず、八月一カ月間は東京

長く生きていくための、毎年八月の過ご て自分が望む真に豊かな生活のため、 し方である。 これはまさに、まず自分のため、 息

の副次的な良循環効果を伴っている。 に結びつき、それなりに貢献している等 ーそして特に夏の電力のピーク・カット ところがこうした生活は、省エネルギ

日中もさわやかな風が吹き、一日中森

林浴が可能であり、クーラーなど全く不 要である。夜は熱帯夜には程遠く、真夏 夏季はシャワーのみで過ごしている。 る。全くの小屋で広さは本宅の四分の一。 これも照明その他の省エネに通ずるし、 でも毛布と布団を一枚ずつ掛けて寝てい

解も十分に進むという効用もある。 する迄は、家族全員揃っての生活で、 州全域やそれをこえてのドライブに出か 族の絆は強まるし、親子の会話も相互理 た日常買い物等のために十~十五キロ近 から小屋までの公共交通機関はなく、ま く車を走らせねばならないが、最近は信 もちろん反面、最寄り駅や高速バス停 家

> 熱するから、さらに熱くなってクーラー めに、クーラーを使って屋外に一斉に排

大都会ではヒートアイランド現象のた

の使用が増え、強力に冷房しなければな

伴って実行されていく、いわば後ろ向き べきであろう。 省エネが、まず志向され実行されていく 分なりのライフ・スタイルや豊かな生活 のいやいやながらの省エネではなくて、自 の実現の結果としての前向き・積極的な このように、無理をして不便や苦痛を

とは夢想であろう。その上、省エネルギ カ月を完全に休息して山に閉じ籠もるこ しかし多くの人達にとっては、 八月一

深海博明

申し訳ない気がしてならなくなる。 ラーの使用を拒否して、クーラーを持っ 会の共同住宅に住みながら、真夏にクー 活を誇らしげに書くこと自体が、本当に ていない人の苦労話を聞くと、 ーに真面目に正面切って取り組み、大都 自分の生

しかも、

娘が二人とも社会に出て活躍

らないという悪循環が作用している。 うな毎日を過ごすことになっている。 けて干上がりそうになる。やむをえず窓 通そうとすれば、周囲から熱風が吹きつ 同住宅に住む人は、真夏には毎日大げさ を密閉して、まるで我慢大会出場者のよ しめられることになる。窓を開けて風を に言えば、死にそうになる程の暑さに苦 こうした状況下で、クーラーのない共

共交通機関を専ら利用している。

けることも少なくなり、遠出の場合は公

暇を分散してとれるようなシステム作り さを満喫できるように、もっと長期の休 限界が厳存している。真の意味での豊か ベルでの懸命な努力や工夫には、種々の こう考えてくると、一般的には個人レ

慶應義塾大学教授

り組んでいくことも不可欠であろう。 らないであろう。現在の大都市への集中 ができる施設の整備も進めていかねばな の好みに応じて休暇を多様に楽しむこと やテーマ・パークだけでなく、それぞれ がまず必要だし、大規模なレジャー施設 考え、ここ数年間できるだけ努力をして タイム制を、早急に日本に導入すべきと 活実現へ結びつく可能性をもつサマー・ 点である太陽の光を活用して、豊かな生 わずかな第一歩として、自然の恵みの原 都市構造の抜本的な改造に、長期的に取 ンド現象をできる限り軽減していく、大 の時間をかけての是正や、ヒートアイラ っていないのが偽らざる現実である。 きたが、残念ながら実現の目処はなお立 こうした社会システムの改変のほんの 根元では種々の悪循環が強力に作用し

経済社会を、真の豊かさや生きがいの問 められているのではなかろうか ものへと転換させていくことこそが、 い直しから出発して、良循環が作用する て、悪化・自己矛盾に陥っている日本の

人間の時代

世をあげて閉塞時代と言う。八方塞がりの言行が横行し、悲観論ばやりの昨今りの言行が横行し、悲観論ばやりの昨今である。私が畏敬するある財界人の長老に、日本はあるかね。」と、真剣に憂慮してやまなかった。

現行の一府二十一省庁を一府十二省庁 務員はどうなるのかも分からない。一方、 数合わせとしか映るまい。省庁再編で公 めの行革か、恐らく大衆は分かるまい。 行革と、倒産不況の景況を、回復基調と ぼられる。「大山鳴動鼠一匹」の感ある にする再編案にしても、 ョンがないところに問題がある。何のた く不透明となるのは宜なるかなである。 遊戯に明け暮れる無責任さに、先行き全 か緩慢、足踏みなど、言い逃れの言葉の ランス行きを決めた、わがサッカーチー ムだけだとしたら情けないことである。 閉塞感の元凶は"行革。と、景気。にし 行革にせよ、景気にせよ、根本にビジ たしかに、明るい話はない。念願のフ 国民には単なる

大枠は不動のものだ。地球が止まっても小里総務庁長官は「一府十二省庁の

な数合わせが、

行革の"自己目的化"を

大臣の数はどうなるのか、奇妙きてれつ

流れは変わらない。」などと強調していた。 行革の最高責任者たる橋本首相はた。 行革の最高責任者たる橋本首相はた。 行革の最高責任者たる橋本首相はなことは絶対にしない。 国益を唯一の基準として自ら決断する。 このチャンスを進したら日本は崩壊してしまう。 何としてもやり遂げたい。」などと強調してい流れは変わらない。」などと強調してい流れは変わらない。」などと強調してい

首相のこの発言は「日本再建のため橋首相のこの発言は「日本再建のため橋会で表明された公約である。まことに総会で表明された公約である。まことに総会で表明された公約である。まことにおいが、「地球が止まってもそれは変えはないが、「地球が止まってもそれは変えないが、「地球が止まってもそれは変える。

問題は行革の中身である。焦点の一つ問題は行革の中身である。焦点の一つである。

ビジョンは一体何なのか。いっそ、英語えとしてつけ加えられた「教育改革」の大大改革のなかで、橋本首相独自の考

中川順

(株)テレビ東京相談役

ピールしないことは必定である。とこなし、コンピュータ処理ができる人材を育成する、などとその目的を明示すがは、国民には分かり易い。あるいは、なられる。心の教育。では、国民にアッなられる。心の教育。では、国民には分かり易い。あるいは、

近々到来する二十一世紀は、次世代千年タームの初年度に当たる。いまはまさに、三千年への大世紀末なのである。悲観材料の山積は、むしろ当然のこととして受け止めなければならない。人間は「座てでから、それなりの行動や努力をするくために、それなりの行動や努力をするくために、それは人間本来の本能機能であり、使命感にほかならない。

今後、長期にわたって想定される幾多今後、長期にわたって想定される幾多の再在基盤である地球環境の破壊からくる生存の危機は、なんとしても解決すべる生存の危機は、なんとしても解決すべる。少生老齢化。の問題は、否応なしに

持っている。紀中に日本人は消滅するシィリアス性を紀中に日本人は消滅するシィリアス性を際会する現象であり、数字上、二十一世

60

人間各自の自覚と努力が根元的に要主義社会においては、なんとしても、「政治」におけるリーダーシップを先決とする。大山鳴動の感ある今回の行革を頂門の一針として、夢と勇気をふるう指導性の満望される。新時代の転機を画すのは、が渇望される。新時代の転機を画すのは、ある指導者の存在であることを、いまこえる指導者の存在であることを、いまこそ悟らなければならない。

"新経済"論議をめぐって

間で最も長い好景気の持続である。これ り、失業率は低下して五%以下になって 来、実質国内総生産は着実に増加してお 構造をもつに到っていると論じている。 今やアメリカ経済は不況知らずになった によってみれば、第二次大戦の半世紀の 高まっているけれども、マクロ経済指標 ある。その背後で所得配分の不平等度は いる。消費者物価の上昇率も三%程度で にあると言われる。確かに一九九二年以 経済 **(new economy) と呼ばれるべき と言い、その根拠としてその経済は"新 ついて誇るのは無理からぬところである。 アメリカのエコノミストが自国の経済に に加えて財政赤字が縮小しているので このような状態にあって一部の論者は アメリカ経済は近年、長期繁栄の状態

繁栄の状態が続くなかで、それは永久はこれまでにもあった。

古くは一九二〇年代に永久繁栄論が古くは一九二〇年代に永久繁栄論が表示たし、第二次大戦直後にはケインズあったし、第二次大戦直後にはケインズあったし、第二次大戦直後にはケインズあったし、第二次大戦直後にはケインズあったし、第二次大戦直後にはケインズあったし、第二次大戦直後にはケインズあったし、第二次大戦直後には大力に対しているが、単なる楽観論として片づけるべであり、単なる楽観論として片づけるべであり、単なる楽観論として片づけるべ

なる。実はこの考え方に対しては、

理論

ては新しい文明の華が開くということにの説によれば、現在から近い将来にかけ

クトリア朝ということで、したがってこス時代、啓蒙主義の時代、イギリスのビ

想を述べたい。の特長的な点の二、三を示して、私の感きではないと思われる。そこで以下にそ

動が活力に充ちその反面で混乱の多い時 根幹は、人類の歴史を見るとその経済活 う考え方は多くの人々によって述べられ h 均衡期と呼んでおり、現在は二十世紀初 イッシャーは前者を価格革命期、 れていると見られるというものである。フ の後の比較的安定的な時期とが繰り返さ に紹介することはできないが、彼の説の べたものである。この大著の全貌をここ 学・経済史教授) がその著『大波動 ているが、そのなかで最も大がかりな説 った、そのような時期だとするのである。 頭以来の革命期が終わって、均衡期に入 ("The Great Wave" 一九九六年) に述 彼の言う均衡期の先例は、ルネッサン アメリカ経済が "新経済 "の状態にあ (それはしばしば数十年続く)と、そ よってその繁栄は当分の間続くとい D・フィッシャー (ブランダイス大 後者を

嘉治元郎

| 放送大学副学長/現国際文化会館理事長

経済学者P・クルーグマンによって徹底的な批判が加えられている。その詳細にけ、工世紀以来の価格の動向を一つの流は十二世紀以来の価格の動向を一つの流にとして見ているが、その間に世界の貨れとして見ているが、その間に世界の資がとして見ているが、その間に世界の資ががある。

躍的発達などの点から見て、かつてのよ このクルーグマンの論文の原著が掲載されている『フォーリン・アフェアーズ』 た。新経済、論が展開されている。彼は、た。新経済、論が展開されている。彼は、た。新経済、論が展開されている。彼は、た。新経済、論が展開されている。彼は、た。新経済、論が展開されている。では、た。新経済、論が展開されている。では、た。新経済、論が展開されている。では、た。新経済、論が展開されている。では、 世産活動、金融活動の国際化、雇用構生産活動、金融活動の国際化、雇用構生産活動、金融活動の国際化、雇用構生産活動、金融活動の国際化、雇用構造におけるサービス部門の拡大に伴う労造におけるサービス部門の拡大に伴う労造の発達などの点から見て、かつてのよ

ると論じている。

契機を与えるものである。
契機を与えるものである。
の論議はこのような点について考える済」の論議はこのような点について考える。
・新経
が対して、短期的には相違が顕する。
したがって、短期的には相違が顕する。
したがって、短期的には相違が顕する。

人的資源は経済活力の源泉

関本忠弘

締役相談役 日本電気 (株) 取締役会長/現日本電気 (株) 取

ウ・技術革新の寄与度はあまり変化がな と少子化等を背景に減少し九二/九三 労働の寄与度が失業率の上昇・高齢化 いという結果であった。 年の期間でなされている。それによると、 ローチによる分析が一九八四年から九三 し、労働、資本などの各生産要素の成長 派経済学の経済成長理論に基づいて分析 っていた。これは、成長の要因を新古典 ース・アプローチ」に古くから関心を持 して米国の経済学者E・デニソンの「ソ がある。私は、供給サイドからの分析と サイドから見る方法の二つのアプローチ 分けて、需要サイドから見る方法と供給 方、 、の貢献度を計測するというものである。 九六年の経済白書の中で、同様のアプ 経済成長を分析する手法には、大きく (五期移動平均) にはマイナスになる 資本および残差である知識ノウハ

欧米へのキャッチアップを達成してからの日本の技術進歩が頭打ちになっていると必ずしもそれは当を得ていないことがわかる。実際米国に大きく遅れをとっがわかる。実際米国に大きく遅れをとった場に位置する分野もあり、日本の技術生端に位置する分野もあり、日本の技術生端に位置する分野もあり、日本の技術ないには誇れるものがある。また、これらをさらに発展させ、科学技術立国と考える。

しかしながら、私はこれを楽観視しているわけではない。労働資本の貢献度の低下は、技術力を高める主体である人的低下は、技術力を高める主体である人的低下は、技術力を高める主体である人的

そこで人口構造を見てみると、日本は世界でも類を見ない超高齢化社会に向かつて進んでいる。一九九五年には老年人口割合が既に一四・八%に達しており、人口の約七人に一人が六五歳以上となっている。この高齢化の要因は寿命が長くている。この高齢化の要因は寿命が長くついる。この高齢化の要因は寿命が長くついる。この高齢化の要因は寿命が長くついる。というであるが、最も重要なのは少子化である。これは、まさに二十一世紀の日本経済の発展を担うべき人的資源の減少を意味している。

政治の場でも議論されるまでに至った。政治の場でも議論されるまでに至った。女性が一生九八○年代の後半であった。女性が一生見ると、七○年代前半までは丙午の六六年を除いて二・○程度を維持していたが、七五年辺りから下降傾向に移り、八が、七五年辺りから下降傾向に移り、八か、七五年辺りから下降傾向に移り、八か、七五年辺りから下降傾向に移り、八か、七五年辺りから下降傾向に移り、八か、七五年との後半であった。

とだから、大変な問題である 長期的に見てこの数字が二・一〇ないと 下しており、上昇の目処も立っていない。 現在では、一・四二(九五年)にまで低 人口を維持することはできないというこ

揚が図られるとしても日本の活力は低下 五年の六九・五%から二〇二一年にかけ る一五歳から六四歳の人口の比率は、九 されている。しかも、 年には老年人口が二五%を超えると推計 ○○七年に人口が減少に転じ、二○一五 究所の分析によれば、このままでは、 してしまう恐れがある。 これでは、いくら情報化によるエンパワ て一〇%も低下するということである。 ーメントや規制緩和による民間活力の発 ちなみに、国立社会保障・人口問題研 生産年齢といわれ

打ってきている。 の少子化に対して各国はさまざまな手を デンが一・七四、フランスが一・七〇、 イタリアに至っては一・一七である。こ 少子化問題は、わが国だけの問題では 九五年の統計によれば、 スウェー

休業制度、児童手当および保育サービス 族政策をとってきたことで有名である。 八まで落ち込んだが、 スウェーデンの出生率は八○年に一・六 特に、スウェーデンは多様な積極的家 有給の出産・育児

> 出産に伴う手当は最初の十二カ月は収入 下し、今や一・七を割り込もうとしてい きく後退せざるを得ず、 速な悪化により、これらの家族政策は大 保証するという手厚いものであった。し の九〇%、その後の三カ月は最低賃金を 年には二・一三まで高まった。例えば、 を整備し、八〇年代後半に急騰して九〇 残念ながらスウェーデン経済の急 再び出生率が低

制度の他、 得税制や、児童手当、 積極的な対応を行っている。 する優遇措置を中心とした家族手当・所 フランスにおいても、第三子以上に対 公的保育サービスの導入など 出産·育児休業

らは、年間二万シンガポール・ドルの税 たということであった。 にゴー・チョク・トン第一副首相 九○年のシンガポール建国二五周年の時 下に歯止めをかける努力がなされている。 制優遇を行い、その結果出生率は上昇し シンガポールにおいても、 から聞いた話では、三人目の子供か 出生率の低 (現首

る。しかし、厚生省の調査によれば、女 人の問題であり、基本的人権の問題であ 子供を産むか産まないかは限りなく個

といった子育てと就業を両立できる環境 二・二人と下回るということだが、これ 性が理想とする子供数の平均が二・六人 とができないということは、 環境の制限から思い通りに子供を持つこ しているものと推測できる。諸々の社会 は実際に子供を持つことの困難さを反映 であるのに対して、予想子供数の平均が である。 個と全体との調和、それが相反する場 大変な不幸

することが計画されているように、言う 打つ手はあろう。しかも、 を考えれば、現在の日本においても十分 的目に見える形で出生率が上昇したこと 見るがごとく家族政策等によって、比較 が問われるところである。海外の経験に 場で問題を解決していくかは人間の知恵 までもなく人は経済発展の原動力であ 目指す二〇二〇計画の中で人口をも倍増 マハティール首相が推進する経済倍増を 如何にアウフヘーベンして高次の立 マレーシアの

の上昇のための施策を考え、今すぐ実行 社会のあらゆる層において真剣に出生率 維持していくには、少子化は何としても 会の実現をなすことは望めないであろう。 に移さねば二十一世紀において豊かな社 是正せねばならない。政治、行政、産業、 わが国が二十一世紀においても活力を

国立劇場の幕開けをつとめて

ではしい」と励ましてくれた。 とではいい」と励ましてくれた。 の劇場に比肩しうる特色を持てるようにの劇場に比肩しうる特色を持てるようにが、指揮者と 場の機構は申し分ない。ぜひ、指揮者と 場の機構は申し分ない。がひ、指揮者と は、「劇場に比肩しうる特色を持てるように の劇場に比肩しうる特色を持てるように の劇場に比肩しうる特色を持てるように の劇場に比肩しうる特色を持てるように の劇場に比肩しうる特色を持てるように の劇場に比肩しうる特色を持てるように

団を養成することも難しい。自前のもの仕事が煩雑になり、良質の舞踊団、合唱オーケストラを手配するということでは、持たないで、公演ごとに歌手や舞踊手、

主役を集めることが必要になろう。場と同様に貸し劇場の公演が多くなり、場と同様に貸し劇場の公演が多くなり、別場としての個性は出し難くなっていく。ある程度基礎的な人員を保持し、優れたある程度基礎的な人員を保持し、優れたある程度基礎的な人員を保持し、優れたある程度基礎的な人員を保持し、優れたの公共劇を持たなければ、所詮これまでの公共劇を持たなければ、所詮これまでの公共劇を持たなければ、所詮これまでの公共劇を持たなければ、所詮これまでの公共劇

日程の調整その他、なかなかの大仕事で演出家、指揮者等を集めようとすると、演演目ごとに海外からのソリスト、監督、演者の確保に大変な努力をしている。公演者のでは、指揮者等を集めようとすると、

一月十五日に開演したアイーダでは、当初予定した指揮者ダニエル・オーレン当初予定した指揮者ダニエル・オーレンは、見事なテノールで聴衆た。オーレンが、見事なテノールで聴衆た。オーレンが、見事なテノールで聴衆た。オーレンが、見事なテノールで聴衆た。オーレンが、見事なテノールで聴衆た。オーレンが、見事なテノールで聴衆た。オーレンが、見事ながした。アイーダの初日は珍しい大雪、心配した馬も御殿場から無事開演に間に合って、拍手と大声援で幕を閉じたときは、一月十五日に開演したアイーダでは、当初予定した。

ホテル」が中劇場で幕を開け、「夜明け演劇は、井上ひさしの「紙屋町さくら

木田 宏

財団顧問新国立劇場運営財団理事長/現新国立劇場運営

前」「リア王」と見応えのある公演が続き、小劇場の「銀ちゃんが逝く」(つかき、小劇場の「銀ちゃんが逝く」(つかき、小劇場の「銀ちゃんが逝く」(つかまうへい)も補助席で対応するほどの評問かされた。今春の読売演劇大賞で、「新聞かされた。今春の読売演劇大賞で、「新聞かされた。

「紙屋町」は、作者井上ひさしの台本が間に合わないのではないかと関係者をいい、森光子、大滝秀治、三田和代らの演技といい、また演劇に託した作者の信念とでもいう台詞に、演劇の醍醐味を味わうことができた。

ある。

も、高い評価を受けた。 としての「梵鐘の声―平家物語より―」 としての「梵鐘の声―平家物語より―」 バレエでは、「眠れる森の美女」など

二十世紀後半のわが国は、経済大国に

になるのでは、法外な出費になってしま虫である。公演ごとにこれらがご用済みにわたる衣装の数々など、大変な金食い置、大道具、小道具を始め、古今東西置、大道具、小道具を始め、古今東西

では、 がセンターを設けて、十年程度は道具、 で表を保存展示できるようにした。使えるものは世界各地から取り寄せている。 がレエの衣装は、こちらの舞踊手の寸法 を送ってロシアで調達した。それにして を送ってロシアで調達した。それにして を送ってロシアで調達した。それにして

事になっている。

事になっている。

これが裏方の当面一番大事な仕ている。

これが裏方の当面一番大事な仕でいる。

これが裏方の当面一番大事な仕事になっている。

新国立劇場の幕開けであった。 大きな課題である。この課題に向けて些大きな課題である。この課題に向けて些化国家の建設は、二十一世紀に残された というかなりと寄与することができればという かなりと寄与することができればという を がえられるまでに発展した。しかし、優

東北が世界に誇る世界遺

保護していこうという目的である 化的な記念物などを、国際協力のもとで 世界的な価値を有する自然、あるいは文 産・自然遺産保護条約」が採択された。 一九七二年に国連で「世界文化遺

七件が登録されている。 屋久島が、文化遺産として厳島神社など 日本からは自然遺産として白神山地と

中止になった経緯がある。 う。このブナ林保護のため、 盛んに水を吸い上げる音が聞こえるとい が自然遺産の対象になっている。雪溶け 続く。世界でも数少ないブナの大原生林 との境界に千メートルを超える山並みが 白神山地は青森県の西南部、秋田県 山に入りブナの幹に耳を当てると、 林道開発が

をはじめ百一カ国(九七年九月時点)が 約」で、一九七一年に採択され、わが国 地として国際的に重要な湿地に関する条 条約」がある。正式名称は「水鳥の生息 際的取り決めの一つとして「ラムサール 条約を締結している。 同様に、地球環境保護を目的とした国

取り組まれている。 が目的であるが、水鳥の保護も一体的に 多様な生態系を持っている湿地の保全

わが国では釧路湿原、

佐潟(新潟県)

の一つに宮城県北の伊豆沼がある。 トルの水面に、オオハクチョウやマガン など十ヵ所が登録湿地となっている。 水深一メートル強、周囲十六キロメー

が多数羽を休め、その姿が沼辺のサンク

チュアリセンターから眺められる。 ち構えるそうである。 スをねらって、寒い中、多くの人々が待 まは壮観で、早朝からシャッターチャン ハクチョウが群れをなして飛び立つさ

である。 地域を有するのは国内では東北地方だけ 域が指定・登録されている。双方の指定 界(自然)遺産、重要湿地合わせて三地 動とを深めている現れであろう。前述の 国際間の取り決めが多数用意されてい 生する象徴として、私どもの大きな誇り であり、人間と自然、産業と自然とが共 ように東北地方(含む新潟県)には、 もとより、自然保護、生物保護に関する 世界遺産保護条約とラムサール条約は 人々が自然環境重視という意識と行 世

言ったらどう思うであろうか。 と感嘆する。その言葉に水を差すように 稲田を見て「美しい自然、豊かな自然 田畑こそが最大の自然破壊である」と さて、人々は緑の絨毯のように広がる 私は両者

明間輝行

そ

東北電力(株)取締役会長

るように思うが……。 作放棄地を思い描いてみると、どちらの を妨げている山や、草が繁茂している耕 とも正しいと思う。 考え方がより現実的か、自ずと答えが出 しかし、倒木が重なり合い若木の成長

給基地」という位置づけは、新たなそし されるようになった。その結果、「食糧供 展の道を歩み続け、一方において、世界 含んでいた。その後東北地方は自立的発 地という呼称は、 ての位置づけを持っていた。食糧供給基 いて、東北地方は「食糧供給基地」とし て積極的な意味を持つようになってきた。 人口の増大とそれに伴う食糧問題が危惧 日本の稲作は紀元前三~二世紀頃に 稲田が自然破壊か否かの議論はさてお 産業開発後進地域という意味合いを 昭和五十年代頃まで

> たおしゃれ感覚 塗りのかんざし、骨製の耳飾り、貝を加 た。たとえば、国内ばかりでなく海外に て、その優れた面が改めて見直されてき し、近時、縄文文化の解明が進むにつれ 工したブレスレット(腕輪)などで装っ も交易の場を求めた冒険心、進取性。漆

段と劣悪な社会と考えられていた。しか 経済であった縄文社会は、文化的にも一

を一万年にわたって維持した生活姿勢。 る時に大きな示唆をもたらす そして自然界からの活動の搾取を戒 自然と共生しつつ生態系のバランス - それは二十一世紀社会の姿を想起す

内丸山遺跡に凝縮されている。 ばならない。縄文文化の中心地は東北地 方である。東北の縄文文化は青森市の三 日本の深層を知るには縄文文化を知らね 縄文時代人を「原日本人」とも呼ぶ。

るものと思っている。 いる三内丸山遺跡は、 縄文文化の真髄を次々に明らかにして 世界遺産に匹敵す

力も飛躍的に向上した。

この弥生社会に比較して、自然物採集

中国大陸から伝わり、弥生文化を形づく

った。水稲耕作は人々を定住させ、生産

二十一世紀への経営原理

企業の不祥事が相次いで、この数カ月企業の不祥事が相次いで、この数カ月は喧しいものがある。報道されているは喧しいものがある。報道されているは喧しいものがある。報道されているとをもう少し考えてみると、戦後の日ことをもう少し考えてみると、戦後の日ことをもう少し考えてみると、戦後の日ことをもう少し考えてみると、戦後の日ことをもう少し考えてみると、戦後の日ことがようの経営のあり方をどのように組っているということのように思うのだ。

古典派経済学の祖、アダム・スミスは古典派経済学の祖、アダム・スミスは活にそなわる自浄・安定化作用を示したけれど、これはあくまで経済活動の主体者たる諸個人が、確たる道徳観・倫理観に立脚して活動した場合にのみ有効な作に立脚して活動した場合にのみ有効な作に立脚して活動した場合にのみ有効な作に立脚して活動した場合にのみ有効な作に立即して活動に大場合にのみ有効な作に立即して活動に大場合にのみ有効な作に立ってある。それが激しい競争という名目の下で忘れられてしまえば、それらはたちまちに遠ざけられる危うさがある。なにしろ、利益が下がれば経営責任が追及され、競争に負けることは企業存続すら危ぶまれるという、まことに企業運営ら危ぶまれるという、まっます大きくにとっての。矛盾。は、ますます大きくなっているのだ。

論理だけでは済まない」ということがあっ方では、「今後の企業運営は経済の

きたということなのだろうか。 きたということなのだろうか。

そこで、経済価値の追求という従来の価値軸に加えて、たとえば、事業を通じて得られた利益のなにがしかを社会貢献で得られた利益のなにがしかを社会貢献でおという動きも出てきている。「地球にするという動きも出てきている。「地球にするといか企業」といった環境問題への配慮に深い想いを寄せる企業や、いわゆる本業で培ったノウハウやインフラを活か本業で培ったノウハウやインフラを活か本業で培ったノウハウやインフラを活かして、社会に役立てようと模索を始める企業も多く登場してきている。

66

こうした傾向はますます高まっていくであろうと思うし、高度成長期、あるいであろうと思うし、高度成長期、あるいはバブル景気が頂点に達するまで、多くはバブル景気が頂点に達するまで、多くにも新しい動きが出てきたのではないか。こて、そうなると考えるべきは、企業とはいったい何か、何のためにあるのか、とはいったい何か、何のためには、この先、社会から迎えられるためには、この先、

福原義春

(株) 資生堂代表取締役会長

知める いかなる経営原理に則って進むべきかと活か いかなる経営原理に則って進むべきかと

当然そこには、利潤の追求という経済価値的な要請と相反する部分もあるであろうし、何とか一致させようと苦悩することもあろう。しかし、そうした矛盾や立ともあろう。しかし、そうした矛盾やの企業独自の哲学が洗練され、やがてはの企業独自の哲学が洗練され、やがてはこれからのあるべき企業の姿というものが確立されていくのではないかと思う。

ではない、多元的な価値軸を内包させながら決定される豊かな企業行動が、二十一 はない、多元的な価値軸を内包させながら決定される豊かな企業行動が、二十一 はない、多元的な価値軸を内包させながら決定される豊かな企業行動が、二十一 に記の社会に価値ある存在として迎えられる企業の条件となっていくことは、間れる企業の条件となっていくことは、間にいかける経済機関から、「法人」としていかける経済機関から、「法人」としていかける経済機関から、「法人」としていかける経済機関から、「法人」としていかける経済機関から、「法人」としていかける経済機関から、「法人」としていかける経済機関から、「法人」としていかける経済機関から、「法人」としている。

NGOと地域アイデンティティ

NPO法案が衆参両院を通過、正式 NPO法案が衆参両院を通過、正式 を喜ばしいことだと思う。NPO(非営 利団体)、さらに広い意味でのNGO(非営 の府団体)の発展は、いわゆる市民社会 のが遅んになる。非政府という 言葉が表すように、市民社会は政府ない し国家と一種の緊張関係にある。NPO やNGOが盛んになることは、その分だ やNGOが盛んになることは、その分だ やNGOが盛んになることと、その分だ に国家権力や政府主導型の政策決定へ の志向が弱まることを示す。

と彼は言う。つまり個人と政府・社会の指導者とのあいだに介在するものがない。等かの気持ちや考えを持ってそれを世間等かの気持ちや考えを持ってそれを世間をころがアメリカでは「何人かの人が何ところがアメリカでは「何人かの人が何とさず、アメリカ人が自由を尊ぶからも直さず、アメリカ人が自由を尊ぶからである。

「自由と平等」という民主主義の二面「自由と平等」という民主主義の二面を克明に分析したのがトックヴィルので、その中にあって如何に自由を守ってに、その中にあって如何に自由を守ってに、その中にあって如何に自由を守ってに、その中にあって如何に自由を守ってに、その中にあって如何に自由を守っていくかという問題は、今日まで続いている。のまり個人主義の社会が、各自別いる。つまり個人主義の社会が、各自別いる。つまり個人主義の社会が、各自別いる。つまり個人主義の社会が、各自別いる。つまり個人主義の社会が、各自別いる。つまり個人主義の社会が、各自別いる。つまり個人主義の社会が、という近代国家における全体主義への傾斜を防ぐためにも、社会の体主義への傾斜を防ぐためにも、社会の体主義への傾斜を防ぐためにも、社会の体主義への傾斜を防ぐためにも、社会の体主義への傾斜を防ぐためにも、社会の体主義への傾斜を防ぐためにも、社会の体主義への傾斜を防ぐためにも、社会の体主義への傾斜を防ぐためにも、社会の体主義の方式が、近に対している。

情や思想を表現し、行動することである個人、家庭、友人たちが思いのままに感あるのが自由の原理であるが、自由とはここに見られるように、組織の前提に

<u>江</u>昭

ハーヴァード大学歴史学部教授

から、それはもともと地方的(local)ないのである。トックヴィルも地方的な自由(local liberties)という言葉を使っている。自分の周辺の人たちが共有する生活態度やお互いを助け合う気持ちである。そのようなローカルな意識が人びとる。そのようなローカルな意識が人びとる。そのようなローカルな意識が人びとる。そのようなローカルな意識が人でとる。そのようなローカルな意識がで関心を共有する人たちが集まって組織を作り出す場合も、まずローカルな知識を作り出す場合も、まずローカルな知識を作り出す場合も、まずローカルな知識を作り出す場合も、まずローカルな知識を作り出す場合も、まずローカルな知識を作り出す場合も、まずローカルないのである。

一九九七年十月、ICBL(地雷禁止国際キャンペーン)がノーベル賞を受賞した時、その世話役だったアメリカのびたが、彼女が受賞のニュースを受けたびを語る第一声にも「私はヴァーモント人だ」と言っていたのは非常に印象的だんだ」と言っていたのは非常に印象的だった。

まずヴァーモントという地域アイデンティティがあって、そこに自分自身ないたちとも連絡をとりながらNGOを作りたちとも連絡をとりながらNGOを作りたちとも連絡をとりながらNGOを作りたちとも連絡をとりながらNGOを作りたちとも連絡をとりながらNGOを作りたちともありて、一つの世界各地の人たちとも協力して、一つの世界各地の人たちとも協力して、一つの世界各地の人たちとも協力して、一つの世界各地の人たちとも協力して、一つの世界各地の人たちとも協力して、一つの大きとも方イリアムズさんの場合、地域的なアイデンティティがその出発点となっていた。トックヴィルが指摘したように、また。トックヴィルが指摘したように、まずヴァーモントという地域アイデンという地域アイデンによって、

これから日本でもNPOやNGOの活動が活発になっていくであろう。アメリ動が活発になっていくであろう。アメリ動を明ーロッパに比べ歴史の浅い日本のの基底にある自由の意識が重要だというのとないのである自由の意識が重要だということを忘れてはなるまい。

これからの経営者教育

日本では大学を卒業し企業に就職すると、ほとんどの場合転職するようなことと、ほとんどの場合転職するようなこととなく、一つの企業で社会人として生命を全うするのが普通であった。企業はこのような従業員に対し長期的な「オン・が・ジョブ・トレーニング(企業内教育)」を施し、その企業特有の人材育成を目指した。従業員は年と共にその企業を力強く成長させるに十分な知識を得ることもでき、その企業を経営する力を身につけることもできるようになる。従って企業外の教育の場は特に必要としなかったということではなかったか。

これに比べてアメリカのビジネスマンこれに比べてアメリカのビジネスマン これに比べてアメリカのビ業で社会生活の場合は必ずしも一つの企業で社会生活の場合は必ずしも一つの企業で社会生活の場である教育機関が必要であり、それがいわゆるビジネススクールというものに育っていったのではないかと思う。

とでプラスになるのであれば良しとする 他社で教育された人材であっても、途中 時に中途採用も併用するようになった。 姿勢は崩してはいないものの、それと同 育し企業の将来を託するという基本的な 業側も、その多くは学卒入社の社員を教 よっては他の組織に移ることも考えると そしてその場である企業に就職する場合 増えてきた。自分の力を社会で試そう、 ると大きな変化ではないかと思う。 からでも自分の会社に参加してもらうこ いった気風も生まれつつあるようだ。企 はあるがアメリカ型の考え方をする人が ようになってきた。ここ十年位前と比べ でも終身雇用を前提としないで、場合に 今の日本の若い人を見ると、徐々にで

これから社会にでる若い人にとって企業もしこの傾向がさらに続くのであれば、

·活 **宮·**

オリックス (株) 取締役社長

に入ることは「就職」であって、かつて のように「就社」という考えが少なくな る。多くの若い人が自分の力を試すため る。多くの若い人が自分の力を試すため に職を変わることも厭わないとなってく ると、やはりアメリカのように高度でし かも特定の企業にのみ通用する知識では かも特定の企業にのみ通用する知識では かる、一般的に応用可能な専門知識を授 なく、一般的に応用可能な専門知識を授

社内教育に極めて熱心で労力・時間・社内教育に極めて熱心で労力・時間・特殊な人材を作り上げるきらいがある。特殊な人材を作り上げるきらいがある。特殊な人材を作り上げるきらいがある。特殊な人材を作り上げるきらいがある。

のようにビジネススクール網が全国にはめる教育施設が充分ではない。アメリカけたいと考えたとしても、それを受け止けたいと考えたとしても、それを受け止けがのようにビジネススクール網が全国には

等教育の場しか存在しない。に比べると、極めて限られた再教育・高りめぐらされまさに花盛りといった状況

後する危険も懸念される時代となってき だろう。人材育成についても、グローバ を考える時がきていることを認識すべき 時に、これら日本版ビジネススクールへ 要求に対し文部省をはじめ関係機関は積 たようだ。 力を惜しむと、経営力の国際競争から落 ルスタンダードにその制度を近づける努 の依存を前提に今後の企業経営者の育成 ろう。また企業側も自社内での教育と同 極的にその発展を促す施策を取るべきだ 機関の充実が、二十一世紀には大いに必 知識を得ることを目的とするビジネスス 要とされるのではなかろうか。こういう ールに相当する企業人向けの高等教育 このように考えると、高度のビジネス

日本は法治国家なのか

図ることであった。 社として自主自立の経営を行うJRを作 ととなった。国鉄改革の目的は、 に追い込まれた国鉄は、 ティブの働かない仕組みの中で破産状態 一日に分割・民営化され、 公共企業体という利潤原理のインセン 政治の介入を排除し、 一九八七年四月 鉄道の再生を 再出発するこ 民間会

が保有されている。 された株式の約二割は海外の株主の皆様 式上場を行っており、 営化が予定されており、現時点で全株売 却は達成されていないが、 JR東海、 JRは、全株式の売却すなわち完全民 JR西日本の三社はすでに株 JR東日本の売却 JR東日本、

兆円を受け持ち、それぞれの責任で処理 が、その債務は、 在でも懸命の返済を行っている。 が二二・七兆円、 処理すべき債務は三七・一兆円であった することとなった。 JRが負担した一 ・五兆円の債務は当時の年間収入の 国鉄改革時点 (一九八七年四月) 五倍という巨額のものだったが、 国 (国鉄清算事業団) JR各社が一四・五 で

された債務は、 の収入があったにもかかわらず、 国が責任をもって処理すると閣議決定 土地やJR株式の売却等 漫然と

> きた。 過程で、国鉄清算事業団債務の一部をJ 解決が先送りされて十年を経過した。そ 努力してきた社員の志気を低下させる、 する、②株主利益の侵害であり、投資家 して有利子の財政投融資資金が貸し付け せ、存立を危うくする、 るものであり、国鉄改革の基本原則に反 は、①会社発足時の国とJRの約束を破 Rに負担させる考えも出た。 JRとして 団債務処理策の検討を進めてきた。その 清算事業団債務は二八兆円に増加した。 られたために、 の諸点を挙げ、 の信頼を損なう、③JRの経営を悪化さ の債務処理にマイナスになる、 JR株式の価格下落は国鉄清算事業団 昨年から、 政府・与党は国鉄清算事業 金利が金利を生み、 追加負担に強く反対して 4今後売却する 5十年間

法案を国会に提出した。 Rに強制的に負担させる 支払うとされている年金債務の一部をJ の反対に耳を傾けず、国鉄清算事業団が しかし、 政府はJRの主張やマスコミ **る方針を決定し、**

ち不足する九千四百億円はJRが千七百 移換金として支払うこととなり、 厚生年金への統合に伴い、積立不足分を 鉄道共済年金は、 一九九七年四月の このう

律によって決定した。 億円を負担し、国鉄清算事業団が七千七 百億円を負担することが一九九六年に法

ものである。年金問題が決着してすぐに 議決定をくつがえし、事業団が負担する 事業団の負担については、一九九六年三 負担区分を変更する合理的な理由は全く 億円をJRの負担に移し替えようとする 七千七百億円の移換金のうち三千六百 れた。今回の法案は、 団債務とともに国において処理するとさ 月の閣議決定により、他の国鉄清算事業 う明快なルールによるものである。この 団、JR在職期間はJRが負担するとい これは、国鉄在職期間は国鉄清算事業 これらの法律や閣

因は、 ことにある。 ローバルな市場に適応しなくなっている いま日本経済が混乱している大きな要 これまでの情緒的なシステムがグ 日本は、 国が民間企業の経

松田昌士

東日本旅客鉄道 (株) 代表取締役社長

ている。 である。 外からも強い反対意見が繰り返し出され き行為である。この方針に対しては、 定するものであり、 責任もとらずに強制的に民間会社である システムに転換しなければならない。 システムから脱却して、 営に介入するという発展途上国型の経済 り、自らの怠慢で増加させた債務に何の Rに対する追加負担は旧態依然たる発想 JRに負担させることは、 国がJRとの約束を一方的に破 近代国家にあるまじ 市場原理による 契約社会を否 海

信認を損なうとい 事態になる。日本紹 家なのかが問われ、 られている今、 れることになれば、 日本が二十一世 このような法律が強行さ 紀への進路の選択を迫 つ過ちはもはや許され 経済に対する国際的な 日本は本当に法治国 国の信用が失われる

受験地獄"が消えても"地獄"っ

存在である。 がないが、大学に行くたびに胃が痛くな るような思いがするのは「お客さま」 わったかと聞かれる。 新聞記者から大学教授になって何が変 数え上げればきり 0

えてくれる存在という意味では、 者」は始終意識するが、我々の生活を支 っているということはない。 く感じることはなかった。 新聞記者時代には、目の前に読者が座 抽象的な「読 生々し

消えたら、 ると、そのことをひしひしと感じる。 もし潮の引くように大学から学生の姿が 合は、学生が払う学費で経営が成り立っ ている。その額は年に百万円は下らない。 大学はそうはいかない。私立大学の場 どうなるか。小さな大学にい

数が一致する。 十年後には進学率がいまより一〇%上が っても、大学の入学定員と進学志望者の 一〇年問題である。文部省の推計では、 これが教育界でいま騒がれている二〇

試」だと信じられてきた。それが「全員 校以下の教育を歪めているのは「大学入 入学」になる。 とっては「天国」の到来である。長い間、 大学入試は諸悪の根源」といわれ、 大学には「悪夢」の襲来だが、 赤飯でも炊いて祝わねば 高校に

> と掃除もそこそこに大船や横浜の予備校 習塾に通っている。高校生は週末になる 生だが、どの子も週に三日から五日は学 校教師に、こう反論された。「娘は中学 ジウムでこの話をしたら、小田原市の高 どどこにもない」 悪の根源」は嘘だったのか。あるシンポ ならぬほどの快事ではないか。 に出かける。受験体制が弱まった気配な なのに喜ばしい顔をだれもしない。「諸

がつかないのである。 困っている。 うに厳しい受験教育が続くし、そうでな う生徒のいる高校は、 になれば、 ブを与えれば勉強させられるのか、見当 い高校は、大学入試が易しくなりだして ったことを証明している。上位大学を狙 日本の高校は受験教育しかしてこなか 高校生にどんなインセンティ 大学が先着順で入れるよう この先生の言うよ

試ボケ」になっていたのではないか。 もなかったのだろう。 試に煩わされない理想の教育など最初か らできないものとあきらめ、考えたこと 「入試地獄」といいながら、 実は「入

を何もしてこなかった。 「ボケ」に見舞われ、 高校だけではない 一〇一〇年の準備 大学もまた同じ

多摩大学教授

山岸駿介

員から出された。専門学校はいま先着順 渋谷教育学園理事長の田村哲夫専門委 験をもう一つ作れないかという提案が、 で、大学入試センター試験より易しい試 も響くと考えての発言だった。 なると生徒の進学意欲や高校での教育に で学生を入れているが、大学が将来こう 最近の大学審議会・入試専門委員会

る。 論じたことは一度もなかった。 る。これほど深刻な問題なのに、そのと 験ができるのは、百五十校といわれてい きの入学試験制度をどうするかについて 六百校近い大学のうち十年後に選抜試 残りは先着順か倒産・合併で消え

は思えない。 大学やそれに直結した高校の深刻さが分 からないのだという人もいる。だがエリ - 卜の部分についても、分かっていると エリートの委員しかいないから、大衆

> 位層を対象にする・ 部に入ってくる学生の存在が東大などで も大きな問題にな は不適当なものに ない学生や、 医学部に入学しながら生物を履修してい 一教科でも受験可能になるなど、 センター試験は 物理を履修しないで理系学 っている。 大学の選抜資料として 変質している。 問題も易しくなり、 学力上 また、

なった。 る。 したら、 学教育を絡めて議論した気配はない。 た。あのときの大学 問題がエリート層 の幹部は、 のに、大学審議会 十年前、 日本の将来を危 そのツケ 不幸な時 入試制度を変えるのに臆病に 東大と 期に重なったものであ う 験動に懲りた国立大学 こ京大の併願が実現し は入試と高校教育と大 の部分でも生じている がいま来て しかねない深刻な いるのだと

チネルギー社会へ向け 持続可能な

今年六月にサッカーのワールドカップ今年六月にサッカーのワールドカップの準備で沸くフランスのベルサイユで開放といる会で、すなわちG7のネーミングカ国の会合、すなわちG7のネーミングカ国の会合、すなわちG7のネーミングカ国の会合、すなわちG7のネーミングカ国の会合、すなわちG7回の主要な電にならって、日欧米のG7国の主要な電け、その時々の電気事業の最重要課題にり、その時々の電気事業の最重要課題にならって、日欧米のG7国の主要な電力会社八社の会長が毎年定期的に集まり、その時々の電気事業の最重要課題にならって意見交換を行うものであり、日本が多期に対している。

囲気であった。

きた。これは、世界の電力会社、エネルライン(行動基準)をまとめることがでライン(行動基準)をまとめることがでライン(行動基準)をまとめることができた。これは、世界の電力会社、エネルギー開発を実現していくためのガイドの議論し、国境を越えたサービスやエネな議は「電気事業の国際化と持続可能会議は「電気事業の国際化と持続可能

努力してゆこうという提言である。
に、環境とエネルギーの調和を中心としに、環境とエネルギーの調和を中心とした持続可能な開発を実現すべく、等しくたけにのである。

また、今回の会議においては、「持続可能なエネルギー開発のためのE7基可能なエネルギー開発のための正7基の設立が決定された。E7は従来から地球環境保全のための途上国への支援ら地球環境保全のための途上国への支援の機関と協力して、発展途上国や中他の機関と協力して、発展途上国や中欧・東欧諸国における持続可能なエネルギー開発を促進するための資金を、個別ギー開発を促進するための資金を、個別ギー開発を促進するための資金を、個別でする際の受け皿とする事を目的としてパリに設立したものである。

くよう提案し、提案通り採択された。
である当社から、過去一年間の活動経過である当社から、過去一年間の活動経過である当社から、過去一年間の活動経過にれを社会的な信頼の確保に活かしてゆこれを社会的な信頼の確保に活かしてゆ

宮崎勇

男

しかしながら、国情の違いから、E7を加国の多くが自国で容易に化石燃料を参加国の多くが自国で容易に化石燃料をできたりもするため、エネルギーセキュリティや、ベストミックスといった考えリティや、ベストミックスといった考えりが軽視されている感は免れなかった。しかし、地球環境問題に対する原子力発しかし、地球環境問題に対する原子力発の原子力推進に対する地道な努力は評価で原子力推進に対する地道な努力は評価された。

おり、この機会に原子力の優位性や必要する社会信頼の獲得」をメインテーマに、する社会信頼の獲得」をメインテーマに、主催する。またその前に、今年十一月に主催する。またその前に、今年十一月に主催する。またその前に、今年十一月に来年五月に当社が議長会社として京都で来年五月に当社が議長会社として京都で来年五月に当社が議長会社として京都で来年五月の優位性や必要

性について、世界的に議論を喚起してゆ

E7活動では参加各社の自主性が最大限尊重されている。その上で参加各社大限尊重されている。その上で参加各社大限尊重されている。その上で参加各社大限尊重されている。その上で参加各社などで一緒に汗を流すことが原則である。これはその他の国際会議や国際グループこれはその他の国際会議や国際グループにはインドネシアで太陽光発電、小水してはインドネシアで太陽光発電、小水してはインドネシアで太陽光発電、小水してはインドネシアで太陽光発電、小水力、風力による僻地電化を当社をはじめ力、風力による僻地電化を当社をはじめ力、風力による僻地電化を当社をはじめ、風力による僻地電化を当社をはじめ、風力による僻地電化を当社をはいる。これは一次に対している。

も貢献できればと考えている。 7各国政府の認知を得たものである。 7各国政府の認知を得たものである。 7を国政府の認知を得たものである。

日本が変わる日

影響の恐れもあって大きく報道され、日 本は何をやっているのかとの焦燥感を煽 済的苦境は好調なアメリカ経済への負の 評価はすでに定着しているといってよい。 のではよく「顔が見えない国」。こういう いるのか判然としていない、外から見た ように思われる。外交交渉では小さなカ 後から今に至るもあまり変化していない 日本という国に対する彼らの印象は、戦 の企業人に接する機会が非常に多いが、 問委員なども兼務している関係上、欧米 つつ他にも主として米系企業の役員や諮 っては少しずつゆっくりと、 ードを小出しにしてくる国、 外資系コンピューター企業に籍を置き 方で、日本を中心とするアジアの経 何を考えて 改革に当た

か。 こんな日本が変わる日があるのだろう

長年企業経営に携わってきた経験から申せば、企業革新には一定の方法があって、先ずは目標設定があり、それに沿って経営資源であるヒト、モノ、カネの配の目標に到達するためには、トップが明確な指導力を発揮し、ミドルマネジメントが一体感を持ち、一般社員が理解共感

される。

国の改革が同じようにいくとは限らない。企業改革でさえも、なかなか段取りい。企業改革でさえも、なかなか段取りのようには行かず、荒療治の末ようやくのようには行かず、荒療治の末ようやくしいただけば、一企業がなくなるのとしいただけば、一企業がなくなるのとしいただけば、一企業がなくなるのとしいただけば、一企業がなくなるのとしいただけば、一企業がなくなるのとでは大変な違いだ。よく言われることだが日本は今、明治維新く言じようなサバイバルゲームをや終戦と同じようなサバイバルゲームをや終戦と同じようなサバイバルゲームをや終戦と同じようなサバイバルゲームをはならないわけだ。

アメリカやイギリスが、レーガノミックスやサッチャリズムを標榜して努力をクスやサッチャリズムを標榜して努力を介えいるで、済におけるアメリカで発表された「世界経八七年にアメリカで発表された「世界経八七年にアメリカで発表された「世界経れたがある。当時の深刻な経済環境をふまえ提言されていることは、あくまでもオープンな市場でフェアな競争を闘いもオープンな市場でフェアな競争を闘いもオープンな市場でフェアな競争を闘いもオープンな市場でフェアな競争を闘いもオープンな市場でフェアな競争を闘いる、国としての競争力を高めることなどである。その後のアメリカ経済の推移はである。その後のアメリカ経済の推移はである。その後のアメリカ経済の推移はである。その後のアメリカ経済の推移はである。その後のアメリカ経済の推移はである。その後のアメリカ経済の推移はである。

椎名武雄

ビー・エム (株) 最高顧問日本アイ・ビー・エム (株) 会長/現日本アイ

本には前川リポートがあり、平岩リボートがある。内需拡大、国際的に調和のとれた産業構造への転換、市場アクセスの一層の改善と製品輸入の促進、国際的に調和のとい世界経済への貢献。一九八六年から八い世界経済への貢献。一九八六年から八い世界経済への貢献。一九八六年から八口戦略も立ち、施策もそれなりに展開けて戦略も立ち、施策もそれなりに展開けて戦略も立ち、施策もそれなりに展開けて戦略も立ち、施策もそれなりに展開けて戦略も立ち、施策もそれなりに展開けて戦略も立ち、施策もそれなりに展開けて戦略も立ち、施策もそれなりに展開けて戦略も立ち、施策もそれなりに展開けて戦略も立ち、施策もそれなりに展開けて戦略も立ち、施策もとれなりに関係が、この国家的目標を表している。

お上だよりの人の心は、各所に変革の痛もそう早くは進まず、ましてや、どこか経営資源の再配分も組織構造の改革

して変わっていないように思われる。 して変わっていないように思われる。 こうした時こそ、政治のリーダーシップが、つまり指導者のきっぱりとした決 意と実行こそ必要なのではあるが、明治 意と実行こそ必要なのではあるが、明治 にま行こそ必要なのではあるが、明治 を実行こそ必要なのではあるが、明治 を実行こそ必要なのではあるが、明治 を実行こそ必要なのではあるが、明治 がであれば、言うなれば民草の力が自主 してあれば、言うなれば民草の力が自主 してあれば、言うなれば民草の力が自主 であろうか。

変わる日かもしれない。 変わる日かもしれない。 変わる日かもしれない。

北沢宏一

科教授

といってよいであろう。 理工系学部の半数から八割もが米国へ移 基づいた「民族大移動」が起こっている 自由競争と経済原理に則って変化してき 動してしまうという。ここで注目すべき かる。中国やインドの著名な大学では、 と、これがいかに大変な数であるかがわ 院生総数が十六万人であることを考える 約半数が大学院生である。我が国の大学 総数は一九九〇年時点で四十万人、その 無くなったためとされる。米国の留学生 国に留まっても兵役に召集されることが の割合が顕著な増加を示し始めたのはべ ていることであろう。いわば、「実需」に ことは、米国の留学生数が国策ではなく トナム戦争を境にする。その理由は、 米国の理工系大学院に占める留学生 米

留学生やボスドク採用経費の多くは大留学生を雇っても構わないのであるが、国学生を雇っても構わないのであるが、国学生を雇っても構わないのであるが、国学生を雇っても構わないのであるが、国を含めた需要と供給の関係が留学生採質を含めた需要と供給の関係が留学生採びる(Master of Business Administration) などの取得に流れているのが最近の傾向である。

一方、この留学生事情にさらに新たな

時という感じらしい。 ユーターぐらい使えるようになれば買い らい経って、米国の生活に慣れ、 うことらしい。企業から見ると、 職口さえ見つかればもう学位は無用とい 留学最終目的が米国移住であるから、就 打撃も大きい。「早く不況に戻ってもら 究を放棄されたのではプロジェクトへの 究費で学生を育てた挙げ句に、途上で研 な学生を集めようと苦労する。自分の研 うという。研究リーダーは少しでも優秀 のかなりが博士課程の途中で消えてしま 変化が生じている。最近、大学院留学生 きによるという。もともと大半の学生の 消えるのは、好況な産業界からの引き抜 つきで嘆くのも理解に難くない。彼らが いたい」と米国の教授が半ばまじめな顔 コンピ

雇用側は彼らを「合衆国の国益に必要 を特殊技能を有する人物」として永住を な特殊技能を有する人物」として永住を はずっと容易になったといわれる。大学 はずっと容易になったといわれる。大学 にさしずめ、「民族移動」の運搬船で ある。教育省統計によれば、すでに一九 ある。教育省統計によれば、すでに一九 ある。教育省を計によれば、すでに一九 ある。教育省を表情で理工系博士号取得者の五 上四年時点で理工系博士号取得者の五 たっと容易に急上昇していると観測する。 在までさらに急上昇していると観測する。

び加わるものが多い。 という建前の上に成立している。このた どころではなく、まさに、「科学技術民族 材養成を効率的に行っていることになる。 六六%、特に中国からの留学生の場合に ろ米国を目指す民族大移動予備軍に再 することはついぞなかったし、留学生は のポスドク一万人計画は、いずれも国策 ている)、九五年の科学技術基本法以降 中曽根首相アセアン諸国訪問以降の留学 大移動時代」が到来していると見たい。 が話題になったことがある。現状はそれ 二十年ほど前、「頭脳流出」という言葉 は、結果的に非常に低コストで大量の人 れた人材であるから、米国産業界として 高等教育までを受け、かつ、選りすぐら を端的に示す現象である。彼らは国外で プールからの米国内での分野間再配分 は九二%、インドは八九%であった。 に基づく。しかしながら、バブル時代に 生十万人計画(現状で五万人程度までき も留学生が産業界の重要人材として登場 帰国して自国の発展に寄与する」もの さらに後者の例は、留学生という人材 一方、日本においては、一九八三年の 留学期を終えた彼らは、 経済原理に従って起こっていること 結局のとこ

> 者は、背に腹はかえられぬ状況にある。 文を受ける形で産業育成がなされている るように、米国に滞在する同胞からの注 国の中国やインドは、「頭脳流出」を特 ての米国。通貨統合を目前に控え、大統 ている。元来がメルティングポットとし 量流入が始まって、この問題をかき消し 州では東欧や旧ソ連圏からの研究者の大 今後の大問題である。しかしながら、 った日本や欧州の研究開発人材の確保 な人材戦略を打ち出していくのか、 迎えた世界に対して、我が国がどのよう 科学技術人材の「民族大移動」時代を ろうか。さらに東欧やロシアの科学技術 面があるから、と考えるのは私だけであ ールのソフトウェア産業興隆に象徴され に問題とせずに沈黙している。バンガロ 合を目指す欧州。これに対して、供給大 世紀に続く大きな問いである。 長い目で見ると、少子化時代に立ち至

http://nces.ed.gov/pubs98/98042.html
P.H. Henderson, J.E. Clark and M.A
Reynolds: Summary Report1995:
"Doctorate Recipients from United
States Universities", National Academy Press (1996).

資料:

日本人の顔

いで第二の開国の時代だ。代とよく似ている、つまり明治維新につ代とよく似ている、つまり明治維新につ喜」を興味深く見た。今の日本はあの時

交通は手軽になったし、インターネッ交通は手軽になったし、インターネットなどの普及で情報は国を越えて行き交ら。。。国際化"ということばがいわれて久う。"国際化"ということばがいわれて久ら。"国際化"ということばがいわれて久ら。"国際化"ということばがいわれて急た。 はれには金大中大統領、クリントン大統 性紀を目前にして、いよいよ私たちも地世紀を目前にして、いよいよ私たちも地世紀を目前にして、いよいよ私たちも地世紀を目前にして、いよいよ私たちも地世紀を目前にして、いよいよ私たちも地世紀を目前にして、いよいな、カリントなどの本人の存在感を真剣に考えるときだと思本人の存在感を真剣に考えるときだと思本人の存在感を真剣に考えるときだと思する。

ファッションは一番最初に国境のないファッションは一番最初に国境のないの中に据えてきた。そして"他との違い"をかかげながら、世界共通のことば、つまり"時代の感覚"を敏感に受けとめ仕事り、時代の感覚"を敏感に受けとめ仕事り、時代の感覚"を敏感に受けとめ仕事り、時代の感覚。を敏感に受けとめ仕事り、時代の感覚。

大切だ。
大切だ。

大切だ。

大切だ。

大切だ。

いつかパリのオートクチュール組合で、 にことがあった。 私も客席で見ていてしたことがあった。 私も客席で見ていてあらためて驚いた。 私の作品は他のフラあらためて驚いた。 私の作品は他のフランスのデザイナーたちと違って見えた。 す私は日本人だ。とあらためて感じたことを覚えている。 西洋の感覚は加えていくを覚えている。 西洋の感覚は加えていく がラス感覚。 日本の美意識はもっとも価値ある核だけを残して無駄なものは取り はつかパリのオートクチュール組合で、 これぞれのメゾンから十点ずつ代表作を はっという。

最近では、ヨーロッパの若いアーティストたちに日本の布団がうけている。まストたちに日本の布団がうけている。また、小さな卓袱台。ごはんを食べたり、万能である。四畳半の畳の部屋、押入に布団をある。四畳半の畳の部屋、押入に布団をある。四畳半の畳の部屋、押入に布団をある。四畳半の畳の部屋、押入に布団をある。四畳半の畳の部屋、押入に布団をある。とはない。

は科学の時代になり、人間と人間が創り世紀も終わろうとしている。二十一世紀物の豊かさを追求して走ってきた二十

森英恵

大恵 | デザイナー

世紀のキーポイントになると思う。私の世紀のキーポイントになると思う。私のしかに便利で能率はあがるようになった。しかに便利で能率はあがるようになった。今まで一日中かかっていた仕事が一時間でできる。しかし、コンピューターは便でできる。しかし、コンピューターは便でできる。しかし、コンピューターは便でできる。しかし、コンピューターは便でできる。しかし、コンピューターは便でできる。しかし、コンピューターが入り、たるがが、人間の機能の退化に結びつくの表がある。

私たちは季節感を失い始めている。車も年中、同じ温度を保つようになった。中も年中、同じ温度を保つようになった。エアコンデーを中同じ野菜が手に入る。エアコンデーを中同じ野菜が手に入る。エアコンデーを中間で

済も社会や家族も問題山積で、暗い表情は肩を落として、しぶい顔だ。政治も経ながら眺めると、オフィス街を歩く男性顔色はいまひとつ。東京の街を車で走り顔といまひとつ。東京の街を車で走り

るように思う。どもあるそうで、女たちもわがまますぎざを感じる。挙げ句「リストラ離婚」なるを感じる。挙げ句「リストラ離婚」なの男性たちの様子を見ると、ことの深刻

物は豊かだけれど、気分はむなしいと物は豊かだけれど、気分はむなしいとの中には食物は十分入っているのに、何の中には食物は十分入っているのに、何の中には食物は十分入っているのに、何の中には食かな希望をもたらす文化的な姿国民に豊かな希望をもたらす文化的な姿国民に豊かな希望をもたらす文化的な姿にとっても、文化は国際的に認められる必須科目ではないだろうか。

ばし、元気に歩いていきたいものである。 はし、元気に歩いていきたいものである。 はし、元気に歩いていきにいいる。 ではしてのルーツをしっかりおさえて自 がりやすい日本人の顔、魅力的な日本の かりやすい日本人の顔、魅力的な日本の がりやすい日本人の顔、魅力的な日本の がりやすい日本人の顔、魅力的な日本の がりやすい日本人の顔、魅力的な日本の がりやすい日本人の顔、魅力的な日本の がりやすい日本人の顔、魅力的な日本の がりやすい日本人の顔、魅力的な日本の がりやすい日本人の顔、魅力的な日本の がりやすい日本人の顔、魅力的な日本の できる。

景気対策あれこれ考

た般、 政府の「緊急経済対策」が発 をしく「我が国経済が一両年中に回復軌 さしく「我が国経済が一両年中に回復軌 をしく「我が国経済が一両年中に回復軌 をした。事業費総額二十四兆円はかつ

多彩なメニューとなっている。 我が国政 え、「二十一世紀先導」「生活空間倍増 高度に複雑化していることがその理由 けであろうか。 花的に過ぎるのでは、と感じるのは私だ て遜色はない。ただ気をつけて見ると、 比べ隅々までの目配りも政策分野も決し 府の政策用語は極めて豊富で、諸外国に 新しい政策が多々盛り込まれ、 戦略」「産業再生」「地域振興券」など 不可分になっているところにその最大理 という経済問題が政治や政局動向と密接 れない。しかし何といっても、 戦後政治のあり方が背景にあるのかもし く分からない。景気対策としてはやや総 対策内容を見てどこにツボがあるのかよ 今次対策の内容には、金融、 があるのではないかと思う。 社会資本整備(公共事業)などに加 我が国の社会経済構造が 我が国固有の平等主義や 景気対策 まことに 减

さて、鉄鋼業界は四月、九月、十月と

を確約・明言していただきたいというこを確約・明言していただきたいというこを確約・明言していただきたいということである。国民の消費意欲や企業の設備投資マインドをかき立てるには、一過性投資マインドをかき立てるには、一過性投資マインドをかき立てるには、一過性の措置では足りない。 景況を見て積極の措置では足りない。 景況を見て積極の・機動的に手を打ち続けることをはつめ・機動的に手を打ち続けることをはつきりさせて欲しいのである。

GDPがプラスー~二%の軌道に乗るGDPがプラスー~二%の軌道に乗る

マスコミや有識者の間では最近、いわゆる「従来型公共事業」の一括批判論がゆる「従来型公共事業」の一括批判論が 支配的である。確かにバブル崩壊後の九 大配的である。確かにバブル崩壊後の九 大型の公共事業予算が組まれ、その過半は 横の公共事業予算が組まれ、その過半は 道路や港湾などの従来型事業に投資されてきた。その景気寄与が疑問視されているわけである。それでは公共事業を景気 るわけである。それでは公共事業を景気 るわけである。それでは公共事業を景気 るわけである。それでは公共事業を景気 るわけである。それでは公共事業を景気 できた。その景気寄与が疑問視さればよいのであろうか。

千速 晃 |

新日本製鐵(株)取締役社長

まず第一に、何を狙った公共事業は、かを明確にすることである。公共事業は、かを明確にすることである。公共事業は、を目的とする事業(社会生活型)と経済を目的とする事業(付加価値再生産型)に大別とする事業(付加価値再生産型)に大別とする事業(付加価値再生産型)に大別とする事業(付加価値再生産型)に大別とする事業(付加価値再生産型)に大別とする事業(付加価値再生産型)に大別とする。 乗数効果も異なるはずであり、経ある。 乗数効果も異なるはずであり、経ある。 乗数効果も異なるはずであり、経ある。 乗数効果も異なるはずであり、経ある。 乗数効果も異なるはずであろうか。

次に、費用便益効果すなわち投資費用次に、費用便益が得られるのかを精査することが重要であろう。我が国のこれまでの公共事業においては、費用便益効果での公共事業批判では、費用規模の大小ばかりでこの視点がやや欠けているように思りでこの視点がやや欠けているように思りでこの視点がやや欠けているように思られる便益が大きい事業から優先的に実られる便益が大きい事業から優先的に実られる便益が大きい事業から優先的に実られる便益が大きい事業から優先的に実

ない。先の国会での金融再生論議で見ら 共事業の評価制度」構築に鋭意取り組ん すればよいのではないか。 題がたくさんある。もしこのことが行革 バランス、国会と地方議会の手続きのタ いいのではないか。国と地方の費用負担 行政執行上の技術ハウツー論議があって れたように、景気対策においてももっと が確保されなければ折角の対策も意味が に非常に重要な問題であり、 る。これは効果を確実なものとするため でいるようで、大変結構なことだと思う。 論議に触れるなら、それも国民的議論に イムラグなど研究しなければならない課 三番目は、事業の執行能率の問題であ 円滑な執行

施策であると確信している。

・大のなかで公共事業は最も効果的なならない。経済を安定軌道に乗せるまでならない。経済を安定軌道に乗せるまでならない。経済を安定軌道に乗せるまでが、そのなかで公共事業は最も効果的な

開していきたいと考えている。

環境問題に思うこと

豊田章一郎

(株) 取締役名誉会長トヨタ自動車 (株) 取締役会長/現トヨタ自動車

仕事の関係で世界中あちこちを飛び回 は事の関係で世界中あちこちを飛び回 に美しい、また、不可思議な自然に恵ま るのですが、この地球というものは本当 るのですが、この地球というものは本当

り変わりを楽しむことができます。りの素晴らしい自然があり、他の国々にりの素晴らしい自然があり、他の国々にりの素晴らしい自然があり、他の国々にりの素晴らしい自然があり、他の国々にりの素晴らしい自然があり、

ていきたいものであります。十一世紀へ、そして次の世紀へと継承し、このかけがえのない美しい自然を、二

長近、環境保護に対する世論が非常に 長近、環境保護に対する世論が非常に と思います。「地球環境の保全」は、 ことであります。「地球環境の保全」は、 にといるのは、本当に喜ばしい

ります。 環境問題についてはさまざまな提言、 解決への模索が行われていますが、その 解決への模索が行われていますが、その がで環境を守るためには、経済成長を なかで環境を守るためには、経済成長を なかで環境を守るためには、経済成長を

正しくないと思います。環境保全を考慮長」をトレードオフの関係と捉えるのはしかし私は、「環境保全」と「経済成

術革新」の力だと思っています。 「環境」と「成長」を共存させるのが「技解決することは困難です。そして、この解決することは困難です。そして、この解決することは困難です。そして、このにない経済成長は間違いですし、同時に、

このような問題意識のなか、一昨年の COP3京都会議以来、自動車の分野 でも「環境技術の革新なくして二十一世 でも「環境技術の革新なくして二十一世 でも「環境技術の革新なくして二十一世 でも「環境技術の革新なくして二十一世 がもと、技術開発を強化し、製品の開 発・設計、生産、販売から廃棄に至る自 発・設計、生産、販売から廃棄に至る自 のもと、技術開発を強化し、製品の開 のもと、技術開発を強化し、製品の開 のもと、技術開発を強化し、製品の開 がした、対域開発を強化し、製品の開 のもと、技術開発を強化し、製品の開 のもと、技術開発を強化し、製品の開 のもと、技術開発を強化し、製品の開 のもと、技術開発を強化し、製品の開 のもと、技術開発を強化し、製品の開 のもと、技術開発を強化し、刺出のでお ります。

その重要な取り組みの一つとして、トヨタでは一昨年十二月、世界初の量産ハヨタでは一昨年十二月、世界初の量産ハコタでは一昨年十二月、世界初の量産ハボルただくなど、大変ご好評をいただいげいただくなど、大変ご好評をいただいけいただくなど、大変ご好評をいただいけいただくなど、大変ご好評をいただいけいただくなど、大変ご好評をいただいけいただくなど、大変ご好評をいただいけいただくなど、大変ご好評をいただいけいただくなど、大変ご好評をいただいけいただくなど、大変ご好評をいただいけいただくなど、大変ご好評をいただいけいただくなど、大変に対していたが、以降、二人の重要な取り組みの一つとして、トラッド車は、ガソリンエンジンと電気を関する。

点で極めて有望であり、世界の自動車メ 成、貯蔵などに課題がありますが、有害 な排出ガスが限りなくゼロに近いという ンな車です。実用化に向けては水素の生 排出物は水蒸気だけという極めてクリー す。水素を発生させる材料を何にするか ので、水の電気分解を逆に考えたもので ギーを発生させ、モーターを駆動するも 池電気自動車(FCEV)の開発・実 るといわれています。 ーカーが開発に全力をあげています。 にもよりますが、基本的には、走行中の CEVは水素と酸素の反応で電気エネル 用化にも取り組んでいるところです。F えて、究極の無公害車といわれる燃料電 私どもは、さらに将来を見据

することになると思います。
て自動車に関わる環境問題解決を促進
といるでは、のような技術開発に関する、内外の

トを推進する立場にあります。ところで、二○○五年に愛知県で開催ところで、二○○五年日本としており、私は、その二○○五年日本としており、私は、その二○○五年日本としており、私は、その二○○五年に愛知県で開催

舞台に、「自然の叡智」をテーマとして、この万博では、愛知県瀬戸市の里山を

図れるようなシステムをつくっていくつ 効に活用したり、 として位置づけ、生ゴミを資源化して有 ニティ』を体現する特別地域 (実験場 ついてもできる限り再利用、 博覧会開催時には、会場を。エココミュ とする配置計画を考えています。さらに、 にあたっては、自然の地形変更を最小限 にも努めるとともに、展示空間をつくる 体的に提案していきたいと考えています。 生活や文化、さらには産業のあり方を具 もりです。 端の技術を通して、自然環境と調和した 題提起型の知の博覧会」として、世界最先 これまでの「見せる万博」から脱皮し、 の影響を及ぼさないよう、水系の保全 会場の計画にあたっても、森の生態系 生ゴミ以外の廃棄物に 再資源化が

76

二十一世紀はもう目前に迫ってきています。未来の地球に暮らす人々のために私たちが何を残していけるか、何を残さなければならないのかを日々考えています。この美しい地球を守るために私たち産業界が切磋琢磨しながら、二十一世紀的な協力関係を深めながら、二十一世紀をイノベーションによる新しい「発展のをイノベーションによる新しい「発展の世紀」にしていかなければいけないと思っています。

新しい開拓時代を迎えて

のお声をかなりいただく。
仕事柄東京に出かける機会が多いが、

確かに北海道は大変である。創業百年でその幕を閉じた北海道拓殖銀行の話をでその幕を閉じた北海道拓殖銀行の話を一での幕を閉じた北海道拓殖銀行の話を一人消費は低迷し、民間設備投資にも元気し、企業倒産も相次いだ。依然として個し、企業倒産も相次いだ。依然として個し、企業倒産も相次いだ。依然として個し、企業倒産も相次いだ。

最近は、政府の大型景気対策のおかげで公共投資などの一部に明るさも見えてで公共投資などの一部に明るさも見えてっているわけにはいかない。北海道に住っているわけにはいかない。北海道に住きた。しかし、いつまでも公共投資に頼きた。

で、現在に至るまで語り継がれてきた言で、現在に至るまで語り継がれてきた言で、現在に至るまで語り継がれてきた言で、現在に至るまで語り継がれてきた言で、現在に至るまで語り継がれてきた言で、現在に至るまで語り継がれてきた言で、現在に至るまで語り継がれてきた言で、現在に至るまで語り継がれてきた言で、現在に至るまで語り継がれてきた言で、現在に至るまで語り継がれてきた言

葉である。

クラーク博士の就任期間は、わずか九 クラーク博士の就任期間は、わずか九 学校運営や学生達に与えた影響は極めて 学を運営や学生達に与えた影響は極めて 育に不可欠な農場の移管を受けたが、こ 育に不可欠な農場の移管を受けたが、こ れは今の北海道大学のキャンパスであり、 また緑のオアシスとして札幌市民に親し まれている植物園の設置を建議したのも まれている植物園の設置を建議したのも すった。

札幌農学校の前身は明治八年に開校された札幌学校である。日本初の官立農学校であり、官吏が細かな校則を定めて学校であり、官吏が細かな校則を定めて早々これらの詳細な規則を見て"Be, Gentleman!"と叫び、「禁酒」以外の校則を全て廃止させたという。

当時の農学校の学生達は、このような当時の農学校の学生達は、このような経済学などの近代的学問を学んだのであるう。明治十年には、内村鑑三、新渡戸ろう。明治十年には、内村鑑三、新渡戸ろう。明治十年には、内村鑑三、新渡戸

る。今、ここ北海道において従来の固定く若い人達を育てていくことが大事であたと思う。現状にとらわれずに大志を抱だと思う。現状にとらわれずに大志を抱める。今、ここ北海道において従来の固定

泉

(株)取締役会長 北海道電力 (株)取締役社長/現北海道電力

組みである。 組みである。 が、でいりが、そういうがながらついた。 が、ででは、というがはがはがりついが、できでは、というがはがはがりついいが、でいいがは、はいいがは、はいいがは、はいいでは、はいいでは、

「クラスター」とは、ぶどうの房や魚の 「クラスター」とは、ぶどうの房や魚の 技術・情報・資金・人材などの面で連 技術・情報・資金・人材などの面で連 技術・情報・資金・人材などの面で連 技術・情報・資金・人材などの面で連 ために、現在、(財) 北海道地域技術振 ために、現在、(財) 北海道地域技術振 にとなっが中心となって積極的な活動 を展開している。当社も人材の派遣など を通した支援を行っているところである。 昨年は「ビジネスプラン推進モデル事 で通した支援を行っているところである。 昨年は「ビジネスプラン推進モデル事 な通した支援を行っているところである。 で通した支援を行っているところである。

まこ、こうような双う且みこは産をが期待されている。

か期待されている。 の
和
を結集することが不可欠となる。 の
和
を結集することが不可欠となる。 そのための施設「北海道産学官協働セン ター」の建設工事が、本年二月クラーク 専士ゆかりの地、北海道大学構内におい で始まった。国立大学の構内に民間施設 を建設するという全国初の試みである。 この野心的(ambitious)な「産業クラスター創造活動」への認知度は、最近、 中央の識者の間でも急速に高まってお り、有り難いことと感じている。

クラーク博士の蒔いた種がその後の日本を牽引する多くの俊英となって結実したように、産業クラスターという大志をたまうに、産業クラスターという大志をで、北海道の今後の歩みにご期待いただ

地球温暖化問題解決に向けて

近年、環境問題に対する関心が、急速に行われている。われわれの身近なまで、幅広い分野における議論が、盛んか問題」から、「地球環境問題」に至るが問題」から、「地球環境問題」が、急速に行われている。

のに対し、この問題が「企業・行政・国 が現われる前に、予防的な措置を講じて 問題である。これは、二つの側面にお な輸送機関のみならず、われわれが日常 構図にあることである。 民のすべてが加害者かつ被害者」という 産業公害が「企業や行政が加害者であ 度成長時代の大気汚染問題や騒音等の いかなければならない。もうひとつは、 のものに関わるものばかりであり、 害も、一旦現実となれば、人類の生存そ 変動などが懸念されている。いずれの被 の流れが変わることによる気候の劇的な 衰退による砂漠化の進行、さらには海流 ある。海面上昇による国土の喪失、 類にもたらす影響が極めて甚大なことで である。そのひとつは、 が困難と言われているのが、地球温暖化 こうした中にあって、現在、最も解決 国民はあくまでも被害者」であった 人類が直面している最大の環境問題 地球温暖化が人 工場やさまざま 影響 森林

とい課題を突きつけていると言える。 とい課題を突きつけていると言える。 という経済システムに慣す・大量廃棄」という経済システムに慣な温暖化問題は、「大量生産・大量消球温暖化問題は、「大量生産・大量消球温暖化問題は、「大量生産・大量消水温暖化問題は、「大量生産・大量消水温暖化があると言える。

この人類最大の環境問題の解決に向けて、一昨年十二月、京都において、地球て、一昨年十二月、京都において、地球にわたる徹夜の議論の末、二〇〇〇年以にわたる徹夜の議論の末、二〇〇〇年以にわたる徹夜の議論の末、二〇〇〇年以にわたる徹夜の議論の末、二〇〇〇年以にわたる徹夜の議論の末、二〇〇〇年以にわたる徹夜の議論の末、二〇〇〇年以におたるでは、地球温暖化防止という人類共通の目標に向けて、世界各国の認識がひとつに、地球温暖化防止という人類共通の目標に向けて、世界各国の認識がひとつになったことを意味するものであり、まことの意味を表表して、

去の石油危機並みの省エネを毎年実施は、二○一○せられることとなった目標は、二○一○せられることとなった目標は、二○一○のである。六%削減というと、一見たいのである。六%削減というと、一見たいしたことはないように思われるかも知れしたことはないように思われるかも知れるから、気が国に課したことはないように思われるから、人が国に課した。

渡辺 滉

(株) 三和銀行相談役

必要になってくる。発電所をあと二十基程度増設することが、いつ現状五十一基が稼働中の原子力

に何ができるかを真剣に考え、どれだけ 界のみならず、国民一人ひとりが、 自身の問題である」と強く自覚した上で、 この問題を解決していくためには、 いくことは容易ではない。目標を達成し、 がら、温暖化ガスの削減目標を達成して 決の難しさがある。経済成長を維持しな なければならないところに、この問題解 ながら、温暖化ガスの削減を進めていか かしながら、こうしたことに十分配慮し のが、エネルギーの安定供給である。し 可欠であり、この経済成長を支えていく 発展のためには、 さしく経済問題そのものである。 ルギー問題と表裏一体の関係にあり、 した認識を持つとともに、「まさしく自分 このように、地球温暖化問題は、 々の生活において、温暖化防止のため 安定的な経済成長が不 産業 エネ ま

> て重要である。 ・ 生細なことであっても、できることから ・ と細なことであっても、できることから

位の、 て取り組むことが重要である。 すべての国民が、今後とも、総力を挙げ りを一過性のものに終わらせることなく ためにも、 世紀のより良き地球環境を創造していく 波及させていくかについて言及している。 さらには、それをどのように国民全体に 業・行政の取り組むべき具体策を述べ、 ことを認識すべきと強調した上で、企 採択された目標が大変厳しいものである 政・国民それぞれが、「京都議定書」で まとめた。 月、地球温暖化問題に関する提言を取り 会でも、こうした認識に立って、本年二 経済同友会の環境・資源エネルギー委員 地球温暖化問題は、五十年・百年単 私が委員長を務めさせていただいた、 長期にわたる問題である。二十一 この問題に対する関心の高ま 提言では、まず、企業・行

マロニエの頃

この四月に、日立製作所の社長に就任この四月に、日立製作所の社長に就任いたしまして、それこそ北は北海道から、は投拶かたがた、当社の関連営業所を回ら挨拶かたがた、当社の関連営業所を回ら挨拶かたがた、当社の関連営業所を回ら挨拶かたがた、当社の関連営業所を回ら挨拶かたがた、当社の関連営業所を回ら対した。 とりない この本には私なりの思い出がありすが、この本には私なりの思い出がありすが、この本には私なりの思い出があります。

は、ご承知のとおりです。

なの、五~六月に若枝の先に大型の白であり、五~六月に若枝の先に大型の白であり、五~六月に若枝の先に大型の白であり、五~六月に若枝の先に大型の白であり、五~六月に若枝の先に大型の白

で紹介いたすことで、いささかなりとPで紹介いたすことで、いささかなりとPで紹介いたすました。これは、 場大名を冠にいただき、栃木県の親善大県木名を冠にいただき、栃木県の親善大県大名を冠にいただき、栃木県の親善大県大名を冠にいただき、栃木県の親善大県大名を冠にいただき、栃木県の親善大県大名を冠にいただき、栃木県の東善大県大名を冠にいただき、栃木県の東部に、このページのなかのされておりました。このページのなかで紹介いたすことで、いささかなりとPで紹介いたすことで、いささかなりとPで紹介いたすことで、いささかなりとPで紹介いたすことで、いささかなりとPで紹介いたすことで、いささかなりとPで紹介いたすことで、いささかなりとPで紹介いたする。

仕事のひとつです。もあり、この時期に関わった思い出深いす。栃木転勤は私自身のひとつの転機です。栃木転勤は私自身のひとつの転機で

の量産品はまったくの初めてでした。の量産品はまったくの初めてでした。ところが、私自身は、昭和三十ります。ところが、私自身は、昭和三十四年に電力設備機器の設計・製造を行四年に電力設備機器の設計・製造を行四年に電力設備機器の設計・製造を行四年に電力設備機器の設計・製造を行四年に電力設備機器の設計・製造を行の経験しかなく、単品かつ大規模な設備という。

なにせ生産体制がまったく違う。戸惑うこと、驚きの連続でした。少しでも油うこと、驚きの連続でした。少しでも油筋をすれば、それこそ何千何万の製品不良がどんどん出てくる。量産品の怖さを良がどんどん出てくる。量産品の怖さを良がとんだんとんでもない話です。やはり自まったくとんでもない話です。やはり自まったくとんでもない話です。やはり自まったくとんでもない話です。やはり自まったくとんでもない出てきたりもして、お客様のことを無視した考えが出てきたりもした。あったのだろうと、このチャンスを与えていただいた幹部に感謝しているしだいです。工場では不良に対する考え方を根です。工場では不良に対する考え方を根です。工場では不良に対する考え方を根です。

庄山悦彦

(株) 日立製作所取締役社長

本的に変え、品質保証部門の強化を行

といえば、まるで重電担当時代は、事 といえば、まるで重電担当時代は、事 を表示して、今やスピードの時代です。 家電時代もまさに同様でした。 その家電部門を担当して早くも十数年 たちまして、今やスピードの時代です。 にていただいたという思いでいっぱいです。 家電時代もまさに同様でした。 その家電部門を担当して早くも十数年 たちまして、今やスピードの時代です。 だ、お客様に選ばれる会社たろうとして ば、お客様に選ばれる会社たろうとして おります。初心忘るべからず。先人・先 おります。初心忘るべからず。 まの熱い思いや経験・知恵には耳を傾け ることが必要だろうと思います。この八 ることが必要だろうと思います。この八

月に『ひとの日立・日立のひと』という読み物を上梓いたします。これは三百人ほどの先輩、同輩、従業員のインタビューを中心に編集した社史ですが、このような熱い思いを次の世代に伝えることができればということから作成したものです。皆様にご紹介できる機会があればとす。皆様にご紹介できる機会があればとも考えております。

ものの本によれば、マロニエの花言葉ものの本によれば、マロニエの花言葉ない、いやいや、あるいは健康であるこない、いやいや、あるいは健康であることが今の時代には何よりの贅沢なのかもしれない、と思い、身を引き締めるこのしてす。

しい環日本海交流をめざして

り知られていない。
と盛んに交流が行われていた歴史はあま約二世紀にわたり北陸を拠点として大陸約二世紀にわたり北陸を拠点として大陸のがる回廊である。今から千年ほど前、ながる回廊である。

八世紀から十世紀にわたる渤海王国との交流がそれである。渤海王国は、諸民の交流がそれである。渤海王国は、諸民に、九二六年に滅亡したが、今のロシ生、九二六年に滅亡したが、今のロシェ、九二六年に滅亡したが、今のロシェ、カ二六年に滅亡したが、今のロシェ、カニ六年に滅亡したが、今のロシェ、カニ六年に滅亡したが、今のロシェ、カニ六年に、大世紀から十世紀にわたる渤海王国との交流がも盛んに行われていたと推測される。

当時、この渤海人を受け入れるため石川県の福浦に能登客院、福井県の敦賀に川県の福浦に能登客院、福井県の敦賀に松原客館が設置され、富山県の伏木には松原客館が設置され、はるばる奈良の渤海語学校が開設され、はるばる奈良の都からも学生が学びに来ていた。また、この時期に越中国守として万葉集で有名な大伴家持が赴任しており、都では菅原道真らが渤海使の応対にあたっていた。 同時代の遺唐使の十五回の派遣に比べてもかなりの文化経済交流があったと推測されるが、このことが現在の歴史教科書されるが、このことが現在の歴史教科書されるが、このことが現在の歴史教科書されるが、このことが現在の歴史教科書されるが、このことが現在の歴史教科書

念に思っている

「温故知新」という言葉があるが、日本海沿岸の中央部に位置し早くから大陸本海沿岸の中央部に位置し早くから大陸との文化経済交流を踏まえて、北陸を拠点い友好の歴史」を踏まえて、北陸を拠点とした二十一世紀の新しい環日本海交流の先導的役割を果していきたいと考えている。

特に北陸地域においては、豊富な水量が栄え、これをベースにして日本海側随が栄え、これをベースにして日本海側随が栄え、これをベースにして日本海側随いが、かける急峻な河川が水力発電の恵みを上げる急峻な河川が水力発電の恵みを

80

本年三月に閣議決定された北陸地方
で流を先導し発展を遂げることが打ち出
交流を先導し発展を遂げることが打ち出
交流を先導し発展を遂げることが打ち出
でれているが、やはり三大都市圏を後背
地に持ち優れた工業技術集積を誇る北陸
地に持ち優れた工業技術集積を誇る北陸
地に持ち優れた工業技術集積を誇る北陸
が可能性が評価されたものであろう。今
の可能性が評価されたものであろう。今
が交流を促し、既存産業の高度化や新産
精交流を促し、既存産業の高度化や新産

山田圭

北陸電力(株)代表取締役会長

連携・交流を盛んにするためには、その背景として、まず国内の高度交通通信の背景として、まず国内の高度交通通信の背景として、まず国内の高度交通通信を新幹線のフル規格全線整備により骨格を固め、太平洋側と日本海側を縦断する高速道路網整備により筋力を強化し、時間と空間の制約を取り払う情報ネットワークという神経系統を張り巡らすことにより、隣接地域や三大都市圏とのつながりを深める。

上輸送ネットワークの拠点として多目的海上交通については対岸貿易における海港の機能強化が望まれるところであり、とともに、国際交流拠点となる港湾・空とともに、国際交流拠点となる港湾・空

との気運が大いに盛り上がっている。

国際ターミナルを整備し、航空について国際ターミナルを整備し、航空については既存空港において路線網の拡充など使い勝手のよい空港機能の充実を図ることが急務である。これらの施策により、人・が急務である。これらの施策により、そこで付物・情報が北陸地域に集まり、そこで付加価値を高め、さらに対岸諸国に向かうという環日本海交流のゲートウェイとしての機能を存分に発揮することができる。先達が築き上げた北陸の資質の魅力をさらに高め次世代に引き継いでいくことさらに高め次世代に引き継いでいくことさらに高め次世代に引き継いでいくことが私たちに課せられた使命であり、来るが私たちに課せられた使命であり、来るが私たちに課せられた使命であり、来るが私たちに課せられた使命であり、来るが私たちに課せられた使命であり、来るが私たちに課せられた使命であり、来るが私たちに課せられた使命であり、来るかる活気あふれる地域作りに貢献していて国際ターミナルを整備し、航空について

行器包装り 広一に思う

用されるというわけだ。 以来、アルミ、スチール、紙パックなど が完全施行の運びとなる。九七年の成立 る一般の樹脂や紙の容器包装に同法が適 は自主循環に弾みがつき、 事業が既に開始されている。 は同法適用の下、分別回収と再商品化の 来年四月、 ・再商品化の最大の難物とみられてい 「容器包装リサイクル法」 ビンやPET いよいよ分

失う。 である。 をどうしても付けておくべき重大な課題 るべき二十一世紀に向けて、解決の道筋 五千万トン、十年足らずで全土棄て場を 廃棄物の問題は、全国民が協力して来 毎年の処理費用一千億円。 日本中の一般廃棄物だけで年間

開けてしまった後は何かに利用できない 済学的に眺めると、 事前的には、 同時に、 何かと貰い主の心を弾ませる効用をもつ。 リボンの類は贈物の価値を高め、 て相反する二面性をもつことに気づく。 合ゴミ箱行きとなる。 かと思案の揚げ句、 で飲食物や日用品に不可欠の財であると 廃棄物の観点から容器包装の問題を経 中身を費消してしまい、 プレゼントなどの箱や包み紙、 勿論中身の保全という機能 財の価値や効用とし 所詮はほとんどの場 即ち容器包装は、 贈物を

なる。 事後的には、 価値、

能すべきところ、市場は外部不経済に対 看過できないマイナスの価値をもつ。 許容されるのは外部不経済というわけだ。 伴わないマイナスの価値の財サービスが 来このコストを市場が内包するように機 まれず、しかし社会的インパクトとして は外部経済という。 われる所以である。 経済活動の市場メカニズムの中に組みこ 無料で心豊かになる効用を享受できるの しては無力である。 お隣りの桜を垣根ごしに他人が眺め、 その反対に、費用を 「市場の失敗」とい 本

困難だ。 規制がなければ外部不経済のコストを予 度が出来上がり、 確保のため一銭でも少ない費用で商品を が当然のこととして公害防止の費用を企 の失敗」 水俣病やイタイイタイ病など人々の生命 め内部化し、 大きな社会問題となった。企業は競争力 や健康の貴重な代償の上に公害規制の制 上がり競争に負けてしまうからである。 かつて日本の高度成長期、公害問題が そうすることによってコストが 苛酷な市場競争に臨んでいる。 は矯正された。 商品原価に織り込むことは 資本主義のもつ「市場 今日ではだれも

効用のない不用物と

用は第一義的には生産者が負担し、最終 することが肝要である。そして、その費 が、 業の道義的、 者に価値転嫁が行われる。 的には商品サービスの使用者である消費 市場メカニズムの中にその費用を内部化 廃棄物問題も同様の性格を有する。 何よりも「市場の失敗」を矯正して

技術開発をおいて外にない。 うになければ生産者が費用をもつことに 「優れ者」の所以であり、競争に勝てそ 市場メカニズムの社会的装置としての みこみ、利益を確保できる「魔術師」は、 る。費用を増嵩させずに外部不経済を呑 る。解決の鍵は技術革新ということにな なる。そうなれば企業の利益が圧迫され ズな転嫁は行われるであろうか。そこが しかし、今日の激烈競争の中でスムー

廃棄物問題の一番の眼目は、 いうまで

高橋達直 ライオン (株) 取締役社長

業の費用に内部化して原価を算定してい

る。

社会的自覚も大事である

もなく廃棄物の抑制 (リデュース) であ

> る。 うとするもので、大型家電の廃棄物処理 まぬ国の施策として評価できる。 完全施行される前述の法律はこの二つの 目的を市場メカニズムの中に内部化しよ のシステムなどとともに、公害の轍を踏 (リサイクル)も重要な目標となる。 と同時に排出された廃棄物の循環 今回

後の消費者 (分別排出)、 政府の責任は重い。 実行力にかかるわけで、 に高めてゆかねばならない。 回収)、生産者 (再商品化) しかし、これが成功するか否かは、 全国民的な運動 自治体(分別 その意味で の心構えと 今

を入れ、細い紐で縛っただけで渡された。 きれいな包み紙やリボンが欲しければ有 と、ペラペラのボー 住んだことがある。 場の失敗」を矯正 料だという。当時 無さを嘆いたものだが、この精神こそ「市 知れない。 かつて三十年も は連中のデリカシーの 則に米国ミシガン州に するものだったのかも ル箱に無造作に商品 贈物など買いに行く

親業の記

■土曜・日曜は辻堂の畑

の孫がいます。 三男のところが男二人で、あわせて九人 男が女二人、仙台にいる次男が女二人、 ところが男の子一人、次女は男二人、長 供が五人いるんです。孫は一番上の娘の 私のところは、娘二人と息子三人、 子

年中水温が十四度。電気の値段の方が水 それで深い井戸(百十六メートル)を掘 ず辻堂に行くんです。庭が広いものです とは全部別々です。ただ土曜、日曜は必 使っています。風呂場だけは一緒で、 階と三階に長男の家族、一階を私たちが ったら、モーターが止まってお手上げで の値段より安いんです。でも、停電にな って、その水を使っているんですが、 ろのため、水道の水が上がってこない。 いし、日当たりもいいんです。高いとこ いところなので、夏は風通しがとてもい ではなく、山側の五十メートルばかり高 えたりしています。辻堂といっても海岸 から、そこで野菜をつくったり、花を植 今は長男と一緒に住んでいますが、

言っては孫たちがしょっちゅう下にくる いますが、「いちごをもらったから」とか 息子の家族と上と下に分かれて住んで

> ているような感じです。 んです。私など、孫たちに使われちゃっ

多いものですから。 ス。孫たちはプレゼントを決めていて、 やかなものです。頭が痛いのはクリスマ みんな集まったんですけど、なかなか賑 カメラがいい」という調子で注文ばかり テープレコーダーの大きいのが欲しい」 先日も家内の喜寿の祝いで子供たちが

■サンタクロースが間違えた

幼稚園の時分ですが、そのときのプレゼ のうえに本を一冊置いてきた。 ので、急いで机を部屋に運び込んで、そ う」。私たちは屋根裏にひそんで、子供 ントが机。二人で物語りしているんです。 してなかなか寝つかない。やっと眠った たちが眠るのを待っていたんですが興奮 「どうやったら煙突から机が入るんだろ 仙台にいる頃、長女が小学生、次女が

さい」と本屋へ行ったそうです。 取り替えてくれるよ」と。「サンタクロー こで、「サンタクロースも本屋から持って スが間違えちゃったので取り替えてくだ 知らなかったんだ、どうしよう」。私はそ の本、私持っている。サンタクロースは きたんだろうから、本屋へ行けばきっと 翌朝娘たちが大騒ぎをしている。「こ

茅 誠

東京大学名誉教授・日本学士院会員

■お父さんに育てられた

くだって行ったんです。すると登ってき 背負って、娘二人を両手に引いて、山を 山がありますが、まだ小さかった長男を 行きました。札幌に三角山という小さな 正しておいてくれといわれましたけど。 父さん」なんて答えたら大変だから、 れたんだよ。その証拠に、お父さんのお た人が「親って大変だなあ」と。 入学の面接で「誰から生まれたの」「お 飲んじゃったからだよ」。家内に、小学校 っぱい小っちゃいだろう。お前がみんな 言ったんです。「お前はお父さんから生ま これは札幌にいる頃の話ですが、娘に その頃は子供たちをよく散歩に連れて 訂

82

いる。そしたら隣の人が「親ってありが に石鹸を塗って洗ってくれるのを待って れて行きましたら、いつものように体中 東京へ来たばかりの頃、子供を銭湯に連 風呂にはよく入れてやってたんです。

られたという記憶はあるけど、お母さん 娘たちが言うんです。「お父さんに育て

持たざるものの喜び

に対してはあまりそういう感じがない」。

よ」と自慢しているんです。(談) うか。今は大根です。二股、三股とユニ はダメでした。雨が多かったせいでしょ ときのうれしさは、 敗だったと思ってます。私の小さい頃、 代は、持てるものの悲しみ、と言えます。 知ることができない。人間には飢えと渇 えって不幸で、満たされたときの喜びを りません。満ち足りているというのは、か 幸福はものの豊かさで計れるものではあ 最も大きな違いは、ものの豊かさです。 トマトを植えるんですが、今年はトマト 本は何冊もなかった。新しい本を買った に何十冊と買ってやったこと、あれは失 が必要ではないかと思うんです。 - クな大根ができ、 「うちでつくったんだ 辻堂の庭には、春はナス、キュウリ、 だから、息子に、岩波少年文庫を一度 私が子供を育てていた頃と比べて、今 -ハングリー・エンド・サースティ 大変なものでした。 今の時

(一九八八没)

秋のひびき

い関係があるらしい。 われている様に、どうやら秋と音楽は深に、うらがなし……』等と、詩にもうたに、みの日のヴィオロンの音、ひたぶる

歌など口ずさみたくなるのだろう。歌など口ずさみたくなるのだろう。

実際、音楽を演奏する側にとっても、実際、音楽を演奏する側にとっても、その他が、身体に良い影響を与えるのもその他が、身体に良い影響を与えるのもさる事ながら、楽器にも非常に良い結果さる事ながら、楽器にも非常に良い結果さる事ながら、楽器にも非常に良い結果さる事ながら、楽器にも非常に良い結果さる事ながら、楽器にもりも禁物で、ジメジメした梅雨時は、板をはりつけていメジメした梅雨時は、板をはりつけている、にかわが溶けて来て、はがれる事すらある。

しく、普段あまりパッとしない演奏家が、のオーナーは、保管に、細心の注意を払の就だが、何といってもあのヨーロッパう訳だが、何といってもあのヨーロッパの大きに、どうも日本の気候は苦手らいにとって、どうも日本の気候は苦手らい、何といってもあのヨーロッパの対した。

とても自分の楽器とは、思えない程すばとても自分の楽器とは、思えない程すばとれもみなすべて、湿度との関係にあるこれもみなすべて、湿度との関係にあると思われる。

同じ弦楽器の三味線や、琴も、湿気の少ない秋には、良い音がすると思われる少ない秋には、良い音がすると思われる少ない秋には、良い音がすると思われる少ない秋には、良い音がで、皮の部分を三十をする前に、電熱器で、皮の部分を三十分程あたためているのをよく見かけるが、それもみな、湿気を取り除いて、より澄んだ音を出そうとしているのであろう。まあ、良い音楽を聞いたり、おいしいまあ、良い音楽を聞いたり、おいしいまあ、良い音楽を聞いたり、おいしいまあ、良い音楽を聞いたり、おいしいまあ、良い音楽を聞いたり、おいしいもなが、我々、作家にとっては、なんともるが、我々、作家にとっては、なんともるが、我々、作家にとっては、なんともれまでは、ほとんど、寝るひまもないという有様である。

紅葉狩りとか、行ったこともないな。そういえば、ここ何年か、栗拾いとか

服部克久

作・編曲家





四十年越しの宿題

人の伝記をみると大てい高等学校の頃に、トルストイやドストエフスキーなどに、トルストイやドストエフスキーなどを読んでいるようだ。どういう本でも、読むには、それに適した年齢というものがある。人間の精神の伸び盛りの時に、このような本を読んだ人と読まなかった人とでは、その後の人生に多少の差を生じるかも知れない。

平和』なら(五)と(七)だけといった でに老婆殺しはとっくに終った後で、ラ 塩梅であった。『罪と罰』を読んでも、 罰」であれば(三)だけとか、『戦争と 売れ残っていたが、それも端本。 はなかったように思う。改造文庫は少し どんなつまらないものでも本屋の店頭に りそうなものなのに、どこへかくれてし ぞやという深刻な問題になやむような ない問答をしているところがでてきた。 スコーリニコフと判事とがわけのわから まっていたのだろう。岩波文庫などは 新本でなくても、古本であれば手にはい が大きかった。今のように本が溢れてい も戦争中で本がないという物理的な原因 たちでなかったこともあるが、それより 読まなかった。それは、私が人生とは何 る時代には、想像もできないことである 私はこうした青年の必読書をほとんど 『罪と

> でも買えるようになったが、長い面倒なでも買えるようになったが、長い面倒なでも買えるようになったが、長い面倒なでも買えるようになったが、長い面倒ない。 でも買えるようになったが、長い面倒ない。 でも買えるようになったが、長い面倒ない。 でも買えるようになったが、長い面倒ない。 でも買えるようになったが、長い面倒ない。 でも買えるようになったが、長い面倒ない。 でも買えるようになったが、長い面倒ない。 でも買えるようになったが、長い面倒ない。

ドストエフスキーから読みはじめること 圧迫感をおぼえた。しかしとにかく私の 生命の方が消滅しそうだと思ったら少し る。十万円分の知識も吸収しないうちに、 でも八年間、二月一冊なら十六年間かか 学大系九十六巻を手にいれた。古本価格 気持ちがおきてきた。筑摩書房・世界文 くして読まなかった本を読みたいという ラス会への出席率が高くなるようなもの る。 十歳代以来の宿題であったトルストイ、 ことがないものばかりだ。月に一冊読ん で十万円あまりである。ほとんど読んだ てくるものであろうか、若い頃に読むべ だが、人間の精神は不思議なものであ 歳をとると、中学校、高等学校のク 或る年齢に達すると懐旧の心が湧い

の構成が実にガッチリしていることであ読みはじめて、まず感心したのは、そ

金森久雄

現(社)日本経済研究センター顧問(社)日本経済研究センター理事長/

惜しい程であった。最後には、激しい運 馴染となって、話が進行して別れるのが 争と平和』は二週間ぐらいかけて読んだ。 として、或る意味では実在の人間らしく ロストフ、ボルコンスキー、クラーギン、 しい側面があることを描いてみせた。『戦 ドストエフスキーは人間に別の真摯で美 のだと思っていた。しかし、トルストイ、 たい。現実の人間というのはそうしたも つかったり、ずっと雑然として把握しが なことに、おこったり、喜んだり、 ない。私達の周囲に居る人達の方が些細 これらの小説にでてくる人間は、 らくのはっきりしない瓦礫が一つの大建 ベズーホフという四つの家族とすっかり 造物にまとまった。次には人間である。 った。昔、端本をとび読みし、前後の段 唯一人 気を

いるのであろうか、楽しみだ。 る。この中にどのような人間が存在して 系九十六巻中九十巻程はまだのこってい 今の私には一番ふさわしい。世界文学大 シャの如き愛すべき女性が身近にいれば 間が周辺に居たらやりきれない。ナター スコーリニコフのような半精神異常の人 接本物にぶつかって人間を知るのが一番 安心もし、がっかりもしたのである。 ターシャが平凡な主婦、母親となるのに 平凡で平和な生活がおとずれ、可憐なナ 命の浮き沈み、さまざまな苦しみの後で、 おして、安全に人間を知る程度のことが 家庭争議の種になりかねない。書物をと いいのであろうが、それは厄介である。ラ あるのは、人間である。本当であれば直 このようにして、私にいま一番興味

84

弱者の場所

四歳になる父を連れて東大病院へ行った。あきらかに混むであろう連休明けに行かなくてもよさそうなものだが、デパートに買い物に行ったわけではない。父のんで出かけて行ったわけではない。父のに交換しなくてはならないし薬もきれている。どうしても行かなくてはならないし薬もきれている。どうしても行かなくてはならなかったのだ。

他の患者さんにもみんな似たような理由があるのだろう。覚悟はしていたがます玄関に、いつもは十台位ある車椅子がりと三階へ。再診の手続きをする事務セリと三階へ。再診の手続きをする事務セラやくカルテをもらって、診察してもらうまでが又行列。終って一階の会計センターへ。名前を呼ばれるまで、空席どころか立って待つ所もない。

というないのである。 そしてやっと手にした薬の引き換え券を持って今度は地下の薬剤部へ。 五月からシステムが変りましたと、ややこしいた変。 それでも父には、幸いに車があるし、運転出来る娘が付添ってくれるし、 しかも家から十五分位で来ることが出来しかも家から十五分位で来ることが出来

げるくらいの事しか出来

はしない。

るからいいようなものの、付添ってくれるからいいようなものの、付添ってみたらどもの悪い身体で、三階だ一階だとかけまんなにつらいだろう。

てあげたり、 勇気があれば、そんな方達の分も全部引 老人で、 間は迫るし、 ところ私だってくたくただし、仕事の時 き受けてあげたいとさえ思う。 腰が曲って、二人で支え合ってかろうじ 血圧が高いから、ホント目がまわるよ。 まわるよ、病人の来る所じゃないよ全く。 て歩いている組もある。 無理だと思われる方も多く見受ける。友 中には歩行困難の方、 やいていた。。こんな、 口している組もあれば、 っち行ったり、上ったり下ったり、目が 人だろうか付添っている方も同じような となりに並んでいた初老の紳士がつぶ どこか悪いから病院に来る人ばかり。 せいぜい、 早くすませたいと思っているので わけが判らずただ二人でウロウ 白い杖の方の腕をとってあ 人をおしのけても早く坐り とても一 落ちたステッキを拾っ あっち行ったりこ 目の不自由な方、 私に力と時間と 夫に付添う妻も 人では手続きは でも実の

坪内ミキ子

連休明けは確かに普段の何割増かは混むしタイミングも悪いが、平常時だって、 病院という所は、いつも混んでいて、手 続きがめんどうなものと相場が決まって いる。東大病院に限らず、私の経験した いる。東大病院に限らず、私の経験した 大病院は大体似たようなシステムであり、 大病院は大体似たようなシステムであり、 大病院は大体似たようなシステムであり、

弱者の最も多く集まる病院ですらこうである。何らかのハンディキャップを持である。何らかのハンディキャップを持つ身になったと仮定して、今の社会をながめてみると、。あなた達の出て来る所じゃない。家に引っこんでいなさいよ。という街のコーラスが聞こえて来そうである。超高層ビル、延々と広がる地下街、高速道路……みんなこの国の繁栄を象徴で、身障者や、病人、老人には無縁なのではないだろうか。

けるだろうか。 聴力も視力も衰え年老いたとき、世の中 せまい家の中に閉じこもっているより仕 ければホテルにも行かれない。 ぶ駅、自動エレベー 車。乳母車や車椅で から隔離されて毎日を送る事に耐えてい ンだけ鳴らしてスピードを出して走る車、 方ない。私は今幸いに健康だが、 い歩道橋、物云わぬ自動販売機だけが並 細い道でもおかまいなしにクラクショ 子ではとうてい渡れな タ -の操作が判らな やっぱり、 やがて

医学の進歩で確かに寿命だけはのびたが、ただ生かしておけばいいというわけが、ただ生かしておけばいいというわけのものでもないと思う。これからは益々命に合せて、それを受け入れる「社会」という器をも何とか形を変えていくべきという器をも何とか形を変えていくべきのです。

筑波の水車

今、私は勤務の関係で筑波研究学園都市で過ごす時間が多い。実はこの筑波という土地は、食文化果つるところ。で、食べものだけはロクなものがないのが私の不満のタネだった。ところが最近になってその考えを覆すようなものをすこしばてその考えを覆すようなものをすこしばこの間本誌のアンケートにも記したように、水車でそばをひく粉屋さんを発見した。なかでも最大の事件は、たことだ。

現在の筑波は、実に不思議な様相を呈している。見るからに索漠たる原野の中に立派な近代的構造物が立ち並び、先端は布による研究施設と研究者とを集結させた日本でも他に例を見ないテクノポリスとともにうっそうたる屋敷林の中に極端に古い世界を今なお維持した農村地帯が共存している。

先述の粉屋さんは、農村地帯の奥深く、筑波山の中腹にある。先方の迷惑にく、筑波山の中腹にある。先方の迷惑になっても困るので、所在地その他は名を秘すが、筑波の峰から流れる水で水車をかけてそば粉ひきを行っている。もともかけてそば粉ひきを行っている。もともかけてそば粉ひきを行っている。もともとは江戸時代末期に農家が副業として始めたことなのだが、現在はもう数えるほどしか残っていない。これはまことに生どしか残っていない。これはまことに生

産性の悪い仕事で、一日フルに水車を稼 を上のと想像を絶する手間のかけように あさせてもひけるのはたった二○キログ このそば粉を少しずつ買っては自分でそ ばを打ち、食べている。大量生産の食品 がを打ち、食べている。大量生産の食品 りまる。

昔から、 分割、 れは、 には、 世界がそのまま今日に至っている。 始んど影響を被らず、 歩村に入れば、 とができる。 にはゆるがせにしないことだ。この地は ねのけている部分をたくさん見つけるこ この、 一皮むけば、 少し他とは違った特徴がある。 統合を繰り返してきたのだが、 独特の価値観をもち、それを容易 さまざまな支配者が入れ替わり、 もともとからの そうした政治的変動には 近代化の波を軽々とは 何百年も変わらぬ 筑波の地域社会 そし そ

情で、どう見ても、野暮なオッサン。でたとえば非衛生的というイメージなどが低合いそうだ。進歩発展とは無縁で、現似合いそうだ。進歩発展とは無縁で、現がにもセンスの悪そうな世界に見える。がにもセンスの悪そうな 世界に見える。

のだ。

そのように磨きぬかれた感受性と、

山城祥二

- | 葉工業大学教授 山城組組頭・筑波大学講師/現山城組組頭・千

えよう。 夏、屋敷林に囲まれた家の中で、戸を開 最高に美しい屋敷なのだ。 そして、そ 知した上でよくよく見てみれば、そこは 者とは全く違うわけだが、この違いを承 どを巧みに統合することによって、 を回すのではなく、樹木や家のつくりな けひろげて昼寝する心地良さなどは、 ろな樹木と茅葺きの家とで形成された、 んでいるのは、欅、 しかない。 おそろしく洗練された美しい世界である る。要するに価値の基準が新参入の都会 とり紙が健闘している、という状況もあ が快適さを運んでくる。ところが、 が国で味わえる最高の境地のひとつとい スタイルの快適さはたとえようもない。 にはるかに及ばぬほど水準の高いものな を自認する学者、研究者たちが、 ことがわかる。そこに住む人々の美意識 ではごはんの囲りにハエがたかり、 の "人為的な自然"の中に生きるライフ そのまわりにうごめく最高の文化人 閉め切った部屋の中でエアコン ところが、そうした人々の住 杉、竹などのいろい 自然 ハエ 一方

> ろが、 そば粉ならまだしも、 度経済成長など、幾多の変化をもはねつ それを支えるソフト・ 足できない人々の目に、 ない。水車でひいたそば粉でなければ満 注目してよいのではないだろうか。とこ 生産体制を支えき と食べている先生方の姿はどんな風に映 で贅沢三昧の生活を送ってきた人々 のがたくさん入った当世風のそばを平然 つ需要が、明治維新から戦争、 っているのだろうか。 ついに今日まで水車によるそば粉の 新住民たちは全くそのことを知ら ってしまったことは、 そば以外の混ぜも テクノロジー 製粉機で作った 戦後の高

この水車でひいた新鮮なそば粉を使い、この水車でひいた新鮮なそば粉を使い、より、水の一滴も入れず、大の男が力をこめて打ったそばは目がくらむほどうませても驚嘆して、「なぜこんないいものが消え、ニセモノが出回っているのか」ということになる。皆さん、このそばの話、どう考えますか?

立春のワイン

おたくしごとで恐縮だが、私は二月四日に生まれた。戦前や戦中には、節分や立春のことばかり頭にあったように思う。 立春のことばかり頭にあったように思う。 が戦後しばらくしてから、この日に思う。 が戦後しばらくしてから、この日に思る。

孫たちの歌にヤニさがって、相好くずしながらケーキのローソクを消す今日こしながらケーキのローソクを消す今日このごろだ。そんな固いことばかり考えてのごろだ。そんな固いことばかり考えてものの、今年もまたなんとなく、それを思い浮かべてしまった。ソ連領内クリミ思い浮かべてしまった。ソ連領内クリミとだ。ソ連の対日参戦に関する秘密協定とだ。ソ連の対日参戦に関する秘密協定とだ。ソ連の対日参戦に関する秘密協定とだ。ソ連の対日参戦に関する秘密協定とだ。ソ連の対日参戦に関する秘密協定とだ。ソ連の対日参戦に関する秘密協定とだ。ソ連の対日参戦に関する秘密協定とだ。ソ連の対日参戦に関する秘密協定とが、その全容が昭和二十二年三月はいたが、その全容が昭和二十二年三月はいたが、その全容が昭和二十二年三月はいたが、その全容が昭和二十二年三月はいたが、その全容が昭和二十二年三月はいたが、その全容が昭和二十二年三月はいたが、その全容が昭和二十二年三月はいたが、その全容が昭和二十二年三月はいたが、その全容が昭和二十二年三月とはいう。

力を過大評価していたとはいえ、スターリンの歓心を買わねばならなかったのか。なぜルーズベルトはあそこまでスター

リンに対し「ドイツ降伏後二ないし三ヵ月で対日参戦」を要請し、その条件として帝政ロシアが日露戦争で失った領土、ある。千島、南樺太、旅順、大連、満ある。千島、南樺太、旅順、大連、満めまで……。ソ連は対日戦わずか一週のだった。

構 関にならぬよう最大の努力を払った。ヤ ルタ会談の前年のダンバートン・オーク 十年間、平和を維持できるような国際機 にしても、 った。 譲歩して三票 任理事国の拒否権となり、後者はソ連が ス会議でも、大国が拒否権を持つことや、 人が生きている限りは」 リンの強引さは異様に思えた。「この三 ソ連邦十六カ国の存在を理由に総会での 十六票を要求した。前者は安保理の五常 戦後の世界機構 ソ連は戦後の国連が米主導型の反ソ機 実際の国連の姿を見せたいくらいだ。 とか調子のよかった三人を呼び戻し ルーズベルトの甘さとスタ (米国は (国連) 一票)となって残 とか「むこう五 の設立問題

界一の最長不倒距離を誇るが、当時は三コ現外相だ。外相歴四半世紀以上、世そこに暗躍したのが、ご存知グロムイ

中村

朝日イブニングニュース社代表取締役社長

十代後半の駐米大使であった。ルーズベルトに従ってヤルタへ行った米国務長官ステチニアスの回顧録を戦後しばらくして読んだ。「九月八日朝、私はグロムイコを大統領の"寝室』に案内し、ダンバートン・オークス会議での米ソ見解の相ルトはソ連の大使をベッド・サイドにまが招じ入れたのか、と驚いた。

条項の削除すら、ついぞ陽の目をみない をいたら奇矯に聞こえるだろうか。国連 がいたら奇矯に聞こえるだろうか。国連 の手直しは何度も叫ばれながら、日本や 方式改正案も、つねに原加盟五大国の拒 を権にさらされた。憲章の旧枢軸国警戒 を権にさらされた。憲章の旧枢軸国警戒

でいるのだ。

政治は国連、経済はIMF体制でというのが戦後の国際秩序だった。政治体制の硬直空洞化にくらべ、経済体制の方はを要通貨国G5やG10の会合も立派に主要通貨国G5やG10の会合も立派に主要通貨国G5やG10の会合も立派にをすすみ、途上国の累積債務にからむ世機能している。出資額や融資ワクの拡大を対している。出資額や融資ワクの拡大を対象を発行を機回避の道もみえてきた。

えながら誕生祝いのワインを飲んだ。ムスバーグで開かれる。今年で九回目だ。ムスバーグで開かれる。今年で九回目だ。正国首脳会議も、五月に米国のウイリアを取らいりで開かれる。今年で九回目だ。

No.16 1983.3

(一九九三没)

酒!酒!酒!

大酒飲みばかりといわれた兄弟のなかに、たったひとり、まったく酒をうけつけない男がいた。その夫の妻は、夫の兄弟の生きかたと若死のさまを目のあたりに見て、自分の子供たちに酒を禁止した。その禁止は、あまり効果がなかったらしい。三人兄弟の子供のうち二人は、やはり酒を飲んで、四十歳の声を聞くか聞かぬうちに他界した。生きていた母は、悲しみながら間もなく世を去った。

アんだ歳に近づきつつある男がいる。"ソ死んだ歳に近づきつつある男がいる。"ソ悪運強く生きつづけ、還暦もこえ父親のたったひとり、母親の禁を破りながら

と回顧するようになってきた。 れない。 飲んだこと、 るいもない。 時代にふさわしく体力の赴くまま大いに はいつしか消えて、高度成長の時代には、 かの変化が生じてきたことなどを、 となると、 われるかもしれないが、 十年がたつ。 なんていやらしい書き出しだろうと思 母親が死んでから、間もなく四 酒についての趣味にもなにがし どうしてもこのことが頭を離 親不孝をしたという自意識 そして時代や年齢の変化と もうこうなると、 酒について書く いいもわ

若いころはアルコールであればなんで

もよかった。ずいぶん怪しげな酒も飲んだし、あたまの割れそうな二日酔をおこし、そのころは、だいたい日本酒(ときには「地酒」という名の密造酒)か、金であった。「旦那、きょうは梅割りにしますか、ブドー割りでいきますか」という

そのうちに、いつしかウィスキーの水割りが中心になっていった。 いわゆる高度成長のまっただなかのころである。したに翌日にものすごい脱力感をともなるには洋風の食べものが必要なことはまもなくわかったが、日本料理との付き合もなくわかったが、日本料理との付き合めなくわかったが、日本料理との付き合のだ。

田和四十四、五年、高度成長の残映のはえるころだ。鳩山威一郎氏(参議院のはえるころだ。鳩山威一郎氏(参議院のはえるころだ。鳩山威一郎氏(参議院の処理に役立つから」ということで、次の処理に役立つから」ということで、次の処理に役立つから」ということで、次の処理に役立つから」ということで、次の処理に役立つから」ということで、次の地理に役立つから」ということで、次の地理に役立つから」ということで、次の地理に役立つから」ということで、次の地域に

もあった。しかとげな酒も飲ん

橋口

引協会会長・広島銀行相談役全国銀行協会連合会特別顧問/現(財)公正取

れて今日にいたっている。らは、どちらかといえば日本酒党といわう年ごろになっていたのだろう。それか

ではない。 ではない。 日本酒の衰退を嘆いたことも一再足をなじるような文章を書いたこともあいた。 脱面もなく、日本酒メーカーの勉強不

しかしそのうちに風向きが変わってきた。いわゆる地酒ブームがおこってきたのである。わたくしもご多分に洩れず、のである。わたくさん、なんとおいしい酒のあることか。しかも、それぞれの個性をもることか。しかも、それぞれの個性をもって……。おどろきと発見の連続であった。大メーカーの勉強もはじまってきた。らったこともあるし、少なくとも銘柄二らったこともあるし、少なくとも銘柄二つぐらいはおくべきだ、と説いて併用にしてもらった料亭もある。

ばきりがない。焼酎といっても千差万別酒と多様性――これについて書きだせ

のあることか。いがある。そして、なんとおいしい焼酎だ。これほど違うのか、と思うほどの違

葡萄酒について語るのは、おこの沙汰でそれぞれの銘柄ごとに個性がある。ウィスキー、ブランデーだってそうだ。

している。

ある。まだまだ、知識と経験不足を自覚

ただ、日本料理にいちばん調和しない 高級品だろう。それだからこそ助かると もいえる。最高級の料亭で、最上級の日 本料理に芸者さん、それに最高級の赤葡 本料でに芸者さん、それに最高級の赤葡 なっなことになるだろう。

食べ物の恨みは……

考え方は狭くなる一方である。私の興味 と居直っている。 うせそう長くない人生なのだからその中 の対象になるものは歌の世界だけで、ど 働いていた夫を亡くしてから私のものの にのみとっぷりとつかって生きてゆこう 政治家であった父を亡くし、経済界で

を書かせて頂く。 そんな私がいささか憤然とした「二題

御飯を置いてないのが私の最大の不満で 米を常食とする日本人は、ステーキにだ いと願うのは私だけではないと思う。お しいソースはパンよりも御飯をまぶした にまぶしてあますところなく頂く。おい ある。おいしいソースは欧米の人はパン おいしいレストランの九九パーセントは せてくれている。しかし、そのシックで が次々と店をあけて私達を楽しませ喜ば っておしょう油をかけ御飯で食べたい場 この十年、洒落たフランスレストラン

然の如く答える。御飯を置いていないの 店ではライスは置いてありません」と当 を誇りとしているが如き返答ぶりである。 ある。これは爪のついたえびをトマト味 「オマール・アメリカン」という料理が 「御飯ありません?」と聞くと、「この

> リ」(お米)とメニューに出ているのだか さないと決めているのなら、それは間違 る。フランスレストランではライスは出 米の国である日本だけがライス無しであ えられている一品である。それなのにお もニューヨークでも必ずライスが横に添 で煮こんだ料理で、パリでもロンドンで いだ。パリの一流レストランでは「デュ・

ね」と言って残した。 ている味のわかる人だが、「ほんとにそう テレビの料理番組のプロデューサーをし ないわね」と友人に言った。友人は長年 匂いがうつっている。「これあまり新しく でオマール入りのサラダを注文した。さ たオマールになるが、給仕長のおすすめ て食べようとしたらオマールに冷蔵庫の 最近あるホテルで夕食をした。またま

くと動いていた。 ンス人のコックはバットを手に持ってい 嫌を直して食べていると、給仕長がフラ ンス人のコックをつれて現われた。フラ て、その中には数匹のオマールがぴくぴ 次の料理はおいしかったので二人共機

生きているし、あなたの出したオマール に新鮮なのだ」と言う。「このオマールは 「私のあつかっているオマールはこんな

シャンソン歌手/現日本シャンソン協会会長

うと、「いやゆでた。そしてすぐ冷やした」 分ではオマールはゆであがらない」と言 けてからゆでた」と答えた。私が「嘘は あのオマールをいつゆでたか」と聞いた。 区別くらいつく」と私は答え、「あなたは 新鮮ではなくなる」と私は言った。「匂い もかつては生きていただろう。しかし、ゆ きたのは冷たいサラダじゃないか。十五 やめてほしい。注文して十五分後に出て った。「オマールの匂いと冷蔵庫の匂いの がするのはオマールの匂いだ」と彼は言 でたあと長いこと冷蔵庫に入れて置けば 彼は平然として、「あなたの注文を受

と言うのにはあきれて憎しみすらわいて

年になるが、クレームをつけられたのは いるのとはわけが違う」と言った。 なしいからで、あなたの料理に満足して てきたから「それは日本人が親切でおと 初めてだ」と言う。私はしゃくにさわっ コックが去ったあと友人は「皆がフラ あげくのはてに「このホテルへ来て三

胸がスーッとしたわ」と言った。 気になっているのね。やっつけてくれて ンス人だと思ってちやほやするから好 私はいやな気分が胸に残った。

斥候の科学

も斥候を配置しなければなるまい。は本隊から斥候を出すことである。前方は本隊から斥候を出すことである。前方はかりでなく、時には側衛・後衛としていつ敵に襲われるか判らない世界を軍

ったということになるかもしれない。 ったということになるかもしれない。 ったということになるかもしれない。 ったということになるかもしれない。 ったということになるかもしれない。

すのは一切やめにする」
ものはない。今後そんな無駄な斥候を出ものはない。今後そんな無駄な斥候を出ものはない。今後そんな無駄な斥候を出

陥らないとも限るまい。で行進した本隊は、ある日敵の不意打ちで行進した本隊は、ある日敵の不意打ち

のか

あるのなら、なぜ十年前に訴えなかった

義的なのである。情報の確認作業は本隊その情報がどれだけ確実・精確かは第二で本隊に知らせる点にあるのであって、第一の任務は異常な兆候をいち早く掴ん

の将校に任せたらよいのだ。

きて、 前からこうなると思っていたのだ」と胸 証明して得々とする。中には「おれは以 れを誰もが無視している。その反面、 十年も前から起こっていることが多い ても、 という今日の社会で、ますます見失われ 実が、科学が非常な発達を遂げつつある の眼にも問題の重要性が露わになってか から手を打つことができたはずである。そ しっかりした斥候がおれば、ずっと早く 起こっている。そのどの問題を取りあげ を反らす卑怯者もいる。そんなに自信が から次へと思いがけぬ厄介な社会問題が つつあるのではなかろうか。つまり、次 ところが、誰にでも判るようなこの真 急に専門家とか権威者がのりだして たいてい兆候的な現象は十年も二 問題は起こるべくして起こったと 誰

要するに「あとからの講釈」が多すぎるのである。なぜこの類いが多いかといるのである。なぜこの類いが多いかといえば、十年前に訴えて、もしその仮説が外れたら、失脚したり面子を失ったりするのが恐ろしいからだろう。極論すれば

川喜田二郎

川喜田研究所名誉顧問/現川喜田研究所理事長

それでは解決策は、自分の仮説や予測に身体を張れる「勇気ある人間」になれ、に身体を張れる「勇気ある人間」になれ、のだろうか。そんな絶叫を私は何も偽善のだろうか。そんなにもならない。しか的だときめつける気にもならない。しかとがある。

それは、現代の「科学的」といわれる通念が、仮説の証明ばかりを追うていることである。その反面、その仮説をどうことである。その反面、その仮説をどうに科学的」以外のものとしてないがしろに「科学的」以外のものとしてないがしろにしすぎている。つまり将校のおごそかなしすぎている。つまり将校のおごそかなしすぎている。つまり将校のおごそかなしすぎである。

のような道は、未完成ではあるが存在す「科学的」のうちに含めないとだめだ。そ「民候の働き、つまり仮説発想の道も、

を敏感に捉える必要がある。しかし異常例えば斥候は「何だか気にかかる」異常を敏感に捉える必要がある。しかし異常を敏感に捉える必要がある。しかし異常に気づくには、正常さが身についているに気づくには、正常さが身についている必要がある。それには正常さを全体的状必要がある。それには正常さを全体的状必要がある。それには正常さを全体的状必要がある。それには正常さを全体的状必要がある。それには正常さを全体的状必要がある。それには正常さを全体的状必要がある。それには正常さを全体的状必要がある。その全体を特等するデータは、まず定量的以前に定性的でないと困るのだ。

ちう。 こころが今日の「科学的」というのは、 ところが今日の「科学的」というのは、 ところが今日の「科学的」というのは、

翻訳雑感

といったようなニュアンスになってしま 民とすべきであろうが、これは日本側が のが不満だったらしい。より正しくは人 省堂)によると、これが国民と訳された が新憲法制定の時に大問題だったらし しい意味ではなさそうである。 すると人民というと被圧迫民、被抑圧民 難色を示す。たしかに日本語の語感から のではないだろうか。 その語感の中には彼等がうちこわそうと 英語はPeopleよりもNationの方が近く らすれば国民というと、それに相当する して再生させようとしているGHQ側か 前の旧体制をこわして日本を民主国家と い、これもまたピープルという英語の正 している旧体制の影がにじみこんでくる。 こは国民の方がよさそうだが、一方、 た日本語が存在しないということになる これを要するに、Peopleにピタッと合っ "People"を日本語でどう訳すか、これ T・A・ビッソンの「日本占領回想 (トーマス・A・ビッソン著、 三浦陽一訳、 昭和五十八年、 やはりこ 戦

であろう。ソサイエティーが社会というすのに悪戦苦闘したことにも通ずることたちがSocietyという言葉を日本語に訳たれば丁度、幕末、維新の頃に、先人

らいかかり、その間、多くの人がさまざ 訳語に落ちつくまでには、 まの日本語に訳している。「相生養」な のにとも思われるが、これも今となって 訳語を全く新しくつくりだせばよかった 件にことよせて、思い切ってピープルの らって、新憲法の制定という歴史的な事 である。このソサイエティーの先例にな もあったが、これは定着しなかったよう どという表音訳と表意訳とを兼ねた訳語 かであろう。 問題の解決にはならなかったことはたし うした既存の言葉にだけ依存したのでは れにせよ国民としても人民としても、 は詮方のない繰り言になってしまう。 ほぼ二十年く ت 何

福沢諭吉の処女作といわれる「華英通福沢諭吉の処女作といわれる「華英通語」という辞書がある。 和英辞典の話たま神田の古本屋でこれを散見、今、またま神田の古本屋でこれを散見、今、ると、「公」がPublic(ポブリクと仮名ると、「公」がPublic(ポブリクと仮名ある。何とこの字には「オモテムキ」と仮名がある。の字には「オモテムキ」と仮名がある。の字には「オモテムキ」と仮名がある。の字には「オモテムキ」と仮名がある。の字には「オモテムキ」と仮名がある。ある。何とこの字には「ナイシャウ」とある。何とこの字には「ナイシャウ」とある。何とこの字には「ナイシャウ」とある。何とこの字には「ナイシャウ」といる。

林 雄二郎

| 専務理事/現(財)日本財団顧問| (財) 未来工学研究所副理事長・(財) トヨタ財団

あって、現代の語感に近くなる。 座右にあるのは明治十九年版である)に 重である。これが、ヘボンの辞書 日本人の価値観を示すものとして甚だ貴 強く流れていた語感であったのだろうと やはり福沢諭吉の「華英通語」にあらわ とある。当時の言葉の語感からすると、 なると、Public and Private Ko-shiと い、対応する英語の単語といい、 いうことがわかる。 れた語感は、多くの日本人の意識の底に し、NAISHOもあって、Secret, Private いう語が出ていて、Publicと訳してある ヘボンの辞書でもOMOTEMUKIと 当時の もっと (私の

持つ概念に対応する概念自体が、当時の公、私という語感は百年ほど前の時代の公、私という語感は百年ほど前の時代の公、私という語感は百年ほど前の時代の公、私という語感は百年ほど前の時代の公、私という語感は

着しているように。

の新語をつくりだし、 らはどうしても訳語としての新語を積極 とを言っていてはこれからの国際化時代 残しているのではないかと思う。 識の相異という現代的な問題にまで影を るPeopleという言葉をめぐる日米間の認 のことは、 社会、会社、主義、 そうである。ちょうど明治の先輩たちが、 的につくりだしてゆく以外には道がなさ には生きてゆけない。となると、これか を聞いたことがあるが、しかしそんなこ は本当は不可解なことなのだということ どの言語であろうと、翻訳ということ ひいては新憲法制定時におけ などというたくさん それが今日でも定

うことであったのであろうし、そして、そという概念にまで影響を与えていたとい

日本には存在しなかったことが、

公、

乱読と積ん読と

「陽太郎、お前、そんな下らない本ばかり読んでいると、頭が悪くなるぞ。たかり読んでいると、頭が悪くなるぞ。たのころからとにかく本を読むのが好きで、のころからとにかく本を読むのが好きで、のころからとにかく本を読むのが好きで、父の書斎にまで入り込んで、特に小説類父の書斎にまで入り込んで、特に小説類父の書斎にまで入り込んで、特に小説類父の書斎にまで入り込んで、特に小説類父の書斎にまで入り込んで、大菩薩峠』くらいころである。鶴見祐輔の『父』『母』『子』の三部作や中里介山の『大菩薩峠』くらい三部作や中里介山の『大菩薩峠』くらい三部作や中里介山の『大菩薩峠』くらいる様子を見ては、さすがの父もいささかる様子を見ては、さすがの父もいささかいり読んでいるともかく、小学校六年生が石川までならともかく、小学校六年生が石川までならともかく、小学校六年生が石川までは、大きないである。

「小林さん、古典をお読みなさい」――
「小林さん、古典をお読みなさい」――
長からの忠告である。読書についての私
長からの忠告である。読書についての私
れの乱読癖を見抜かれたうえでのアドバ
れの乱読癖を見抜かれたうえでのアドバ
れの乱読癖を見抜かれたうえでのアドバ
れの乱読癖を見抜かれたうえでのアドバ
れの乱読癖を見抜かれたうえでのアドバ
れの乱読癖を見抜かれたうえでのアドバ
なのは言葉は、ぐんと重味のある
もので、ぜひご指南を仰ぎつつ古典の門
もので、ぜひご指南を仰ぎつつ古典の門

る本の量が私の消化能力をはるかに超えと乱読の典型といえる。どうしても求めと乱読の典型といえる。どうしても求めは知らないが、私の読書は、この積ん読は知らないが、私の読書は、この積ん読

藤整訳のローレンス著、かの『チャタレ 塔』、さらには発禁前に買って読んだ伊 正義感を呼び起こされたドス・パソスの トニー・アドバース』、少年時代の社会 感想文の対象となった幸田露伴の『五重 『U・S・A』、中学一年になって最初の めた初めての翻訳本という意味で『アン るが、私の場合は、終戦後、古本屋で求 も面白いと感じれば手当り次第、あわせ ある。また、小説は外国物でも時代物で 部まで占拠し積みあげられている始末で るため、書斎からはみ出して、居間の一 一夫人の恋人」等々、数えあげるときり な部類に入る、という乱読ぶりである。 て政治、経済、 時折、「思い出の深い本は」ときかれ 社会問題等の評論も好き

小林陽太郎

| ロックス (株) 代表取締役会長 | 富士ゼロックス (株) 代表取締役社長/現富士ゼ

い出させてくれたし、またそれ以上に、 た一九五〇年代後半の米国を懐かしく思 墜に加担する話。ハーバード初代総長の 曽孫が主たる語り手になって展開される ー長官の右腕に、さらにはその権力の失 国務省の高官に登りつめ、キッシンジャ みと喜び、ソ連からの移民が努力の結果 もの。ユダヤ系米人のルーツ発見の苦し ニオンを迎えるまでの人生模様を描いた 自身が一九五八年のハーバード大学卒 シーガルの『クラス』が面白かった。彼 時代から社会に出て卒業二十五年のリユ で、この級の五人を主人公にして、大学 近作では『ラブストーリー』を書いた 『クラス』は、 私自身が留学してい

八○年代のケネディ政権からレーガン時代にかけて、成長、苦悩、混迷、模索、回復と、多くの起伏を乗り越えてきた米国と米国人の人種問題、結婚問題、家国と米国人の人種問題、結婚問題、家方でくれるという点で、きわめて興味深えてくれるという点で、きわめて興味深く読んだ。

先日、米国に出張した折、ニューヨーク・タイムズ日曜版のブックレビューでク・タイムズ日曜版のブックレビューでダーの『ハウス』(House)を求めてきたが、読みおわるまでに手軽なエスピオナージュ物が何冊か割り込みそうだ。今回も、T・クランシーの"Hunt for Red October"、H・マッキネスの"Ride a Pale Horse"、あるいはA・ハイドの"Red Fox"等を買い込んできた。

死んだ父が、笑いながら、いくつになっても変わらないな、と言っているようでもあるし、鈴木さんは、これじゃとてておられるかもしれない。どうやら、当分のあいだ、乱読と積ん読癖から脱出できそうにない。

ゴルバチョフの禁酒令

増えたということである。 減り、その分、ジュース類の売り上げが 記長の節酒令が出てから、一年半になる。 エトの酒の消費量は去年に比べて三五% 「ウオトカを慎め」というゴルバチョフ書 国営タス通信の発表では、今年、ソビ

とても信じられないので、一度、東京で 試してみた。 ア人の生活・習慣を見てきた経験から、 ろうか。永い間モスクワで暮らしてロシ カをやめて、ジュースに切り換えたのだ あの酒好きのロシア人が本当にウオト

といって食べたが、焼酎は水のように薄 ど口をつけなかった。 は車で来ているから」とか「明日朝早く ビエトの外交官がいたので、親しい仲間 から仕事があるから」と言って、ほとん いお湯割りにし、いくら勧めても「今夜 からコンニャクまで「おいしいおいしい でん屋にして、皆で焼酎を飲んだ。ウオ で送別会を催した時、二次会は新橋のお トカは昔、初めて日本に入ってきた時 ロシア焼酎」と翻訳されたそうである。 ちょうど「モスクワへ帰る」というソ おでん屋でソビエトの外交官は、大根

とも、モスクワでロシア人と酒を飲んだ 以前はこんなことはなかった。少なく

> ラスではあるがそれこそ。一気。に飲ん でなく、アルコール度の強いウオトカや それもビールやワイン、シャンパンだけ 時、こんな言い訳は絶対に通らなかった。 れも一回や二回ではすまなかった。 オンザロックや水割りにせず、小さなグ ブランデーが出てくる。 ウオトカやブラ にして見せなければ許してもらえない。そ で、「ハイ、この通り」とグラスを逆さま ンデーのロシア式の飲み方は、いずれも ロシア人に招かれると、必ず酒が出る。

の乾杯である 飲み干してグラスを置くと、今度は「柱 る。やっとの思いで三杯目のウオトカを ギリシャ正教の教義をもじって「神は三 は四本なければ家は建たない」と四杯目 康のために」と言って、乾杯で、お返し、を しなければ失礼にあたる。すると主人は ると今度は招かれた方が、「ご主人の健 の健康のために」と言って乾杯する。す ロシアには、こんな飲み方もある。 まず、ロシア人は客を招くと、「あなた 一体を好む」と、三杯目の乾杯を勧め

だんウオトカに強くなり、ウオトカが好 そんな経験を積んでいるうちに、だん

十一月七日の革命記念日の朝、 気温

記者席に立っていると、厚いコートを着 パレードを見ようと、レーニン廟の側の は零下十度前後、赤の広場で恒例の軍事 めた赤ワインを売りにくる。お茶代わり ばさんが、ポットと紙コップを持って温 時、白いエプロンをつけたロシア人のお ていても体が芯から冷えてくる。そんな 慣が、全部無くなってしまったのだろう にそれを飲んで寒さを凌ぐのである。 ロシアの気候風土に密着したそんな習

るジョーク "を教えてくれた。ジョーク に聞くと、。いまモスクワで一番人気のあ 東京にいるソビエトのジャーナリスト

光 NHK解説委員

は痛烈に現在のソビエト社会を風刺して

た来るような気がする。 上げが三五%伸びた」という時代が、 す」と言うと、乗客は皆降りてしまった。 顔して降りなかった。バスはまた走り出 でございます』と言ったが、誰も知らん 止まった時、車掌が『こちらは酒屋の前 台のバスが走っていた。そして停留所に 私にはそのうち「今年はウオトカの売り した。そして次の停留所で今度は車掌が こちらは酒屋の行列の最後でございま 「モスクワの街を満員の乗客を乗せて ま

(一九九三没)

ふるさとの変貌

東京と山梨とを往復するようになって、東京と山梨とを往復するようになって、一年の子の方ちに帰ってくる。こんなき、その日のうちに帰ってくる。こんなき、その日のうちに帰ってくる。こんなき、その日のうちに帰ってくる。

まの起りは、甲府市に山梨県立総合婦思い出されて、館長就任を要請されたの思い出されて、館長就任を要請されたのによるものである。

私は甲府で生まれ、小学校四年までは私は甲府で生まれ、小学校四年まではったが、急にグッと私に近づいてきたけであった。その、遠いと思っていたふうさとが、急にグッと私に近づいてきたるさとが、急にグッと私に近づいてきる。

甲府へ通うようになって気がついたことは、私のふるさとに対する認識がいかとは、私のふるさとに対する認識がいかに間違っていたか、ということである。東「に近いのに、文化的にも低い貧乏県と、何となく思っていたその考えは、大幅に修正せざるを得なかった。「地方の時代」という言葉はずいぶん聞かされたが、たという言葉はずいぶん聞かされたが、たという言葉はずいぶん聞かされたが、たしかに地方がそれぞれの特色を表わしつある時代だということは、私の郷里でも感じられたことであった。

農業は主として果樹、また、地場産業としては研磨・宝飾の数が多く、その大は、現在では決して貧しくはなさそうだ。は、現在では決して貧しくはなさそうだ。その上、少し見栄っぱりのところがあるから、着るものやおつき合いは派手である。特急で一時間四十分で行ける東京に対する関心は深く、中央の流行に敏感で対する関心は深く、中央の流行に敏感で対する関心は深く、中央の流行に敏感で対する関心は深く、中央の流行に敏感で対する関心は深く、中央の流行に敏感で対する関心は深く、中央の流行に敏感で

そして、何よりも驚いたことは、十年 そして、何よりも驚いたことは、十年 が出来て以来、文化に対する関心が、県 に高まってきているということであった。二十年余り前、私が雑誌の仕事で文 た。二十年余り前、私が雑誌の仕事で文 た。二十年余り前、私が雑誌の仕事で文 た。二十年余り前、私が雑誌の仕事で文 た。二十年余り前、私が雑誌の仕事で 文 に 満演会を開こうとしても、この地での 受入れは、きわめて消極的だった。それ
受入れは、され
が今日では、立派な文化県として他から
も見られているという。その間のイメージ・チェンジは驚くばかりである。

村単位で呼ぶようになったのである。 対象している。中には高額の謝礼を出さ演をしている。中には高額の謝礼を出さ演をしている。中には高額の謝礼を出さ演をしていると、さまざまな作

府行きも、馴れれば東京・池袋の事務所初めは大旅行のような気がしていた甲

三枝佐枝子

商品科学研究所所長/現評論家

へ行くのとそう変りはない。いや、むしへ行くのとそう変りはない。いや、お構とい自然の景色を見ながらの旅は、結構とい自然の景色を見ながらの旅は、結構にとって、「あずさ」の適度なスピードにとって、「あずさ」の適度なスピードと、やわらかいリクライニング・シートと、やわらかいリクライニング・シートと、やわらかいリクライニング・シート

私のふるさと行きのもう一つの楽しみ私のふるさと行きのもう一つの楽しみは、「あずさ」の中で思いがけない方にめは、「あずさ」の中で久しぶりにお目にかかる。の列車の中で久しぶりにお目にかかる。の列車の中で久しぶりにお目にかかる。本でしまうこともある。私にとっては、走んでしまうこともある。私にとっては、走る心接間的な役割を果たしてくれているる心接間的な役割を果たしてくれているのである。

また、この列車で気がつくことは、ビ

時代の変化を思わせられる。 時代の変化を思わせられる。 時代の変化を思わせられる。

縮図の一面を見る思いがする。縮図の一面を見る思いがする。

山岳航空写真の世界

なアクロバット・フライトの危険性はず 地域に軽飛行機で入りこむ、というよう は絶対にタブーとされていた急峻な山岳 数ではあってもベテランの山岳パイロッ 欠の条件である。そして幸いなことにヒ なパイロットにめぐり合うことが、不可 充分心得ているだけでなく、山が大好き のような飛び方をするためには、卓越し っと少なくなってきている。しかし、そ の性能が飛躍的に向上したため、かつて アルピニストは少なくないはずである。 たい、という誘惑にかられたことのある 上に広がる空間を自由に飛びまわってみ ト達が活躍をつづけている。 マラヤやアルプスをはじめ、世界中に少 た技量をもち、地型と気象条件について 幸い最近では、飛行機やヘリコプター い山の頂に立ったとき、さらにその

私自身二十数年前にセスナ機で新雪の私自身二十数年前にセスナ機で新雪の 国子のかれて、機会のあるたびに――とい りつかれて、機会のあるたびに――とい うよりは無理にでも機会をつくって―― このうち北アルプスのほかにも、ヒマラ であら、地球上のめぼしい山々の全てを は無理にでも機会をつくって―― このうち北アルプスのほかにも、ヒマラ

行回数も四十回以上になっている。
行回数も四十回以上になっている。
この間には、ジャンボ・ジェットから
この間には、ジャンボ・ジェットから
二人乗りのパイパー・スーパーカブにいたるまで、さまざまな機体のお世話になったが、なんといっても山を飛ぶ醍醐味ったが、なんといっても山を飛ぶ醍醐味ったが、なんといっても山を飛ぶ醍醐味ったが、なんといっても山を飛ぶ醍醐味ったが、なんといっても世でおりでところまで近づくときである。多分今までだろまで近づくときである。多分今までだろまで近づくときである。多分今までだろまで近づくときである。多分今までだろまで近づくときである。

ただし、このようなコースをとれば、乱気流にまきこまれることは避けられない。気流にまきこまれることは避けられないように安全ベルトを外して、窓をあけた機内で中腰になっているカメラマンは、天井に東をぶつけるほどはねとばされることもあるし、酔って胃液もでなくなるほど吐きつづけるような目にあうこともしばしばである。

判断力が落ちることになる。とりわけエも少なくないし、酸素不足のため、フィルムの交換さえ満足にできなくなるほど、ルムの交換さえ満足にできなくなるほど、アがる高所では、カメラが凍結したり、その上、マイナス零度から三十度にも

山田圭一

筑波大学教授/現筑波大学名誉教授

る。

にもらう、というような目にもあってい意識不明のままやっと飛行場に連れ戻しべレストでは、酸素マスクの故障のため、

今になっても、このようなフライトに今になってくれたパイロット一人一人のつき合ってくれたパイロット一人一人のかし、わかっているだけでも、そのうちかし、わかっているだけでも、そのうちかし、わかっているだけでも、そのうちの既に十名以上が事故のため愛機と運命のともにしてしまった。そしてヨーロッペ・アルプスではじめてそれに成功して以来、二万三千回もの氷河着陸をくり返り来、二万三千回もの氷河着陸をくり返り来、二万三千回もの氷河着陸をくり返り、スイスの至宝とさえ、私もかつてその頂に立ったことのあるマッターホルンやモンブランを案内しるマッターホルンやモンブランを案内しるマッターホルンやモンブランを案内してくれた翌年には、大空に逝ってしまってくれた翌年には、大空に逝ってしまってくれた翌年には、大空に逝ってしまってくれた翌年には、大空に逝ってしまってくれた翌年には、大空に逝ってしまってくれた翌年には、大空に逝ってしまってしまっている。

うな暇は全くない。
ので、のんびりスリルを味わっているような暇は全くない。

私自身もパイオニアの一人として開拓たえるアルピニストとしての体力や経験たえるアルピニストとしての体力や経験たえるアルピニストとしての技術とセンス、そと、カメラマンとしての技術とセンス、そと、カメラマンとしての技術とセンス、そと、カメラマンとしての技術とセンス、それはまた、プリナリーな領域であるし、それはまた、まさにハイテクのハイタッチで創造的な話かし方でもある。

集を刊行する予定である。
ので、近いうちに世界ではじめての写真ので、近いうちに世界ではじめての写真

有澤先生の思い出

がる自分への戒めとしてきた。 すれば余計なことを書きたがり、 るべきことを、私は先生から学び、 であった。政策の原理はつねに簡潔であ ルギー政策の軌道を敷かれたときもそう 安定供給の必要性を説かれて、総合エネ に招かれた先生が、エネルギーの低廉と それが原則としての重みを持った。もう むしろ平凡で、しごく当然なことである わせぬ説得力があった。言われる内容は 政策を大きく方向づけられた先生の発言 生の像は、エネルギー政策の指南役とし 跡はあまりにも大きく、私などが知る先 が、先生が話されると、不思議なくらい の思い出が輝きを失わずに残っている。 エネルギー政策のふし目、ふし目には サイクルの早期完結を訴えられた元気な 日本原子力産業会議会長として、核燃料 換会で、車椅子に乗って壇上に上がられ、 うして亡くなられた。この新年の賀詞交 二十五年も前になるが、通産省の委員会 ての先生のほんの一側面にすぎないが 力界は、かけがえのない指導者を失った。 先生の発言はつねに明快で、うむを言 戦後の日本経済に、先生が刻まれた足 有澤廣巳先生が、九十二歳の天寿を全 鮮やかに耳に残っている。原子 言いた

> 裏に焼きついている。 帯びた。先生からそのときうかがった石 炭・鉄鋼の傾斜生産政策が、今も私の脳 先生のお顔もお声も見違えるように熱を の日本経済の復興策を話し出されると、 先生の講義が脱線するのを心待ちしてい 後、大学に復帰されたときの講義がすで 現実とのかっとうの中で確乎として理念 置かれて、現実の複雑な動きを洞察され、 だった。先生のように現実のなかに身を にそうであった。気分屋の私たち学生は、 を貫かれた学者を、私は知らない。終戦 も真似のできない、実践的な社会科学者 改めて言うまでもないが、 いよいよその脱線が始まり、どん底 先生は誰に

> > しておられた。

心掛けておられたことにある

川上幸

神奈川大学教授/現神奈川大学名誉教授

は、 になられても、どんなに雑事に追われて の心得を教えてくださった。先生が高齢 その学生に向かって話せばよいと、講義 なさとの格闘に耐えておられるのだと思 には目の輝いている学生が必ずいるから、 い当たり、 れた。先生ほどの方も、現実の遣り切れ がある。私が産業界から大学に籍を移し であられたという当然なことを再発見し 大学で講義をし、論文を書いているのが た先生にごあいさつに上がると、先生は たとき、原子力委員長代理をしておられ て、不覚にも意外な思いに打たれたこと 一番いいよと、しみじみした口調で言わ そのような先生が、あくまでも大学人 研究、執筆活動を一日も休まぬよう 頭脳の明晰さを失われなかった秘密 胸をつかれた。先生は、 教室

> 映年の先生の気がかりは、日本の原子 力発電技術が世界のトップ・レベルに達 力発電技術が世界のトップ・レベルに達 したのに、核燃料の複始末をしない原子力利 った。核燃料の後始末をしない原子力利 った。核燃料の後始末をしない原子力利 に対する責任を怠ったことになる。廃棄 物対策の専門部会が再開されることを申 し上げると、原子力利用に反対できる根 し上げると、原子力利用に反対できる根 し上げると、原子力利用に反対できる根 でと、繰り返し念を押された。私にとっ にと、繰り返し念を押された。私にとっ ては、それが先生の最後のお言葉になっ た。

力を尽くさねばならないと思う。 先生の遺志を体して、残された者が微

茅先生のお人柄

輩の関係もない。
私は普通の意味では、茅先生のお弟子

関係のできたのは、戦後しばらく経ってできた日本学術会議の会員に選ばれてできた日本学術会議の会員に選ばれての部長、後に会長になられて、私たちとうの会員は、先生の巧みな司会の下で議うの会員は、先生の巧みな司会の下で議うの会員は、先生のお弟子で、鉄の単結晶を光太郎大先生のお弟子で、鉄の単結晶を光太郎大先生のお弟子で、鉄の単結晶を光太郎大先生のお弟子で、鉄の単結晶を光太郎大先生のお弟子で、鉄の単結晶をからよく知っており、そういう碩学と一からよく知っており、そういう碩学と一体にないできたのは、戦後しばらく経ってきた。

また、先生が戦後の混乱した日本の学また、先生が戦後の混乱した日本の学術体制を刷新しようとして、占領軍司令術体制を刷新しようとして、占領軍司令部の科学顧問として来日したケリー教授部の科学顧問として来日したケリー教授の告であるとも承知していたが、会ってみるときわめて親しみの持てる人であった。

研究に手をつけるべきだという提案を、は、日本でも平和条約成立後に原子力のしかし茅さんとの関係が密になったの

にしては気の毒だと思われたのだろうか、 いうことで廃案になってしまったのであ 脱落し、総会前の部会では審議不充分と 反対運動が起こり、四部会員がどんどん ずであったが、若い物理学者たちの間に 提案ははじめ第四部の提案として出すは 術会議の総会に出してからである。この たのであった。 術会議内に原子力問題をどう取扱うべき ではなかったろうか。幸いなことに、 先生としては伏見と心中したという胸中 総会では果たして反対論ばかり出て、茅 茅・伏見提案という形で総会に臨んだ。 る。この時点で、茅先生は伏見を見殺し 一九五二年に茅・伏見提案という形 かの委員会を作ろうと言われて、救われ 妻栄副会長がとりなしの提案として、学 我

私の見るところでは、芽さんには人に 対する好き嫌いがあったようで、私は幸 いにして芽さんに好かれた一人であった ようである。伏見は後を見ないで物を言 ようである。伏見は後を見ないで物を言 る左翼の方々は、その属している団体の る左翼の方々は、その属している団体の のが言えないという態度に、芽さんは嫌 のが言えないという態度に、芽さんには人に で伏見が好まれたのかも知れない。

伏見康治

(当時)(名古屋大学・大阪大学名誉教授・参議院議員

実先生は学界の重鎮として、様々な委員会の委員長や委員の推薦を絶えず求め られていたようであるが、その際の茅先 生の人物評価は、まず適確であったと言ってよいであろう。少なくとも推薦された人は、いずれも立派な人であった。推 だ人は、いずれも立派な人であった。推 たかなかった方については、いささか

97-

私にも、天から降ってきたように、いくつかの会の委員に推薦する芽先生のおくつかの会の委員に推薦する芽先生のお手紙が舞いこんできた。その中の一部を主人委員会」がある。成立した当時の重せ人委員会」がある。成立した当時の重せ人委員会」がある。成立した当時の重と人委員会」がある。成立した当時の重と人委員会」がある。まず「世界平和アピール、沿を継いだ朝永振一郎先生が他界されてから、私のところにお鉢がまわってきた。から、私のところにお鉢がまわってきた。

御指令がきたのである。茅先生御自身も 性の確立に役立つような教育上の工夫に 引退されている茅先生から、リモートコ の中の新工夫がたくさん出され、きわめ ら、理科実験の道具立て、実験のやり方 は府県などの科学教育センターの方々か 理科教育では、中・高校の現場の、また あり、茅先生の御配慮に感謝している。 科教育の部が私にはもっとも働きがいが 産科学振興財団と、東レ科学振興会理 も引っ張り出されたが、数ある中で、日 努力中である。 養成面を重視するよう他の委員ともども 実験上の新工夫を楽しんでおられたのに ついてもっと重点を置くように、という ントロールで、教育上の観点、特に人間 て楽しかった。少し楽しみすぎたせいか、 いろいろな科学振興財団の審査委員に いささか不満を抱きながら、

松本重治先生の遺されたもの

加藤幹雄一

(財) 国際文化会館常務理事

昭和天皇のあとを追うかの如くに、松本重治先生は去る一月十日に八十九年なさの点においても、現役時代の長さに広さの点においても、まさに巨人であった。

一九四五年にいたるまでのジャーナリ うに日中和平工作や日米開戦回避努力 うに日中和平工作や日米開戦回避努力 らが『上海時代』、『近衛時代』、『昭和 らが『上海時代』、『近衛時代』、『昭和 史への一証言』などの著作の中で克明に 史への一証言』などの著作の中で克明に 要立(一九五二)とそれを拠点とした国 際文化交流事業に専念され、亡くなるま で理事長として陣頭指揮をとられていた。 国際文化会館設立のきっかけとなった のは、一九五一年春、ダレス特使の文化 のは、一九五一年春、ダレス特での文化 園間として来日した旧友ジョン・D・ロ 加間として来日した旧友ジョン・D・ロ

はなく、半分は自らの努力で調達し、文はなく、半分は自らの努力で調達し、文はロックフェラー財団が出すことを約束はロックフェラー財団が出すことを約束限内に集めることを条件に、残りの半分限内に集めることを条件に、残りの半分限内に集めることを条件に、残りの半分になく、半分は自らの努力で調達し、文はなく、半分は自らの努力で調達し、文はなく、半分は自らの努力で調達し、文はなく、半分は自らの努力で調達し、文はなく、半分は自らの努力で調達し、文

った。 実証することをジョンは期待したのであ 化センター設立に対する日本側の熱意を

時代からの友人であった川端氏は松本先 足りず、松本先生は窮地に追い込まれた。 れる数目前のことであった。 たのである。ロ財団が指定した期限が切 責任をもって集めることを約束してくれ 生を訪ね、募金の不足分は文壇人有志が 海、大佛次郎らの文壇人であった。一高 たのは、川端康成、吉川英治、今日出 ところでどうしてもまだ二百万円ほどが 目標達成に近づくが、あとひと息という は晩年によく回顧されていた。募金は、 けずに奔走したこの時期が自らの後半生 集めることは至難の業であり、日夜を分 代に、文化のために一億円を民間募金で これを聞いて支援の手をさしのべてくれ を決定した正念場であったことを、先生 木炭タクシーがまだ走り回っていた時

において、各国の文化が、新しい世界的れる文化伝統をもつ各国民間の相互理解を増進し、また真理を探求する学問の国際的協力を促進し、それらを通じて世界際的協力を促進し、それらを通じて世界際の協力を促進し、それらを通じて世界際の協力を促進し、それらを通じて世界の協力を促進し、また真理を対象の目的は、異な

ての自覚を深めることにある。」
を化の創造に寄与、貢献することにあり、
をの思索を深め、その人生を精神的に豊かにするとともに、各自が世界市民としかにするとともに、各自が世界市民としかにするとともに、各自が世界市民とし

これは、「松本さんのやる仕事なら応援 二九号)に寄稿された「国際文化交流に 母体として擁する組織に成長している。 交流に対する確固たる二つの信念が大き ひとつが、国際文化会館というハードウ うな高邁な目的を追求する具体的手段の 後半の人生をかけられた理想が何であっ な共感を呼んだためでもあった。 しよう」という人々が内外に数多く存在 五千名におよぶ個人と四八〇法人を支援 は、いまや世界五十カ国以上を網羅する ェアであったわけである。国際文化会館 たかをよく示している。そして、このよ ついての所感」の一節であるが、先生が したことと併せて、松本先生の国際文化 これは、一九七五年『学士会会報』(七

行なう文化交流には限界や制約がある、プなど目的が見えかくれしがちな政府のであり、国益増進や国家のイメージアッ自然な形は民間レベルで展開されるべき自然な形は民間レベルで展開されるべき

という考え方である。先生は、こうしたという考え方を徹底して貫き通し、安易に政府を立ちなかった。

することにある、ということである。そ ような環境づくりに営々と励まれたので などには見向きもせず、イン・キーパー 度ならずあった駐英大使や国連大使の話 して先生は、この考え方を実践され、 互信頼関係が生まれやすい環境づくりを 接触し、その中から創造的人間関係、 的背景や価値観を異にする人々が自由に てはならない、文化交流の仕事は、 この触れ合いが制約されたりゆがめられ れ合いの中からこそ生まれるものであり、 の文化交流は、根本的には人と人との触 う言葉に象徴されるように、真の意味で 化交流は人にはじまり人に終わる」とい (宿屋の主人)を自称されながら、 第二の信念は、好んで口にされた「文 文化 相

98

ていくであろう。
松本先生が築きあげられた国際文化会館の伝統と遺産は、永井道雄新理事長に館の伝統と遺産は、永井道雄新理事長に

在りし良き米国

job—良い仕事、good pay—良い給料、good old U.S.A.—在りし良き米国という言葉が人々によって唱えられたということである。失業の心配がなく、まずは人並みの暮しのできる収入があるということは、何処の国でも一般の人々の望むところであるが、それを端的に表現するところであるが、それを端的に表現するところであるが、それを端的に表現するとして実際には八三年以降好景気が続き、十パーセント近かった失業率も次第き、十パーセント近かった失業率も次第さ、十パーセント近かった失業率も次第さ、十パーセント近かった失業率も次第さ、十パーセント近かった失業率も次第かるから、経済の面に関しては彼等の願いがかなったといえる。

それでは。在りし良き米国。という状態については、どうなっているのであろうか。もともと英語の表現には、good old days ——在りし良き時代というのがあり、あの頃は良い時代であったというあり、あの頃は良い時代であったというのは含ays時には簡単に Those were the daysという。したがって。在りし良き米国。というのであれば、それは具体的にはいつの時代の米国であるのかが問題とはいつの時代の米国であるのかが問題となる。

とって良かったのかということがあるわくもそもそも良い時代という場合には誰に

になるのであるが、。良い米国。というのになるのであるが、。良い米国。というのは、アメリカ国民の大多数にとって良いは、アメリカ国民の大多数にとって良いは、アメリカ国民の大多数にとって良いけで、この点も深く追求すると難しい話するのは、現在ではある程度の年配になするのは、現在ではある程度の年配になっている人達であらざるを得ない。

私の聞いているところでは、八○年代 のアメリカで。在りし良き米国。と言う場 のアメリカで。在りし良き米国。と言う場 合の具体的な状態は、一九五○年代のイ メージだそうである。もしそうであれば、 その状態を自らの経験を通して知ってい る人々は今日既に五十歳以上になってい るわけで、ちょうど自分達の生涯を顧み るわけで、ちょうど自分達の生涯を顧み るわけで、ちょうど自分達の生涯を顧み

ところがそれでは、人間誰でも高年齢ところがそれでは、人間誰でも高年齢ところがそれでは、人間誰でも高年齢ところがそれでは、人間誰でも高年齢ところがそれでは、人間誰でも高年齢ところがそれでは、人間誰でも高年齢ところがそれでは、人間誰でも高年齢ところがそれでは、人間誰でも高年齢ところがそれでは、人間誰でも高年齢ところがそれでは、人間誰でも高年齢ところがそれでは、人間誰でも高年齢ところがそれでは、人間誰でも高年齢ところがそれでは、人間誰でも高年齢ところがそれでは、人間誰でも高年齢ところがあります。

てハーバード大学に留学したが、その頃金を得て、一九五三年から五四年にかけ私はたまたま米国政府の提供する奨学

嘉治元郎

放送大学副学長/現国際文化会館理事長

の大学の構内では盗難の心配はなかっの大学の構内では盗難の心配はなかっの大学の構内では盗りているところでは礼た。私は衣食の足りているところでは礼がつハーレムと呼ばれる街区のようにと負困な少数者の住むところは一種の無法世帯になっていて、近づかないようにと地帯になっていて、近づかないようにと地帯になっては、法と秩序』のある住み良い社会であったに違いない。

一応回復されたので、それに加えて、在 でに、対外面ではベトナム戦争、ドル では、対外面ではベトナム戦争、ドル では、対外面ではベトナム戦争、ドル ではでみても良い米国とは言えない ではでなってしまった。それを経過した でのような尺度でみても良い米国とは言えない ではでかても良い米国とは言えない ではでかってしまった。それを経過した でのようなになってしまった。それに加えて、在

たこうなどは、こうないはなどにもこれにも述べたように一九五○年代の社状況になっているのである。

上にも述べたように一九五〇年代の社会について体験をもつ人々は総べて第二次大戦以前に生まれた人々であり、基本的には戦前型の価値観をもつ。したがって彼等が在りし良き米国という場合の判で彼等が在りし良き米国という場合の判でが表準も、原則的には戦前型のものである。そこで、そのような基準はもはや米る。そこで、そのような基準はもはや米る。そこで、そのような基準はもはや米る。そこで、そのような基準はもはや米る。そこで、そのような基準はもはや米るが、あと二十年ほどたった時点で、彼の終わりから四十代の初めの年齢層にあるが、あと二十年ほどたった時点で、彼ら終わりから四十代の初めの年齢層にあるが、あと二十年ほどたった時点で、彼ら終わりから四十代の初めの年齢層にあるが、あと二十年ほどたった時点で、彼ら終わりから四十代の初めの年齢層にあるが、あと二十年ほどたった時点で、彼等は、在りし良き米国。という考えをもち得るのであろうか。

世紀末の死

自覚されるために、より効果的なのであ が一つの享楽の極みである酒宴の最中に にはたと気づくことによるのだが、 ず我が身に訪れるという紛う方ない事実 興に対する人々の反応は、死がいつか必 ら致し方ないことかも知れない。この座 医学がこれほど進歩している世の中だか ない。己れの死のみならず、よほど身近 の死となると、とんと実情が思い浮かば いものである。物質文明が極致に達し、 な者の死に出会わぬ限り、死は常に縁遠 それにともなう言葉を、 めて沈思黙考するもよし。昨今の過剰な を見てますます酔いしれるもよし、蒼ざ そんな座興を、つい最近披露した。骸骨 ちに飲めや歌え」と連合をそそのかす。 に見聞きしている現代人でも、いざ己れ マスメディアを通じて、死のイメージや ージを卓のまん中に差し出し、「やがては 人皆こうした姿になるのだから、今のう 酒宴が闌になる頃、一体の骸骨のイメ 日々浴びるよう それ

の乱痴気振りにも拍車がかかり、爛熟としていたらしい。骸骨の模型を前に彼らウスによると、当時この種の座興が流行はない。古代ローマ末期の詩人ペトロニこの趣向はしかし、私のオリジナルで

なかったに相違ない。 人々は、死を前にしてたじろぐことは少人々は、死を前にしていたであろう往時の者を常日頃目にしていたであろう往時の頽廃の古代ローマに耽溺したのである。

き身をやつした彼らは、カエル、蛇、 を刻ませた。私利私欲、名声と権力に憂 様々な死のイメージが教会や修道院の壁 られない。「死の舞踏」をはじめとする 中世人とて黙って神に祈ってばかりはい 造り、朽ちゆく肉体を表わした墓碑彫刻 聖俗両界の要人たちは財を投じて廟堂を つつも、皮膚や内臓をぶら下げながら老 でさえ死の演劇が観衆を集めたのである。 面や幾多の造形美術を飾り、宮廷や街角 年に訪れると公言したのだから、敬虔な の予言する終末と最後の審判が一五〇〇 まけにローマ・カソリックは、 繁にして、日常茶飯事と化していた。お を目にすることも「死を想う」ことも頻 八年に始まる黒死病大流行。当時は死体 会大分裂による宗教的危機、百年戦争等 へ、死へと誘う死者たちである。 若男女、身分の貴賤を問わず人々を墓場 による政治・社会的変革、そして一三四 そこに登場するのは、半ば白骨と化し 中世末期、事情はさらに暗転した。教 『黙示録』 また、 蛆

小池寿子

美術史家/現國學院大学助教授

要を刻むことが、生前の罪業を告白する姿を刻むことが、生前の罪業を告白するととになると考えたのである。 しかし生きるにしたたかな彼らである。 罪の告解きるにしたたかな彼らである。 罪の告解されだけ反省したのだから神よ教い輪え、ころではなかった。これだけ罪を犯し、これだけ反省したのだから神よ教い輪え、とする傲慢ではあるが熱烈な救済願望がとする傲慢ではあるが熱烈な救済願望がとする傲慢ではあるが熱烈な救済願望がとするしみ、永遠化したいとする生への執着も、これら死のイメージや墓碑彫刻を生も、これら死のイメージや墓碑彫刻を生も、これら死のイメージや墓碑彫刻を生も、これら死のイメージや墓碑彫刻を生も、これら死のイメージや墓碑彫刻を生む、これら死のイメージや墓碑彫刻を生む、これら死のイメージや墓碑彫刻を生む、これら死のイメージや墓碑彫刻を生む、これのできない。

さて、ローマ教皇が豪語した世の終末が訪れぬまま、近代化の十九世紀を迎えが訪れぬまま、近代化の十九世紀を迎えた西洋は、今度はデカダンと耽美のうちに死とエロティシズムを謳歌する十九世に死とエロティシズムを謳歌する十九世に死とエロティシズムを謳歌する十九世に死とエロティシズムを謳歌する十九世に死とエロティシズムを謳歌する大。 である著作が各分野で著わされている。よりる著作が各分野で著わされている。よりる著作が各分野で著わされている。よりと二十年余。あまりに早急に欧米化した西洋に変した。

忌まわしきものはない。 なき死が恐ろしいのと同様、意識されず 憂うべきは、死が過去と異なり、身近な は、歴史の語るところであるが、 の情報が二十世紀末の兆候であること なマスメディアを通じて増長される「死 というそれぞれの世紀末が、はからずも してひたすら凋落へと向かう世紀末ほど ものとして捉え難いことであろう。 つの世紀末を迎えているのである。 たことを鑑みるならば、まさに今日は いる。古代、中世、そして十九世紀末期 た日本はやっと、タブー視されてきた 死」をテーマとした文芸を開花させてき 「死」に対して、重い口を開こうとして 唯一つ 自覚

享楽のさ中に差し出された骸骨や死のイメージを前に、陶酔するも逃走するもよし。ただ漫然と、寝ころびながら絵空とのようにそれをながめ暮らすのでは、次なる二十一世紀を迎えることはできないであろう。

女人禁制の話

ぜなのだろうか。 新聞の三面記事をにぎわしているのはな に話題になるはずないのに、それが毎年 かしく、今ごろの若者たちの間でそんな 女人禁制といった表現はずいぶん古め

として、役員に引きずり下ろされて、憤 楽演技中の舞台にのっかり写真を撮ろう されたり、神楽を取材中の女性記者が神 らなるわけだ。それ以前にも、トンネル とった大相撲はあきらかに女性差別につ たことを記憶している。伝統慣習を盾に 袖にして、女性を土俵に上げることはで らないで、トップニュースになった。 賜杯を贈呈するために土俵に上がる上が 相撲の千秋楽に優勝力士千代の富士に 然と女性記者が抗議したこともあった。 工事開通式に女性が参加することが拒否 ズムを問題にする反論が圧倒的に多かっ きないと宣言した。当然そのアナクロニ 本相撲協会は、今をときめく女性閣僚を 昨年は、森山真弓前官房長官が、 トンネル工事、土俵、神楽の舞台と、

> 屋に入ることをごく当たり前とする常識 は定着していた。 が、記録、伝承の上では約四百年くらい 出産の前後、女性は集落から隔離した小

氏子を規制することを禁止した。その結 れているのも事実である。 いても、先に記した事件は毎年繰り返さ った。それからすでに百年以上経過して 制をうたうことは認められないことにな は神社側で強制できなくなったことにな 明治初年新政府は、各地の神職たちが 表向きは、女性の不浄による女人禁 月水のけがれとか肉食のけがれなど

101

山の神という神格は日本全国知れわたっ 聞の女性記者が取材を断わられた。その たことも多くの資料が語っている。 をする人たちが大切に祀ってきた。平地 ており、山間部の守護霊であり、山仕事 ではないと一見して誰もが思うだろう。 がら高度文明社会で公然とまかり通る筋 があるから」というものであり、当然な が嫉妬して事故を起こすというジンクス 理由として報道されているのは「山の神 に住む農民も、 つい最近話題になった女人禁制の論議 に行けば山の神になるものと信じてい 長崎県下のトンネル貫通式で読売新 たんぼを守る田の神が

別している意識がそこには表現されてい ある。さらにいえば女性を不浄視し、 それらはいずれも女人禁制の空間なので

見三つは無関係のようにみえているが

るといって過言ではない。女性の生理や

筑波大学教授

ごろからの口碑がある。これは山の神が という一種の揶揄がこめられていたこと 世にもはっきりしていた。男の仕事場に る。家庭に実権をもち、家人を守り、亭 女性視されていたことが前提となってい の深層がほの見えてくる。 り返し起こるところに、根深い日本文化 が分かる。合理的思考からいえばこれは 女性が入りこむと、男を守る女神が怒る 主の浮気に激怒するというイメージは中 で、人間の世界では、家の主婦に相当す はすぐできるはずなのに、やはり毎年繰 迷信というべきなのであり、 「家の女房は山の神」という中世室町 かつ沢山の子をうむ出産に関わる神 全面的否定

ないかという学生がいた。山仕事の現場 たちがナンセンスといってしまうのに対し か が、果たして軍配は奈辺に上がるだろう 愛護ではないかと柳田国男は述べていた あろう。女人禁制というよりこれは女人 を見据えるべきだという冷静な主張でも 度の方が問題だというのである。伝統と の人たちが拒否している点が重要だとい て、むしろこの場合差別ではないのでは 感想を聞いたところ、ごくふつうの大人 か慣習といってなくならないものの背後 い、無理を承知で女性記者が取材した態 勤務先の大学で学生諸君にこの問題

(二〇〇〇没)

ダーティーだって自然

悟しておいたほうがよい。 大学生になって、「地球をクリーンにだっ いたら先生はハッピーだろうが、それが などと教えて、それをよく聞く優等生が とだ。いい先生がいて、「自然を大切に の優等生の過去をふり捨てようとするこ が多くて、そして正当なことながら、そ て、フン」といった調子になることを覚 つは、学生には中学や高校での優等生 京大にいたころ感じたパラドックスの

といったことになるらしい。 命を大切に、犬の糞は掃除しましょう、 公園を作って、緑の木を植えて、虫の生 標語だ。子どものイメージでは、 「地球をクリーンに」というのも、妙な 大きな

ブリを叩いても、どこからか出てくるよ 鳥と違って空を飛べないから、人間が殺 ってしまう。大部分は鳥が食う。人間は その生命が全部育ったら大変なことにな したぐらいで虫は消えない。 いくらゴキ もともと虫は、むやみに卵を産むから、

> にかえっていった。それが自然の循環と らにキノコやカビが処理して、やがて土

いうもの。

のものが多い。

木を好むから、その木がないと生きてい を奪うことである。虫によって、特別の 毒を撒くことだが、もう一つは生活根拠 絶滅させる方法は二つあって、一つは

> きない。 でしまうのである。自然の山だと、大き 植えることしかできないので、その木に どうせ人間のすること、同じ木ばかりを いる。人間には、とてもそんなことはで に合った虫がちゃんと見つけて暮らして な森に二本か三本しかない木でも、それ 合った虫だけが増えて、ほかの虫は滅ん 木を植えると、虫の種類は減るらしい。

れば、それで生きているのだろうか。 の糞にくる虫がいた。いま彼らはどうし かってなされ、それを好む虫がいて、さ ているのだろう。せめて山犬の糞でもあ 昔は、炭や薪を運ぶのは牛で、その牛 本来の自然なら、動物の排泄は土に向

クリーンとダーティーを分けることなの 除しなければならなくなる。人工とは、 ンにした。そのために、クリーンから排 泥となる。人間はそこを舗装してクリー 除されたダーティーが作られ、それを掃 そのかわり雨が降ると土はぬかるみ、

は、彼が優等生をふり捨てることで消え 「地球をクリーンに」という大義のほう

い、一つの学校に一人か二人のものだ。

もっとも、それほどのオタクはたいて

いので、虫の種類も少ない。それも大型 うのは、ちょっと短絡にすぎる。夏は暑 虫の生命を絶つことであっても。 いた記憶のほうは残る。たとえそれが、 ただし、夏休みの宿題で昆虫採集とい 山の中を珍しい虫を探してうろつ

淫することでもある。 を好む。オタクになるというのは細部に 立派なのより、小さいチビカミキリなど うようになる。 ヒゲナガカミキリなんて ても、たいてい珍しいシジミチョウを追 学生のころはオオムラサキで感動してい 昆虫少年の体験がぼくにもあるが、小

> は、自然ではなくて人工に属する。 追いもとめてダーティーを排除すること 含めての総体のほうがよい。クリーンを のほうが、案外に長もちするのは奇妙な 優等生をやめても、後に残る。泥の記憶 る。それでも、そうした経験のほうが、 つないだりするのと、正反対の感性であ ことだ。 だから自然と親しむには、死や排泄も

地球なんて、泥の惑星ではないか。 イゴトを否定することでもある。 ンが消えてダーティーは残る。もともと 優等生を否定するということは、 クリー キレ

森 毅

京都大学名誉教授

No.43 1991.10 山の中で同類のオタクと出会ったときだ

け、熱烈に語りあう。公園でみんな手を

ハゲワシとエスキモー

いそうだと思いませんか」「ハゲワシという名前は、ハゲワシにかわ

気になり出したのである。社内研修に出て以来、急に差別的表現が掛けてきた。彼は、差別問題についての勝の席に座っているデスクが私に声を

で、この話を『科学朝日』で取り上げで、この話を『科学朝日』で取り上げたところ、早速、読者から反応があった。世界鳥類和名辞典を調べると、ハゲとつ世界鳥類和名辞典を調べると、ハゲとつ世界鳥類和名辞典を調べると、ハゲとつけ、コブハゲミッスイなどというのまであるという。

浮かべて私の顔をのぞき込む。え」と、デスクはいたずらっぽい表情を「ずいぶん酷い名前をつけたもんですね

である」と生返事をする私の心境は複前、ハゲてるぞ」と学友から言われた身前、ハゲてるぞ」と学友から言われた身である。以来、約三十年、その話題が出るたびに居心地の悪い思いをしてきた。るたびに居心地の悪い思いをしてきた。なから「問題は鳥の名前ではないんだけだから「問題は鳥の名前ではないんだけなあ」という気持ちが先に立つのである。

と銘打った、あるかつらメーカーのものと思っているCMがある。三段階増毛法正直言って私には、いまも「許せない」

で、サラリーマンふうのハゲ頭の男が団 地の階段をうなだれながらトボトボと登 って行く、という設定である。その彼がって行く、という設定である。その彼が がやや明るくなる。三階ではさらに髪が増えて顔が輝き、四階ではもう胸を張って自信満々なのだ。

同じ会社のCMに「ステーキ切り損ない」シリーズというのもあった。女優のい」シリーズというのもあった。女優の朝丘雪路さんとレストランで食事をする男の話だ。ハゲ頭の彼はオドオドしてステーキを切り損ない、うろたえる。ところが、かつらを付けたとたんに、堂々とろが、かつらを付けたとたんに、堂々と胸を張り、余裕たっぷりに会話を楽しむりで表している。

「冗談もいい加減にしろよ」と、それを見るたびに思ったものだ。常識的に考えれるたびに思ったものだ。常識的に考えれば、わが同志たちは、かつらメーカーのは、そこまでコケにしていいのか、この会社にはきっと神罰が下るに違いないと信じたほどである。

現に、私自身がなにげなく使っているり人様のことは非難できない。り人様のことは非難できない。あまり人様のことは非難できない。

飯田隆

『科学朝日』編集長/現朝日新聞社出版担当付

国分でもギョッとさせられることがある。 自分でもギョッとさせられることがある。 自分でもギョッとさせられることがある。 で「生肉を食べる人」を意味する「エス で「生肉を食べる人」を意味する「エス キマンツィク」に由来する、とある。欧 米人が日本人に対して「魚臭い人」と呼 び、それが民族名として定着した場合を び、それが民族名として定着した場合を が、それが民族名として定着した場合を

当然のことながら、彼らは自分たちのことをエスキモーとは呼んでいない。「人」ことをエスキモーとは呼んでいない。「人」たってその言葉が違うため、簡単ではなれを使えばよさそうなものだが、地域によってその言葉が違うため、簡単ではないのだ。カナダに住むエスキモーは「イヌピアット」、北アラスカでは「イヌピアッタイット」、北アラスカでは「イヌピアッタイット」、北アラスカでは「イヌピアッタイット」、北アラスカでは「イヌピアッタイット」、北アラスカでは「イヌピアッタイット」、北アラスカでは「イヌピアッタイット」、北アラスカでは「イヌピアッタイット」、北アラスカでは「イヌピアッタイプを表現している。

う」、南西アラスカでは「ユピック」であ

最近、カナダエスキモーの生活を追ったTVドキュメントでは、彼らをイヌイットと呼んでいた。それが正しい呼び方である。ただ、それでは、同じような人種、同じような生活習慣を持った人々を総称する言葉にはならない、という不便さがついてまわる。

っている。
の場合にも、エスキモーと同じ問題が残南部カラハリ砂漠の狩猟民ブッシュマン南部カラハリ砂漠の

シと呼ぶのとはわけが違うのである。ていいものかどうか。ハゲワシをハゲワて、こうした呼称をいつまでも使い続けて、こうした呼称をいっまでも使い続け

新語に見る世相

われている。

"子供たちの勉強し過ぎ、"若者たちの遊び過ぎ、"中年の働き過ぎ、"男たちの暖過ぎ、"女たちのハシャギ過ぎ。との疲れ過ぎ、"女たちのハシャギ過ぎ。ととう二つをつけ加え、「6過ぎニッポン」

いだろうか。 効率、生産性を追求しすぎたためではなスな生き方をする国になったかといえば、スな生

れば、一挙に社会的活動の受け皿は減少 成されそうにない。また、六十歳を過ぎ 間千八百時間という労働時間の目標は達 し、所在なさの中に身を置くこととなる。 省統計より二百時間以上多い平均四五 リーマンと公務員の年間残業時間は労働 生産性の高い人間になるため、今や中学 いている。これでは平成四年度までに年 でいっこうに進まず、首都圏の男性サラ 者たちはカードを使って、消費に遊びに 生になると四時間五十五分に減少)。若 生は一日に九時間以上のお勉強、 青春」する。中年の時短はかけ声だけ 時間。四人に一人は残業手当なしで働 子供たちはよい学校、よい会社に入り (大学

私は、主婦向けの生活情報誌(『サンなは、主婦向けの生活情報誌(『サンケイリビング新聞』、全国で七百五十万なを表す新語を募集したところ、ドキンとするものが約二千通集まった。

扶養華族=働いている夫よりいい物を 食べ、着飾っている妻、子供たち。 食べ、着飾っている妻、子供たち。 がと、子供と昼寝も充実のママ。 パと、子供と昼寝も充実のママ。 パと、子供と昼寝も充実のママ。 の番搾られ=家、会社、税金にしぼられ、遅い帰宅後やっとビールにありつれ、遅い帰宅後やっとビールにありつける日本の小市民。

楓(かえで)様=金があり、趣味に旅楓(かえで)様=金があり、趣味に旅

で決まる様子。

しゃぐ小学生。こうもり族=塾帰りの夜に、元気には

団らんしない夫族。

山谷えり子

ビング新聞編集長サンケイリビング新聞編集委員/現サンケイリ

だろうか。 一くらいあてはまるものがあるのではないがろうか。

一九八〇年代の日本では、変貌する家族がさまざまな表情を見せた。単身赴任、家庭内離婚、不倫、キッチンドリンカー ……。サンケイリビング新聞の調べでも、夫の先祖代々の墓に入るのはイヤと考える妻が二割いたりと、これまで"アタリマエ"と考えていたことが通用しなくなっている様子がうかがえる。旧来の"家"の観念は希薄になり、親類、地域のしばりも緩くなり、特にここ七~八年の間に主婦は自己実現的な生き方を求めて社会進出し、自分の人生を自分でデザインしていこうと考えるようになった。

の数はほぼ同じだったが、今や高校生の人年前、働く女性と、そうでない女性

のテーマは、「仕事と家庭の両立は」と のテーマは、「仕事と家庭の両立は」と のテーマは、「仕事と家庭の両立は」と

募集した新語の中で、お父さんを茶化す言葉が多いのは、かつての"家"や"生産ばかりの生き方"に疑問をもち、もっ産ばかりの生き方"に疑問をもち、もったしたいものだという願いもこめらき方をしたいものだという願いもこめられている気がする。

考えてみれば、人間というのはトータルバランスをもって存在することこそ「生バランスをもって存在することこそ「生バランスをもって存在することこそ」を がいつも暮らしの中にそれなりのいだランスをもって存在する

気さくな大物

-大来さんを偲ぶ-

ゃないんだから、少しは仕事を選びなさ 大来さんとこうした会話をどれほど交わ なんだ。日本にだけ閉じこもっていたら、 少し減らした方がいいんじゃないですか い」といった失礼なことまで口にしたこ したことだろう。ときには「ダボハゼじ かえってボケちゃうよ」――ここ数年 いや、ボクには外国旅行は若返りの素 「もう年なのだから、海外に出るのは、

け、酷使してしまうことになったのだ、と 会議の運営を、あとからあとから押し付 柄に甘えて、いつのまにか面倒な組織や の院に籠もらず、いつもにこやかな表情 会ったことがない。経歴や肩書のきらび 内外ずいぶんたくさんの「えらい人」に 私は四十年間のジャーナリスト生活で、 言わない男気……結局みんなそうした人 奇心常に旺盛。そして頼まれるといやと 正義感強く、また新しいものに対する好 で難しい問題を淡々と語る。リベラルで やかさと裏腹に、権威者を気取らず、奥 ほど、だれとも自然体で話をする人に出 じかに接する機会をもったが、大来さん は全く例外的な「気さくな大物」だった。 ぶったりする人が多いなかで、大来さん えらくなると、すぐ威張ったり、勿体

使、前川春雄元日銀総裁、といった虎の 耳にした。数年前、牛場信彦元駐米大 ろに頼みに行くことになる――という話 員長に据えると、実力、風格、名声から あるのは否定できないようだ。 た日本の人材難、タレント不足に原因が せてしまったのも、つまるところこうし を、日本側だけでなく欧米でもずいぶん フ」を願えば、ついつい大来さんのとこ しておさまりがよいので、「プレイ・セイ 実際問題として、大来さんを会長や委 「国際派戦艦」をつぎつぎ"夭折"さ

疲れるものである。私の忠告も「国際会 べきだった、と反省している。 議長をやるのだけは減らしなさい」とす 議には出てもよいから、七十歳すぎたら ると、ふつうの参加者の三倍から五倍は る難事ではない。しかし英語で議長をや ピーチだけなら、彼らにとってはさした のではないか、と感じている。英語のス 数多くやったのが、彼らの寿命を縮めた 私としては、とくに国際会議の議長を

宝」が、どうして踊りや焼き物といった 違和感を抱く。国際化時代の日本の「至 財」だのを発表するたびに、私は不満、 政府が「人間国宝」だの「無形文化

まれた。ちょうどその日の午後、外務大 挙には出ないよう抑えてください」と頼

危機」を感じた。

てもよいのではないか。

たが、意見を言う機会がなかった。たま そうになった。私は個人的には反対だっ 要請があり、例によって大来さんは受け 例外的に一回だけお役に立ったことがあ 君はいまさら陣笠になることはない。選 館理事長)と朝飯を食べたさい、「大来 たま松本重治さん(故人、前国際文化会 から立候補するよう、自民党側から強い 大臣だったとき、近づく総選挙で自民党 る。十数年前、第二次大平内閣の外務 お世話になる一方だった大来さんに、

朝日新聞論説顧問/現共立女子大学教授

文化財」に指定し、日航のファースト・ 好意と尊敬をかち得てくる老人を「無形 出て行って、現代日本のことを説明し、 か。大来、牛場、前川といった、外国に 伝統文化の名人に限られねばならないの クラスを提供するくらいのサービスをし 後の幅広い国際的活動は不可能だったと さん自身が『松本重治追想録』の中で書 に伝えた。この一言で大来さんは立候補 臣室に行く予定があったので、「松本さ 党の一代議士になっていたならば、その いている。あのとき選挙に当選して自民 を断念した――といういきさつを、大来 んがこう言っておられましたよ」とじか

う黙祷をされる人はいないのではないか 日本のだれが死んでも、この場でこうい 偲ぶあいさつをし、そのあと日米参加者 山本正日本国際交流センター理事長が 会」があった。開会に先立ち、司会役の ホテル・オークラで「日米議員交流討論 全員が一般聴衆と共に黙祷をした。いま 日本の偉大な顔」であった大来さんを 大来さんが亡くなられた翌日、東京の 一私は黙祷しながら改めて、「日本の

星から生まれた私達と地球

赤経十三時三十分、赤緯プラス四十七大子座の沿巻き銀河M51を捉えたことを示とている。白く太い鏡筒が北東の空に傾している。白く太い鏡筒が北東の空に傾している。白く太い鏡筒が北東の空に傾している。白く太い鏡筒に映っていて美しい。

二つくっついているようになっているの ら約二千五百万光年彼方の銀河M51で ときめかせ、ザワザワッとする。「私達か 目が捉える美しく神秘的な宇宙の姿に心 ます! スゴーイ!」と感嘆の声が響い 渦の腕が見えます!〔の〕の字を描いて なんです」などと話していると、「ウワマ ニアミスを起こして、合体しつつある所 は、二つの銀河がお互いにすれ違う時に た。二十名いる他の人々も、次に自分の いるように見えます! 体の見方を解説すると、「あっ、本当に るようにして見てください」と、淡い天 くを明るい見事な流星が流れたのだ。 ん中を見つめないように、視野の端を見 -!」と一部で歓声が上がった。天頂近 最初の人が高い脚立を昇っていく。「真 小さい方も見え

最後を遂げた超新星の残骸であるカニ星暦一○五四年に大爆発を起こして壮絶な暦のとを見、そして西

星団を見てきた。

をし、その残骸や衝撃波が宇宙空間に発をし、その残骸や衝撃波が宇宙空間に 弾う水素ガスに衝突し、濃い一部の中心 が凝縮して誕生した太陽。その周りをゆ が誕生した。その惑星に生まれた私達。 つまり私の身体も皆さんの身体も星の残 骸でできているわけだ。

中がて数十億年後、太陽も老い、そのやがて数十億年後、太陽も老い、その地球身体はどんどんと膨れあがり私達の地球をも飲み込む。最後に太陽は中心部を残して、彼らが自分たちの祖先が生きた太して、彼らが自分たちの祖先が生きた太して、彼らが自分たちの祖先が生きた太けたら、そこには美しい丸い星雲がほのけたら、そこには美しい丸い星雲がほのけたら、そこには美しい丸い星雲がほのけたら、そこには美しい丸い星雲がほのけたら、そこには美していることだろう。 超新星爆発と出会うか濃い星間雲と出会い、凝縮し、星が誕生することであろう。

串田嘉男

八ケ岳南麓天文台「星の村」台長

当だったのだ。
との中には私達の身体も入っているわけ

へかえるのです。 へかえるのです。そして最後は再び宇宙に輝く星のです。そして最後は再び宇宙に輝く星のです。そして最後は再び宇宙に輝く星のかえるのです。

そんな話をしながら訪ねる宇宙の姿は皆美しく、壮大なドラマである。コースの最後、われわれの銀河系を取り巻く球の最後、われわれの銀河系を取り巻く球が接眼レンズが息で曇ってしまうのではが接眼レンズが息で曇ってしまうのではが接眼レンズが息で曇ってしまうのではないかと心配するほど、「ヒェー!」とかないかと心配するほど、「ヒェー!」とかないかと心配するほど、「ヒェー!」とかないかと心配するほど、「ヒェー」と言う感嘆の声を聞いた後に、われわれの銀河に望遠鏡を向けたのだった。

春とはいえ、氷点下の気温であったが、

ある。

達の天文台での公開業務の様子の一部で達の天文台での公開業務の様子の一部で良く晴れた快晴の空。毎夜行っている私

一九八五年開設以来、八万五千人以上の人々が訪れてくださった。私達の住む宇宙の姿を実視体験し、宇宙とそしてむ宇宙の姿を実視体験し、宇宙とそして地球のことを理解する人々が増えれば、グローバルに物事を見、考えることができるようになるだろう。宇宙の中で本当きるようになるだろう。宇宙の中で本当に素晴らしい星「地球」の一部として、本当に微力ではあるが、宇宙を紹介していこうと考えている。

のを見て、人類の将来に光を感じたので が、最後にその方が宇宙の広大さと美し が、最後にその方が宇宙の広大さと美し が、最後にその方が宇宙の広大さと美し

もう一度、カンボジアへ

カンボジアの季節は大きく分けて、六ながら、ふとカンボジアを思った。空、部屋の窓を流れる雨のしずくを眺め空、部屋の窓を流れる雨のしずくを眺めっか。きょうの東京はどんよりした梅雨

UNTAC(国連カンボジア暫定統治節である。

期。そして、三月から五月が最も暑い季月から十月が雨期、十一月から五月が乾

UNTAC(国連カンボジア暫定統治 UNTAC(国連カンボジア暫定統治 主的総選挙がおこなわれたのは、その暑 主的総選挙がおこなわれたのは、その暑 い五月。私がカンボジアに行ったのは、 その少し前の四月。プノンペンに着いた 時、気温はゆうに四十度を超えていた。 私がカンボジアを訪れたのは、あくま でも国連の公式認可NGOである「国連 でも国連の公式認可NGOである「国連 でも国連の公式認可NGOである「国連 でも国連の公式認可NGOである「国連 の目と足で8ミリVIDEOを回し続け

だけれど、その時に会った人達の半数以(タイ)のキャンプでカンボジア難民の取材をしている。母国を捨て、外国への移材をしている。母国を捨て、外国への移力をしている。母国を捨て、外国への移力をしている人達の取材であったの国境に近いカオイダンとサケオジアとの国境に近いカオイダンとサケオ

上は、祈るような表情で「ほんとうは、上は、祈るような表情で「ほんとうは、カン 一日も早く生まれ故郷に帰りたい。カン 一日も早く生まれ故郷に帰りたい。カン 一日も早く生まれ故郷に帰りたい。」とも。 愛する国土でコメをつくりたい。」とも。 愛する国土でコメをつくりたい。」とも。 愛する国土でコメをつくりたい。」とも。 で故郷に帰ってきた。一度は国を捨て難で故郷に帰ってきた。一度は国を捨て難じ、平和国家への期待を胸いっぱいに膨じ、平和国家への期待を胸いっぱいに膨らませながら帰ってきたのだ。しかし、長期に内戦が続いた国だ。あちこちに戦争の傷跡が残っている。復興への道は、まだ遠く険しいに違いない。

けれど、ようようと流れるメコン川も、 をさしい風が通りぬけ涼しい木陰をつく をさしい風が通りぬけ涼しい木陰をつく でンコールワットをはじめ数々の遺跡も、 この国を愛する人々を待っていた。七年 この国を愛する人々を待っていた。七年 国へ帰っていったのだろうか。私のVI 国へ帰っていったのだろうか。

たんぽが青々と広がっている。男が二人、出た。川風がさわやかに渡っていく先に、材した帰路、ベトナムに近い運河沿いに村上を帰路、ベトナムに近い運河沿いに

できる。」と、片足の男が言った。石油

業もできるしオートバイに乗って仕事も

た。そのそばで、「私に足があれば、農作

木元教子 | 評論家

一評論家・ジャーナリスト

雨期を待っているようだった。
に次み上げていた。雨期の来る前に、こと汲み上げていた。雨期の来る前に、ことがなり。カンボジアで下する系の人達だという。カンボジアでは、こと汲み上げていた。雨期の来る前に、こ

ロープにつないだ木桶で、川の水を黙々

プノンペンで、財団が開設した義足を プノンペンで、財団が開設した義足を 人のカンボジアには、地雷で足を失った 人のカンボジアには、地雷で足を失った 人が三十万人もいる。しかも、いまだ撤 大が三十万人もいる。この作業所では、中国 も言われている。この作業所では、中国 も言われている。この作業所では、中国 も同に合わない。そのうえ、この作業所 も間に合わない。そのうえ、この作業所 も間に合わない。そのうえ、この作業 所も間に合わない。そのうえ、この作業 所も間に合わない。そのうえ、この作業 所も間に合わない。そのうえ、この作業 所も間に合わない。そのうえ、この技師は言っの手を休めることなく三人の技師は言っの手を休めることなく三人の技師は言っ

率は、驚くほど低い。一人当たりの電力 火力発電が主のカンボジアの電気の普及 供し、徐々に化石燃料依存度を地球規模 国は環境負荷の少ない技術エネルギーを ましょう」と言えるのか。それは「あな 境保全のため、化石燃料の使用はおさえ 言える。ならば、エネルギーの供給のか を求めれば、エネルギーの需要は高まる 消費量は、日本人の八百分の一。私たち で低くしていくしかない の開発をすすめ、その技術を途上国に提 使用し、自然エネルギーや新エネルギー 分かりきったことだけれど、当面、 た達、豊かにならないで」と同義語だ。 にした私達は途上国に向かって「地球環 たちはどうあればよいのか。豊かさを手 これは人口増をかかえる途上国すべてに が寄付した小学校にも、電気はなかった。 再生カンボジアが自立を目指し豊かさ

ている。 団を増やしてカンボジアに行こうと思っ 梅雨空を眺めながら、私はまた、応援

戦後の教育改革前夜

― カウ・カレッジにいた頃

四月から、日本の大学関係者を集めて 東京で三カ月にわたる講習を行いました。 するための組織であり、昭和二十四年の tional Leadership)」は、提言を具体化 シップ促進機関(Institute for Educa た。第三番目にできた「教育のリーダー 育使節団が教育改革の提言を行いまし れていた時期であり、二つのアメリカ教 がアメリカを始めとする占領軍に支配さ のオハイオ州にあるオハイオ州立大学に 日本にありますが、ここでは、アメリカ いたころ、アメリカに渡りました。 ついてしるしておきたいと思います。 私には、小学校から大学までの母校が 京都大学の助手であった私はこの 社会の新体制が模索されて

アメリカ側の考えでは、日本の旧帝大学を一大学というと、ヨーロッパの古くからの大学というと、ヨーロッパの古くからの大学というと、ヨーロッパの古くからの大学というと、ヨーロッパの古くからの大学というと、ヨーロッパの古くからの大学というと、ヨーロッパの古くからの大学というと、ヨーロッパの古くからの大学というと、ヨーロッパの古くからの大学というと、ヨーロッパの古くからの大学というと、ヨーロッパの古くからの場合である。

というものがあり、これからのもう一つというものがあり、これからのもう一つというものがあり、これからのもう一つというものがあり、これからのもう一つというものがあり、これからのもう一つというかべる。ところが、アメリカでは思い浮かべる。ところが、アメリカでは

とにしたのです。 前の実験の誘いを受け、これに応じるこ 私は、この種の大規模な計画が動きだす 制度は、いずれもこの後に生まれました。 名になったフルブライト、 年少の私に、占領軍の教育改革の実験第 学のE・E・ルイス教授が私に語りか リカ側のメンバーの一人だった教育行政 えがアメリカ側からでてきました。アメ リカの地方大学に送ればよい」という考 この会議に出席している若い教師をアメ たちには分かりにくいものでした。「では、 号の白羽の矢が立ったのです。後に有 このアメリカ側の考えは、 出席していた日本側の教師の中で最 渡米してはどうかといいだしたので ガリオア奨学 日本の教授

会議に出席したのです

アメリカ人の説明によると、一八六○年ハイオ州の首都コロンバスに着きました。サンフランシスコへ。そこから汽車でオサンフランシスコへ。そこから汽車でオ

永井道雄

(財) 国際文化会館理事長

代、モリルという下院議員が、アメリカの各州は連邦政府が所有する土地を利用の各州は連邦政府の土地の利用と引き換えし、連邦政府の土地の利用と引き換えし、連邦政府の土地の利用と引き換えに、機械工学、農業科学、軍事教練を行うことが条件づけられました。

それまで京都大学の助手だった私は、 相次ぐ驚きを経験しました。第一にオハ イオ州立大学の学生数は二万人以上であり、一つのキャンパスとしては全米でもり、一つのキャンパスとしては全米でもいる。第二に州内の許可された高校の卒業生は誰でも入学できる。入るは易しく 出るのは困難という、日本にはない組織だというのです。私のまわりには、女性だというのです。私のまわりには、女性だというのです。私のまわりには、女性がというのです。私のおりには、女性がというのです。私のおりには、女性がというのです。私のおりには、女性がというのです。私のまわりには、女性がというのです。私のまわりには、女性がというのです。私のおりには、女性が表した。

の研究と教育を設立の条件とする十九世的大学観を抱く知識人たちは、農業科学的大学観を抱く知識人たちは、農業科学おきます。ヨーロッパやアメリカの伝統私が学んだ二、三の重要な点をあげて

大事にするカウ・カレッジだと言って皮肉っていました。これに対して、州立大学の人たちは、牛も人間も尊重するのがどの力があってこそアメリカは発展しうると反論します。第二に十九世紀以降に発展したオハイオ、カリフォルニア、ミシ展したオハイオ、カリフォルニア、ミシーの力があってこそでメリカは発展したるのがあってこそでメリカは発展したカハイオ、カリフォルニア大学にひけをとりません。カリフォルニア大学にひけをとりません。カリフォルニア大学は、人間よりも牛を紀以来の新地方大学は、人間よりも牛を

一言で締めくくりましょう。二十代に一言で締めくくりましょう。二十代に大衆民主主義の大学とは何であるか、また、第二に産業社会の急激で底の深い変化の中で大学はどうすればよいのか、この二つの問いに対する答えを求めか、この二つの問いに対する答えを求めか、この二つの問いに対する答えを求めたのです。それは非常に役立つものであったと、今でも痛感しています。

(二〇〇〇没)

ノーベル賞の魅力

受賞者の発表のときだろう。をすることが年に何度かある。その最たをすることが年に何度かある。その最た

日本人の科学者が医学・生理学賞や
物理学賞、化学賞を受賞すれば大ニュー
スとなる。だが誰が有力かという情報は
ほとんど入らないし、発表は日本時間の
ほとんど入らないし、発表は日本時間の
を書いておくが、受賞が決まれば新たに
を書いておくが、受賞が決まれば新たに

科学界最大の話題のノーベル賞には個科学界最大の話題のノーベル賞に有力は、日本の学者たちがノーベル賞の有力は、日本の学者たちがノーベル賞の有力は、日本の学者を招いて日本の実情を知ってもら関係者を招いて日本の実情を知ってもらうなど、誘致運動を行っていることを紹うなど、誘致運動を行っていることを紹うなど、誘致運動を行っていることを紹うなど、誘致運動を行っていることを紹うなど、誘致運動を行っていることを紹うなど、誘致運動を行っていることを紹うなど、誘致運動を行っていることを記事にした。皮肉にも八一年には福井を記事にした。皮肉にも八一年には福井を記事にした。皮肉にも八一年には福井が化学賞を受けた。

人二人が物理学賞に手が届く寸前まで行る日本の科学者」という見出しで、日本た。「今年も残念 ノーベル賞」「損をすある学者から八五年にお叱りを受け

上のハンディがある、を挙げた。
なは日本が損な例として、欧米諸国と距離的に離れていて学者同士の交流が進ま離りに離れていて学者同士の交流が進まれば日本が損な例として、欧米諸国と距

「日本は基礎研究、独創的な研究に力を入れないからノーベル賞と縁が薄い。手く認識不足」とその学者は主張した。手はで長いやりとりが続いたが、結局私は田分の負けに気がついた。

生が受賞していたら完敗だった。 大が受賞していたら完敗だった。 大が受賞していたら完敗だった。 大リノ研究者が受賞した。毎日新聞はこかで表した。結果は外国の三人のニューかりが流れ、発表の日は同博士宅は記者でごが流れ、発表の日は同博士宅は記者でごが流れ、発表の日は同博士宅は記者でごの情報を知らず、電話でK博士は不機嫌だったという。後で真相を知ったが、K博士が受賞していたら完敗だった。

ドラマが展開され、「私が選にもれたのは落ち着かない。ひょっとしたら大フィー落ち着かない。ひょっとしたら大フィー落ち着かない。ひょっとしたら大フィーないのだから。外国でもノーベル賞をめぐる種々のため、

学 ま 距 木 L ネ ご

毎日新聞論説委員

書簡を送るフランスの学者もいた。それにしても日本人受賞者が医学・生理学、物理学、化学の自然科学三部門理学、物理学、化学の自然科学三部門理学、物理学、化学の自然科学三部門理学、物理学、化学の自然科学三部門理学、物理学、化学のは寂しい。米国の百六十五人、英国六十三人、ドイツ六十人に遠く及ばない。フランス、スウェーデン、スイス、オランダ、旧ソ連、オーストリア、デンマークなどにもかなわない。その理由を詮索することはやめて、ノーベル物理学賞の候補者といわれる二人の学者の言葉を紹介しよう。

仕事が随分あった。いまの問題の一つは 仕事が随分あった。いまの問題の一つは いい仕事をしても同じ日本人が認めない ことですね。私自身の経験から言っても 本当にひどいことをする。それも焼きも ちから」(西澤潤一・東北大学長)

七三年にノーベル物理学賞を受けた江有馬朗人・理化学研究所理事長)と底辺を広げなければ」(前東大総長の

七三年にノーベル物理学賞を受けた江 時玲於奈・筑波大学長が冗談半分にあ 崎玲於奈・筑波大学長が冗談半分にあ げる「ノーベル賞を取るための五条件」 げる「ノーベル賞を取るための五条件」 ける「ノーベル賞を取るための五条件」 が会立とを忘れない――だという。 気初々しさを忘れない――だという。 私はプロ野球の巨人ファンではないが、 今年ぐらいは優勝してほしい。なぜなら 今年ぐらいは優勝してほしい。なぜなら 今年ぐらいは優勝してほしい。なぜなら が受賞した八七年を含め、日本の五博士 を受賞した八七年を含め、日本の五博士

かリーグ優勝を果たしているからだ。

生は一。工業技術の発展に貢献しても、

基礎科学はおろそかになっている。

山が泣いている

『山が泣いている』と思うことがある。たとえば、吉備高原上の郷里に帰り、たとえば、吉備高原上の郷里に帰り、家まわりの山を眺める。前山も裏山も私家まわりの山を眺める。前山も裏山も私家まわりの山を眺める。前山も裏山も私家まかいのである。

裏山には、カシの巨木があった。カキの木も植わっていた。桃栗三年、柿八年―この場合の栗は、ドングリの類。いざというときには食料にもなる。カキはざというときには食料にもなる。カキはざというときには食料にもなる。かって、先祖たちがそこに住まいを定めたとき、それらの成り木を移植して屋敷がこいとした。生活の安定、というよりもその景色も、じつに穏やかなものであっその景色も、じつに穏やかなものであった。

カシの木もカキの木も、いまはない。 カシの木もカキの木も、いまはないでいる。いまや足を踏みこむ余地もない はっぱいる。いまや足を踏みこむ余地もない。 いまやしなことに、 孟宗竹までが生え がいる。 いまや足を踏みこむ余地もない。 はどである。

遠目には、裏山が竹藪に見えだした。あ間にか、ところかまわず生えてしまった。とくに困るのは、タケの増殖。いつの

にまで根を延ばす勢いなのである。をふさいでしまう。脇に離れた墓地や畑げく、山際の土砂を崩し、奥山への小道

いよいよ今年の春、筍が生えそろったころにはその増殖をふせぐ手だてをしなくては、と思う。だが、それは容易なことではない。生半可な手だてでは、二、とではない。生半可な手だてでは、二、生ずは人手をかけるべきなのだが、まわりを見わたしてみても、もう山仕事を請りを見わたしてみても、もう山仕事を請け負ってくれる人がいない。過疎化と高齢化、銘々が自分のことで手いっぱいなのである。

前山の景色も、悲惨な状況を呈している。そこは、赤松林。年中緑のたおやかな山容が私どもの目をなごませていた。ところが、この数年来、松枯れが目だつところが、この数年来、松枯れが目だつところが、これは、美しい色調とはいいがたい。

マツクイ (松喰い虫) のしわざらしい。マツクイ (松喰い虫) のしわざらしい。ないそうだ。「青松」は、すでに過去の景がらしくはないだろう。予防の有効な手だてがない以上、枯れるにまかせるしかででがない以上、枯れるにまかせるしかができた。「青松」は、すでに過去の景ができます。

神崎宣武

宇佐八幡神社宮司

色となった。ふたたび蘇るかどうか、それも期待できそうもないのである。
れも期待できそうもないのである。
かつて、私どもが子どものころ、山はかつて、私どもが子どものころ、山はより身近な存在であった。春先には、ワラビやゼンマイを採みに誰彼ともなく深山まで足を踏み入れていた。田植えがすんだら山際の芝刈りに精をだした。秋の松山には縄を張り、所有を明らかにして松山には縄を張り、所有を明らかにして松山には縄を張り、所有を明らかにして松山には縄を張り、所有を明らかにして松山には縄を張り、所有を明らかにして

そうして、生活のなかで山の手入れを間断なく行ってきた。むろん、現在の生活は、芝草も薪木もほとんど必要としない。山の手入れを怠るのは、いたしかたないことではある。が、山は、自然は、人が手を加えてこそ美しくもある――その事実を忘れてはならないだろう。

してきたかを物語っている。 してきたかを物語っている。 してきたかを物語っている。

私ども日本人は、山と共存してきた。山のカミをあがめ、山の幸を得た。海も山のカミをあがめ、山の幸を得た。海も山のカミをあがめ、山の幸を得た。海もある。

荒れ放題――山が泣いている。 山はいま、その伝統が後退している。山は

うのである。

物語としての人生

ていよう。

でいよう。

がイアナ元妃の衝撃的な死を、多くのダイアナ元妃の衝撃的な死を、多くの

だが彼女のように、生前から語られるべき多くのことを持ち、その人生に何らべき多くのことを持ち、その人生に何らいるのは、ごくひとにぎりの著名人だけいるのは、ごくひとにぎりの著名人だけいるのは、ごくひとにぎりの著名人だけである。ふつうの人間の一生は、たいてい散漫なエピソードの重なりのうちに、い散漫なエピソードの重なりのうちに、いかとは知れず終わりがきてしまう。それを拒否し、一貫した物語として再構築したいとのぞんだ場合どうなるか。ジャしたいとのぞんだ場合どうなるか。ジャレーロー』(九一年。ベルギー映画)のヒーロー』(九一年。ベルギー映画)のと、

「自分の人生は空っぽ。これということ「自分の人生は空っぽ。これということが何ひとつ起こらなかった」とふりかえる老人、彼は、産院で他の子と取り違える老人、彼は、産院で他の子と取り違えられたと信じ込んでいた。ほんとうなら、隣の家の金持ちのひとり息子の人生こそ隣の家の金持ちのひに、と。そして死ぬ前が自分のものなのに、と。そして死ぬ前が自分のものなのに、と。そして死ぬ前が何ひとつだった。

こうして老人は、ついに憎む相手と対

きちんと向き合うのである。向き合って、きちんと向き合うのである。向き合って、そしてやっと気づく。人生というのは、日分が思っていたのと全く違う色合いをしていたということを。喪失感に苦しんでいるのは、自分だけではないということを。ありふれた日常の輝くような瞬間こそが、生涯の核となるのだというにとを。

彼は過去に釘付けされたままでいた。 ろうに、喪失感の大きさを埋められず、 を招く。それから優に半世紀はたつであ 事故死させるという、とんでもない結果 ずなのに……。彼の嫉妬と怒りは、 の息子へ向いていた。取り違えられてさ しても愛されても、それは肉親に対する はない、とかたくなに信じ続けたのは、姉 烈しい魅力的な姉、知恵遅れの弟ととも えいなければ、恋の相手は自分だったは ものでしかなく、姉の恋心は、 への深すぎる愛ゆえだった。どれほど愛 た。にもかかわらず、このうちの子供で に、何不足ない幸福な少年時代を過ごし 彼は思い出す。やさしい両親、 あの隣家 姉を

い越してゆく大型トラック。その荷台の映画はここで、はっとするシュールな映画はここで、はっとするシュールな

中野京子

翻訳家・早稲田大学講師

カバーが風で巻き上がると、ピアノをひん父と、トランペットを吹く姉の姿が現く父と、トランペットを吹く姉の姿が現れる。なつかしい音楽。甦る過去の、痛れる。なつかしい音楽。甦る過去の、痛れる。なつかしたが、確かに自分はそれれる。ないはじたが、確かに自分はそれれる。ないたいたのだろう。手にしていたりを嘆いていたのだろう。手にしていたりを嘆いていたのだろう。手にしていたりを嘆いていたのだろう。手にしていたりを嘆いていたのだろう。手にしていたりを嘆いていたのだろう。手にしていたりを嘆いていたのだろう。手にしていたりを嘆いていたのだろう。手にしていたりを受けれると、ピアノをひたとと、

苦しみ、今では殺し屋にまで追われていでとりもどそうと決意する。同じようにでとりもどそうと決意する。同じように

ことで、彼なりの人生の総決算を試みるのである。この行動が正しかったかどうのである。この行動が正しかったかどうのである。この行動が正しかったかどうら演出するしかないのではないか。少なら演出するしかないのではないか。少なくとも彼は、それによってこれまでの全くとも彼は、それによってこれまでの全てを肯定することができた。

のだと感じられるのではないだろうか。で人生を完結できる方が、ずっと幸福なう。そしてダイアナ元妃のように他人にう。そしてダイアナ元妃のように他人にう。そしてダイアカーのようは、自分自身を告える。

る、あの隣の男の身代わりになって死

晚夏

頓て死ぬけしきは見えず蟬の声

芭蕉

る。 の蟬時雨も止んで、もう晩夏であ いますでは、 歌雨が到った如くに鳴き乱れていた「静 歌雨が到った如くに鳴き乱れていた「静 いますでは、 歳時記によれば、 沛然と

ても尚、夏の名残り。秋風におののく前夏の終わりが一番好きである。

の夏の愁いと云う気がする。

俳人の飯田龍太によれば「晩夏」は、人 りままであっても、こころの内は「夏果 のままであっても、こころの内は「夏果 のままであっても、こころの内は「夏果 のままであっても、こころの内は「夏果 のままであっても、こころの内は「夏果 があろう。眼にうつる風景は夏そ かまであっても、こころの内は「夏果

世田谷、岡本在の「静嘉堂」の目の前世田谷、岡本在の「静嘉堂」の目の前世田谷、岡本在の「静嘉堂」の目の前

有の文化財を愛惜し、その散亡を嘆き二治の西欧文化偏重の世相の中で、東洋固治の西欧文化偏重の世相の中で、東洋固

古美術品を収蔵しているのが静嘉堂であ古美術品を収蔵しているのが静嘉堂であ

氏物語屏風などは特に有名である。でも南宋の曜変天目茶碗、俵屋宗達の源でも南宋の曜変天目茶碗、俵屋宗達の源コンドル設計の霊堂と文庫が設立されコンドル設計の霊堂と文庫が設立され

どに恵まれている。
は別寺崖線に沿った小高い一万五千国分寺崖線に沿った小高い一万五千年の庭園は湧水に富み、学術的にも稀少年の庭園は湧水に富み、学術的にも稀少年の庭園は湧水に富み、学術的にも稀少年の庭園は湧水に富み、学術的にも新ります。

あろう。

よいた植物が発見されたり、三十四種の島いた植物が発見されたり、三十四種の島類、三百七十三種の昆虫が確認された。 、三百七十三種の昆虫が確認された。 なる前から静嘉堂は自然豊かな私の遊びなる前から静嘉堂は自然豊かな和の場で、昭和の初期、小学生に がる前から静嘉堂は自然豊かな私の遊びまれて。

ミンミンゼミ、ヒグラシ、ツクツクホ

キリ、コオロギ、黄金虫、小さなクモな

烈に痒いので閉口するが、バッタ、カミ

諸橋晋六

| 三菱商事 (株) 相談役

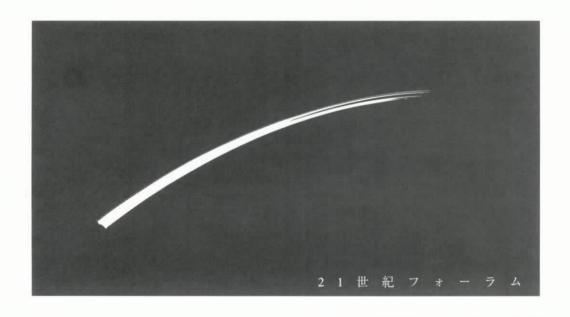
っと。スズメバチや青大将も私の夏の友達であスズメバチや青大将も私の夏の友達であウシ。オニヤンマもシオカラも、時には

盛夏、大暑、極暑、炎暑――炎ゆるような灼けるような夏の中、ひもすがら静 高堂の杜の中を駆けずり廻っていた。今 悪堂の杜の中を駆けずり廻っていた。今 悪と一緒にヒグラシを聞き、晩夏になれば早くも静かに空を舞うアカトンボを眺ば早くも静かに空を舞うアカトンボを眺めて、子供心にもどうしてセミやトンボ めて、子供心にもどうしてセミやトンボ はこんなにも美しく静かなものなのだろ うかとの思いが深かった。

家のベランダから観察している私の家のベランダから観察している私の家のベランダから観察している私のからない鳥も三、四種はいる。

とは近所の仲の良いお友達と思っている。しかしなんと言っても夏はセミ。 晩夏のトンボ。 今年の夏は雨ばかり、七年も土の中にいて、たった七日の短いいのち。土の中にいて、たった七日の短いいのち。 「閑かさや岩にしみ入る蟬の声」ではないが、蟬の声を悲しみと聞いたのは中国の詩にもうたわれているし、 万葉では空蝶は枕詞となり、ヒグラシは「つくつく法師」となった。 いずれも夏の終わり、晩夏の秋にもまさる静寂と愁いにも似たものへの感情でさる静寂と愁いにも似たものへの感情でさる静寂と愁いにも似たものへの感情でさる静寂と愁いにも似たものへの感情でさる静寂と愁いにも似たものへの感情でさる静寂とないにも似たものへの感情で

No.66 1998.10



槩	連	年	耒

1987 昭62	1986 昭61	1985 昭60	1984 昭59	1983 昭58	1982 昭57	1981 昭56	1980 昭55	1979 昭54	1978 昭53	1977 昭52	1976 昭51	1975 昭50	1974 昭49	1973 昭48	1972 昭47	1971 昭46
3 21世紀フォーラム第30号発行		700	10 渡辺茂、理事長就任	1300		9 21世紀フォーラム第10号発行	-100	4 笠井章弘、理事長就任	12 21世紀フォーラム第1号発行	-100	-uoi	環境優秀賞(日刊工業新聞)受賞	4 東畑精一、理事長就任		4 フレンドビルへ事務所移転	10
11 竹下内閣成立 4 国鉄、分割・民営化 3 米、対日経済制裁措置発表 2 NTT株上場	7 衆参同日選挙、自民圧勝 バブルはじまる 4 前川レポート発表 *この年、地価高騰、1 円相場急騰	8 日航ジャンボ機墜落事故 4 電電公社、専売公社民営化 3 つくば科学万博開幕		250	11 中曽根内閣成立 2 日航機羽田沖墜落事故	4 行政改革推進本部発足	7 鈴木内閣成立 *この年、記録的冷夏6 大平首相急死、衆参同日選挙	6 東京サミット開催(初の日本開催)	12 大平内閣成立 8 日中平和友好条約調印 5 成田空港開港	9 日本赤軍、ダッカ事件	11 福田内閣成立 7 田中前首相逮捕 2 ロッキード事件発覚、政界動揺	7 沖縄海洋博覧会開幕	12 田中首相、金脈疑惑で辞任、三木内閣成立	11 石油危機、狂乱物価2 円、変動相場制へ移行	9日中国交正常化 2札幌冬季五輪開催	7 全日空機、自衛隊機と接触し墜落(雫石事故) 7 環境庁発足 日本 2 重き
12 米ソ中距離核全廃条約調印*ソ連、ペレストロイカはじまる10 ニューヨーク株式市場大暴落(ブラックマンデー)8 日本、ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム提唱5 世界人口50億人突破	4 ソ連、チェルノブイリ原発事故	9 G5、プラザ合意 3 ソ連、ゴルバチョフ書記長就任	7 ロサンゼルス五輪、中国初参加1 アフリカで飢餓拡大		6 米ソ戦略兵器制限交渉開始	11 ブレジネフ書記長死去	9 イラン・イラク戦争勃発 7 モスクワ五輪開催、西側諸国ボイコット	10 韓国、朴正熙暗殺 *この年、第2次石油危機2 イラン革命	9 世界初の体外受精児誕生9 世界初の体外受精児誕生	6 ソ連、新憲法、ブレジネフ体制 1 米、カーター大統領就任	9 中国、毛沢東死去7 バイキング1号、火星着陸7 南北ベトナム統一	11 ランプイエ会議(サミット)開催 7 全欧安保首脳会議開催 4 サイゴン陥落、ベトナム戦争終結	8 ニクソン、ウォーターゲート事件で辞任、フォード大統領に	10 第4次中東戦争勃発9 東西ドイツ、国連加盟1 ベトナム和平協定調印	8 ミュンヘン五輪(アラブゲリラによるテロ発生)2 ローマ・クラブ「成長の限界」発表2 ニクソン訪中2 ニクソン調中	

関	連	年	表
---	---	---	---

1999 平11	1998 平10	1997 平9	1996 平8	1995 平7	1994 平6	1993 平5		991 1990 平3 平2	1989 平1	1988 昭63
12「新しい行政の在り方に関する研究会」提言発表1021世紀フォーラム第70号発行3「研究開発プロジェクト評価」国際ワークショップ開催2自治体シンポジウム開催	11 研究理事会を新規に設定	7 日、「民営化に関する研究会」提言発表11「民営化に関する研究会」提言発表のかたち」シンポジウム開催	12 10 6 1	7 永野芳宣、	4 21 世紀フォーラム第 50	7.0	2 向坊隆、理事長就任			ин 03
内イ内初ド初	7 小渕内閣成立3 NPO法案成立2 長野冬季五輪	12 温暖化防止京都会議開催 11 山一証券自主廃業 9 日米防衛協力指針合意 9 日米防衛協力指針合意 3 動燃、再処理施設で火災	电处政	12 高速増殖炉「もんじゅ」ナトリウム漏れ事故4 統一地方選で無党派激増3 地下鉄サリン事件 1 阪神淡路大震災	10 東京の2信組経営危機9 関西空港開港日外間成立	12 コメ部分開放 7 北海道南西沖地震 7 細川連立政権発足		6 証券会社損失補填問題化 6 雲仙普賢岳噴火 6 雲仙普賢岳噴火 6 三米構造協議決着 7 大皇即位式挙行 8 一条構造協議決着	海部内閣成立 宇野内閣成立	6 リクルート事件発覚 4 瀬戸大橋開通
12 マカオ、中国に返還9 台湾で大地震8 トルコで大地震と 欧州にユーロ誕生		7 アジア通貨危機はじまる 7 香港、中国に返還 7 香港、中国に返還 3 鄧小平死去 2 クローン羊誕生	9 国連、CTBT採択	9 仏、核実験強行	1 ウルグアイラウンド発足	1 クリントン、大統領就任 1 欧州統一市場発足	7 バルセロナ五輪 12 ソ連邦解体 2 ソ連邦解体	6 南アフリカ、アバルトへイト体制終結1 東西ドイツ統一	11 ベルリンの壁崩壊6 中国、天安門事件	9 ソウル五輪開幕

写真:山田圭一 (やまだけいいち)

(財) 政策科学研究所副理事長/筑波大学名誉教授

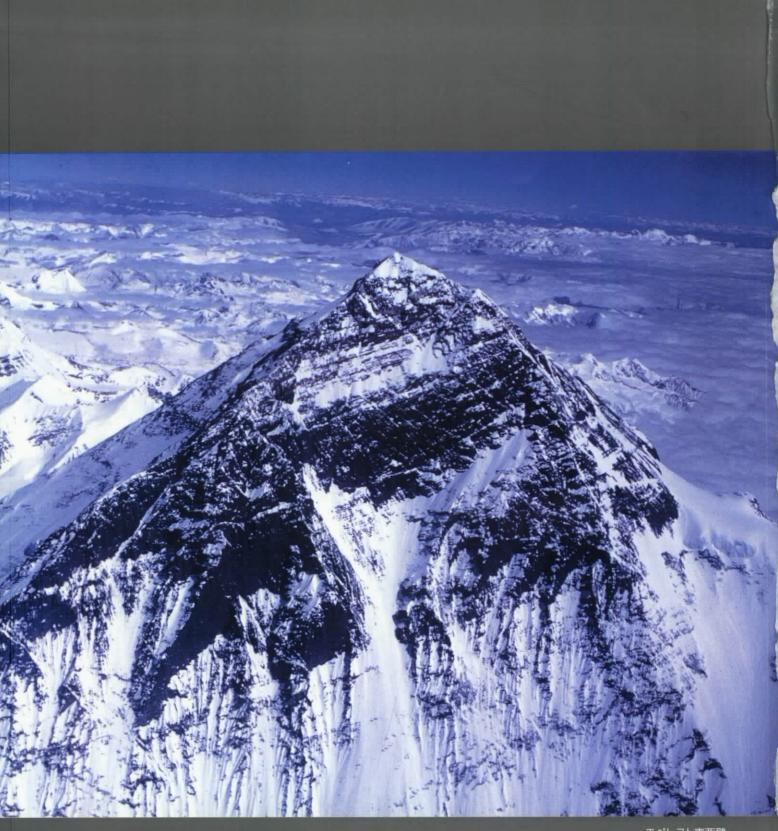
航空山岳写真のパイオニアとして、『The Alps』、『空撮・世界の名峰』など、10冊の写真集を刊行。

〈エベレストを飛んで〉

1973年のポスト・モンスーンに、世界ではじめて、エベレスト南西壁のクローズ・アップの撮影に成功した。しかし、その直後に酸素マスクが故障して意識を失い、やっとのことで下界に戻してもらった。

30数年をかけて、世界中の主要な山岳地帯のほとんどすべてをカメラにおさめることができたが、この仕事に対して、イタリー・トリノ市の国立山岳博物館が個展を開いて、132点の作品を永久保存してくれている。そして、国際交通安全学会からはKOⅢ賞を、また日本航空協会からは航空功績賞をいただいている。

私としては、よくこれだけ長い間五体満足で飛びつづけることができたと、心から神様に感謝している。



エベレスト南西壁 空撮/山田圭一

■21世紀フォーラム 特別号 (No. 73) 発 行: 2000年3月31日

発 行 所:(財)政策科学研究所

東京都千代田区永田町2-4-8東芝EMI永田町ビル5階 TEL:03(3581)2141

集:小浜政子、藤澤姿能子、高取明香

編集協力:(有)文字工房燦光 印刷:山浦印刷(株)

